

清水原山遺跡

東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成30年3月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第426集

きよみづはらやま
清水原山遺跡

東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 30 年 3 月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者からの委託を受けて、埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として文化財調査報告書を刊行してきました。

この度、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所による東関東自動車道水戸線（潮来～銚田）建設事業に伴って実施した、清水原山遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、縄文時代の竪穴建物跡や、貝殻が投棄された土坑などが確認でき、縄文時代中期の集落構造の一端が明らかになりました。この成果は学術的な研究資料としてはもとより、当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が、歴史研究の学術資料のみならず、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで多大な御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、潮来市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成30年3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 野口 通

例 言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成27・28年度に発掘調査を実施した、茨城県潮来市清水原山284-83番地ほかに所在する清水原山遺跡しみずのらやまのせきの発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調 査	平成27年11月1日～平成28年3月31日	(A・C区)
	平成28年4月1日～6月30日	(B区)
整 理	平成29年4月1日～11月30日	
- 3 発掘調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成27年度		
首席調査員兼班長	胸澤悦郎	
次 席 調 査 員	長洲正博	
調 査 員	盛野浩一	
平成28年度		
首席調査員兼班長	胸澤悦郎	
調 査 員	皆川貴之	
調 査 員	田村雅樹	
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長皆川修のもと、調査員海老澤稔が担当した。
- 5 第9号堅穴建物跡の漆喰状物質及び第206号土坑の白色物質を含む遺構覆土の自然科学分析については、バリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果及び考察は、付章として巻末に掲載した。
- 6 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等の資料は、一括して茨城県埋蔵文化財センターにて保管している。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅹ系座標に準拠し、 $X = +560\text{ m}$ 、 $Y = +61,120\text{ m}$ の交点を基準点 (A 1a) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…、西から東へ 1、2、3、…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a 1 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 F - 炉跡 P - ビット SD - 溝跡 SF - 道路跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑

遺物 DP - 土製品 Q - 石器

土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 貝層・赤彩  火床面・焼土
● 土器 ○ 土製品 □ 石器 - - - - 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社) を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

- 7 今回の報告分で、調査段階での遺構を欠番にしたものは以下のとおりである。

欠番 SK53・166・186・197・210・239

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
清水原山道跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 縄文時代の遺構と遺物	10
(1) 竪穴建物跡	10
(2) 炉 跡	49
(3) 土 坑	51
2 平安時代の遺構と遺物	167
溝 跡	167
3 その他の遺構と遺物	168
(1) 溝 跡	168
(2) 道路跡	169
(3) 土 坑	170
第4節 まとめ	172
付 章	181
写真図版	PL 1～PL30
抄 録	
付 図	

清水原山遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

清水原山遺跡は、潮来市の北端部に位置し、夜越川の支谷に囲まれた標高約38mの台地中央部から縁辺部にかけて立地しています。東関東自動車道水戸線(潮来～鉦田)建設事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成27年度から28年度の8か月間、調査を行いました。



調査の内容

調査の結果、縄文時代中期末葉から後期中葉にかけての堅穴建物跡11棟、炉跡2か所、地点貝塚4か所、土坑156基、平安時代の溝跡1条などを確認しました。主な出土遺物は、縄文土器(有孔罎付土器・深鉢・鉢・浅鉢・壺・蓋)、土師器(坏・甕)、須恵器(坏・高台付坏)、土製品(土器片錘・土器片円盤・耳栓)、石器(鎌・磨製石斧・石皿・磨石・敲石・楔形石器)、石製品(石棒、剥片)などです。



第2号堅穴建物跡(地点貝塚)の調査の様子



清水原山遺跡全景（南東上空から）



貯蔵穴の遺物出土状況



破砕貝が出土した土坑の断面



動物意匠把手

調査の成果

遺跡の中心は縄文時代中期末葉（約4,000年前）で、その時期の遺構は、堅穴建物跡8棟、炉跡2か所、地点貝塚4か所、貯蔵穴などの土坑75基を確認しています。調査区は遺跡の一部であることから、遺跡全体では大きな集落であったと思われます。地点貝塚は、堅穴建物や貯蔵穴の廃絶後に貝を棄てた跡です。貝は、ハマグリ、シオフキ、ウミナナ類、オキシジミなどが多く、100kgを超す量が出土しています。当時の霞ヶ浦は海と繋がっていた湾であり、縄文時代の人々は時季が来ると、盛んに海岸へ出て、貝などを採っていたことを知ることができます。

遺物で注目されるものとして、動物意匠把手があります。これらは、土坑に投棄された状態で出土しています。把手は鳥を象ったもので、いずれも内側を向いており、出産に関わる土器とする考えがあります。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成25年5月24日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに東関東自動車道水戸線（潮来～銚田）建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。平成26年4月28・30日及び5月21日、茨城県教育委員会は現地踏査を実施した。平成26年7月31日、8月19日、9月4日、12月5日及び平成27年3月10日、茨城県教育委員会は試掘調査を実施した。平成27年1月28日及び5月20日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに事業地内に清水原山遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成27年2月3日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成27年2月12日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成27年3月3日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに、東関東自動車道水戸線（潮来～銚田）建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成27年3月6日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、清水原山遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成27年11月1日から平成28年3月31日、及び平成28年4月1日から平成28年6月30日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

清水原山遺跡の調査は、平成27年11月1日から平成28年3月31日までの5か月間と平成28年4月1日から6月30日の3か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

期間 工程	平成27年度					平成28年度		
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
調査準備 表土除去 遺構確認	■					■		
遺構調査	■	■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注 写真整理	■	■	■	■	■	■	■	■
撤収						■		■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

清水原山遺跡は、茨城県潮来市清水原山 284 - 83 番地ほかに所在している。

潮来市は県の南東部に位置し、東部は北浦と鮫川に面し、南部と西部は霞ヶ浦に繋がる常陸利根川に面している。市域の地形は、北部の洪積台地と南部の北浦沿岸や常陸利根川沿岸の沖積低地に大別される。北部の台地は霞ヶ浦と北浦に挟まれ、北西へ延びており、行方台地と呼ばれている。『常陸国風土記』には、倭武天皇が東国巡視のおり、海岸の出入りがうねうねと続く景観を大変にほめたため、行細の国と名付けたと記されている¹⁾。行方台地の標高は、北西部で約 39 m、南東部で約 31 m と北西から南東に傾斜している。この行方台地は、霞ヶ浦や北浦に注ぎ込む各河川に開折されて、樹枝状に谷が奥深くに入り込み、複雑な地形を形成している。

行方台地の地質は、古東京湾に堆積した成田層を基盤とし、シルト質の下層部と砂質の上層部からなっている。その上には凝灰質の常総粘土層、関東ローム層が順に堆積し、表土に至っている。南部の低地は利根川やその支流の働きによって運ばれた土砂や台地から流失した腐食植物、砂礫、砂泥、砂等が堆積して形成されている。

当遺跡は市域の北端部に位置し、東へ 4.2km に位置する北浦と西へ 3.8km に位置する霞ヶ浦のほぼ中間に所在している。当遺跡の東端部は標高 39.4 m で、行方台地の分水嶺の位置にあたっている。台地の中央部はほぼ平坦で、台地周辺には夜越川の小支谷が複雑に入り込んでいる。当遺跡東端部の谷頭から南流する夜越川の霞ヶ浦河口までの距離は、約 5.0km である。当遺跡の調査前の現況は畑地や山林である。

第2節 歴史的環境

行方台地には、縄文時代から近世まで多くの遺跡が確認されている。遺跡は、霞ヶ浦沿岸と北浦沿岸の台地縁部や台地に入り込んだ支谷を望む台地上に集中して分布している。ここでは、当遺跡の周辺遺跡の概要について記述する。

縄文時代には、霞ヶ浦や北浦は鹿島灘から入る内海であり、遠浅の静かな入江がつくられていた。行方台地南部の遺跡として、大門貝塚 (19)、道場平貝塚 (33)、大宮宮貝塚 (37)、熊野神社貝塚 (67)、中山 C 遺跡 (12)、飯岡西遺跡 (51) などがある。道場平貝塚²⁾ は当遺跡から南西へ 2.0km、霞ヶ浦の沿岸から東へ 1.8km の台地斜面部に所在している。貝類では、アサリが圧倒的の数を占め、次にサルボウ、シオフキ、ヒメシラトリガイが多い。主要な魚種は、クロダイ、ウナギ、スズキ、ハゼ類、コチ等で、近海のものが多い。出土した土器は、黒浜式から加曾利 E 3 式まで連続して認められ、阿玉台 IV 式・中峠式期が中心である。大門貝塚³⁾ は当遺跡から南へ 2.5km、夜越川右岸の台地上に位置し、4 か所の地点貝塚から成っている。地点貝塚に囲まれた範囲は径 80 m ほどの円形で、環状集落を形成すると思われる。貝類は、ハマグリ、サルボウ、アカニシ、アサリ、オオノガイ、シオフキなど鹹水産のものが主体である。魚類では、クロダイ、スズキ、フグ、コチの順で、鳥類、哺乳類、ヒトの骨なども確認されている。出土した土器は阿玉台 I b 式から加曾利 E 2 式のもので、阿玉台 III・IV 式頃が貝塚の盛行期である。道場平貝塚から北西へ 0.5km に位置する大規模な大宮台貝塚も

中期のものである。このように、縄文時代中期の当遺跡周辺には、内海の恵みを受けた貝塚が何か所か存在し、周辺の道跡とネットワークを持ちながら、多くの集落が営まれていた。

当地域でも縄文時代晩期から弥生時代前期にかけては遺跡数は減少するが、弥生時代中期後半になると増え始める。当遺跡周辺では、小屋ノ内館跡(42)、上ノ久保遺跡(66)、天ノ宮遺跡(72)、シタキ遺跡(75)、長貫遺跡(78)などで弥生時代の資料が確認されている。これらの遺跡はやや内陸にあり、霞ヶ浦や北浦へ注ぎ込む小河川を望む台地上に位置している。小屋ノ内館跡⁴⁾や長貫遺跡⁵⁾では中期後半の足洗式土器が出土しており、この時期から低地の開発が行われ、谷津田の経営が開始されたと思われる。谷津田の奥には、数多くの用水地が構築され、『常陸国風土記』には古老の伝説として、椎井池のこことや孫括氏麻多知・王生達磨らの谷津田開発の物語が記されている。

古墳時代になると、行方台地には関東でも屈指の古墳群といわれる大生東部古墳群、大生西部古墳群を始めとして、数多くの古墳が築造されている。大生東部古墳群と大生西部古墳群の一帯は、運信間命の一族である多氏が定住していたと言われる地で、大小200基に及ぶ古墳が残されている。この中の主墳と考えられる孫舞塚古墳⁶⁾の墳丘からは埴輪、須恵器、土師器が、石棺からは玉類、耳環、直刀、刀装具、鉄鏝などが出土し、6世紀末葉の時期に比定されている。当遺跡の近くの前方後円墳や前方後円墳を含む古墳群には、富田古墳群(23)、根小屋古墳群(79)、日天月天塚古墳(102)が存在している。

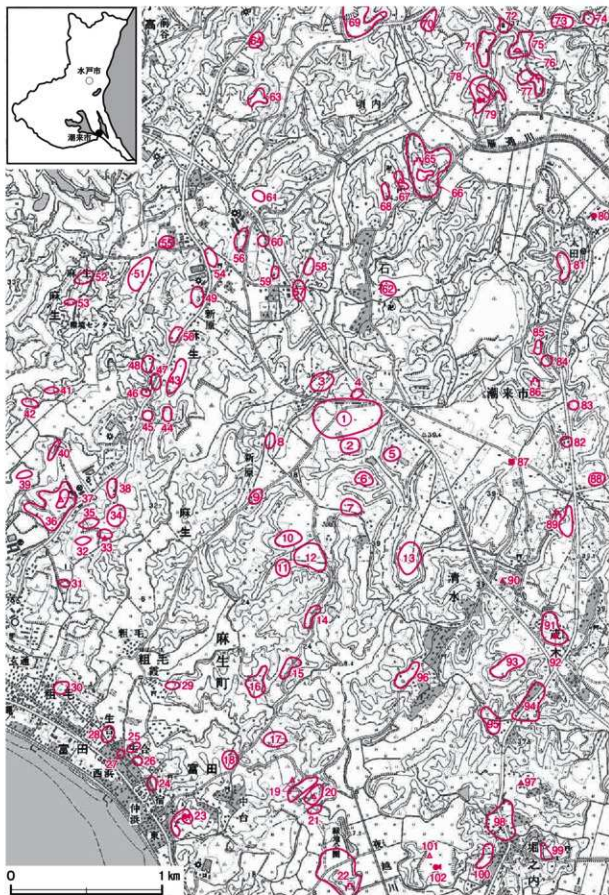
奈良時代には、常陸国の国府は現在の石岡市に置かれた。国府から鹿島神宮へ勅使参拜のための重要な道路が通っており、これを行方の駅路と称した。駅路は、国府から行方台地の中央を南下して潮来に通じ、潮来からは、海路鹿島郡の大船津に向った。行方の駅路には、曾尼の駅と板來の駅の二か所の駅が置かれていた。行方台地を通っていた駅路は、現在でも主要な道路として使用されているところがある。『常陸国風土記』には、奈良時代の郡家のことが細かく記されている。郡家の位置については確認されていないが、おそらく、現在の行方市行方の国神社周辺ではないだろうか⁷⁾と考えられている。

註

- 1) 茨城県史編さん原始古代史部会『茨城県史料 古代編』茨城県 1968年11月
- 2) 汀安南編『道場平遺跡発掘調査報告書』茨城県行方郡麻生町教育委員会 1996年7月
- 3) 汀安南編『大門貝塚C地点発掘調査報告書』茨城県行方郡麻生町教育委員会 2002年6月
- 4) 汀安南編『小屋ノ内館跡 大麻古墳群(3・4号墳)調査報告書』麻生町遺跡発掘調査会 1997年12月
- 5) 櫻井二郎編『根小屋古墳群-4号墳・13号墳発掘調査報告書-』茨城県行方郡麻生町教育委員会 1985年10月
- 6) 大場勝雄『孫舞塚古墳』『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』所収 茨城県 1974年2月
- 7) 志田淳一『潮来町史』潮来町史編さん委員会 1996年3月

参考文献

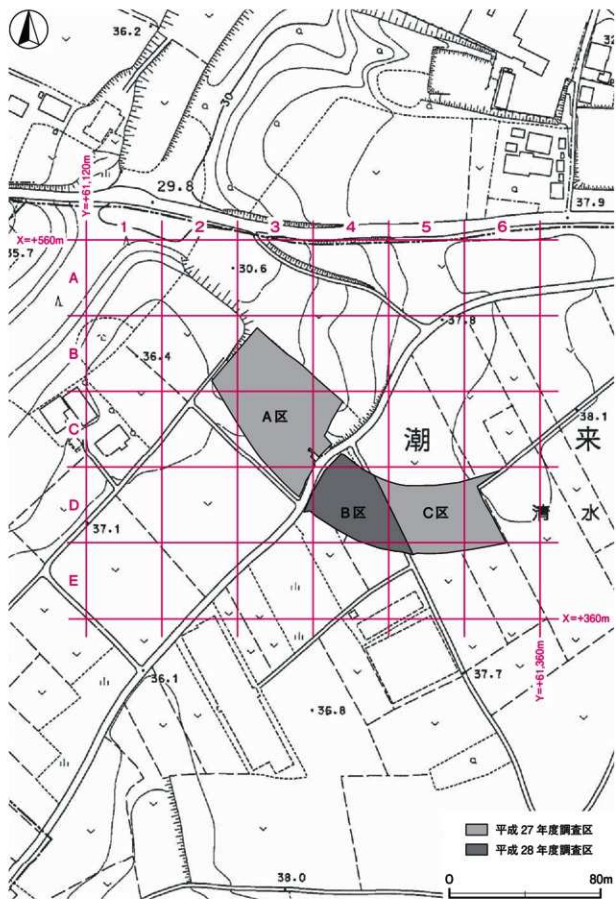
- ・茨城県教育庁文化課『茨城県道跡地図(地名表編・地図編)』茨城県教育委員会 2001年3月
- ・寺内久水『坊内遺跡 貝塚古墳群一般県道矢輪潮来線道路改良事業地内埋蔵文化財報告書』『茨城県教育財団文化財調査報告』第378集 2013年3月



第1図 清水原山遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院25,000分の1「潮来」「武井」「麻生」「西蓮寺」）

表1 清水原山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	清水原山遺跡	○					○	52	ワラビ台北遺跡	○						
2	原山北遺跡	○						53	ワラビ台南遺跡	○						
3	依久保遺跡	○						54	新原東遺跡	○						
4	水喰台遺跡	○						55	新原西遺跡	○						
5	茂内遺跡	○						56	嘉祥遺跡	○						
6	グミノ水平遺跡	○						57	栗山A遺跡	○						
7	原山遺跡	○						58	栗山B遺跡	○						
8	原北遺跡	○				○	○	59	栗山C遺跡	○	○	○				
9	原南遺跡	○						60	栗山D遺跡	○						
10	中山A遺跡	○						61	栗山E遺跡	○		○				
11	中山B遺跡	○			○	○		62	中山遺跡	○				○	○	
12	中山C遺跡	○						63	中林遺跡	○						
13	ト山遺跡	○			○			64	笹塚遺跡	○					○	
14	山ノ神北遺跡	○						65	石神城遺跡	○					○	
15	山ノ神南遺跡	○	○					66	上ノ久保遺跡	○	○	○				
16	奥村遺跡	○				○		67	熊野神社貝塚	○						
17	牛井戸遺跡	○				○	○	68	成狭間遺跡	○						
18	絡坂遺跡	○						69	十三仏遺跡	○	○		○			
19	大門貝塚	○						70	引取遺跡	○			○	○	○	
20	向叶屋遺跡	○				○		71	入定台遺跡	○	○	○				
21	桶子田遺跡	○						72	天の宮遺跡	○	○	○				
22	水山城遺跡						○	73	鐘山台遺跡					○	○	
23	富田古墳群					○		74	金塚遺跡	○						
24	上宿遺跡	○						75	シタキ遺跡	○	○	○				
25	反り町北遺跡	○				○		76	三瀧塚	○						
26	反り町南遺跡					○		77	桶の台城跡						○	○
27	生合遺跡					○		78	長貫遺跡	○	○	○				
28	上羽遺跡					○		79	根小屋古墳群				○			
29	富田城跡						○	80	太田小学校校庭古墳				○			
30	富内郷遺跡						○	81	多々良遺跡	○	○	○				
31	赤松遺跡	○				○		82	出し山A遺跡	○						
32	道城平遺跡	○	○			○		83	出し山B遺跡	○						○
33	道城平貝塚	○						84	出し山(C)遺跡	○						
34	道城平西遺跡	○						85	出し山(D)遺跡	○						
35	道城平西遺跡	○						86	出し山館遺跡	○						○
36	大宮台遺跡	○				○		87	びだら塚古墳	○				○		
37	大宮台貝塚	○						88	原畑遺跡					○		
38	八竜神遺跡						○	89	裏山遺跡							○
39	二本木城跡						○	90	貝ヶ倉遺跡							○
40	岩ノ入遺跡					○		91	浜井場遺跡	○						
41	四部切遺跡	○						92	稲荷塚古墳	○						
42	小屋ノ内館跡	○	○			○	○	93	稲井場遺跡	○						
43	前依北遺跡							94	一本椎遺跡	○						
44	前依東遺跡							95	赤羽根遺跡	○						
45	前依南遺跡	○				○		96	表遺跡	○						
46	遠北遺跡	○				○	○	97	中越貝塚	○						
47	前依西遺跡					○		98	畑中遺跡	○				○	○	
48	飯岡遺跡						○	99	台遺跡	○						
49	飯岡東遺跡	○						100	御安台遺跡	○						
50	飯岡南遺跡	○						101	吹上貝塚	○						
51	飯岡西遺跡	○						102	日天天塚古墳	○				○		



第2図 清水原山遺跡調査区設定図（潮来市都市計画図2,500分の1より作成）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

清水原山遺跡は潮来市の北端部に位置し、夜越川の支谷に囲まれた標高約38mの台地上に立置している。当遺跡は行方台地の中央部、霞ヶ浦と北浦の分水嶺にあたる位置に所在している。当遺跡の範囲は東西約330m、南北約260mで、台地の平坦部に広がっている。調査区域は遺跡の北部に位置し、調査面積は6,856㎡である。調査前の現況は山林と畑地である。

調査の結果、堅穴建物跡11棟（縄文時代）、炉跡2か所（縄文時代）、地点貝塚4か所（縄文時代）、土坑233基（縄文時代156基、時期不明77基）、溝跡11条（平安時代1条、時期不明10条）、道路跡1条（時期不明）を確認した。

遺物は遺物コンテナ（60×40×20cm）に140箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢・壺・蓋）、土師器（坏・甕）、須恵器（坏・高台付坏）、土製品（土器片・錘・土器片・円盤・耳栓）、石器（鐵・打製石斧・磨製石斧・石皿・磨石・敲石・楔形石器・砥石・軽石製品）、石製品（石棒）、剥片、銭貨（寛永通寶）などである。

第2節 基本層序

調査区の南東部（E6a4区）にテストピットを設定し、第3図に示すような土層堆積の状況を確認した。土層は9層に分層された。土層の観察結果は以下のとおりである。

第1層は、暗褐色を呈する表土層である。粘性・締まりともやや弱く、層厚は16～22cmである。

第2層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性は普通で、締まりはやや弱く、層厚は16～38cmである。

第3層は、暗褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は8～14cmである。第1黒色帯に相当する。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は12～32cmである。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は12～18cmである。

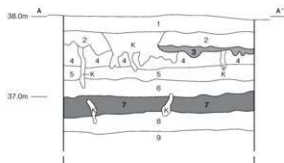
第6層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く、締まりは普通で、層厚は18～22cmである。

第7層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は20～38cmである。第2黒色帯に相当する。

第8層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりはやや強く、層厚は16～26cmである。

第9層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強い。下層が未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は、第2層上面で確認している。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当該時代の遺構は、竪穴建物跡11棟、炉跡2か所、地点貝塚4か所、土坑156基を確認した。遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第4・5図 PL3）

位置 調査区西部のD3b6区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第13・56号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びているため確認できた北東・南西径3.46m、北西・南東径3.68mで、炉やピットの配置から不整形円形と推定される。長径方向はN-49°-Eである。壁は高さ13～34cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 P10を掘り込み、中央部に付設されている。長径68cm、短径60cmの楕円形で、床面を18cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |

ピット 10か所。P1～P5は深さ8～50cmで、環状に巡る配置から主柱穴である。P6～P9は深さ6～14cmで、補助柱穴と考えられる。P10は炉に接した位置にあり、灰などの掻き出し場と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量 | |

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

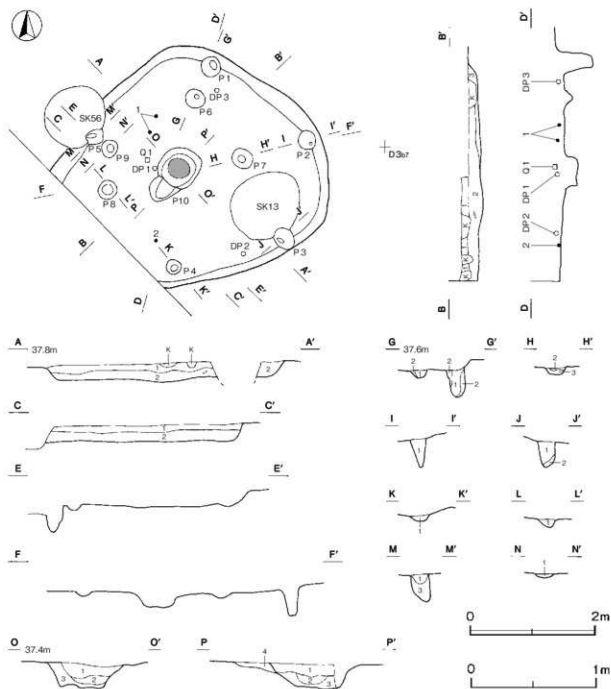
- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 濃い黄褐色 ローム粒子少量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 濃い黄褐色 ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片115点（深鉢）、土製品3点（土器片錘、耳栓、有孔円盤）、石器1点（搔器）、剥片1点（チャート）が、覆土中から散乱した状態で出土している。2は炉の南側の床面から出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。1、DP2・DP3は覆土中層から、DP1、Q1は覆土上層からそれぞれ出土し、埋没過程で投棄されたもの、あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

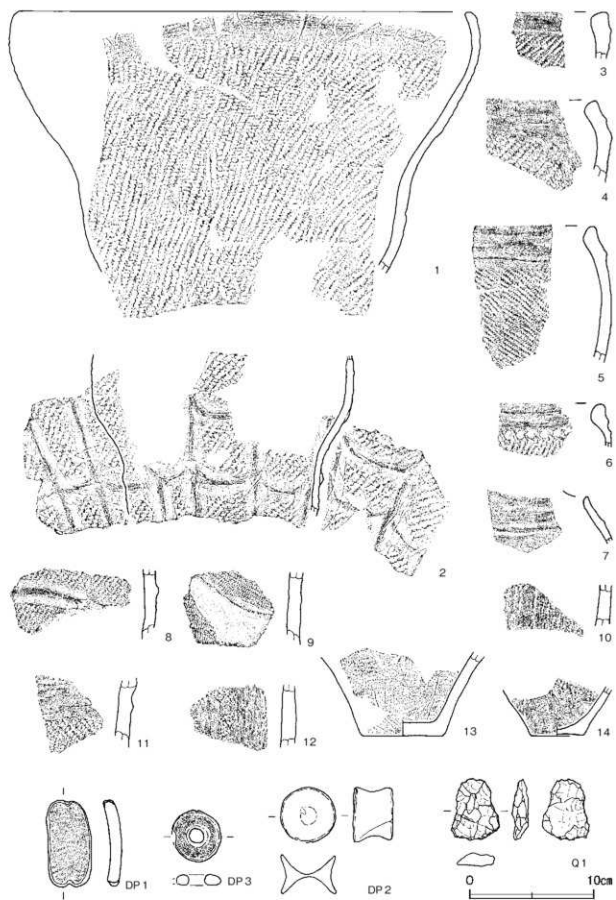
第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[338]	(207)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って無文帯 0段多葉単節縄文瓦、(縦)縄文	覆土中層	10% PL22
2	縄文土器	深鉢	-	(129)	-	長石・石英・雲母	濃い黄	普通	単節縄文瓦、(縦)上に段起線による縦線文 縦起線に添って浅い「おナ」	床面	20% PL22
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁に沿って浅い内線文短線 単節縄文瓦、(縦)縄文	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	濃い黄	普通	断面三角形の隆起線による文様区画 区画内単節縄文瓦、光磨	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	口縁に沿って断面三角形の隆起線短線 単節縄文瓦、(縦)縄文	覆土中	



第4図 第1号壑穴建物跡実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口縁に沿って内縁文、内形何文同回 無筋縄文及(細) 筋文	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	明赤焼	口縁部強く内縁 口縁に沿って突起線附付	覆土中	外・内面赤彩具
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	胎行部が強くナデつけられる陰帯による曲線文 単筋縄文RL (細) 表裏	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	断面三角形の突起線による文様区画 区画内単筋縄文RL表裏	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	胎行部が強くナデつけられる2条の陰帯による曲線文 単筋縄文RL (斜) 筋文	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	胎行部が強くナデつけられる2条の陰帯による曲線文 単筋縄文RL (横) 筋文	覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	胎行部が強くナデつけられる2条の陰帯による曲線文 単筋縄文RL (細) 筋文	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	(6.7)	6.4		長石・石英・雲母	橙	普通	単筋縄文LR (斜) 筋文 底部は強いナデ	覆土中	5%
14	縄文土器	深鉢	(3.9)	[4.3]		長石・石英	赤褐色	普通	単筋縄文RL (斜) 筋文 底部はミザキ	覆土中	5%



第5图 第1号竖穴建物跡出土遺物実測図

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	粘 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 1	土器片断	6.9	3.6	1.0	29.5	長石・石英・赤鉄	褐	短線部研磨 両端にキザミ目	覆土上層	
DP 2	耳栓	4.3	4.4	3.1	35.5	長石・石英	橙	全面無文 上面・下面大きく凹む	覆土中層	
DP 3	有孔円盤	4.1	4.0	0.9	(13.8)	長石・石英	にぶい赤褐色	短線部・孔内面研磨 片断部にキザミ目 一部欠損	覆土中層	孔径1.2cm

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 1	鉢形	4.9	3.8	1.3	20.6	珧瑁	先端部一部押圧凹線	覆土上層	

第2号竪穴建物跡 (第6～13図 PL 3・4)

位置 調査区西部のC 310区、標高37mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径5.32～5.56mのほぼ円形である。壁は高さ42～68cmで、ほぼ直立している。

床 平出で、主柱穴の内側が踏み固められている。東壁南部と南西コーナー部で壁溝が確認できた。

炉 2か所。炉1は中央部に付設されている。長径116cm、短径96cmの楕円形で、床面を深さ30cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉2は炉1の南側に位置し、炉1を掘り込んでいる。長径86cm、短径82cmのほぼ円形で、床面を深さ36cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック中量 3 極暗赤褐色 焼土ブロック多量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 4 暗 赤 褐色 焼土ブロック多量

炉2土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 4 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量
- 2 黒 褐色 貝類・破砕貝片多量（混貝土層） 5 暗 赤 褐色 焼土ブロック多量
- 3 暗 褐色 ロームブロック多量

ピット 14か所。P 1～P 4は深さ42～55cmで、配置から主柱穴である。P 5～P 7は深さ16～26cmで、南壁寄り位置していることから、出入り口施設に伴うピットの可能性がある。P 8～P 14は深さ20～44cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

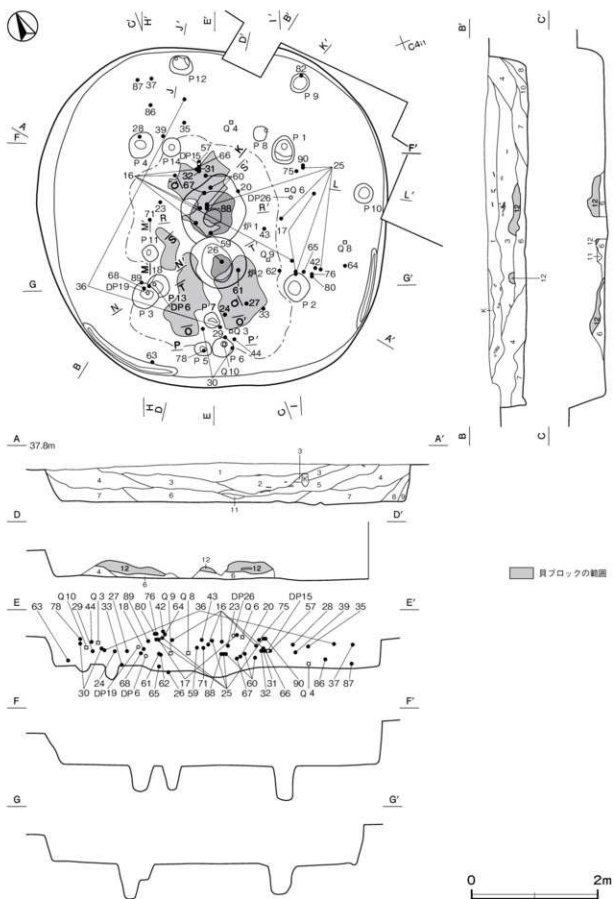
- 1 暗 褐色 ローム粒子微量 4 にぶい黄褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量 5 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 6 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

覆土 12層に分層できる。貝類・ロームブロック・焼土ブロック・灰黄色粘土ブロックなどを含む層が周辺から投棄された状態で堆積しており、埋め戻されている。

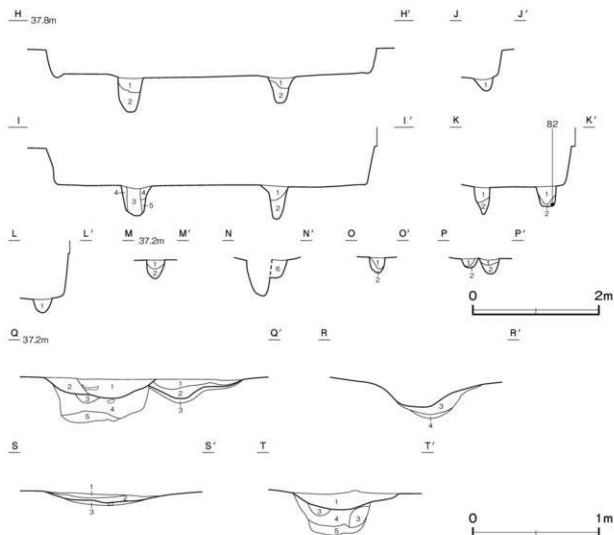
土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量 7 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 貝類・ローム粒子・炭化粒子少量（混貝土層） 8 褐 色 ロームブロック中量、灰黄色粘土ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒 褐色 貝類・ローム粒子中量、炭化粒子少量（混貝土層） 9 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 10 暗 褐色 ローム粒子少量
- 5 赤 褐色 焼土ブロック中量、貝類・ローム粒子・炭化粒子少量（混貝土層） 11 灰 黄色 灰黄色粘土ブロック多量
- 6 褐 色 ロームブロック多量、灰黄色粘土ブロック・炭化粒子少量 12 灰 白色 破砕貝多量

遺物出土状況 縄文土器片1634点（有孔鈔付土器1、深鉢1631、台付深鉢1、ミニチュア土器1）、土製品31点（土玉1、土器片錘20、土器片錘未成品1、有孔円盤2、有孔円盤未成品1、土器片円盤6）、石器8点（鎌2、磨石5、敲石1）、石核1点、剥片1点（黒曜石）、川原石4点が、覆土中層から上層を中心に散



第6図 第2号竪穴建物跡実測図 (1)

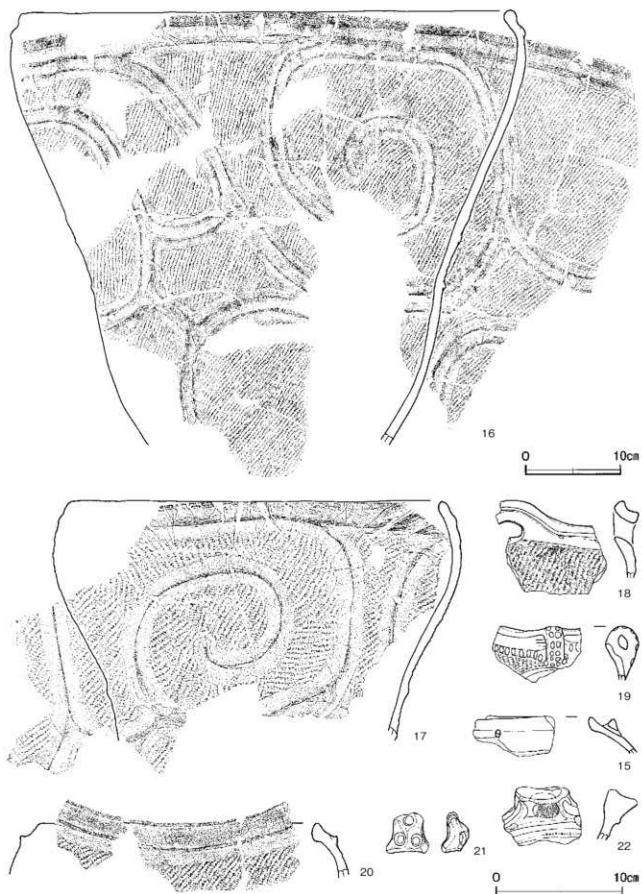


第7図 第2号竪穴建物跡実測図 (2)

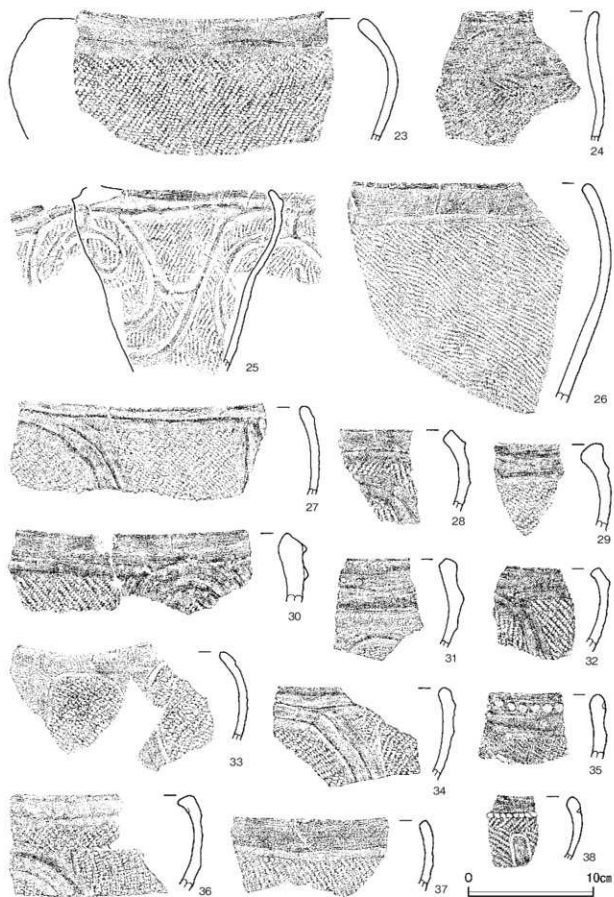
乱した状態で出土している。26は炉2から、33・65は炉2の南東側の床面からそれぞれ出土し、埋め戻される前に遺棄されたか投棄されたものと考えられる。16・25・36は覆土中層から上層にかけて出土し、離れた位置のものが接合していることから、破砕して投棄されたものと考えられる。63・86・87、Q 4は覆土下層から、18・20・23・27～32・35・39・57・59～62・66～68・71・88、DP 6・DP15・DP19、Q 8～Q 10は覆土中層から、17・24・37・42～44・64・75・76・78・80・89・90、DP26、Q 3・Q 6は覆土上層からそれぞれ出土し、埋土と一緒に投棄されたものと考えられる。

貝類を含む暗褐色土や赤褐色土は、中央部が褐色土（ロームブロック多量、灰黄色粘土ブロック・炭化粒子少量含）で埋められた後、ブロック状に4か所、確認されている。貝の総量は42.946gで14種類の貝類が確認されている。重量別比率は別表の通りで、ハマグリ・シオフキがほとんどを占めている。いずれも鹹水産である。

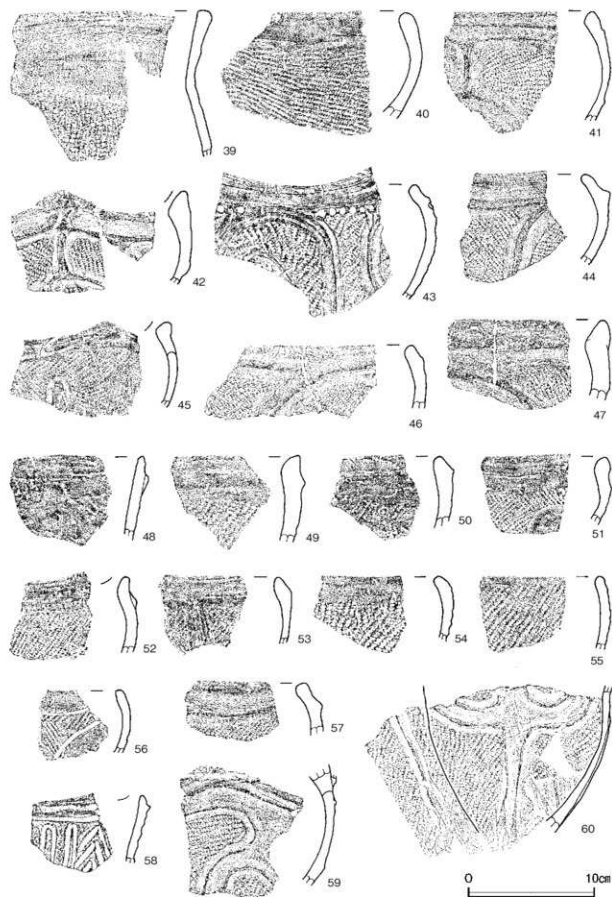
所見 本跡は廃絶後に貝類が投棄され、地点貝塚が形成されたものである。40kgを越す貝類が投棄されていることから、当遺跡の人々は採集時季が来ると盛んに海岸へ出て貝を探り、交易物としていたと考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。



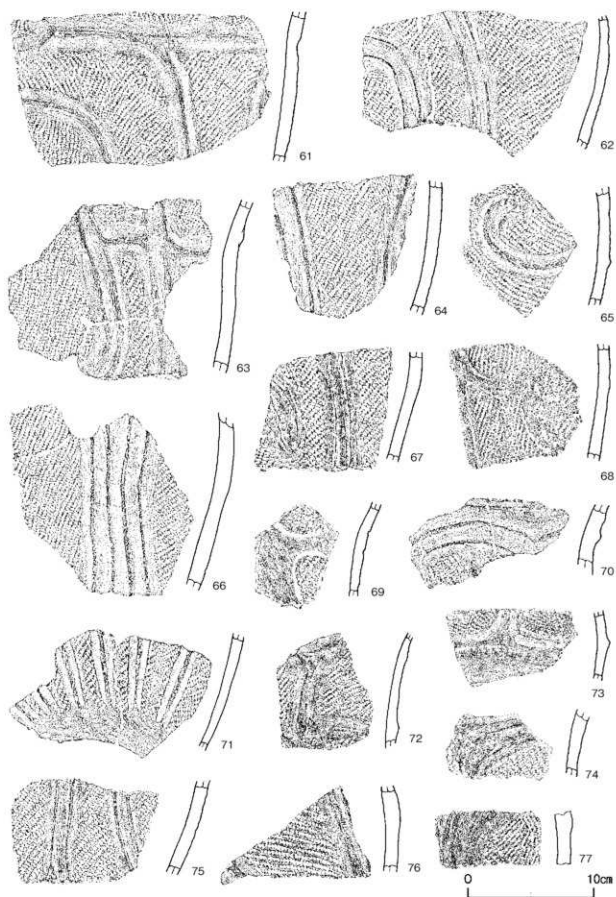
第8图 第2号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



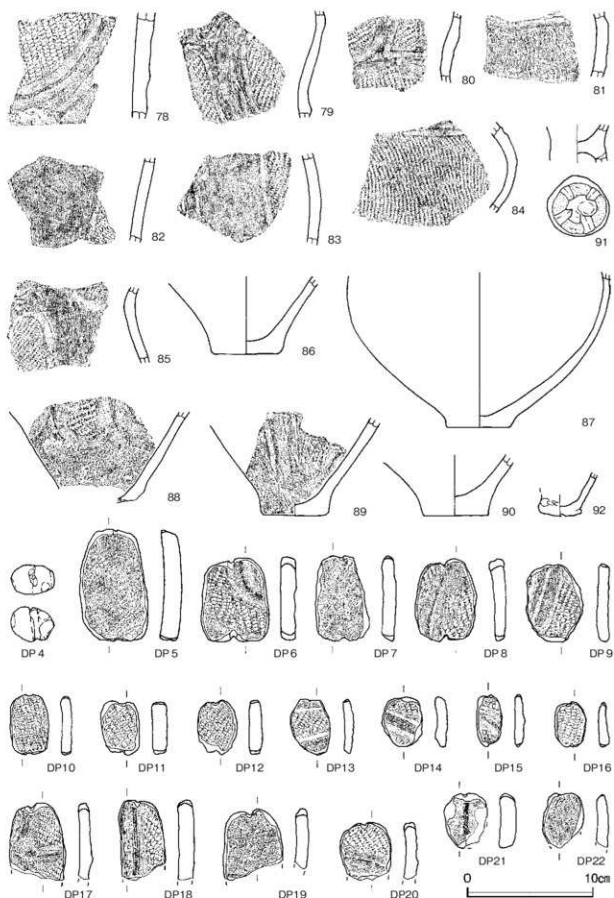
第9图 第2号竖穴建物跡出土遺物実測图(2)



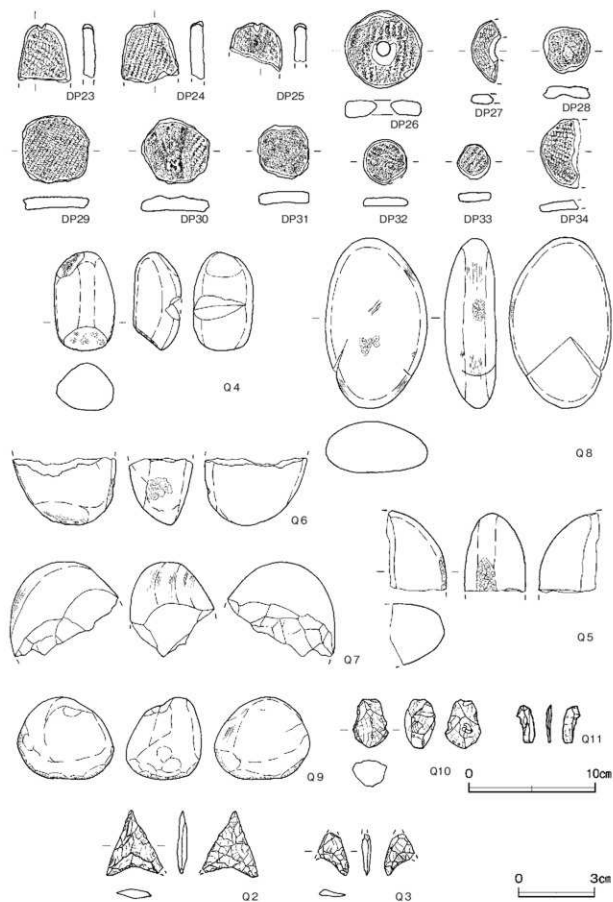
第10图 第2号竖穴建物跡出土遺物実測图 (3)



第 11 图 第 2 号竖穴建物跡出土遺物实测图 (4)



第 12 图 第 2 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (5)



第13图 第2号竖穴建物跡出土遺物実測図(6)

第2号竪穴建物跡出土貝類集計表

種別	点数	重量 (g)	重量比 (%)
ハマグリ	9604	22319	52.0
シオフキ	6864	16674	38.8
オキシシメ	297	997	2.3
ウミナシ類	280	285	0.7
マダキ	70	218	0.5
サルボウ	21	119	0.3
アカニシ	24	102	0.2
オオノガイ	11	54	0.1

種別	点数	重量 (g)	重量比 (%)
シウトリガイ	35	20	-
アサリ	14	19	-
マナガイ	1	18	-
カガミガイ	1	17	-
ツメタガイ	6	15	-
キセルガイ	2	2	-
雑野貝類	-	2,067	49
総量	17,200	42,946	100.0

※ -は0.1未満

第2号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第8～13図)

番号	種別	図種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
15	縄文土器	有孔器 土器	-	(3.1)	-	長石・石英	にぶい	普通	口縁部狭く内唇・口縁に沿う隆帯下に穿孔	覆土中層	5%
16	縄文土器	深鉢	(52.0)	(45.8)	-	長石・石英・ 赤母	橙	普通	口縁に沿って内縁文・口縁部から腹部にかけて2条一組の隆起線による曲線状の区画文・単筋縄文文区(縦・横)・光澤	覆土中層 覆土上層	40% P1.21
17	縄文土器	深鉢	(26.6)	(19.1)	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	口縁に沿って無文文 前面三角形の隆帯に裏側の区画文・単筋縄文区(縦・横)・光澤	覆土上層	30% P1.22
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	縁状把手・口唇部に内縁文・単筋縄文区(縦・横)・光澤	覆土中層	
19	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	灰青褐色	普通	口縁部無文文 縁状把手と無文部下位に刺突文・単筋縄文区(斜)・施文	覆土中層	5%
20	縄文土器	深鉢	(22.0)	(4.4)	-	長石・石英・ 赤母	明赤褐色	普通	口縁に沿って前面三角形の2条の隆起線縁状把手付区画文・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土中層	5%
21	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	-	長石・石英	橙	普通	3条所の凹形の孔を有する縁状把手・頂面にキザミ目	覆土中	動物産近把手、5%
22	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英・ 赤色砂子	にぶい	普通	縁状把手・口唇部に内縁文・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土中層	5%
23	縄文土器	深鉢	(25.6)	(9.6)	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿う無文部下に内縁文・単筋縄文区(縦・横)による凹状隆帯	覆土中層	10%
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部無文文・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	14.7	(14.8)	-	長石・石英・ 赤色砂子	赤褐色	普通	口縁に沿って中・内縁部を内縁文・1段部から腹部にかけて隆起線による曲線状の区画文・単筋縄文区(縦・横・斜)・光澤	覆土中層 覆土上層	40% P1.22
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	口縁部無文文 太沈線で区画 単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土中層	約2%
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	黄	普通	前面三角形の2条一組の隆起線による区画文・単筋縄文区(縦・横)・光澤	覆土中層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	灰褐色	普通	胎付部が強く十字につけられる前面三角形の隆起線による曲線文・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土中層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	橙	普通	口縁に沿って胎付部が強く十字につけられる2条の隆起線縁状把手付区画文・単筋縄文区(縦・横)・光澤	覆土中層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤色砂子	明赤褐色	普通	前面三角形の2条一組の隆起線による区画文・単筋縄文区(縦・横)・光澤	覆土中層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	口縁に沿って胎付部が強く十字につけられる隆起線縁状把手付区画文・単筋縄文区(斜)・施文	覆土中層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	胎付部が強く十字につけられる前面三角形の隆起線による曲線文・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土中層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄	普通	太沈線による区画文・単筋縄文区(縦・横)・光澤	床面	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	黄	普通	前面三角形の隆起線による曲線状の区画文・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土中層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄	普通	口縁に沿って内影刺突文・前面三角形の隆起線縁状把手付区画文・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土中層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	2条一組の隆起線による区画文・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土中層 覆土上層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部無文文 太沈線で区画 単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	口縁部無文文 刺突文付回 沈線による通孔文字・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土中層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	口縁部無文文 単筋縄文区(斜)・施文	覆土中層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	明褐色	普通	口縁部無文文 単筋縄文区(斜)・施文	覆土中層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	前面三角形の隆起線による区画文・胎付部狭く十字・単筋縄文区(斜・縦・横)・光澤	覆土中層	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	太沈線を伴う隆起線による区画文・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土上層	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	胎付部が強く十字につけられる前面三角形の隆起線による曲線文・口縁に沿って凹状隆帯 単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土上層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤色砂子	にぶい	普通	太沈線を伴う隆帯による区画文・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土上層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部無文文 太沈線による区画文・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土中層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母	にぶい	普通	胎付線による曲線状の区画文・胎付部狭く十字・単筋縄文区(縦・横)・施文	覆土中層	

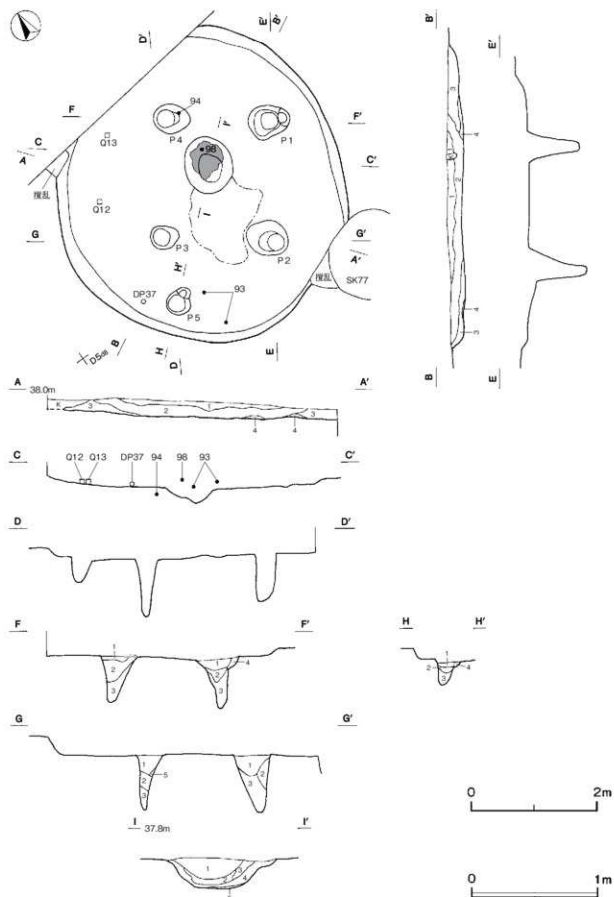
番号	種別	彫種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	明赤褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる陰帯による区画文 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	明赤褐色	普通	口縁に沿って後部帯付	覆土中	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	橙	普通	口縁に沿って胎行部が強くテグつけられる陰帯 施文 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	明赤褐色	普通	口縁に沿って前面三角形の隆起帯施付 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	橙	普通	口縁に沿って胎行部が強くテグつけられる陰帯 施付 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	明赤褐色	普通	口縁に沿って前面三角形の隆起帯施付 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	橙	普通	単筋縄文 R.L. (縦) 上に2条一組の隆起帯による区画文	覆土中	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母、赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	口縁に沿って2条一組の隆起帯施付 単筋縄文 R.L. (縦、斜) 施文	覆土中	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	明赤褐色	普通	口縁に沿ってナガ 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	にぶい赤褐色	普通	口縁に沿って無文帯 沈線による文様区画 単筋縄文 R.L. (横、縦) 充塞	覆土中	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	暗	普通	口縁に沿って無文帯 前面三角形の隆起帯施付 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	にぶい赤褐色	普通	口縁に沿って2条の沈線文 単筋縄文 R.L. (縦) 上に沈線による赤文、丸凸区文	覆土中層	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	明赤褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯による区画文 単筋縄文 R.L. (縦) 充塞	覆土中層	
60	縄文土器	深鉢	-	(11.8)	-	長石、石英	明赤褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯による赤文 単筋縄文 R.L. (縦) 充塞	覆土中層	30% PL22
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	橙	普通	胎行部が強くテグつけられる陰帯による曲線文 単筋縄文 R.L. 充塞	覆土中層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	橙	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯による曲線文 単筋縄文 R.L. (縦) 充塞	覆土中層	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	明暗	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯による曲線文 単筋縄文 R.L. (縦、斜) 充塞	覆土下層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	にぶい赤褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯による赤文 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土上層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	にぶい赤褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯による曲線文 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	表面	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母、赤色砂子	明暗	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯による曲線文 単筋縄文 R.L. (縦) 充塞	覆土中層	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	灰褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる前面三角形の隆起帯による曲線文 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色砂子	赤褐色	普通	沈線を伴う陰帯による帯赤文 曲線文 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中層	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	橙	普通	沈線によるU字形の区画文 単筋縄文 R.L. 光潤	覆土中層	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	黒褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯による曲線文 単筋縄文 R.L. (斜) 施文	覆土中	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	明赤褐色	普通	沈線を伴う陰帯による帯赤文 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中層	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	にぶい赤褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる陰帯による区画文 単筋縄文 R.L. (縦) 充塞	覆土中	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	明暗	普通	沈線を伴う陰帯による区画文 単筋縄文 R.L. (横) 充塞	覆土中	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	にぶい赤褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる前面三角形の隆起帯による曲線文 単筋縄文 R.L. (斜) 充塞	覆土中	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	明赤褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯による曲線文 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土上層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	明赤褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる陰帯による曲線文 単筋縄文 R.L. (斜) 施文	覆土上層	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	にぶい赤褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯による曲線文 単筋縄文 R.L. (斜) 充塞	覆土中	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	明暗	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯による曲線文 単筋縄文 R.L. (斜) 充塞	覆土上層	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色砂子	暗赤褐色	普通	沈線を伴う2条の隆起帯による帯赤文区画文 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	にぶい赤褐色	普通	沈線を伴う隆起帯による区画文 単筋縄文 R.L. (縦、斜) 充塞	覆土上層	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	明赤褐色	普通	櫛歯状工具による縦流状文上に施行する沈線文	覆土中	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	沈線を伴う隆起帯による帯赤文 縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中層	P9 9底面
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤母	明赤褐色	普通	沈線を伴う陰帯による帯赤文 縄文 R.L. (縦) 施文	覆土中	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色砂子	にぶい赤褐色	普通	口縁に沿って沈線文 単筋縄文 R.L. (斜) 施文	覆土中	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	橙	普通	沈線による曲線文 単筋縄文 R.L. (縦) 充塞	覆土中	
86	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	5.1	長石、石英、赤母	明赤褐色	普通	底部やや交出 製部下平部磨き	覆土下層	5%
87	縄文土器	深鉢	-	(12.3)	5.0	長石、石英	明暗	普通	底部やや交出 製部下平部磨き	覆土下層	30% PL22
88	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石、石英、赤母	赤褐色	普通	胎行部が強くテグつけられる2条の隆起帯によるU字形の区画文 単筋縄文 R.L. (縦) 充塞	覆土中層	10%
89	縄文土器	深鉢	-	(7.7)	5.4	長石、石英	にぶい赤褐色	普通	沈線を伴う2条の隆起帯による帯赤文 単筋縄文 R.L. (縦) 施文	覆土上層	10%
90	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	5.2	長石、石英	明赤褐色	普通	製部下平部磨き	覆土上層	10%
91	縄文土器	凸凹深鉢	-	(3.0)	-	長石、石英	明赤褐色	普通	底面に溝状の刻み目を有する台付深鉢	覆土中	5%
92	縄文土器	にぶい赤褐色	-	(3.4)	3.2	長石、石英、赤母	にぶい赤褐色	普通	手捏 底面に製部指輪押印	覆土中	60%

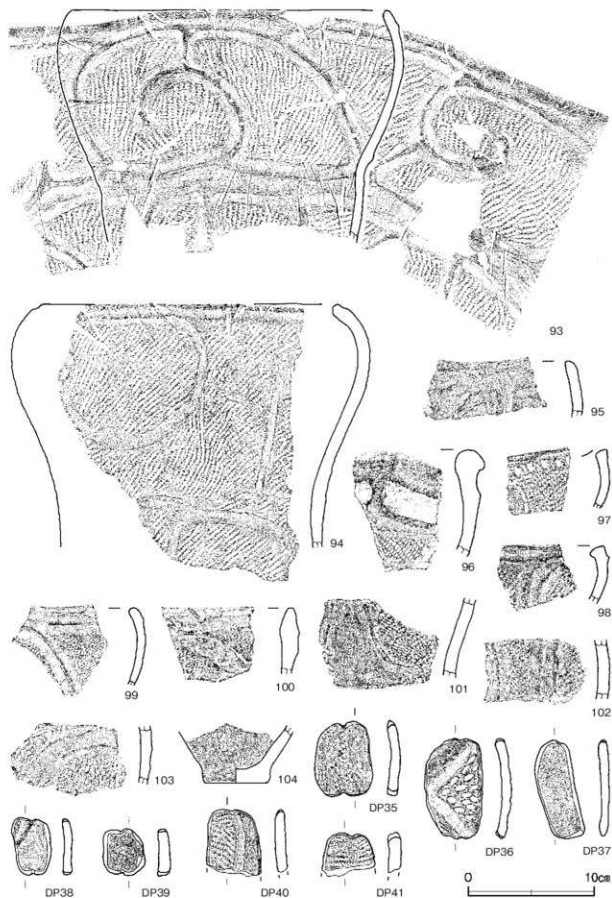
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 4	土玉	3.4	2.3	28	(18.5)	長石・石英	明褐色	一方からの穿孔 ナテ 一部欠損	覆土中	
DP5	土器片鉢	8.9	5.4	18	96.8	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐色	頸縁部丁寧な研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP 6	土器片鉢	6.7	5.4	1.3	62.3	長石・石英・ 雲母	にぶい褐色	頸縁部丁寧な研磨 両端部にキザミ目	覆土中層	
DP 7	土器片鉢	6.8	4.3	1.1	40.3	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐色	頸縁部研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP 8	土器片鉢	6.6	4.8	1.4	41.2	長石・石英	にぶい黄褐色	頸縁部丁寧な研磨 両端部にキザミ目	覆土中	
DP 9	土器片鉢	6.1	4.6	1.0	31.2	長石・石英・ 雲母	にぶい黄褐色	頸縁部研磨 片端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP10	土器片鉢	4.9	3.1	0.9	18.0	長石・石英	褐色	頸縁部丁寧な研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP11	土器片鉢	4.3	3.1	1.2	15.6	長石・石英・ 雲母	にぶい褐色	頸縁部研磨 両端部にキザミ目	覆土中	
DP12	土器片鉢	4.3	3.2	1.0	16.7	長石・石英	にぶい黄褐色	頸縁部研磨 両端部にキザミ目	覆土中	
DP13	土器片鉢	4.4	3.3	0.9	11.9	長石・石英	赤褐色	頸縁部丁寧な研磨 片端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP14	土器片鉢	4.0	3.2	1.0	12.6	長石・石英	明赤褐色	頸縁部研磨	覆土中	未成品。
DP15	土器片鉢	4.1	2.1	0.9	8.0	長石・石英	明赤褐色	頸縁部研磨 両端部にキザミ目	覆土中層	
DP16	土器片鉢	3.6	2.5	0.9	9.3	長石・石英	にぶい赤褐色	頸縁部丁寧な研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP17	土器片鉢	(6.1)	4.5	1.2	(36.7)	長石・石英	褐色	頸縁部丁寧な研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP18	土器片鉢	(6.4)	(3.8)	1.4	(32.6)	長石・石英・ 雲母	黒褐色	頸縁部研磨 片端部に浅いキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP19	土器片鉢	(5.6)	(4.8)	1.1	(35.1)	長石・石英	明赤褐色	頸縁部研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中層	
DP20	土器片鉢	(4.6)	4.1	1.3	(23.8)	長石・石英・ 雲母	褐色	頸縁部研磨 片端部に浅いキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP21	土器片鉢	4.3	3.4	1.4	(22.0)	長石・石英	褐色	頸縁部研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP22	土器片鉢	(4.3)	3.3	1.0	(15.9)	長石・石英	褐色	頸縁部丁寧な研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP25	土器片鉢	(4.7)	(4.2)	(1.1)	(22.7)	長石・石英・ 雲母	赤褐色	頸縁部丁寧な研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP24	土器片鉢	(4.8)	(4.5)	1.1	(27.9)	長石・石英	灰黄褐色	頸縁部研磨 片端部に浅いキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP25	土器片鉢	(3.8)	(4.2)	1.0	(14.7)	長石・石英・ 雲母	褐色	頸縁部丁寧な研磨 片端部に浅いキザミ目 一部欠損	覆土中層	
DP26	有孔円筒	6.2	6.2	1.2	49.3	長石・石英・ 雲母	明褐色	二方向からの穿孔 頸縁部丁寧な研磨	覆土上層	孔径1.2cm
DP27	有孔円筒	(4.9)	(2.4)	0.8	(9.5)	長石・石英	暗赤褐色	二方向からの穿孔 頸縁部丁寧な研磨 一部欠損	覆土中	
DP28	有孔円筒	3.7	3.7	1.0	15.3	長石・石英	赤褐色	頸縁部研磨 中央部凹み	覆土中	未成品。
DP29	土器片円蓋	5.4	5.3	1.0	35.9	長石・石英	にぶい褐色	頸縁部丁寧な研磨	覆土中	
DP30	土器片円蓋	5.2	5.4	1.2	34.1	長石・石英・ 赤色粒子	赤褐色	頸縁部研磨	覆土中	
DP31	土器片円蓋	4.3	4.1	1.0	21.6	長石・石英・ 雲母	にぶい黄褐色	頸縁部研磨	覆土中	
DP32	土器片円蓋	3.6	3.5	0.7	9.8	長石・石英	褐色	頸縁部丁寧な研磨	覆土中	
DP33	土器片円蓋	2.8	2.7	0.7	5.2	長石・石英・ 雲母	褐色	頸縁部丁寧な研磨	覆土中	
DP34	土器片円蓋	5.5	(3.3)	1.0	(14.9)	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	頸縁部丁寧な研磨 一部欠損	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 2	皿	2.6	(2.3)	0.4	(1.3)	ホルンフェルス	全面押圧剥離	覆土中	PL30
Q 3	皿	(1.7)	(1.2)	0.3	(0.54)	チャート	全面押圧剥離 一部欠損	覆土上層	
Q 4	磨石	7.9	4.8	3.8	(186.0)	砂岩	全面磨面 両端部敲打痕	覆土下層	敲石兼用
Q 5	磨石	(6.3)	4.8	4.9	(180.1)	砂岩	全面磨面 側縁部微細な敲打痕	覆土中	敲石兼用
Q 6	磨石	(5.4)	8.2	5.1	(258.7)	安山岩	表面磨面 片端部敲打痕 側縁部敲打痕	覆土上層	敲石兼用
Q 7	磨石	(7.6)	8.6	6.6	(375.7)	安山岩	全面磨面	覆土中	
Q 8	磨石	13.5	8.1	4.1	630.3	砂岩	全面磨面 表面・側縁部敲打痕	覆土中層	敲石兼用 PL30
Q 9	敲石	6.6	7.6	6.1	364.6	砂岩	底面に敲打痕 側面磨面	覆土中層	磨石兼用
Q 10	石核	3.9	2.8	2.4	22.0	黒曜石	多方向からの剥離 一部自然角残存	覆土中層	
Q 11	薄片	3.0	1.5	0.4	0.75	頁岩	縦長薄片 半割離面打痕	覆土中	

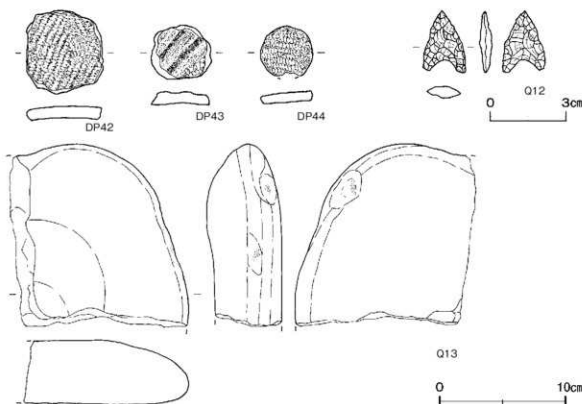
第3号竪穴建物跡 (第14～16図 PL5)

位置 調査区東部のD5c8区、標高38mほどの台地中央部に位置している。





第15图 第3号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第16図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

重複関係 第77号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているが、炉やピットの配置から長径5.02m、短径4.56mの楕円形と推定できる。長径方向はN-32°-Eである。壁は高さ15~26cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、炉の南側が踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。長径86cm、短径75cmの楕円形で、床面を深さ24cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|---------|----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 にいり褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 | | |

ピット 5か所。P1~P4は深さ78~92cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ41cmで、南西壁寄りに位置していることから出入り口施設に伴うピットの可能性がある。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|---------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 にいり褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | | |

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片251点(深鉢)、土製品10点。(土器片鍾6、土器片鍾未成品1、土器片円盤2、土器片円盤未成品1)、石器3点(鏃、石皿、浮子)、剥片3点(瑪瑙、安山岩、ホルンフェルス)が、覆土中から散乱した状態で出土している。DP37、Q12・Q13は床面から出土しており、廃絶時に遺棄された

ものと考えられる。94はP4の壁に接して出土しており、P4の掘削時に置かれたものと考えられる。93は覆土中層から、98は覆土上層からそれぞれ出土し、埋没過程で投棄されたか、あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第3号竪穴建物跡出土遺物観察表（第15・16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
93	縄文土器	深鉢	[25.1]	(18.5)	-	長石・石英・赤漆	にぶい橙	普通	胎付部が強くナツつけられる縁部による曲線区画文・単筋縄文L.R.(縦・斜) 光景	覆土中層	30% PL21
94	縄文土器	深鉢	[23.6]	(19.5)	-	長石・石英・赤漆	橙	普通	断面三角形の2条の隆起線による曲線区画文・赤漆文・単筋縄文L.R.(縦) 光景	P4 覆土上層	20% PL22
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	胎付部が強くナツつけられる2条の隆起線による曲線区画文	覆土中	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	胎付部が強くナツつけられる縁部による楕円形区画文・単筋縄文L.R.(横) 光景	覆土中	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤漆	赤褐	普通	口縁に沿って斜交文・光景による縁部による曲線区画文・単筋縄文L.R.(縦) 光景	覆土中	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤漆	にぶい褐	普通	胎付部が強くナツつけられる2条の隆起線による曲線区画文・単筋縄文L.R.(縦) 光景	覆土上層	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	胎付部が強くナツつけられる断面三角形の隆起線による曲線区画文・単筋縄文L.R.(斜) 光景	覆土中	
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤漆	にぶい橙	普通	2条の隆起線による曲線区画文・単筋縄文L.R.(横・斜) 光景	覆土中	
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤漆	明褐	普通	胎付部が強くナツつけられる縁部による曲線区画文・単筋縄文L.R.(縦) 光景	覆土中	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤褐	普通	胎付部が強くナツつけられる2条の隆起線による曲線区画文・単筋縄文L.R.(縦) 光景	覆土中	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	断面三角形の2条の隆起線による曲線区画文・単筋縄文L.R.(縦) 光景	覆土中	
104	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	[4.9]	長石・石英	橙	普通	底部突出 単筋縄文L.R.(縦) 光景	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF35	土器片鉢	6.0	4.6	1.0	31.2	長石・石英	明褐	周縁部丁寧な研磨 両端部にキザミ目	覆土中	
DF36	土器片鉢	8.0	4.6	1.3	37.2	長石・石英	にぶい黄褐	周縁部研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DF37	土器片鉢	8.0	4.0	0.9	26.9	長石・石英	明褐	周縁部丁寧な研磨 片端部にキザミ目	床面	未成品。
DF38	土器片鉢	4.5	3.2	0.9	12.8	長石・石英	明褐	周縁部丁寧な研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DF39	土器片鉢	3.7	3.4	1.1	14.1	長石・石英	橙	周縁部丁寧な研磨 両端部にキザミ目	覆土中	
DF40	土器片鉢	(5.3)	(4.3)	1.0	(23.2)	長石・石英・赤漆	橙	周縁部丁寧な研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DF41	土器片鉢	(3.4)	(4.4)	1.1	(16.8)	長石・石英・赤漆	明赤褐	周縁部丁寧な研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DF42	土器片鉢	6.6	6.1	1.1	33.0	長石・石英	にぶい褐	周縁部研磨	覆土中	未成品。
DF43	土器片鉢	4.3	4.8	1.1	23.5	長石・石英	にぶい赤褐	周縁部研磨	覆土中	
DF44	土器片鉢	(3.9)	4.1	1.0	(15.8)	長石・石英・赤漆	明褐	周縁部丁寧な研磨 一部欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 12	皿	2.5	1.8	0.5	1.2	玉髓	全面押圧潤滑	床面	PL30
Q 13	石皿	(14.6)	(14.3)	(6.0)	(157.4)	花崗岩	全面磨面 表面硬やかに凹凸 側面に凹み2か所	床面	熟熱 PL30

第4号竪穴建物跡（第17～19図 PL 6）

位置 調査区東部のD56区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第7号竪穴建物跡を掘り込み、第157・158号土坑、第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西部を第9号溝に掘り込まれているが、現存部から長径5.20m、短径4.66mの楕円形で、長径方向はN-17°-Eと推測できる。壁は高さ24～30cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 2か所。炉1は中央部に付設されている。長径66cm、短径54cmの楕円形で、床面を深さ20cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉2は中央部の西寄りに付設されている。径60cmほどの円形で、床面を深さ15cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |

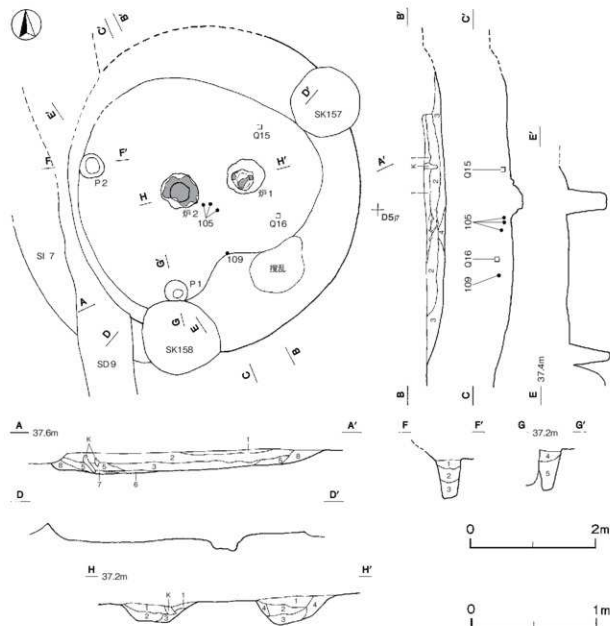
炉2土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量 | |

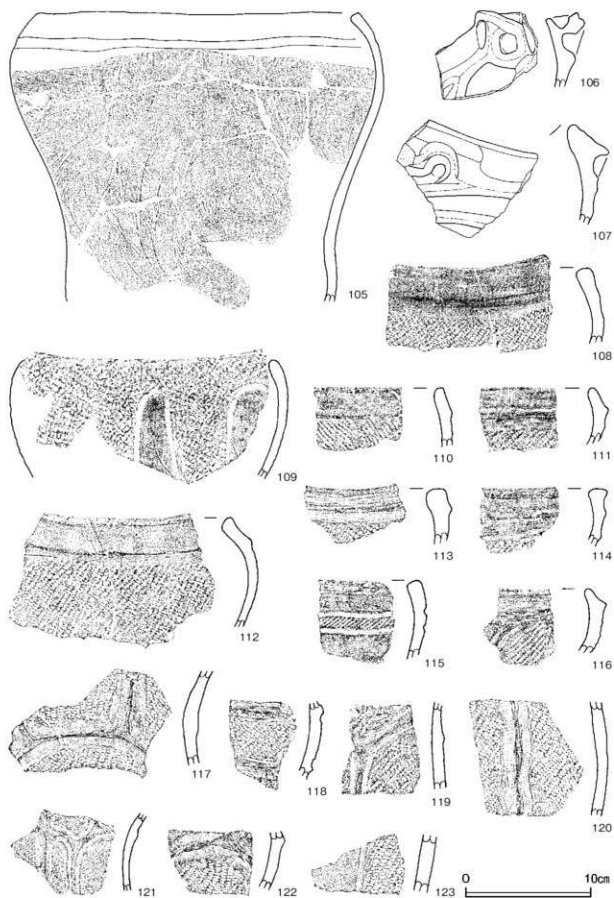
ピット 2か所。P1・P2は深さ65・60cmで、形状から主柱穴と考えられるが、配置は不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

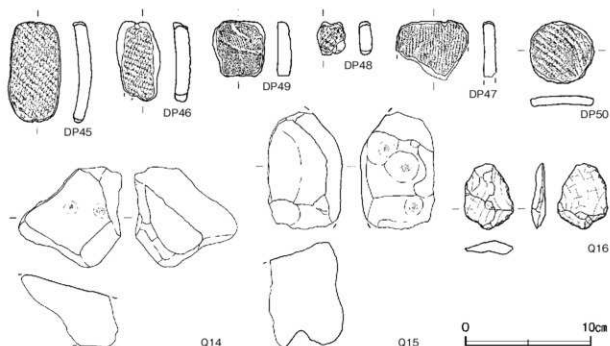
- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 濃い黄褐色 ロームブロック中量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 | |



第17図 第4号竪穴建物跡実測図



第18图 第4号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第19図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

覆土 8層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|-----|----|---------------------|-----|----|----------------|
| 1 層 | 色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 層 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 層 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 層 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 層 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 7 層 | 褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 層 | 褐色 | ロームブロック多量 | 8 層 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 366点(深鉢), 土製品6点(土器片鉢4, 土器片鉢未成品, 1, 土器片円盤1), 石器3点(石皿2, 浮子, 1), 加工痕のある剥片1点が, 覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。105, Q15は覆土中層から, 109, Q16は覆土上層からそれぞれ出土し, 埋土と一緒に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期末葉と考えられる。

第4号竪穴建物跡出土遺物観察表(第18・19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
105	縄文土器	深鉢	25.6	(23.1)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部解文帯 土沈痾による横定文 縦線状土器片による扇状紋文	覆土中層	40% PL21
106	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・赤鉄	橙	普通	口縁部による縦線部手 口縁に沿って無文帯	覆土中層	5%
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	明赤褐色	普通	口縁部と前面三角形の隆起線による突起文	覆土中層	
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	にぶい赤褐色	普通	口縁に沿って無文帯 胎付部が強くナデつけられる隆起線部 単筋縄文文(縦) 無文	覆土中層	
109	縄文土器	深鉢	(19.6)	(9.4)	-	長石・石英・赤鉄	明赤褐色	普通	土沈痾による逆J字形の区画文 単筋縄文上(縦) 無文	覆土上層	5%
110	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	赤褐色	普通	口縁に沿って無文帯 断面三角形の隆起線部 単筋縄文上(縦) 無文	覆土上層	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	明赤褐色	普通	口縁部と前面三角形の隆起線部 単筋縄文文(縦) 無文	覆土中層	
112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	橙	普通	口縁に沿って2本の前面三角形の隆起線部 単筋縄文文(縦) 無文	覆土中層	
113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	赤褐色	普通	口縁部と前面三角形の隆起線部 単筋縄文文(縦) 無文	覆土中層	
114	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	にぶい赤褐色	普通	口縁部と前面三角形の隆起線部 単筋縄文文(縦) 無文	覆土中層	
115	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	明赤褐色	普通	口縁部と前面三角形の隆起線部 単筋縄文文(縦) 無文	覆土中層	
116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	赤褐色	普通	口縁部と前面三角形の隆起線部 単筋縄文文(縦) 無文	覆土中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
117	周文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	胎付部が強くナデつけられる隆起線による区画文 単胎縄文 区 (縦) 光澤	覆土中	
118	周文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	胎付部が強くナデつけられる隆起線による区画文 単胎縄文 区 (斜) 光澤	覆土中	
119	周文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	胎付部が強くナデつけられる隆起線による区画文 単胎縄文 区 (縦) 光澤	覆土中	
120	周文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	胎付部が強くナデつけられる隆起線による区画文 単胎縄文 区 (縦) 光澤	覆土中	
121	周文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	太沈澱を伴う隆起線による区画文 単胎縄文 区 (縦・横) 光澤	覆土中	
122	周文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	胎付部が強くナデつけられる隆起線による区画文 単胎縄文 区 (縦) 光澤	覆土中	
123	周文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒褐色	普通	太沈澱による懸垂文 単胎縄文 区 (縦) 施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP45	土器片縁	8.0	4.2	1.5	50.0	長石・石英・雲母	橙	周縁部丁寧な研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP46	土器片縁	6.4	3.6	1.4	53.5	長石・石英・雲母	明赤褐色	周縁部丁寧な研磨 両端部にキザミ目	覆土中	
DP47	土器片縁	4.8	5.8	1.1	52.4	長石・石英・雲母	赤褐色	周縁部丁寧な研磨 片端部にキザミ目	覆土中	
DP48	土器片縁	2.7	2.3	1.0	7.5	長石・石英・雲母	純	周縁部研磨 両端部にキザミ目	覆土中	
DP49	土器片縁	4.4	4.1	1.1	25.9	長石・石英・雲母	純	周縁部丁寧な研磨 両端部にキザミ目	覆土中	未成品。
DP50	土器片内面	5.0	5.1	0.8	25.3	長石・石英・雲母	明褐色	周縁部丁寧な研磨	覆土中	

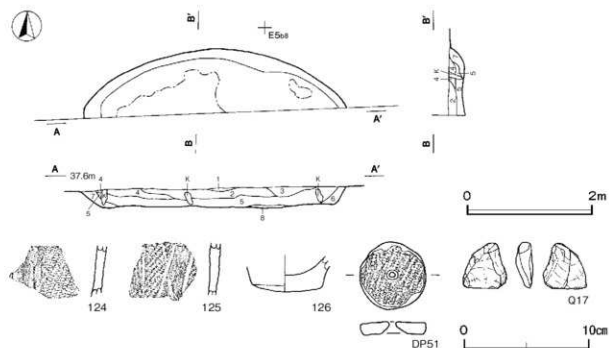
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	石皿	(8.1)	(8.4)	(5.8)	(205.4)	砂岩	表・裏面磨面 表面に凹み2か所	覆土中	
Q 15	石皿	9.3	6.0	8.4	48.1	安山岩	表面磨面 裏面凹み3か所	覆土中層	
Q 16	加工意のある磨石	5.2	4.0	1.1	17.3	安山岩	先端部押圧磨面	覆土上層	

第5号竪穴建物跡 (第20図 PL.6)

位置 調査区東部のE5b7区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第109号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南部の大半が調査区域外へ延びており、南北径1.02m、東西径4.18mしか確認できなかった。



第20図 第5号竪穴建物跡・出土遺物実測図

壁は高さ26～27cmで外傾している。

床 ほぼ平坦で、北西部と北東部の一部が踏み固められている。

覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量	8	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量（締まり強い）

遺物出土状況 縄文土器片12点（深鉢）、土製品1点（有孔円盤）、剥片（チャート）1点が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	胎土部が強くすりつけられる隆部による彫文 赤褐色文刻（縦）施文	覆土中	
125	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗褐色	普通	沈殿による区画文（区画内単線縄文RL（縦） 沈殿	覆土中	
126	縄文土器	深鉢	-	(2.8)	5.5	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	手捏、外面ナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP51	有孔円盤	5.3	5.3	1.1	35.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	二方向からの穿孔 側縁部丁寧な研削	覆土中	孔径0.5cm

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	剥片	3.6	3.4	1.4	128	チャート	単調磨面打面	覆土中	

第6号竪穴建物跡（第21・22図 PL 6・7）

位置 調査区東部のE6a区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているが、炉や柱穴の配置から径4.06～4.36mのほぼ円形と推測できる。

壁は高さ8～16cmで、外傾している。

床 平坦で、北西部と東部の一部が踏み固められている。

炉 中央部の北東寄りに付設されている。長径74cm、短径68cmのほぼ円形で、床面を深さ32cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ58～68cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ14cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	3	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック少量

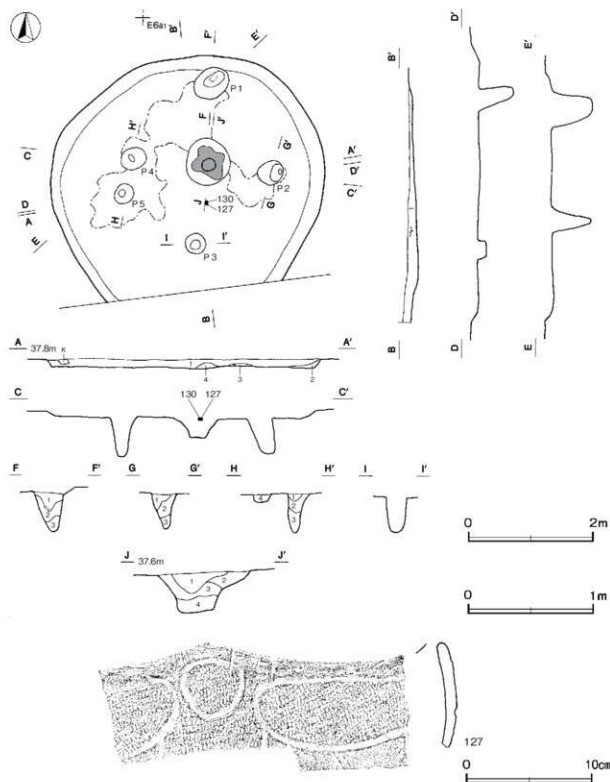
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

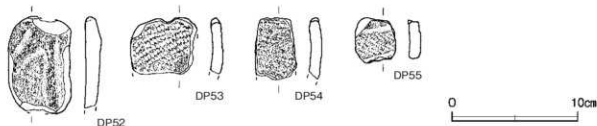
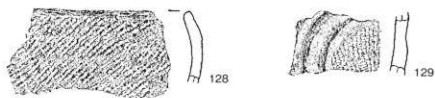
1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	3	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	4	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 54 点（深鉢、土製品 4 点（土器片 3、土器片 1）が、覆土中からまばらな状態で出土している。127・130 は炉の南側の床面から出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。



第 21 図 第 6 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第22図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図

第6号竪穴建物跡出土遺物観察表(第21・22図)

番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	太沈澱による積門部区画文・単節縄文肌。(斜)突頭	床面	
128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤色粘土	にぶい橙	普通	口唇部ナナ 単節縄文肌。(縦)施文	覆土中	
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤土	にぶい赤褐	普通	胎身部分が強くナナつけられる2条の隆起線による垂線文・単節縄文土肌。(斜)突頭	覆土中	
130	縄文土器	深鉢	-	(23.3)	7.0	長石・石英・ 赤土	橙	普通	胎身部分が強くナナつけられる2条の隆起線による垂線文・単節縄文肌。(縦・斜)施文	床面	30% PL22

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP52	土器片縁	(7.7)	5.1	1.4	(56.8)	長石・石英	橙	縦線部丁寧な研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP53	土器片縁	(4.5)	(5.2)	1.1	(28.2)	長石・石英	明赤褐	縦線部研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP54	土器片縁	(4.9)	(3.3)	1.0	(20.0)	長石・石英	にぶい褐	縦線部丁寧な研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP55	土器片縁	3.6	3.2	1.1	13.3	長石・石英	黒褐	縦線部研磨 キザミ目なし	覆土中	未成品。

第7号竪穴建物跡 (第23図 PL 6)

位置 調査区東部のD55区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第4号竪穴建物、第158号土坑、第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西部を攪乱され、中央部から東部を第4号竪穴建物、第158号土坑に掘り込まれているため、南北径3.58m、東西径2.55mしか確認できず、平面形は不明である。壁は高さ28cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央から南西寄りに付設されている。長径56cm、短径52cmのほぼ円形で、床面を深さ10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
2 褐色 ロームブロック少量

- 3 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 3か所。P1～P2は深さ46～62cmで、形状から主柱穴である。P3は深さ26cmで、建物の壁に接した位置にあることから、貯蔵施設の可能性がある。

ピット土層解説 (各ピット共通)

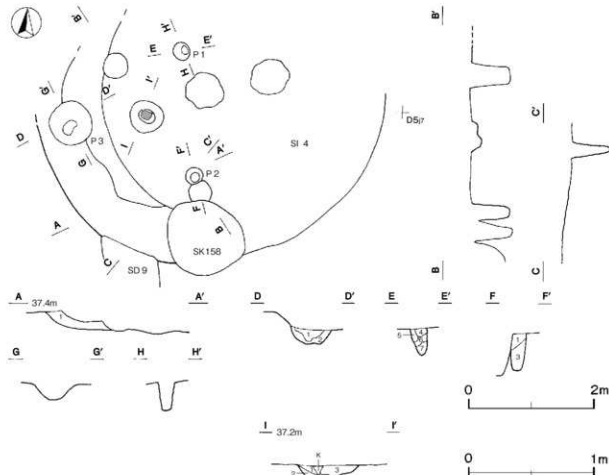
- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック少量
4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

- 5 褐色 ローム粒子中量
6 暗褐色 ローム粒子中量
7 暗褐色 ローム粒子微量

覆土 単一層である。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第23図 第7号竪穴建物跡実測図

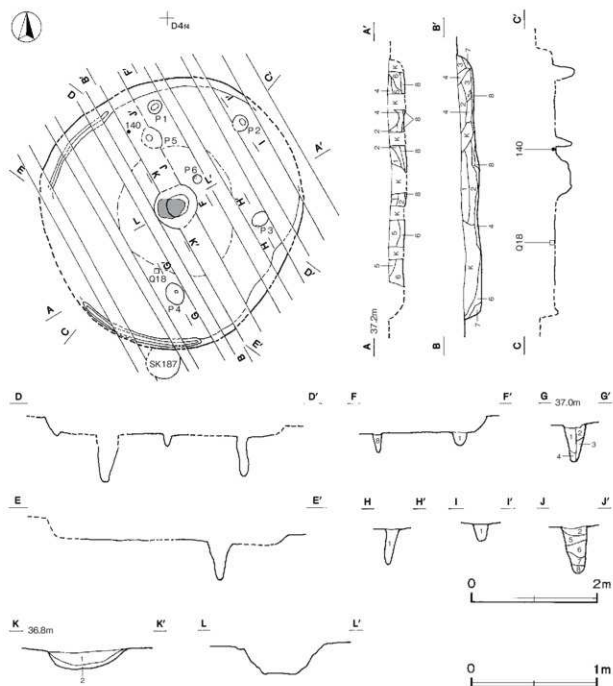
所見 時期は、遺物が出土していないが、第4号竪穴建物に掘り込まれていることから、中期末葉以前と考えられる。

第8号竪穴建物跡 (第24・25図 PL 7)

位置 調査区中央部のD4f4区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第187号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径4.16～4.33mのほぼ円形である。壁は高さ16～27cmで、外傾している。



第24図 第8号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、炉周辺が踏み固められている。炉周辺ではロームブロックを多量に含む褐色土を貼って床を構築している。北西壁際と南西壁際に壁溝が確認できた。

炉 中央部に付設されている。長さ72cm、短径62cmの楕円形で、床面を深さ24cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 |
|--------------------|------------------------|

ピット 6か所。P1～P4は深さ20～58cmで、環状に巡る配置から主柱穴である。P5・P6は深さ74・30cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ロームブロック少量 | 7 にいっ褐色 ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量 |

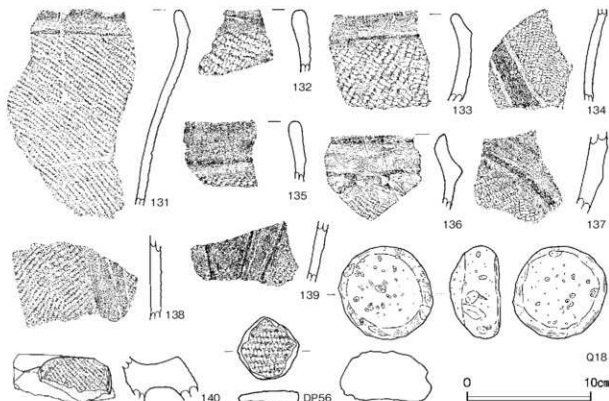
覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。8層はロームブロックを多量に含み、締まりの強い粘土の構築土である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | 7 にいっ褐色 ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量 | 8 褐色 ロームブロック多量(締まり強い) |

遺物出土状況 縄文土器片169点(深鉢168, 壺1)、土製品1点(土器片円盤)、石器1点(磨石)が、覆土中からまばらな状態で出土している。140, Q18はそれぞれ床面から出土していることから、遺棄されたか投棄されたものと思われる。

所見 時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。



第25図 第8号壁穴建物跡出土遺物実測図

第8号竪穴建物跡出土遺物観察表(第25図)

番号	種別	器物	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って無文帯 断面三角形の隆起線周囲 単筋縄文1段(縦) 施文	覆土中	
132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁に沿って無文帯 単筋縄文1段(斜) 施文	覆土中	
133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	口縁に沿って無文帯 断面三角形の隆起線周囲 単筋縄文1段(縦) 施文	覆土中	
134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁に沿って無文帯 断面三角形の隆起線周囲 単筋縄文1段(斜) 施文	覆土中	
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁に沿って無文帯 胎付部が強くナテつけられる隆起線周囲 単筋縄文1段(縦) 施文	覆土中	
136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	2条の隆起線による区画文 区画の交点に突起 単筋縄文1段(縦) 施文	覆土中	
137	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	胎付部が強くナテつけられる2条の隆起線による区画文 単筋縄文1段(縦) 施文	覆土中	
138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	断面が三角形の2条の隆起線による区画文 単筋縄文1段(縦) 施文	覆土中	
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	断面が三角形の2条の隆起線による区画文 単筋縄文1段(斜) 施文	覆土中	
140	縄文土器	壺	-	(4.0)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	橋状把手付 単筋縄文1段(縦) 施文	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP56	土器片(片)	5.0	4.8	1.0	(22.2)	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	堀縁部研削 一部剥離	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	磨石	7.4	7.6	4.2	97.6	軽石	全面磨面 底面やや凹む	床面	PL30

第9号竪穴建物跡(第26・27図 PL7・8)

位置 調査区中央部のD4d7区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径4.46m、短径4.00mの楕円形で、長径方向はN-63°-Eである。壁は高さ22~28cmで、外傾している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

炉 中央部のやや西に付設されている。径70cmの円形で、床面を深さ33cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床下と北西側炉壁にかけて白色の漆喰状物質が貼られている。漆喰状物質の厚さは炉床下で14cm、炉壁部分で2~5cmで、炉床は火熱を受けて硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|----------|--------------------------|
| 1 明赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 5 灰赤色 | 漆喰状物質多量、焼土ブロック中量、炭化物微量 |
| 2 赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、漆喰状物質少量、ローム粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量、漆喰状物質微量 | 7 明赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 4 明赤灰色 | 漆喰状物質多量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |

ピット 9か所。P1-P6は深さ26~76cmで、環状に巡る配置から壁柱穴である。P7・P9はともに深さ26cmで、補助柱穴と考えられる。P8は深さ18cmで、P2の柱を抜き取る際のピットと考えられる。

P1・4・5土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------|-------|-----------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | | |

P2・3・6土層解説

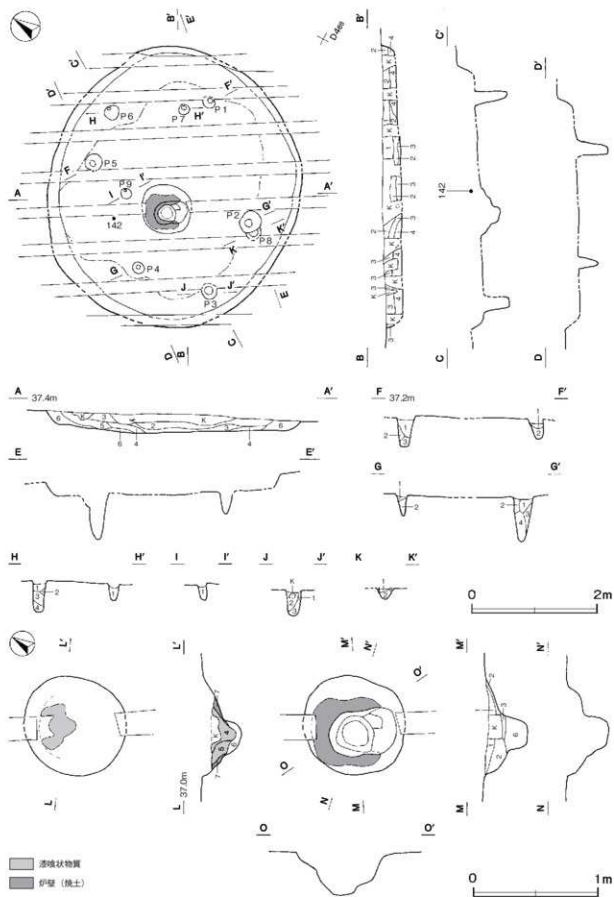
- | | | | |
|-------|----------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 4 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |

P7・9土層解説

- | | |
|----------|-----------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
|----------|-----------|

P8土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|----------|-----------|
| 1 にぶい橙色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量 | 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
|---------|-------------------------|----------|-----------|



第 26 图 第 9 号竖穴建物跡实测图

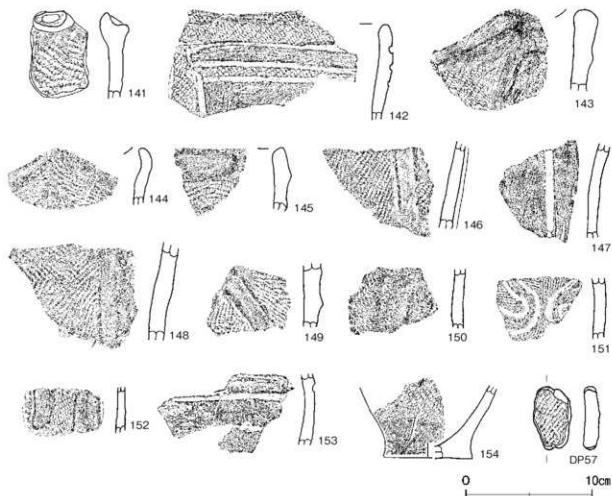
覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックなどを含む層が不規則に堆積しており、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|----------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 にいり褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 にいり黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 にいり黄褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 293点(深鉢)、土製品1点(土器片錘)が、覆土中から散乱した状態で出土している。142は覆土中層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと考えられる。

所見 炉の北西壁と炉床で確認された白色の漆喰状物質は分析の結果、少量の方解石と極めて微量の構灰石が検出されている。方解石は炭酸カルシウムから成っており、貝殻を構成する物質である。構灰石は動物の骨片に由来するものと考えられている。このことから、漆喰状物質は、炉壁や炉床の保護と除湿のための漆喰として貼られた可能性がある。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。



第27図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表(第27図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
141	縄文土器	深鉢	-	(6.9)	-	長石・石英	にいり黄褐色	普通	産状口縁部に覆状の交彩 単節縄文LR(斜) 輪文	覆土中	5%
142	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	太文線による縦・横の区画文 単節縄文LR(横・縦) 交彩	覆土中層	
143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	短打並行字つづかれる接起線による面線文 単節縄文LR(縦) 輪文	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
141	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	赤い縁帯による楕円形文 単節縄文LR(縦)縄文	覆土中	
145	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	明褐色	普通	赤い縁帯による楕円形文 単節縄文RL(横・縦)縄文	覆土中	
146	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	2条の隆起線による壺形文 単節縄文RL(縦)縄文	覆土中	
147	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	土沈線による縦条文	覆土中	
148	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	2条の隆起線による壺形文 単節縄文RL(縦・横)縄文	覆土中	
149	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	2条の隆起線による曲線文 単節縄文LR(斜)縄文	覆土中	
150	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	2条の隆起線による曲線文 単節縄文LR(斜)縄文	覆土中	
151	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	土沈線による曲線文 細めの単節縄文LR(斜・横)縄文	覆土中	
152	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	隆起線によるU字形文 単節縄文RL(縦)光斑	覆土中	
153	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	土沈線による横条文	覆土中	
154	横文土器	深鉢	-	(5.8)	(7.0)	長石・石英	橙	普通	部分出土 断面以下半部ナマリにより無文 単節縄文LR(縦)縄文	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF57	土器内筒	5.0	3.0	1.3	(20.7)	長石・石英	浅黄褐色	周縁部研磨 両端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	

第10号竪穴建物跡(第28～30図 PL 8)

位置 調査区中央部のD4c4区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南東部を第10号溝に掘り込まれているが、炉や柱穴の配置から、長径4.78m、短径3.96mの楕円形で、長径方向はN-56°-Eと推測できる。壁は高さ14～28cmで、ほぼ直立している。

床 やや凹凸があり、硬化した範囲は認められない。

炉 中央部に付設されている。長径72cm、短径58cmの楕円形で、床面を深さ22cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉壁・炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

灰土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 1 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 灰赤色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量 | | |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 明赤褐色 | 焼土ブロック多量 |

ビット 10か所。P1～P5は深さ22～92cmで、配置から主柱穴である。P6～P9は深さ18～60cmで、補助柱穴と考えられる。P10は径52cmの円形で、深さ46cmである。形状や壁寄りに位置することから、貯蔵施設の可能性がある。

P1・2・4・6～8土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------|------|--------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
|----------|--------------------|------|--------------------|

P3土層解説

- | | | | |
|------|---------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

P5土層解説

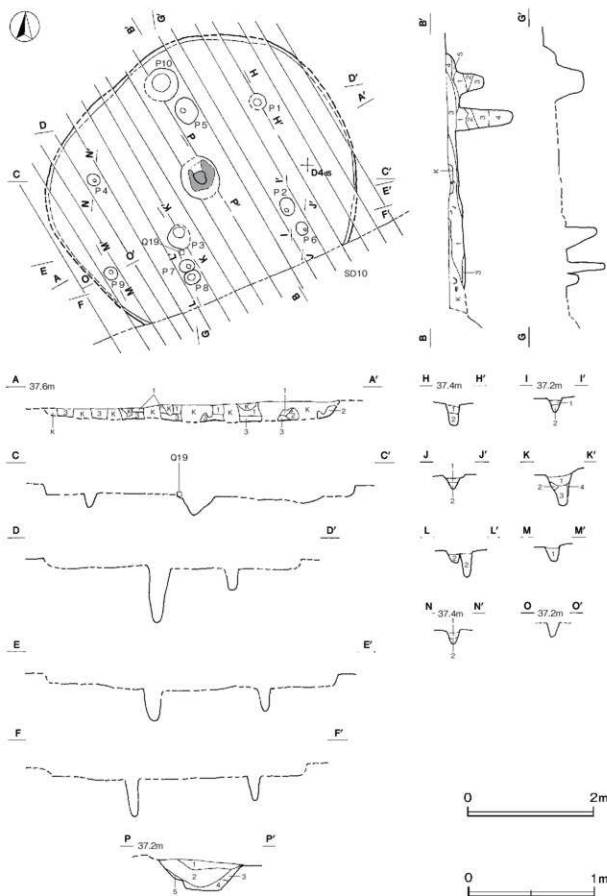
- | | | | |
|-------|------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |

P9土層解説

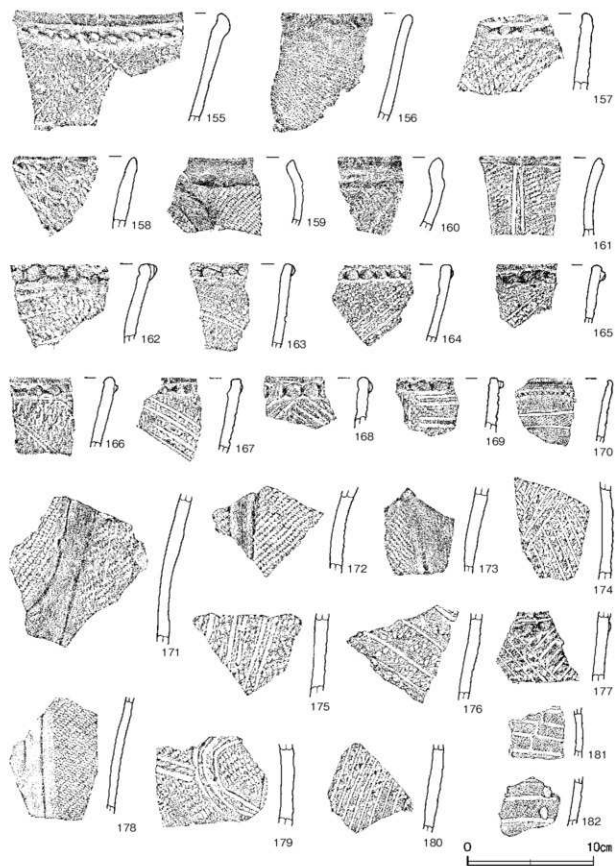
- | | |
|------|---------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
|------|---------------|

P10土層解説

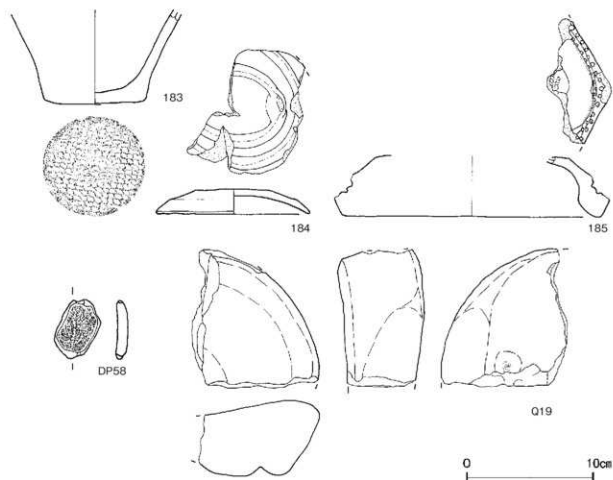
- | | | | |
|-------|-----------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | | |



第 28 图 第 10 号竖穴建物跡实测图



第 29 图 第 10 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第30図 第10号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積しており、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 灰褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片941点(深鉢939, 蓋2), 土製品1点(土器片鏃), 石器1点(石皿)が, 覆土全体から散乱した状態で出土している。Q 19は炉南側の床面から出土し, 遺棄されたか投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から後期中葉と考えられる。

第10号竪穴建物跡出土遺物観察表(第29・30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
155	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	暗褐色	普通	口縁に沿って押圧線文 単筋縄文LR(縦・斜) 上に斜行する平行波線文 内面凹線文	覆土中	
156	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	灰褐色	普通	口縁に沿って滑めの発帯同回 斜行する条状文	覆土中	
157	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁に沿って押圧線文 単筋縄文LR(縦・斜) 上に平行波線文 内面凹線文	覆土中	
158	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	単筋縄文LR(縦) 上に斜め方向の強いナゲ	覆土中	
159	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	灰褐色	普通	胎土層が強くつながられる2条の発帯線による区画文 単筋縄文LR(縦) 光層	覆土中	
160	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	暗褐色	普通	口縁部無文帯 発帯線同回 単筋縄文LR(横) 縄文	覆土中	
161	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口唇部に発帯同回 単筋縄文LR(縦) 上に2条の波線による押帯文	覆土中	
162	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁に沿って押圧線文 単筋縄文LR(縦) 上に斜行する平行波線文 内面凹線文	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
363	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁に沿って押圧捺線文・土に捺線文・内面凹線文	単節縄文Ⅰ区(斜)	覆土中
364	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って押圧捺線文・土に斜行する平行沈線文	単節縄文Ⅰ区(斜・縦)	覆土中
365	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐色	普通	口縁に沿って押圧捺線文・土に斜行する平行沈線文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
366	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿って押圧捺線文・直線反り返りに斜行する平行沈線文・内面凹線文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
367	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁に沿って押圧捺線文・土目の熱赤土上に斜行する平行沈線文・内面凹線文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
368	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿って押圧捺線文・土の字状に平行沈線文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
369	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤褐色	普通	口縁に沿って押圧捺線文・土に平行沈線文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
370	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁に沿って押圧捺線文・光澤による幾何区画文・単節縄文Ⅰ区(横)光澤	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
371	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胎土部が強くナデつけられる2条の隆起線による区画文・単節縄文Ⅰ区(縦・斜)光澤	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
372	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	2条の隆起線による幾何文・単節縄文Ⅰ区(縦)光澤	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
373	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	胎土部が強くナデつけられる隆起線による区画文・単節縄文Ⅰ区(縦)光澤	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
374	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	単節縄文Ⅰ区(斜・縦)上に斜行沈線文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
375	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	単節縄文Ⅰ区(斜)上に縦位の平行沈線文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
376	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	土目の熱赤土上に斜行沈線文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
377	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	横位の押圧捺線文・土目の熱赤土上にV字状に平行沈線文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
378	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胎土部が強くナデつけられる2条の隆起線による幾何文・単節縄文Ⅰ区(縦)光澤	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
379	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	沈線を伴う隆起線による幾何文・単節縄文Ⅰ区(斜)光澤	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
380	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	土目の熱赤土上に斜行沈線文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
381	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい赤褐色	普通	単節縄文Ⅰ区(縦)上に区切り手法による幾何区画文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
382	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	北端による幾何区画文・区画内単節縄文Ⅰ区(縦)光澤	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中
383	縄文土器	深鉢	-	(75)	81	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	胴部下部半部1/4寸・底面削代痕	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中 10%
384	縄文土器	釜	(122)	20	-	長石・石英	明赤褐色	普通	大丹部に隆 断面形は行形 蟻状把手の痕跡	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中 40%
385	縄文土器	釜	(200)	(48)	-	長石・石英	褐	普通	大丹部に従 単節縄文Ⅰ区(縦) 口唇に沿って2列の凹形網文	単節縄文Ⅰ区(縦)	覆土中 5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF58	土器片断	4.7	3.8	1.0	15.5	長石・石英	明褐色	縦線部磨蝕 両端部にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 19	石皿	(109)	(101)	(69)	(903.1)	花崗岩	全面磨面 表面縦やかに凹凸 裏面に凹み1ヶ所	床面	類似 P120

第11号竪穴建物跡(第31・32図 PL 9)

位置 調査区東部のD 6 d2区、標高37 mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 炉や柱穴の配置から、径4.65 mの円形と推測できる。壁は南東部だけ確認でき、高さ2～6 cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁柱穴内側が踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。長径62cm、短径50cmの不整形円形で、床面を深さ14cmほど掘りこめた地床炉である。炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

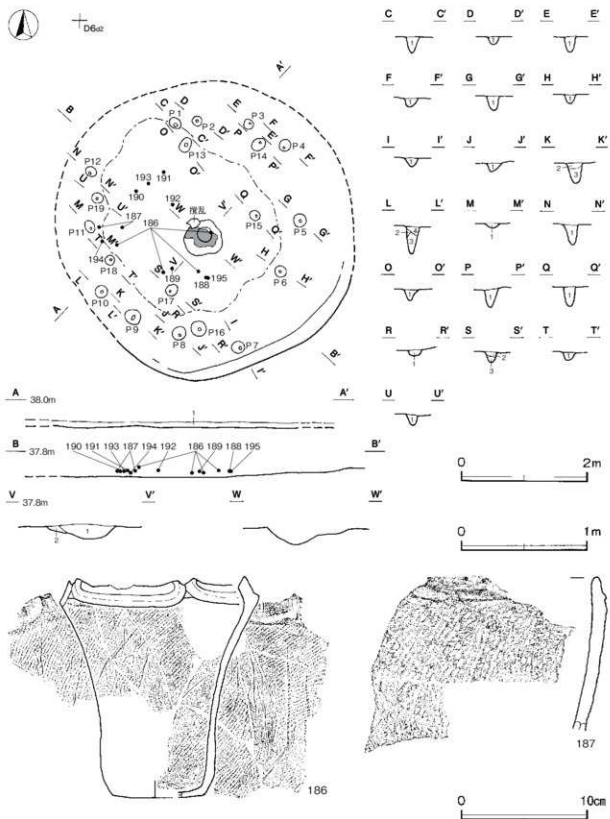
炉土層解説

1 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 2 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット 19ヶ所。P 1～P 12は深さ10～45cmで、環状に高配置から壁柱穴である。P 13～P 19は深さ10～32cmで、補助柱穴と考えられる。

ピット土層解説(各ピット共通)

1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 3 黒 褐色 ロームブロック少量
2 暗 褐色 ロームブロック少量 4 灰 褐色 ロームブロック・炭化物少量



第31図 第11号竪穴建物跡・出土遺物実測図

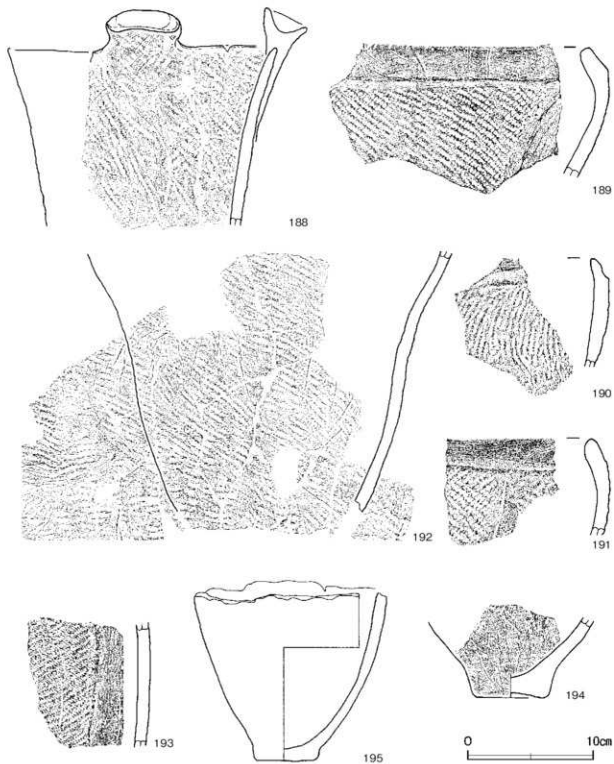
覆土 単一層である。ロームブロックを中量含む層であり、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 57 点（深鉢）が、覆土下層からまばらな状態で出土している。186～195 は覆土下層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。



第 32 図 第 11 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表(第31・32図)

番号	種別	器物	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
186	縄文土器	深鉢	14.0	(17.6)	[7.1]	長石・石英 雲母	にぶい橙	普通	双縁突起。断面三角形の隆起にまたぎ字居区 縄文。字居の文様による断面山形。単脚縄文 器(編) 本器	覆土下層	40% PL23
187	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒緑	普通	胎土が強くテラツけられる断面三角形の隆起 縁周囲。垂直段反摺り施文	覆土下層	
188	縄文土器	深鉢	(21.0)	(17.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	帯状突起。全面単脚縄文LR(縦・斜)施文	覆土下層	30% PL23
189	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	胎土が強くテラツけられる断面三角形の隆起 縁による区画文。単脚縄文LR(縦) 光澤	覆土下層	
190	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	胎土が強くテラツけられる断面三角形の隆起 縁周囲。単脚縄文LR(縦) 施文	覆土下層	
191	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐	普通	胎土が強くテラツけられる隆起縁周囲。沈 降による山形文。単脚縄文LR(横・縦) 光澤	覆土下層	
192	縄文土器	深鉢	-	(20.8)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	全面単脚縄文LR(縦) 施文	覆土下層	20% PL23
193	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	立巻の隆起縁による懸垂文。単脚縄文LR(縦) 施文	覆土下層	
194	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	[5.4]	長石・石英・ 雲母	橙	普通	単脚縄文LR(縦) 施文。胴部下半部強いテラ 底部突出	覆土下層	5%
195	縄文土器	深鉢	-	(14.3)	5.1	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	胴部下半部強いテラ。底部突出	覆土下層	40% PL23 焼けて高利用

表2 縄文時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	壁高 (cm)	床面 傾斜	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考			
							柱穴	土口	土口	土口							
1	D346	N-49°-E	矩形	3.46×3.68	13-34	ほぼ 平坦	-	5	-	5	1	-	自然	縄文土器、土器品、 石器、湖石	中期末葉	本跡→SK13・56	
2	C310	-	ほぼ円形	径5.32	42~68	平坦	一部	4	3	7	2	-	人為	縄文土器、土器品、 石器、湖石、河原石、 貝類	中期末葉	焼跡、 地点異域形成	
3	D5c8	N-32°-E	楕円形	5.02×4.56	15~26	ほぼ 平坦	-	4	1	-	1	-	自然	縄文土器、土器品、 石器、湖石	中期末葉	本跡→SK77	
4	D516	N-17°-E	楕円形	5.20×4.66	24~30	ほぼ 平坦	-	2	-	-	2	-	人為	縄文土器、土器品、 石器	中期末葉	SI了→本跡 SI9	
5	E5b7	-	-	(1.02)×(4.18)	26~27	ほぼ 平坦	-	-	-	-	-	-	自然	縄文土器、土器品、 石器	中期末葉	SK109→本跡	
6	E6a1	-	ほぼ円形	径4.06	4~36	平坦	-	4	-	1	1	-	自然	縄文土器、土器品	中期末葉		
7	D515	-	-	(3.08)×(2.55)	28	ほぼ 平坦	-	2	-	-	1	1	自然	-	中期末葉	本跡→SI 4 SK158、SK9	
8	D4f4	-	ほぼ円形	径4.16	4~33	16~27	平坦	一部	4	-	2	1	-	自然	縄文土器、土器品、 石器	中期末葉	SK187→本跡
9	D4d7	N-63°-E	楕円形	4.46×4.00	22~28	平坦	-	6	-	3	1	-	人為	縄文土器、土器品	初期、中期に 環状物質貼付		
10	D4c4	N-56°-E	楕円形	4.78×3.96	14~28	やや 内凹	-	5	-	4	1	1	人為	縄文土器、土器品	後期中葉	本跡→SD10	
11	D6d2	-	[円形]	径(4.65)	2~6	ほぼ 平坦	-	12	-	7	1	-	人為	縄文土器	中期末葉		

(2) 炉跡

第1号炉跡(第33図)

位置 調査区中央部のD415区。標高37mほどの台地中央部に位置している。

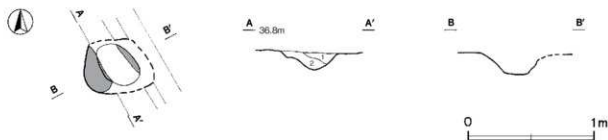
規模と形状 中央部と東部を耕作による攪乱を受けているが、現存部から長径0.52m、短径0.43mの楕円形と推定できる。長径方向はN-80°-Eである。炉床は皿状で、炉壁や炉床は赤変硬化している。深さは12cmである。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層観察

1 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 2 にぶい黄褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量

所見 時期は、位置や形態から中期末葉と考えられる。



第33図 第1号炉跡実測図

第2号炉跡 (第34図)

位置 調査区中央部のD4d1区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 中央部を耕作による攪乱を受けているが、現存部から長径0.82m、短径0.72mの楕円形と推定できる。長径方向はN-62°-Eである。炉床は凹凸があり、赤変化した。深さは14cmである。

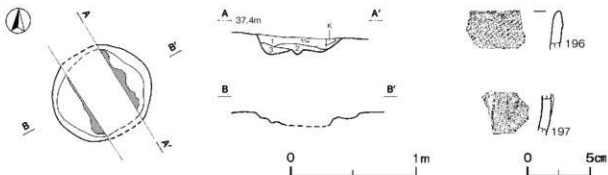
覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 3 にお・黄褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。



第34図 第2号炉跡・出土遺物実測図

第2号炉跡出土遺物観察表 (第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
196	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	黒褐	普通	口縁に沿ってナメ 早期縄文ⅡL(Ⅱ)施文	覆土中	
197	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	明赤褐	普通	垂下する微隆起線で縄文部と無文部区画	覆土中	

表3 縄文時代炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	概		底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)				
1	D415	N-80°-E	楕円形	[0.52] × [0.43]	12	凹状	自然		
2	D4d1	N-62°-E	楕円形	[0.82] × 0.72	14	凹凸	自然	縄文土器	

(3) 土 坑

今回の調査で、縄文時代の土坑156基を確認した。覆土の堆積状況や遺物出土状況などが特徴的な110基については、実測図と遺物観察表を示し、文章で説明する。出土遺物の遺存状況などの制約から時期判断が困難な46基については、出土遺物、形状、重複関係、覆土の様相などの総合的な所見から当該時代に帰属するものと判断し、一覧表で掲載する。

第4号土坑（第35・36図）

位置 調査区西部のC3j9区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第5号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径3.86m、短径1.52mの不整形円形で、長径方向はN-54°-Wである。底面は段差があり、上段部・下段部ともにほぼ平坦である。深さは上段部が32cm、下段部が60cmで、壁は外傾している。

覆土 5層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック微量	4 褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ロームブロック中量	5 褐色	ロームブロック中量
3 においぬ褐色	ローム粒子多量		

遺物出土状況 縄文土器片112点（深鉢）、土製品3点（土器片鍾2、土器片円盤1）、加工痕のある剥片1点が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第4号土坑出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
198	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	褐色	普通	強くナデつけられる磨除起線による逆U字形の磨文、単筋縄文LR（縦）光斑	覆土中	
199	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	褐色	普通	口縁に沿って磨除起線が付、単筋縄文LR（斜）磨文	覆土中	
200	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁に沿って沈線文、網交文、単筋縄文段（横）上に磨文	覆土中	
201	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	においぬ褐色	普通	強くナデつけられる2本の磨除起線による曲線文、単筋縄文LR（斜）光斑	覆土中	
202	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	褐色	普通	強くナデつけられる2本の磨除起線による曲線文、単筋縄文LR（横）光斑	覆土中	
203	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	褐色	普通	土沈線による3本の磨文、単筋縄文LR（縦）光斑	覆土中	
204	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄	褐色	普通	磨除起線による曲線文、単筋縄文LR（縦）光斑	覆土中	
205	縄文土器	深鉢	-	(28)	60	長石・石英・赤鉄	においぬ褐色	普通	底部強いヘラナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF59	土器片鍾	4.6	3.9	1.3	(202)	長石・石英	においぬ褐色	周縁部研磨 両端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DF60	土器片鍾	4.0	2.6	0.9	(90)	長石・石英	褐色	周縁部研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DF61	土器片円盤	3.4	3.2	1.3	(162)	長石・石英・赤鉄	においぬ褐色	周縁部研磨 一部割離	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q.30	加工痕のある剥片	5.8	4.7	1.1	35.8	ホルンフェルス	先端部一部押圧痕	覆土中	

第5号土坑（第35・36図）

位置 調査区西部のC3j9区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第4号土坑に掘り込んでいる。

規模と形状 径1.60mほどの円形で、底面は平坦である。深さは84cmで、壁は中位までほぼ直立し、上位は外傾している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片91点(深鉢)、土製品2点(土器片錘)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第5号土坑出土遺物観察表(第36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
206	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	にぶい橙	普通	緩やかな波状口縁 単筋縄文LR(縦) 施文	覆土中	
207	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	橙	普通	口縁に沿って微隆起筋あり 単筋縄文LR(縦) 施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP62	土器片錘	3.7	3.0	1.1	11.6	長石・石英	にぶい橙	縦線部研磨 両端部に浅いキズ目	覆土中	
DP63	土器片錘	7.9	5.4	1.4	(45.8)	長石・石英	橙	縦線部研磨 片端部にキズ目 一部欠損	覆土中	

第13号土坑(第35・36図)

位置 調査区西部のD3b6区、標高38mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第1号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.12mほどのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは68cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 3層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

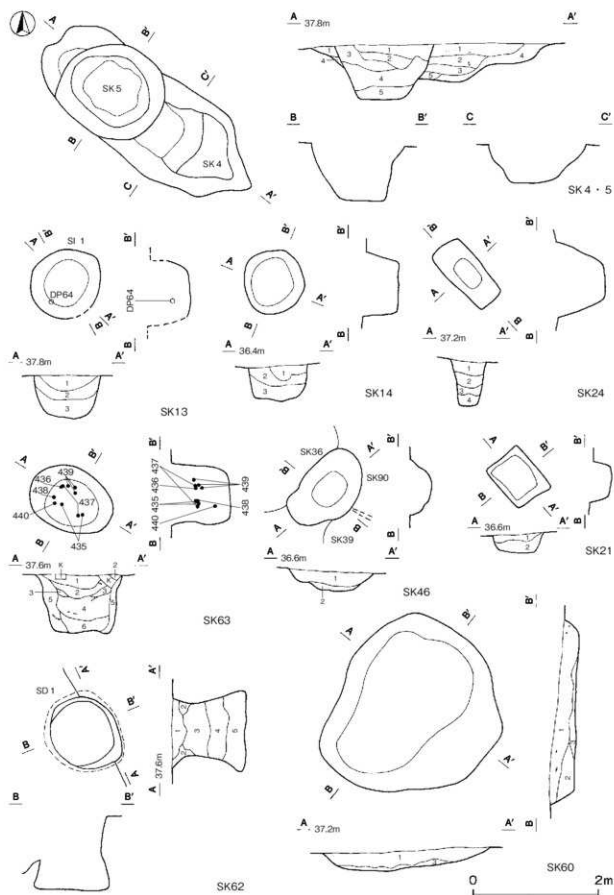
遺物出土状況 縄文土器片18点(深鉢)、土製品1点(土器片錘)が、覆土中からまばらな状態で出土している。DP64は覆土中層から出土していることから、投棄されたか流れ込んだものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

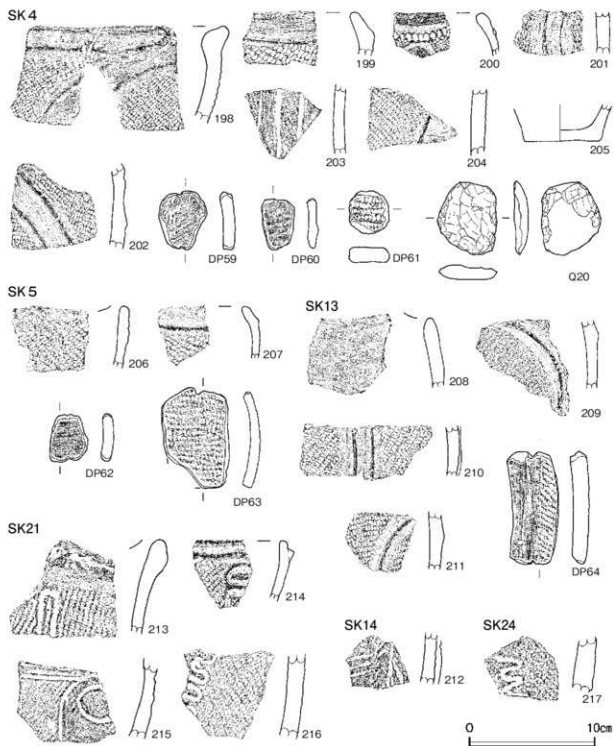
第13号土坑出土遺物観察表(第36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
208	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	緩やかな波状口縁 口縁部無文	覆土中	
209	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	明赤褐	普通	強く字がつけられる隆起線による曲線文 単筋縄文LR(縦) 施文	覆土中	
210	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい橙	普通	強く字がつけられる2本の隆起線による曲線文 単筋縄文LR(縦) 施文	覆土中	
211	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	強く字がつけられる隆起線による曲線文 単筋縄文LR(縦) 施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP64	土器片錘	8.9	4.1	1.5	68.7	長石・石英・赤母	橙	縦線部研磨 両端部にキズ目	覆土中層	



第 35 图 第 4·5·13·14·21·24·46·60·62·63 号土坑实测图



第36図 第4・5・13・14・21・24号土坑出土遺物実測図

第14号土坑 (第35・36図)

位置 調査区西部のC3c6区、標高36mほどの台地縁部に位置している。

規模と形状 径1.05mほどの円形で、底面は平坦である。深さは56cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 3層に分層できる。西側から流入している堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第14号土坑出土遺物観察表(第36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
212	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	キザミ目をもつ隆帯並下 沈線による平行線文	覆土中	

第21号土坑(第35・36図)

位置 調査区西部のC3d7区、標高36mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸0.82m、短軸0.66mの長方形で、長軸方向はN-40°-Wである。底面は平坦である。深さは30cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを中量含む層が東側から堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量 2 黒褐色 ロームブロック中量・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片59点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状や埋め戻されていることから、墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第21号土坑出土遺物観察表(第36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
213	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底面に沈線による円形文 口縁部に沈線 単筋縄文1段(約)上に沈線による波打字文	覆土中	
214	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にひ黄褐	普通	口縁部に浅い円形 単筋縄文1段(縦)上に沈線を伴う隆帯による波打字文	覆土中	
215	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	沈線を伴う隆帯で腹部と区画 単筋縄文1段(縦)上に円形文	覆土中	
216	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にひ黄褐	普通	単筋縄文1段(縦)上に総行沈線文	覆土中	

第24号土坑(第35・36図)

位置 調査区西部のC3d7区、標高37mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸1.18m、短軸0.56mの長方形で、長軸方向はN-42°-Wである。底面は平坦である。深さは76cmで、壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層がほぼ水平に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量・炭化粒子少量 3 黒褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック少量 4 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片17点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状や埋め戻されていることから、墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第24号土坑出土遺物観察表（第36図）

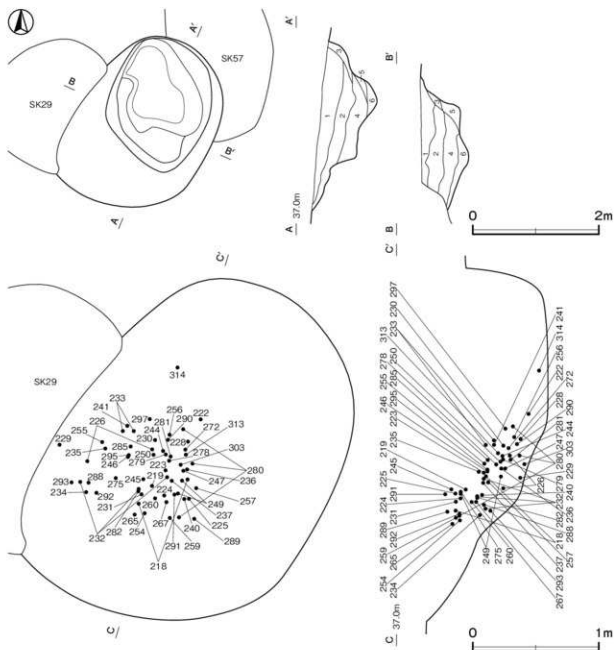
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
217	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石炭	にぶい黒	普通	単線縄文LR(縦)上に総行波線文	層土中	

第26号土坑（第37～43図 PL 9・10）

位置 調査区西部のC3e9区、標高37mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第57号土坑を掘り込み、第29号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.88m、短径2.08mの楕円形で、長径方向はN-35°-Eである。底面はやや凹凸がある。深さは86cmで、北壁はほぼ直立し、北壁以外は段をもち緩やかに立ち上がっている。



第37図 第26号土坑実測図

覆土 6層に分層される。土器片を多量に含む層が南西側から投げ込まれたように堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

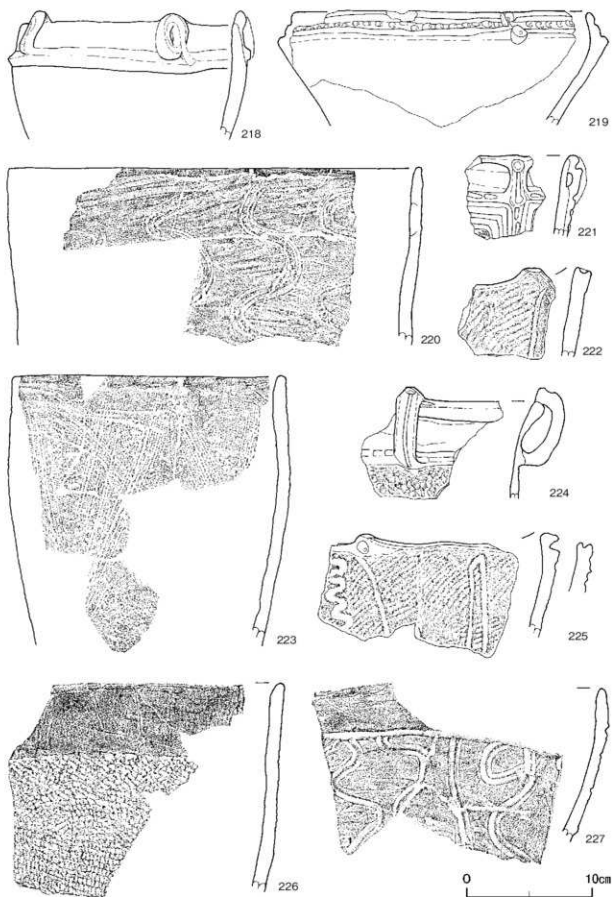
- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 に近い褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 に近い褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 2038点（深鉢 2033、鉢 3、浅鉢 2）、土製品 2点（土器片鍾）が、中央部から西壁寄りの覆土下層から上層にかけて、重なり合って、多量に出土している。出土土器はすべて破片で、280は覆土下層、覆土中層及び、覆土上層から出土したものが、218・249は覆土中層、覆土上層から出土したものが、それぞれ接合している。このことから、土器片はさほど時間を置かず投棄されたものと思われる。

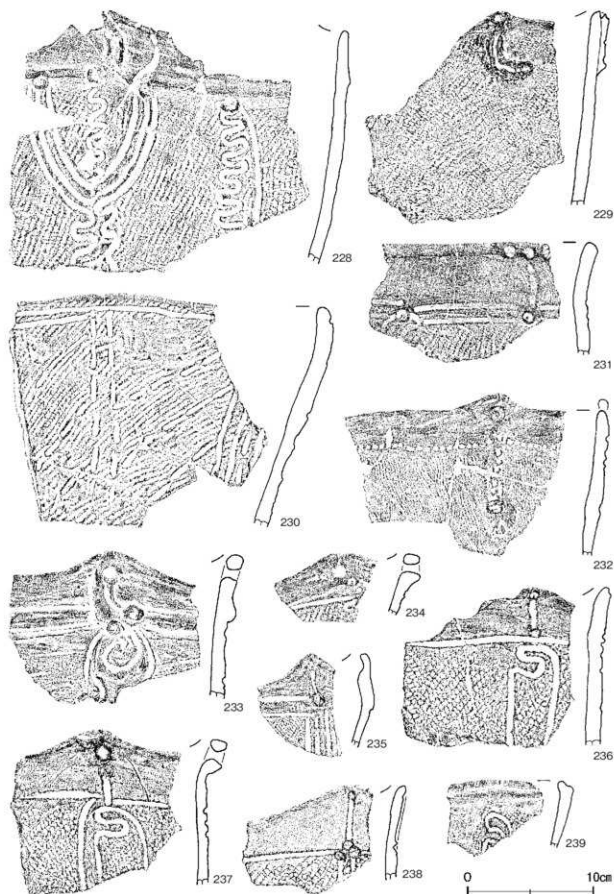
所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性がある。廃絶後、多量の土器片が台地側から一気に投棄されている状況から、土器捨て場とされたものと思われる。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第 26 号土坑出土遺物観察表（第 38～43 図）

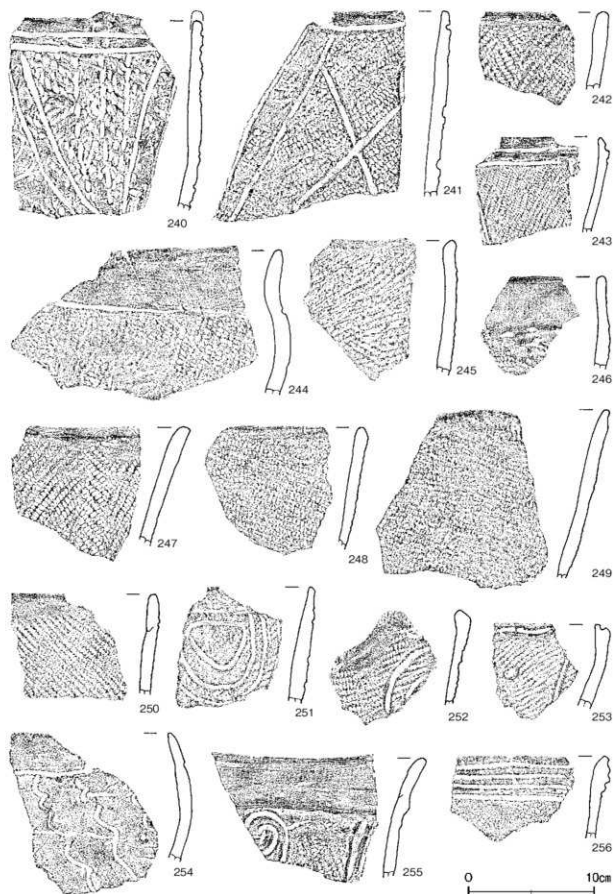
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
218	縄文土器	深鉢	[173]	[101]	-	長石、石英、赤色粒子	に広い褐色	普通	口縁に沿って 2 本の縁帯貼付 隆帯・製部と区画	覆土中層 覆土上層	20%
219	縄文土器	深鉢	[266]	(9.1)	-	長石、石英	に広い褐色	普通	口縁に沿って 2 本の縁帯貼付 隆帯を帯でように 8 の字形の貼付文 隆帯間口彫刻文	覆土上層	10% PL28
220	縄文土器	深鉢	[32.5]	[140]	-	長石、石英、赤粒	赤褐色	普通	口縁直下から磨面状工具による縦走流状文	覆土中層	5% PL28
221	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	に広い褐色	普通	沈澱による 1 字彩文を有する棒状把手 製部と区画隆帯・区画	覆土中層	
222	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤粒	褐色	普通	底面に 3 部帯・凹み 沈澱による粗面文 単軸縄文 L R (製) 貼文	覆土下層	
223	縄文土器	深鉢	[21.2]	[21.3]	-	長石、石英、赤粒、赤色粒子	赤褐色	普通	口縁に沿って薄い縁帯貼付 磨面状工具による斜線文	覆土中層	10% PL28
224	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	褐色	普通	口縁に沿って 2 本の縁帯貼付 1 字彩文を有する棒状把手 単軸縄文 L R (製) 貼文	覆土上層	
225	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤粒	明赤褐色	普通	口縁部に隆帯文、突筋部凹み 単軸縄文 RL (製) 土上沈澱による流状文、帯下文	覆土上層	PL28
226	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色粒子	褐色	普通	口縁部無文帯 単軸縄文 L R (製) 貼文	覆土中層	PL28
227	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	に広い褐色	普通	口縁部無文帯 沈澱で製部と区画 2 本同時貼付文具による流状文	覆土中層	PL28
228	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色粒子	明褐色	普通	底面に 1 字彩貼付文 隆帯単軸縄文 RL (製) 土上 1 字彩貼付文 沈澱による流状文、粗面文	覆土下層	PL28
229	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色粒子	明褐色	普通	底面に C 字彩貼付文 全面単軸縄文 RL (製) 貼文	覆土下層	PL28
230	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	褐色	普通	単軸縄文 RL (製) 土上に沈澱による重文、彫刻する斜線文	覆土中層	PL28
231	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤粒、赤色粒子	に広い褐色	普通	口縁部無文帯 1 字彩貼付文 沈澱を伴う隆帯で製部と区画 単軸縄文 RL (製) 貼文	覆土上層	PL28
232	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色粒子	に広い褐色	普通	底面に凹み 流線状突文で製部と区画 製部	覆土中層	PL28
233	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色粒子	明赤褐色	普通	底面に C 字彩貼付文 厚の隆帯で製部と区画 沈澱による斜線文	覆土中層	PL28
234	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤粒	黒褐色	普通	底面に C 字彩貼付文 隆帯を伴う厚縁部貼付 単軸縄文 L R (製) 貼文	覆土中層	
235	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色粒子	明赤褐色	普通	底面に C 字彩貼付文 隆帯を伴う隆帯で製部と区画 単軸縄文 RL R と RL の縦帯状隆帯 土上に沈澱による流状文	覆土中層	
236	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色粒子	明赤褐色	普通	底面に C 字彩貼付文 隆帯を伴う隆帯で製部と区画 単軸縄文 RL R と RL の縦帯状隆帯 土上に沈澱による流状文	覆土中層	PL28
237	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	褐色	普通	底面に C 字彩貼付文 隆帯を伴う隆帯で製部と区画 単軸縄文 RL (製) 土上に沈澱による流状文	覆土中層	PL28
238	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤粒	褐色	普通	底面に C 字彩貼付文 隆帯を伴う隆帯で製部と区画 単軸縄文 RL (製) 貼文	覆土中層	
239	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤色粒子	褐色	普通	口唇部に流線文 単軸縄文 RL (製) 土上に沈澱による粗面文	覆土中層	
240	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤粒、赤色粒子	褐色	普通	製部と 2 本の流線文で区画 単軸縄文 L R (製) 土上斜行流線文、彫刻する流線文	覆土中層	PL28
241	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	褐色	普通	口縁に沿って流線文 単軸縄文 RL (製) 土上に沈澱による斜線文	覆土中層	
242	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤粒	明赤褐色	普通	口縁に沿ってナダ 単軸縄文 RL と LR の縦帯状隆帯による流線文	覆土中層	
243	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英、赤粒、赤色粒子	に広い褐色	普通	口唇部に流線文 単軸縄文 RL (製) 土上に沈澱による粗面文	覆土中層	
244	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	褐色	普通	口縁部無文帯 沈澱で製部と区画 単軸縄文 RL (製) 貼文	覆土中層	PL28
245	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	に広い褐色	普通	口縁に沿ってナダ 単軸縄文 L R の横帯状隆帯 彫刻による流線文	覆土上層	
246	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	褐色	普通	口縁部無文帯 単軸縄文 RL (製) 貼文	覆土中層	
247	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石、石英	褐色	普通	口縁に沿ってナダ 単軸縄文 RL と LR の縦帯状隆帯による流線文	覆土中層	



第38图 第26号土坑出土文物实测图 (1)



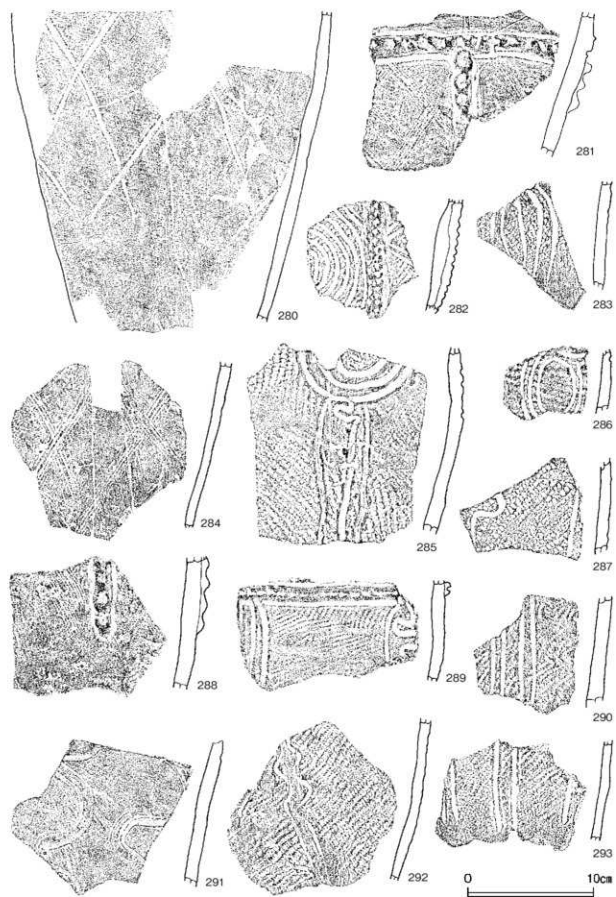
第39图 第26号土坑出土器物实测图(2)



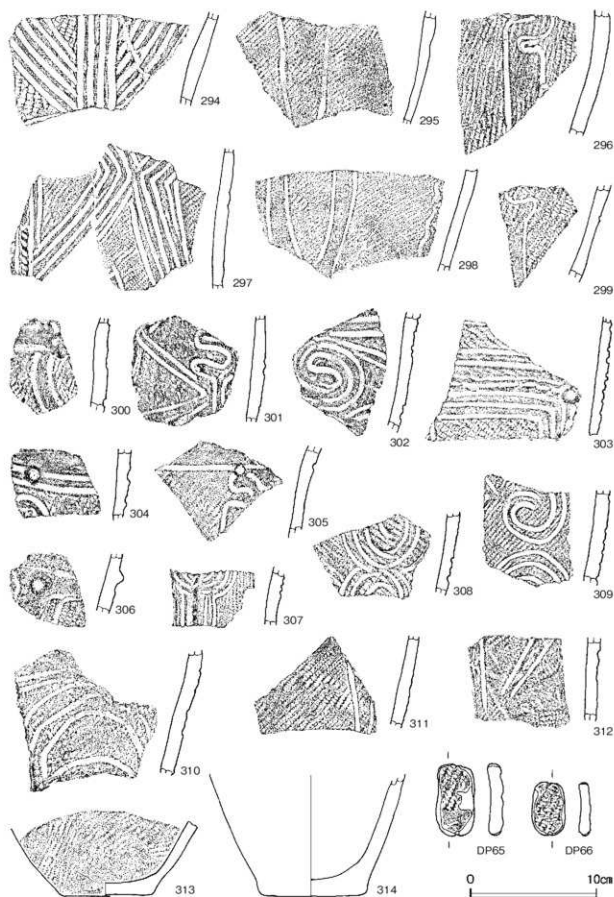
第40图 第26号土坑出土文物实测图(3)



第41图 第26号土坑出土物实测图(4)



第42图 第26号土坑出土文物实测图(5)



第43图 第26号土坑出土文物实测图 (6)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
248	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	口縁に沿ってナメ 単節縄文LR (斜) 施文	覆土中層	IV.28
249	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	明緑	普通	口縁に沿って浅い凹み 単節縄文LR (斜) 施文	覆土中層 覆土上層	
250	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	口縁に沿ってナメ 単節縄文Rし(横) 施文	覆土中層	
251	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	明赤褐	普通	単節縄文R(縦) 上に沈痾による垂線文	覆土中層	
252	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤砂	黒褐	普通	単節縄文R(斜) 上に沈痾による曲線文	覆土中	
253	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	口唇部に沈痾文 単節縄文R(縦) 上に懸垂文	覆土中	補修孔あり
254	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	明緑	普通	口縁部無文帯 沈痾で腹部と区画 沈痾による 縦走状文	覆土上層	
255	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	明赤褐	普通	口縁部無文帯 隆起線で腹部と区画 単節縄文 R(斜) 上に沈痾を伴う隆帯による垂線文	覆土中層	
256	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	口縁に沿って4条の沈痾文 単節縄文LR (横・ 縦) 施文	覆土中層	
257	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤砂	明赤褐	普通	帯の無節縄文し(縦) 上に沈痾による短形文 横走文 斜行文	覆土中層	
258	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	灰褐	普通	口縁部無文帯 隆起線に内形の凹み 太い沈痾 を伴う隆帯で腹部と区画	覆土中	
259	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	橙	普通	口縁部無文帯 沈痾で腹部と区画 単節縄文 R(縦) 上に沈痾による垂線文	覆土上層	
260	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	にぶい黄褐	普通	口縁に沿って帯状隆帯を伴う 単節縄文LR (斜) 上に沈痾による横短斜行文	覆土中層	
261	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	灰褐	普通	口縁部無文帯 横短斜行工具による縦走状文	覆土中	
262	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	灰黄褐	普通	口縁に沿って押圧隆帯を伴う 2本同時隆帯による 横短斜行で胸部と区画	覆土中	
263	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	にぶい赤褐	普通	口唇部に沈痾文 単節縄文R(縦) 上に沈痾 斜行文、沈痾による横走文 曲線文	覆土中	
264	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	口縁に沿って平行沈痾文、単節縄文R(斜) 上に隆帯を伴う隆帯の隆帯文	覆土中	
265	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	にぶい黄褐	普通	腹部部に十字形隆帯を伴う キヤ目をもつ隆帯で 腹部と区画 キヤ目をもつ隆帯を伴う	覆土上層	
266	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	明赤褐	普通	口縁に沿って沈痾文同列 単節縄文R(縦) 施文	覆土中	
267	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	口縁に沿ってナメ 無節R(縦) 施文	覆土中層	
268	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	明緑	普通	口縁に沿って隆帯隆帯付 隆帯下2条の沈痾文 単節縄文R(縦) 上に斜行沈痾文	覆土中	
269	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	にぶい赤褐	普通	口唇部に沈痾文 沈痾を伴う隆帯による幾何学文	覆土中	
270	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	にぶい赤褐	普通	口唇部に沈痾文 単節縄文R(縦) 上に沈痾 を伴う隆帯による幾何学文	覆土中	
271	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	口唇部隆帯を伴う沈痾文、内形の凹み 隆帯で腹 部と区画	覆土中	
272	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石莖	にぶい黄褐	普通	口縁部無文帯 単節縄文R(縦) 施文	覆土上層	
273	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	浅黄褐	普通	口縁に沿って沈痾文 沈痾による玉指筋隆帯 斜行文	覆土中	
274	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤砂	橙	普通	口唇部に浅い凹み 沈痾による横走文 単節縄文 R(縦) 上に沈痾による曲線文	覆土中	
275	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	口唇部に浅い凹み、口唇部隆帯を伴う 隆帯隆帯下 2条の隆帯で腹部と区画 単節縄文R(縦) 上に沈 痾による横短斜行文、斜行文	覆土上層	
276	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	明赤褐	普通	口唇部に沈痾文 単節縄文R(縦) 上に沈痾 による横短斜行文、内形斜行文	覆土中	
277	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	黒褐	普通	単節縄文LR (縦) 上に沈痾による横門形文	覆土中	
278	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	橙	普通	単節縄文R(縦) 上に沈痾による懸垂文	覆土中層	
279	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	明赤褐	普通	沈痾による横内形状の文様区画 区画内単節 縄文R(縦) 施文	覆土中層	
280	縄文土器	深鉢	-	(245)	-	長石・石莖・ 赤砂	橙	普通	沈痾による斜格子文 胴下部へうろこ	覆土下層 覆土中層 覆土上層	30%
281	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	明赤褐	普通	押圧隆帯で腹部と区画 押圧隆帯垂下 横短斜 行による斜格子文	覆土中層	
282	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	単節縄文R(縦) 上にキヤ目をもつ隆帯垂 下 沈痾による横門形文、垂線文	覆土中層	
283	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	赤褐	普通	単節縄文LR (縦) 上に沈痾による横線文	覆土中	
284	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤砂	橙	普通	輪状隆帯による斜格子文	覆土中	
285	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	橙	普通	単節縄文R(縦)横短斜行上に沈痾による垂線文 横走文	覆土中層	
286	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	にぶい赤褐	普通	単節縄文LR (斜) 上に沈痾による垂門形文	覆土中	
287	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	褐	普通	単節縄文R(縦) 上に沈痾による斜行文、垂 線文	覆土中	
288	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	にぶい黄	普通	輪状隆帯による斜格子文上に隆帯隆帯垂下	覆土中層	
289	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	斜行文をもつ隆帯で腹部と区画 単節縄文LR (斜) 斜行 上に懸垂文、横走文	覆土上層	
290	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤色砂子	明緑	普通	単節縄文R(縦) 上に沈痾による懸垂文	覆土下層	
291	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	手載竹管による鉛行沈痾文	覆土上層	
292	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖・ 赤砂	橙	普通	単節縄文R(縦) 上に2条の斜行沈痾文	覆土上層	
293	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	明赤褐	普通	単節縄文R(縦) 上に2条一組の懸垂文	覆土中層	
294	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石莖	橙	普通	単節縄文R(縦) 上に沈痾による幾何学文	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
295	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	単節縄文LR(縦)上に沈澱による懸垂文	覆土中層	
296	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	澄	普通	単節縄文LR(斜)上に沈澱による横垂文	覆土中	
297	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	焼	単節縄文LR(縦)上にキザリ目をもつ隆帯垂下・沈澱による曲線文	覆土中層	
298	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	澄	普通	沈澱による7字形区画文・扇状文(区画内単節縄文LR)(縦)光澤	覆土中	
299	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	黄褐色	単節縄文LR(縦)上に沈澱による横垂文	覆土中	
300	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	澄	普通	沈澱を伴う隆帯で扇部と区画 単節縄文LR(斜)上に沈澱による曲線文	覆土中	
301	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	澄	普通	単節縄文LR(斜)上に沈澱による横垂文・三角文	覆土中	
302	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	澄	普通	沈澱による横走文・渦巻文	覆土中	
303	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	澄	普通	単節縄文LR(縦)上に扇状隆帯で扇部と区画の間の沈澱による短形文	覆土下層	
304	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	澄	普通	円形短付文を伴う条の沈澱で扇部と区画 単節縄文LR(縦)上に沈澱による曲線文	覆土中	
305	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	澄	普通	円形短付文を伴う条の沈澱による短形文 単節縄文LR(縦)上に沈澱による横垂文	覆土中	
306	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	澄	普通	単節縄文LR(斜)上に円形の凹みをもつ隆帯短付	覆土中	
307	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	焼	扇走する横走文上にキザリ目をもつ隆帯垂下・沈澱による重輪内形文	覆土中	
308	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	濁	普通	単節縄文LR(縦)上に沈澱による重輪内形文	覆土中	
309	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤	焼	単節縄文LR(縦)上に条の沈澱による渦巻・重輪内形文	覆土中	
310	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	澄	普通	単節縄文LR(斜)上に沈澱による曲線文	覆土中	
311	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	澄	普通	単節縄文LR(縦)上に沈澱による懸垂文	覆土中	
312	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	焼	単節縄文LR(縦・斜)上に斜行文・懸垂文	覆土中	
313	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	7.3	長石・石英	濁	普通	単節縄文LR(縦)施文	覆土中層	10%
314	縄文土器	深鉢	-	(9.7)	8.5	長石・石英	澄	普通	胴下半部近いヘラナゲ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	皿	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF65	土器片断	5.7	3.1	1.3	25.7	長石・石英	にぶい	焼	短縁部研ぎ 両端部近いキザリ目	覆土中層
DF66	土器片断	4.2	2.7	1.0	12.4	長石・石英	にぶい	焼	短縁部研ぎ 両端部近いキザリ目	覆土中

第28号土坑(第44～46図)

位置 調査区西部のC3d9区、標高36mほどの台地縁部に位置している。

重複関係 第57号土坑を掘り込んでいる。第54号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.72m、短径1.04mの不整形円形で、長径方向はN-75°-Wである。底面は平坦である。深さは54cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 2層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

1 にぶい黄褐色 ローム粒子微量

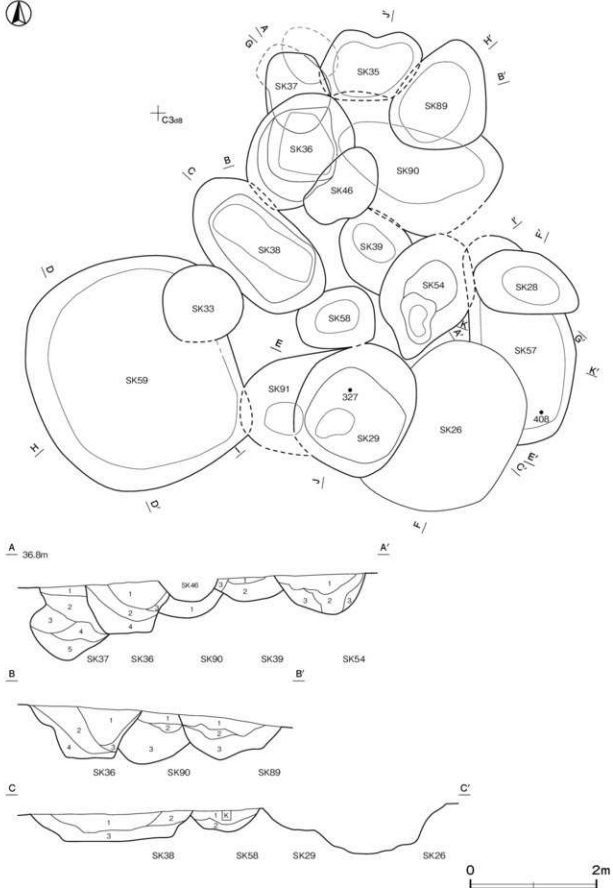
2 にぶい黄褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片206点(深鉢205、鉢1)が、覆土中から散乱した状態で出土している。

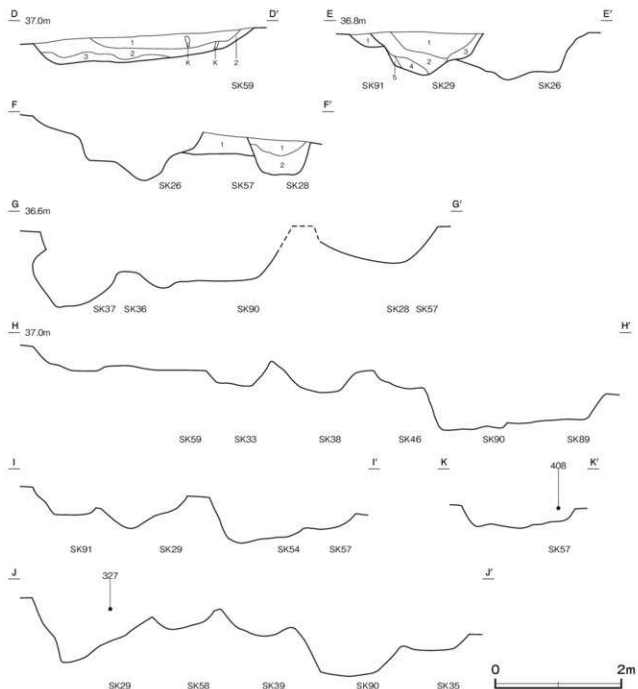
所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性があり、廃絶後は土器捨て場として利用されたと思われる。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第28号土坑出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
315	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	焼	底面に円形の短付文、(1)扇部或く凹む 単節縄文LR(縦)上に扇状隆帯垂下	覆土中	
316	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	焼	円形短付文を伴う条の沈澱で扇部と区画 単節縄文LR(縦)上に沈澱による曲線文	覆土中	
317	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤	焼	単節縄文LR(縦)上に沈澱による懸垂文・扇状文	覆土中	
318	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	澄	普通	単節縄文LR(縦)上に沈澱による横走文・横垂文	覆土中	



第44图 第28·29·35~39·54·57~59·89~91号土坑实测图 (1)



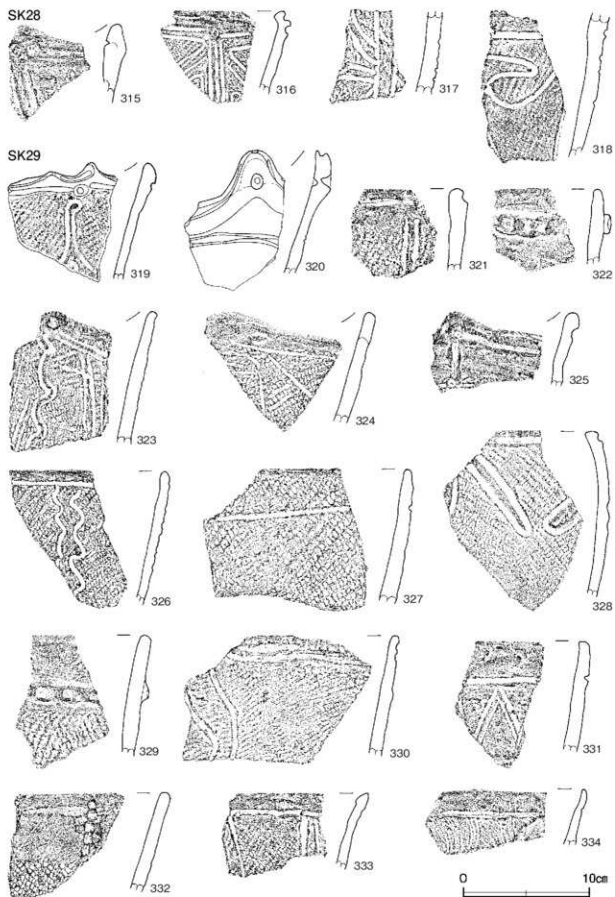
第 45 図 第 28・29・35～39・54・57～59・89～91号土坑実測図 (2)

第 29 号土坑 (第 44～47 図)

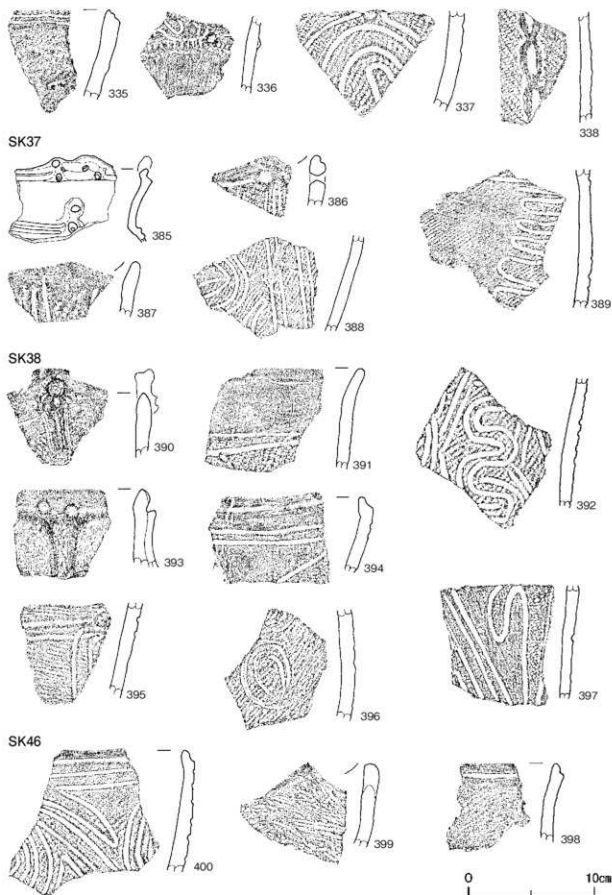
位置 調査区西部の C 3e8 区、標高 37 m ほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第 26・91 号土坑を掘り込んでいる。第 58 号土坑との新旧関係は不明である。

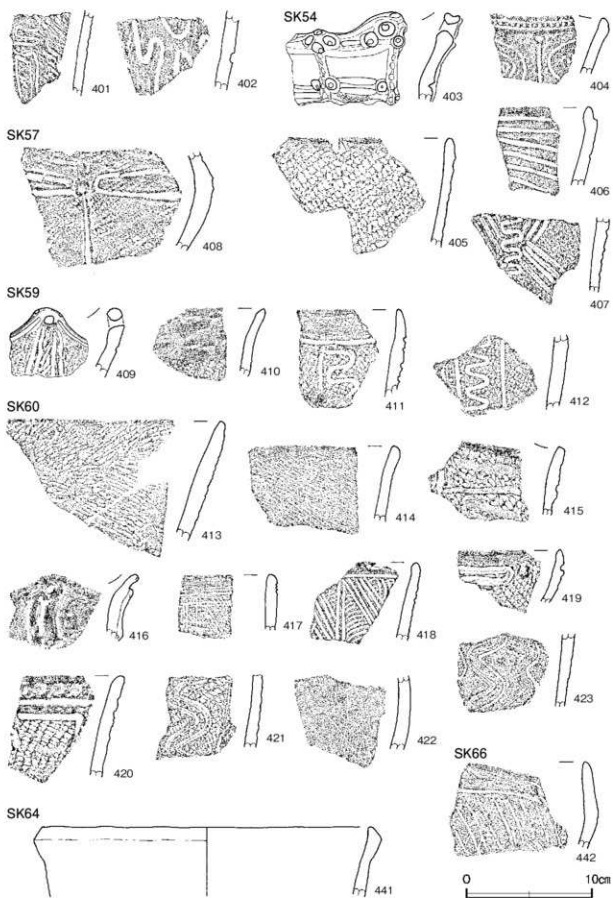
規模と形状 長径 2.08 m、短径 1.78 m の楕円形で、長径方向は N - 31° - E である。底面は皿状である。深さは 68cm で、壁は外傾している。



第46图 第28·29号土坑出土遗物实测图



第 47 图 第 29·37·38·46 号土坑出土文物实测图



第 48 图 第 46·54·57·59·60·64·66 号土坑出土文物实测图

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が西側から投げ込まれたように堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-----------|---|--------|-----------|
| 1 | にんい黄褐色 | ロームブロック少量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | にんい黄褐色 | ロームブロック中量 | 5 | にんい黄褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 | にんい黄褐色 | ローム粒子少量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片 951点（深鉢 950、浅鉢 1）が、覆土中から散乱した状態で出土している。327は覆土上層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと考えられる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられ、廃絶後は土器捨て場とされたと思われる。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第29号土坑出土遺物観察表（第46・47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
319	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	双線状突起 口唇部浅い凹み 土層に沿って沈積文、円形の内側 単節縄文 L.R. (縦) 上に素手文	覆土中	
320	縄文土器	深鉢	-	(111)	-	長石・石英	灰褐色	普通	底面は、波瀾部中央、波瀾部内面に孔 口唇部内面、へつ状工具による横文 単文	覆土中	5% 動物骨片発見。
321	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口唇部に沈積文 単節縄文 L.R. (縦) 上に2条の縦素文	覆土中	
322	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	口縁に沿って押圧隆帯隆付	覆土中	
323	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にんい黄褐色	普通	波瀾部に凹み 単節縄文 L.R. (斜) 上に平行沈積文による横行文 単文	覆土中	
324	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	口縁部無文帯、沈積で胴部と区画 単節縄文 L.R. (縦) 上に斜行文、垂下文	覆土中	
325	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	波瀾部に沈積による1字形文 口縁部無文帯	覆土中	
326	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	口縁に沿って横素文 単節縄文 L.R. (縦) 上に横行沈積文 式部間帯無し	覆土中	
327	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	単節縄文 L.R. (縦) 上に沈積による横文文	覆土上層	
328	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁に沿って波瀾文 単節縄文 L.R. (縦) 上にハの字状文、沈積間帯無し	覆土中	
329	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部無文帯、押圧隆帯で胴部と区画 単節縄文 L.R. (縦) 単文	覆土中	
330	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にんい黄褐色	普通	口縁に沿って2条の沈積文同列 単節縄文 L.R. (縦) 上に横行沈積文	覆土中	
331	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部無文帯、沈積で胴部と区画 2条の沈積による連続出文	覆土中	
332	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	口縁に沿って波瀾同列 縦位の連続列出文 単節縄文 L.R. (縦) 無文	覆土中	
333	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	口縁に沿って波瀾同列 単節縄文 L.R. (縦) 上に2条の縦素文	覆土中	
334	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁に沿って平行沈積文、円形突起による縦文文	覆土中	
335	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	口縁に沿って平行沈積文 単節縄文 L.R. (縦)	覆土中	
336	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤褐色	普通	沈積による縦素文、円形突起文をもつせり目のある隆帯で胴部と区画	覆土中	
337	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	単節縄文 L.R. (縦) 上に沈積による重積円形文	覆土中	
338	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	単節縄文 L.R. (縦) 上に結状隆帯垂下	覆土中	

第35号土坑（第44・45・49図）

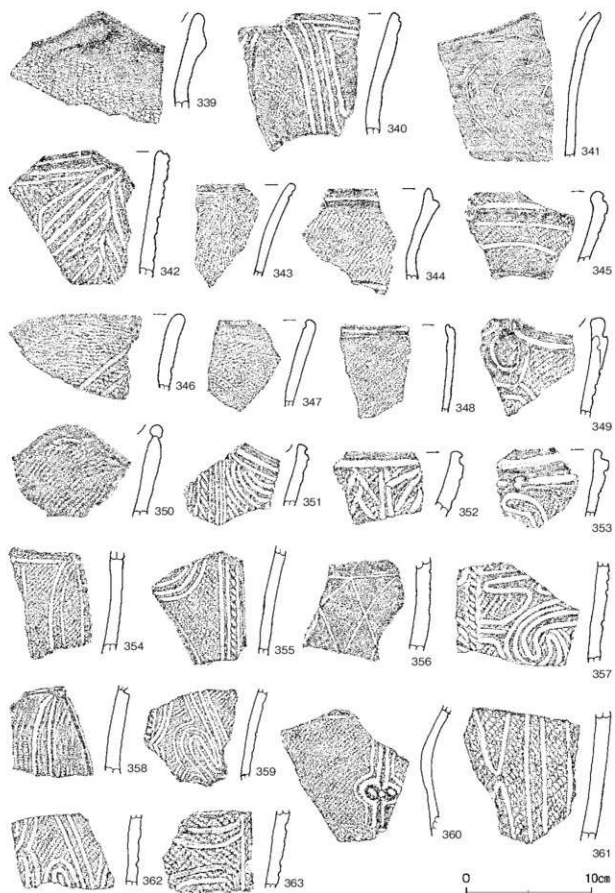
位置 調査区西部のC 3 c8区、標高36 mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第37号土坑に掘り込まれている。第89・90号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.68 m、短径1.10 mの不整形円形で、長径方向はN - 65° - Eである。底面はほぼ平坦である。深さは28 cmで、壁は外傾している。

遺物出土状況 縄文土器片 1,377点（深鉢）が、覆土中から散乱した状態で多量に出土している。

所見 性格は、土器片が重なり合って、多量に出土していることから、土器片を廃棄するための土坑の可能性がある。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第49图 第35号土坑出土遗物实测图

第35号土坑出土遺物観察表(第49図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
339	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部に浅い凹み 単節縄文RL(斜) 施文	覆土中	
340	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部に沈線同回 単節縄文RL(縦) 上に沈線による垂下文、幾何学文	覆土中	
341	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部へウレリ 半截竹管による縦位の波状文	覆土中	
342	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	口唇部に沈線同回 単節縄文RL(縦) 上に沈線による垂下文、幾何学文	覆土中	
343	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	口縁に沿って半截竹管による横波文 単節縄文RL(縦) 上に垂下文、幾何学文	覆土中	
344	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部に沈線同回 単節縄文RL(縦) 施文	覆土中	
345	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤黒	普通	口唇部に沈線同回(縦) 上に沈線による縦位の区画 区画内磨光	覆土中	
346	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁に沿ってナデ 単節縄文RL(斜) 上に沈線による文	覆土中	
347	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁に沿ってナデ 単節縄文RL(縦) 上に半截竹管による横波文、垂線文	覆土中	
348	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部に沈線同回 単節縄文RL(縦) 施文	覆土中	
349	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	腹面部に円形の凹み、口唇部に沈線同回 単節縄文RL(縦) 上に沈線による横波文	覆土中	
350	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤黒	普通	口縁に沿ってナデ 単節縄文RL(縦) 施文	覆土中	
351	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黒	普通	口縁に沿って2本の沈線 波状部からキザ目をもつ微帯垂下 沈線による横波文	覆土中	
352	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁に沿って沈線同回(縦) 上に垂下文、矢羽状文	覆土中	
353	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤黒	普通	口唇部に沈線同回(口縁下に斜交文を伴う)沈線同回 単節縄文RL(斜) 上に沈線による垂下文	覆土中	
354	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤黒	普通	単節縄文RL(縦) 上に沈線による縦位の区画 沈線による横波文、幾何学文	覆土中	
355	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	単節縄文RL(縦) 上にキザ目をもつ微帯垂下 沈線による垂下文、垂線文	覆土中	
356	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄黒	普通	沈線による横波文、斜格子文	覆土中	
357	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 上にキザ目をもつ微帯垂下 沈線による横波文	覆土中	
358	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	円形の凹みをもつ微帯垂下と区画 単節縄文RL(斜) 上に沈線による横波文	覆土中	
359	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黒	普通	単節縄文RL(縦) 上にキザ目をもつ微帯垂下、沈線による横波文、隅凹形文、斜格子文	覆土中	
360	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 上に沈線による横波文、斜格子文	覆土中	
361	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	単節縄文RL(縦) 上にキザ目をもつ微帯垂下 沈線による横波文、隅凹形文、幾何学文	覆土中	
362	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黒	普通	単節縄文RL(縦) 上にキザ目をもつ微帯垂下 沈線による横波文、隅凹形文、幾何学文	覆土中	
363	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	単節縄文RL(縦) 上に沈線による垂下文、斜格子文	覆土中	

第36号土坑(第44・45・50図)

位置 調査区西部のC3d8区、標高36mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第37・90号土坑を掘り込み、第46号土坑に掘り込まれている。第38号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.96m、短径1.48mの楕円形で、長径方向はN-37°-Eである。底面は平坦である。深さは82cmで、壁は外傾している。

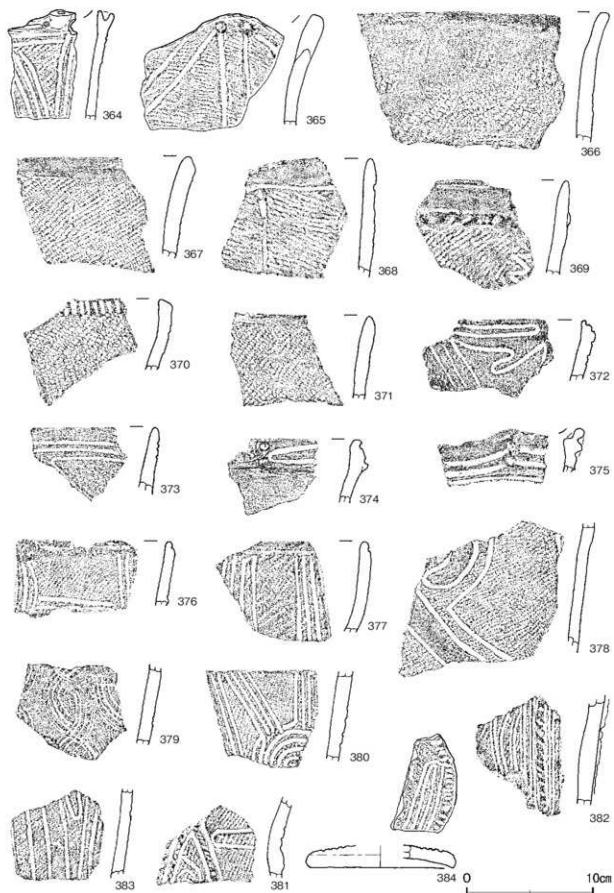
覆土 4層に分層できる。土器片やロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック(中)少量 3 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
2 にぶい黄褐色 ロームブロック(小)少量 4 にぶい黄褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片675点(深鉢673、鉢1、蓋1)が、覆土中から散乱した状態で出土している。出土土器はすべて破片であることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられ、廃絶後は土器捨て場と考えられる。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第50图 第36号土坑出土文物实测图

第36号土坑出土遺物観察表(第50図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
364	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	波頭部に孔。口唇部に沈線同回。単筋縄文。L(縦)上に2条の沈線による斜行文。垂下文	覆土中	
365	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	波頭部に身か所の内側の凹み。無筋R(斜)上に2条の沈線による斜行文。垂下文	覆土中	
366	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	口縁に沿ってナデ	単筋縄文。L(縦)・斜(横)施文	覆土中
367	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁に沿ってナデ	単筋縄文。L(縦)・斜(横)施文	覆土中
368	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁に沿って沈線文。無筋L(斜)上に沈線による垂下文	単筋縄文。L(縦)・斜(横)施文	覆土中
369	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁に無文帯。押形痕帯により腹部と区画。単筋縄文。L(縦)上に蛇行沈線文	覆土中	
370	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部にキザミ目。単筋縄文。L(縦)・斜(横)施文	覆土中	
371	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁に沿ってナデ	単筋縄文。L(縦)・斜(横)施文	覆土中
372	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部に沈線文。沈線による斜行文。垂下文	単筋縄文。L(縦)・斜(横)施文	覆土中
373	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁に沿って平行沈線文。単筋縄文。L(縦)上に沈線による幾何学文	覆土中	
374	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口唇部に刺突による8の字文。口縁部ナデ	覆土中	
375	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口唇部刺突による8の字文。口縁部ナデ	覆土中	
376	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部に沈線同回。単筋縄文。L(縦)上に縦位の沈線区画文。2条の沈線による横帯文	覆土中	
377	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単筋縄文。L(斜)上に口縁に沿って沈線同回4条の沈線による垂下文	覆土中	
378	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	単筋縄文。L(縦)上に沈線による曲線区画文	覆土中	
379	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	輪軸状工具による縞下け文	覆土中	
380	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単筋縄文。L(斜)上に重なり例学文。同心円文	覆土中	
381	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	単筋縄文。L(縦)上にキザミ目をもつ隆帯による横帯文。沈線による幾何学形文	覆土中	
382	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	単筋縄文。L(斜)上にキザミ目をもつ隆帯を下。手形行首による垂下文。風花文	覆土中	
383	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	単筋縄文。L(縦)上に縦位の沈線文	覆土中	
384	縄文土器	蓋	114.1	1.8	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿ってキザミ目同回。丸形単筋縄文。L(縦)上に2条の沈線による幾何学文	覆土中	10%

第37号土坑(第44・45・47図)

位置 調査区西部のC3c8区、標高36mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第35号土坑を掘り込み、第36号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 現存部から長径1.36m、短径0.92mの楕円形で、長径方向はN-10°-Wと推測できる。底面は鍋底状で、北部へ袋状に入り込んでいる。深さは116cmで、南壁は外傾し、北壁は内傾している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	にぶい黄褐色	ローム粒子少量	4	褐色	ロームブロック多量
2	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	5	褐色	ローム粒子多量
3	にぶい黄褐色	ロームブロック多量			

遺物出土状況 縄文土器片189点(深鉢)が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第37号土坑出土遺物観察表(第47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
385	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	押し形帯文を帯う風花状突起。口唇部に沈線同回。口縁部無文帯。8の字帯行文と沈線を帯う隆帯で腹部と区画	覆土中	
386	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	波頭部に身か所の凹み。口唇部に沈線同回。単筋縄文。L(斜)上に沈線による横帯文	覆土中	
387	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部ナデ	単筋縄文。L(縦)上に2条の沈線による横帯文	覆土中
388	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	単筋縄文。L(縦)・斜(横)上に沈線による横帯文。横内筋文	覆土中	
389	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	単筋縄文。L(縦)上に沈線による横帯文。蛇行文	覆土中	

第38号土坑（第44・45・47図）

位置 調査区西部のC348区、標高36mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第58号土坑を掘り込み、第33号土坑に掘り込まれている。第36号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径256m、短径135mの楕円形で、長径方向はN-40°-Wである。底面は平坦である。深さは44cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 におい黄褐色 ロームブロック（小）多量 3 におい黄褐色 ロームブロック（中）多量
2 におい黄褐色 ロームブロック（中）中量

遺物出土状況 縄文土器片153点（深鉢）が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は、形状や埋め戻されていることから、墓坑の可能性はある。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第38号土坑出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
300	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい黄	普通	表裏部に内彩の向み 単節縄文LR（縦）上に沈線による3条の帯文	覆土中	
301	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部解文帯 沈線で腹部と区画 単節縄文LR（斜）上に沈線による斜行文	覆土中	
302	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	単節縄文LR（縦）上に沈線による変形文、蛇行文	覆土中	
303	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐	普通	口縁部に2か所の内彩の凹み 隆帯による楕円形区画文	覆土中	
304	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	口唇部沈線・凹み 口縁に沿って平行沈線文 単節縄文LR（縦・斜）上に斜行文	覆土中	
305	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐	普通	表裏文上に内彩斜行文 2条の沈線の沈線による帯文、蛇行文	覆土中	
306	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい黄	普通	沈線りL.L上に沈線による楕円形文	覆土中	
307	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい黄	普通	単節縄文LR（斜）上に斜行文、蛇行文	覆土中	

第46号土坑（第35・47・48図）

位置 調査区西部のC348区、標高36mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第36・39・90号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径142m、短径088mの不整楕円形で、長径方向はN-40°-Eである。底面は皿状である。深さは34cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多量に含む層が堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック（小）多量 2 黒褐色 ロームブロック（中）多量

遺物出土状況 縄文土器片232点（深鉢）が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第46号土坑出土遺物観察表（第47・48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
398	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部に沈線短回 単節縄文LR（縦）施文	覆土中	
399	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	におい黄	普通	全面反の帯りRR（斜）施文	覆土中	
400	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口唇部に沈線短回 単節縄文LR（縦）上に横帯文、曲線文	覆土中	
401	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	単節縄文LR（縦）上に沈線による帯手文	覆土中	
402	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	沈線による曲線区画文 単節縄文LR（縦）充實	覆土中	

第54号土坑（第44・45・48図）

位置 調査区西部のC3d9区、標高36mほどの台地縁部に位置している。

重複関係 第39号土坑を掘り込んでいる。第28・57・90号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径2.06m、短径1.42mの不整形円形で、長径方向はN-18°-Eである。底面は皿状である。深さは72cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 におい黄褐色 ロームブロック（小）少量 3 層 色 ロームブロック（中）中量
2 層 色 ロームブロック（小）中量

遺物出土状況 縄文土器片137点（深鉢）が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第54号土坑出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
403	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい橙	普通	円孔をもつ突起、突起からまげ目をもつ段帯を有し、泥を付着帯による区画文 単節縄文RL（編）捺文	覆土中	
404	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい赤褐	普通	口唇部に沈線と内彫刻文あり 単節縄文RL（編）	覆土中	
405	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい赤黄	普通	口縁沿ってナゲ 単節縄文RL（編）捺文	覆土中	
406	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄鉱	橙	普通	口唇部に沈線あり 単節縄文RL（編）上に沈線による斜行文	覆土中	
407	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい橙	普通	単節縄文RL（編）上に沈線による斜行文、重彫刻文	覆土中	

第57号土坑（第44・45・48図）

位置 調査区西部のC3d9区、標高36mほどの台地縁部に位置している。

重複関係 第26・28号土坑に掘り込まれている。第54号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径3.34m、短径1.62mの楕円形で、長径方向はN-12°-Wである。底面はやや凹凸がある。深さは40cmで、壁は外傾している。

覆土 単一層である。ロームブロックを中量含むことから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 におい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片57点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。408は覆土上層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状や埋め戻されていることから、墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第57号土坑出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
408	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄鉱	赤褐	普通	単節縄文RL（斜）上に肩部に内彫の西みをもつ2条の横線文、沈線による垂下文	覆土上層	

第59号土坑 (第44・45・48図)

位置 調査区西部のC3e7区、標高37mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第33号土坑に掘り込まれている。第91号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸3.65m、短軸3.24mの隅丸長方形で、長軸方向はN-19°-Wである。底面はほぼ平坦である。深さは38cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 におい黄褐色 ロームブロック少量
2 におい褐色 ロームブロック少量
3 におい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片277点(深鉢)が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第59号土坑出土遺物観察表 (第48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
400	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	浅溝部に孔、口唇部に浅線同列 単筋縄文LR(斜)上にキザミ目をもつ垂下文	覆土中	
410	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部無文帯 単筋縄文LR(縦)施文	覆土中	
411	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部無文帯 沈澱で腹部に区画 単筋縄文LR(縦)施文	覆土中	
412	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	単筋縄文LR(縦)上に沈澱による垂下文、縦行文	覆土中	

第60号土坑 (第35・48図)

位置 調査区西部のC3e8区、標高37mほどの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長径2.90m、短径2.66mの不定形で、底面はほぼ平坦である。深さは40cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- 1 におい黄褐色 ローム粒子微量
2 におい黄褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
3 におい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片363点(深鉢362、鉢1)が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第60号土坑出土遺物観察表 (第48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
413	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	全面単筋縄文LR(縦・横)施文	覆土中	
414	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい赤黄	普通	口縁部に沿ってナデ 反の磨りRR(縦)施文	覆土中	
415	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい黄	普通	口縁に沿ってナデ 単筋縄文LR(斜)上に沈澱による垂下文、横条文	覆土中	
416	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁に沿って隆起帯付 内文を伴う2本の隆起による「字」文	覆土中	
417	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	磨面状工具による磨走文、垂下文、斜行文	覆土中	
418	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい橙	普通	口縁に沿ってナデ 沈澱で腹部に区画 3本の沈澱による縦区画 斜行文・垂流文で施文	覆土中	
419	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	単筋縄文LR(縦)上に内形刷文、沈澱による横「字」文	覆土中	
420	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁に沿って内形刷文、単筋縄文LR、上に沈澱を伴う隆起区画	覆土中	
421	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤黄	普通	単筋縄文LR(縦)上に半截竹管による縦行文	覆土中	
422	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい橙	普通	磨面状工具による磨走文	覆土中	
423	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい黄	普通	単筋縄文LR(縦)上に半截竹管による縦行文	覆土中	

第 61 号土坑 (第 51 図 PL10・11)

位置 調査区中央部の D 4 b9 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 10 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北半部が調査区域外へ延びているが、現存部から径 1.15 m ほどの円形と推定できる。底面は平坦である。深さは 94 cm で、西壁はわずかに内彎し、東壁は直立している。

覆土 10 層に分層できる。破砕された貝の層やロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	7 灰白色	破砕された貝多量、貝類少量(純貝層)
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	8 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 70 点(深鉢 68、壺 1、鉢 1)が、覆土下・中層を中心に散乱した状態で出土している。424・429 は純貝層の下層から、426・428・430・431 は純貝層の上層からそれぞれ出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

破砕された貝を多量に含む貝層は、覆土下層の暗褐色土と黒褐色土上で確認され、厚さは 15～25 cm である。貝層は数種の貝類と細かく破砕された貝の塊から成り、総重量は 78.496 kg である。細かく破砕された貝の塊の総重量は 72.050 kg で、重量比で貝類全体の 91.8% を占めている。貝の塊は細かく破砕されたウミナシ類から成り、凝固していることから、第 9 号堅穴建物跡で確認されているような漆状物質の原料として持ち込まれたが、漆喰としては使用されずに投棄された可能性がある。破砕された貝とともに出土した貝類は全重量 6.446 g で、8 種類の貝類が確認されている。重量別比率は、右表の通りで、漆状物質の原料と考えられるウミナシ類が一番多く、すべて鹹水産である。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられ、廃絶後は破砕された貝類が投棄され、地点貝塚が形成されている。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 61 号土坑出土貝類集計表

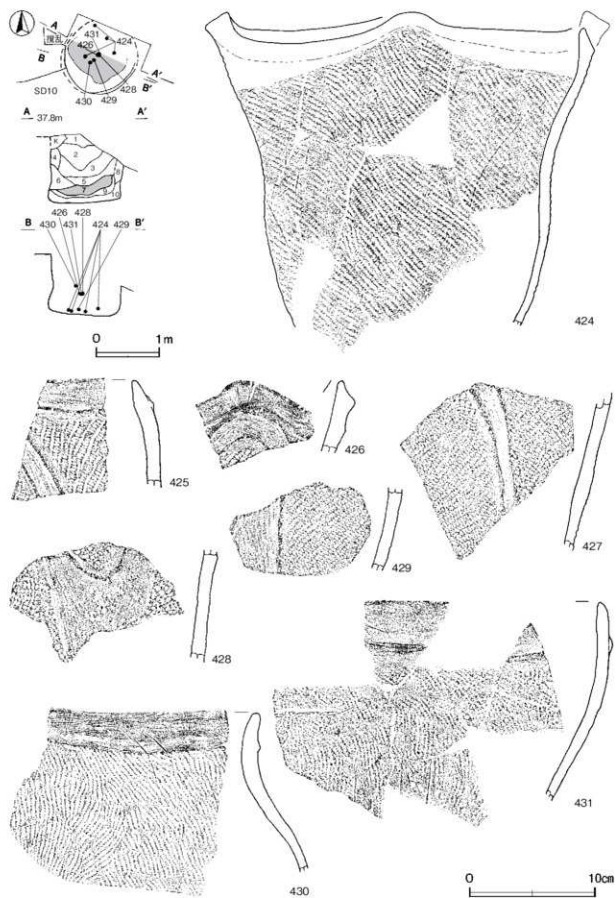
種別	点数	重量 (g)	重量比 (%)
ウミナシ類	2608 + 破砕	4763	74.0
オキシジミ	306	1079	16.7
ハマグリ	113	487	7.6
シオフキ	15	35	0.5
マガキ	14	35	0.5
アオニシ	10	22	0.3
フメタガイ	8	22	0.3
シラトリガイ	2	3	—
総量	3076	6.446	100.0

○純貝層の塊の総重量 72.050kg

※—は 0.1%未満

第 61 号土坑出土遺物観察表 (第 51 図)

番号	種別	図様	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
424	縄文土器	深鉢	28(6)	25(0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	口縁部に浅い凹み 口縁下縁に横 全面単筋縄文土器(編) 胎文	覆土下層	30% PL24
425	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	12.6(1)褐色	普通	胎文をテラツける前面三角形の隆起線による区画文 単筋縄文土器(編) 胎文	覆土中層	
426	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	褐色	普通	胎文をテラツける前面三角形の隆起線による区画文 単筋縄文土器(編) 胎文	覆土中層	
427	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	12.6(1)褐色	普通	2本の隆起線による曲線文 単筋縄文土器(編) 胎文	覆土中層	
428	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	褐色	普通	胎文をテラツける前面三角形の隆起線による区画文 単筋縄文土器(編) 胎文	覆土中層	
429	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	褐色	普通	胎文をテラツける前面三角形の隆起線による区画文 単筋縄文土器(編) 胎文	覆土下層	
430	縄文土器	壺	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	口縁部無文様 前面三角形の隆起線と区画文 単筋縄文土器(編・絆) 胎文	覆土中層	
431	縄文土器	鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	口縁部無文様 隆起線と区画文 単筋縄文土器(編・絆) 胎文	覆土中層	



第51图 第61号土坑·出土遗物实测图

第62号土坑 (第35・54図 PL11)

位置 調査区中央部のD4c9区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径1.18m、短径1.04mの楕円形で、長径方向はN-28°-Wである。底面は長径1.30m、短径1.16mの楕円形で平坦である。深さは116cmで、壁は中位まで内傾し、上位は外傾している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量	4	暗褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ロームブロック中量	5	黒褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量			

遺物出土状況 縄文土器片30点(深鉢)、石器1点(磨石)が、覆土中からまばらに出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第62号土坑出土遺物観察表 (第54図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
432	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	両肩部に横状把手、2本の横線起線によるU字彫り文、単面縄文LR(縦)文	覆土中	
433	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい中褐色	普通	口縁部に横状把手、2本の横線起線によるU字彫り文、単面縄文LR(縦・斜)文	覆土中	
434	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部に沿ってナゲ、単面縄文LR(縦)文	覆土中	

第63号土坑 (第35・52図 PL11)

位置 調査区東部のD5d2区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.36m、短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-55°-Wである。底面は平坦である。深さは94cmで、壁は直立している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

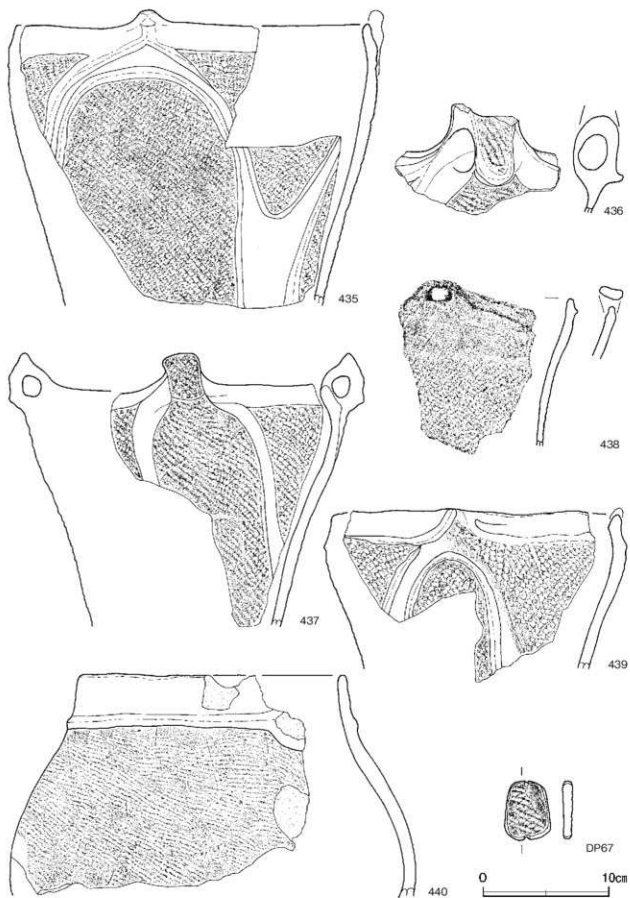
1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	4	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	5	褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	6	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片100点(深鉢99、壺1)、土製品1点(土器片鏝)が、覆土中から散乱した状態で出土している。435～439は覆土中層からそれぞれ出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第63号土坑出土遺物観察表 (第52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
435	縄文土器	深鉢	[27.8]	[29.5]	-	長石・石英・黄砂	にぶい褐色	普通	断面三角形の2本の横起線によるU字彫り文、単面縄文LR(縦)文	覆土中層	15%
436	縄文土器	深鉢	-	(8.7)	-	長石・石英	浅黄褐色	普通	口縁部に横状把手、単面縄文LR(縦)文	覆土中層	5%
437	縄文土器	深鉢	[26.8]	[21.8]	-	長石・石英	にぶい中褐色	普通	口縁部に横状把手、口縁下部に横 2本の横起線によるU字彫り文、単面縄文LR(縦)文	覆土中層	20%
438	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい中褐色	普通	両肩部に横 2本の横起線によるU字彫り文、単面縄文LR(縦)文	覆土中層	
439	縄文土器	深鉢	[22.7]	[13.8]	-	長石・石英・黄砂	橙	普通	断面三角形の横起線によるU字彫り文、単面縄文LR(縦・斜)文	覆土中層	5%
440	縄文土器	壺	[20.8]	[17.2]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部は直線、断面は体部と区画、把手の結核部、無塗上(斜)文	覆土下層	20%



第 52 图 第 63 号土坑出土遗物实测图

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DFG7	土器片筒	4.7	3.6	0.8	16.9	長石・石英	橙	周縁部積物 両端部キザ目	覆土中	

第 64 号土坑 (第 48・53 図)

位置 調査区東部の D 5c3 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径 2.46 m、短径 1.84 m の不整形円形で、長径方向は N-35°-W である。底面は中央部が凹んでいる。深さは 64 cm で、壁は段をもち外傾している。

覆土 3 層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。

土層解明

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 23 点 (深鉢) が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第 64 号土坑出土遺物観察表 (第 48 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
441	縄文土器	深鉢	(26.2)	(5.5)	-	長石・石英・ 赤鉄粉	明赤褐	普通	外側ぎ状口縁 口縁下端に横	覆土中	5%

第 66 号土坑 (第 48・53 図)

位置 調査区東部の D 5c3 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径 0.62 m の円形で、底面は皿状で、深さは 56 cm である。壁は外傾している。

覆土 3 層に分層できる。ローム粒子を含む層などが不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解明

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 5 点 (深鉢) が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

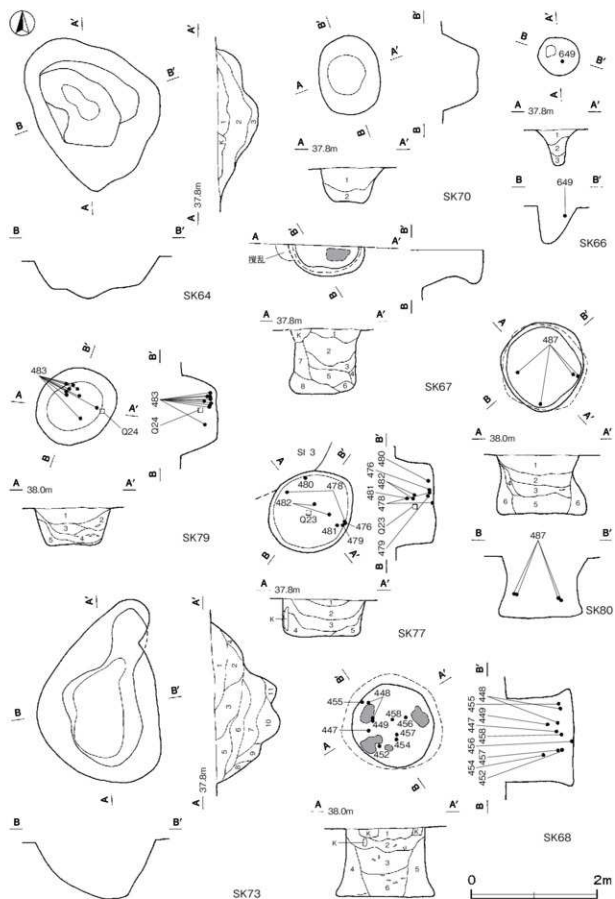
第 66 号土坑出土遺物観察表 (第 48 図)

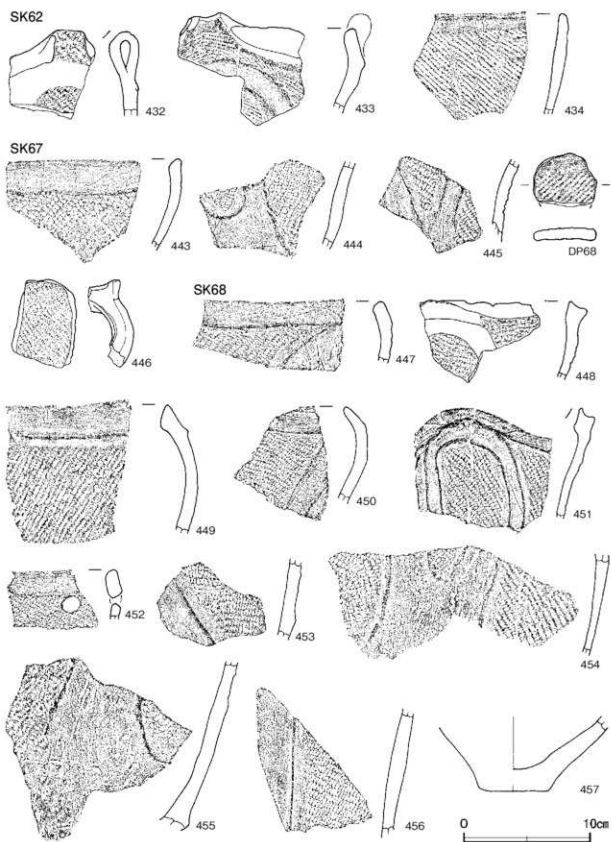
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
442	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿ってナデ 沈線による横走文、斜行文	覆土上層	

第 67 号土坑 (第 53・54 図)

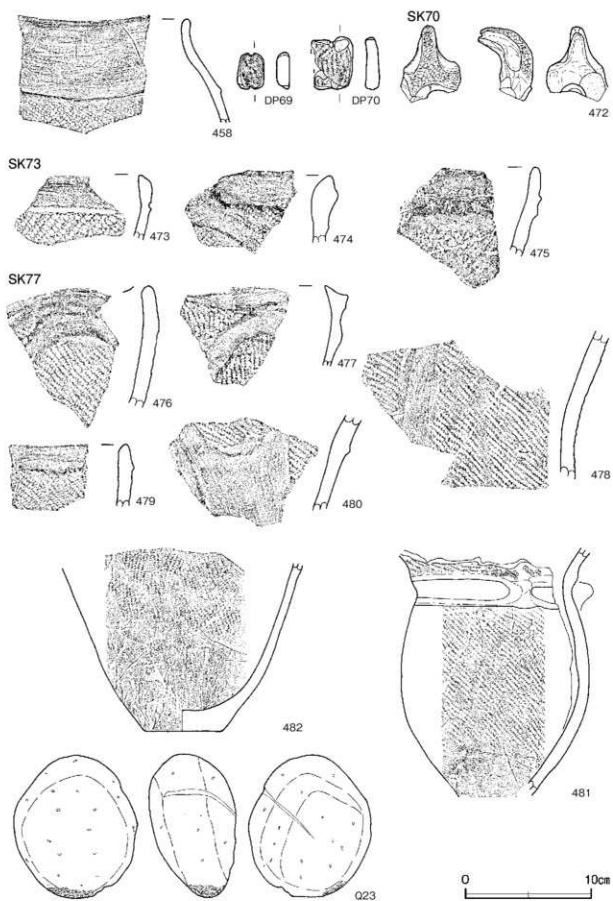
位置 調査区東部の D 5c5 区、標高 38 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているため、確認できた南北径は 0.50 m で、東西径は 1.18 m の楕円形と推定できる。長径方向は N-86°-W である。底面は平坦である。深さは 104 cm で、壁は下位まで内傾し、中位から直立している。





第 54 图 第 62·67·68 号土坑出土遗物实测图



第55图 第68·70·73·77号土坑出土遗物实测图

覆土 8層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	5	赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
4	褐色	ロームブロック少量	8	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 14点（深鉢 13、壺 1）、土製品 1点（土器片円盤）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 67 号土坑出土遺物観察表（第 54 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
443	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗	普通	口縁に沿ってナデ 微隆起縁周回 単節縄文図。(編) 施文	覆土中	
444	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	に濃い暗	普通	微隆起縁によるU字形区画文 単節縄文図。(編) 施文	覆土中	
445	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	に濃い暗	普通	胎子縁がナデつけられる微隆起縁によるU字形区画文 単節縄文図。(編) 施文	覆土中	
446	縄文土器	壺	-	(7.0)	-	長石・石英	に濃い暗	普通	頸状把手 単節縄文LR (編) 施文	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF68	土器片円盤	4.2	5.1	1.0	(22.8)	長石・石英・赤色粒子	暗	縦線部研削 一部欠損	覆土中	

第 68 号土坑（第 53・54 図 PL11）

位置 調査区東部の D 5c6 区、標高 38 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 開口部は径 1.29 m ほどの円形である。底面は径 1.52 m の円形で、平坦である。深さは 112 cm で、壁は内傾している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロック・ローム粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。覆土中層から確認された焼土ブロックは、その周辺が焼けておらず、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量	6	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 223点（深鉢 222、壺 1）、土製品 2点（土器片錘）、石器 1点（磨石）、剥片 2点（チャート、瑪瑙）が、覆土下層を中心に散乱した状態で出土している。多くは覆土下層や覆土中層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 68 号土坑出土遺物観察表（第 54 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
447	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	に濃い暗	普通	2本の微隆起縁によるU字形区画文 単節縄文図。(編) 施文	覆土下層	
448	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口唇部浅く凹む 微隆起縁によるU字形区画文 単節縄文図。(編) 施文	覆土下層	
449	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	に濃い暗	普通	口縁に沿って胎子縁がナデつけられる微隆起縁周回 単節縄文図。(編) 施文	覆土中層	
450	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	胎子縁がナデつけられる2本の微隆起縁による区画文 単節縄文LR (編) 施文	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
451	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部深く凹む。2条の隆起線によるU字形 区画文。単筋縄文上段。(縦・斜) 充填	覆土中層	
452	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部深く凹む。隆起線によるU字形区画文。単筋縄文上段。(縦) 充填	覆土下層	
453	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐色	普通	唇部が子ナテつらられる隆起線による区画文 単筋縄文上段。(斜) 充填	覆土中層	
454	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐色	普通	2条の隆起線によるU字形区画文。単筋縄文 上段。(縦・斜) 充填	覆土中層	
455	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	隆起線によるU字形区画文。単筋縄文RL。(縦・ 斜) 充填	覆土下層	
456	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 雲母	にぶい赤褐色	普通	唇部が子ナテつらられる隆起線による区画文 単筋縄文上段。(縦) 充填	覆土下層	
457	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	5.6	長石・石英・ 赤色粒子	明褐色	普通	唇部が子ナテつらられる隆起線による区画文 単筋縄文上段。(縦) 充填	覆土下層	10%
458	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部短く凹む。前部三角形の隆起線で胴部と区 画。単筋縄文上段。(縦) 充填	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF69	土器片断	2.8	2.3	1.1	8.1	長石・石英	灰褐色	周縁部磨着 両端部にギザミ目	覆土中層	
DF70	土器片断	4.2	(3.3)	1.1	(16.1)	長石・石英	黄褐色	周縁部磨着 両端部にギザミ目 一部欠損	覆土中層	

第69号土坑 (第56～58図 PL12)

位置 調査区東部のD5d6区、標高38mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 開口部は径1.70mほどの円形である。底面は長径1.22m、短径1.10mの楕円形で、平坦である。深さは100cmで、壁は中位まで内傾し、上位は外傾している。

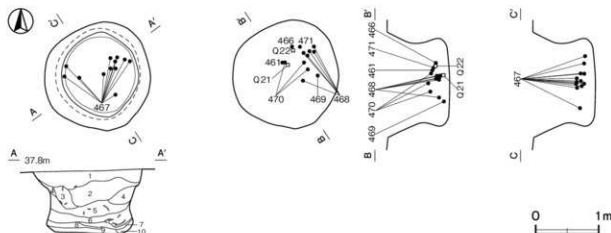
覆土 10層に分層できる。ロームブロック・ローム粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

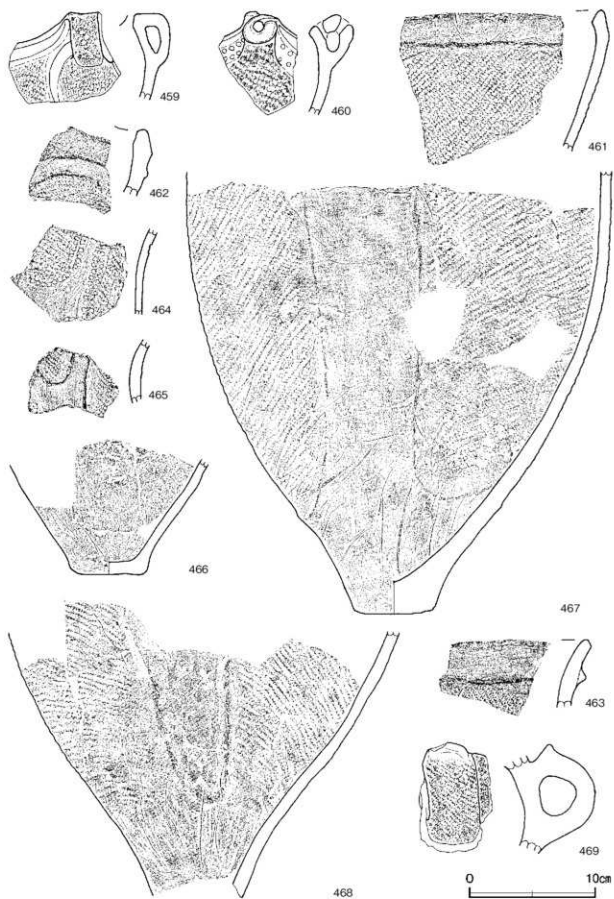
- | | | | |
|-------|---------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片169点(深鉢168,壺1)、石器1点(石皿)、剥片2点(チャート,加工痕のある剥片)、被熱した花崗岩1点が、覆土下層を中心に散乱した状態で出土している。多くは覆土下層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。被熱した花崗岩は、土器製作時の混和材としたものと思われる。

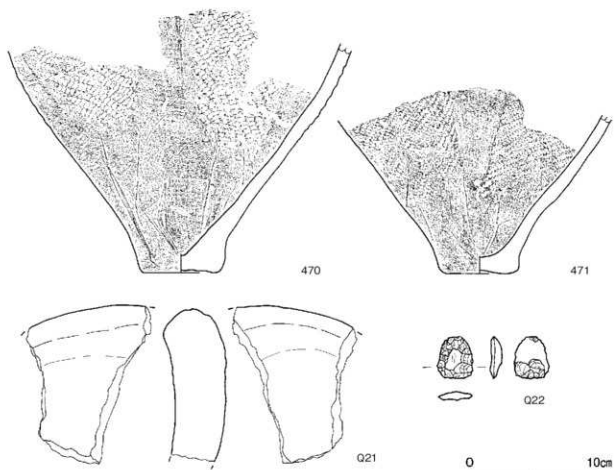
所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。



第56図 第69号土坑実測図



第57图 第69号土坑出土文物实测图(1)



第 58 図 第 69 号土坑出土遺物実測図 (2)

第 69 号土坑出土遺物観察表 (第 57・58 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
459	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部に帯状把手。2条の隆起線によるU字形区画文。単節縄文LR(縦)・斜縄	覆土中	
460	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底径部に8の字形突起。口縁に沿って2列の円形網文。単節縄文LR(縦)・地文	覆土中	
461	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁に沿って隆起線周囲。単節縄文LR(縦)	覆土下層	
462	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	2条の隆起線によるU字形区画文。単節縄文LR(斜)・地文	覆土中	
463	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿って前面三角形の隆起線周囲。単節縄文LR(縦)・地文	覆土中	
464	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	2列の円形網文によるU字形区画文。単節縄文LR(斜)・地文	覆土中	
465	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	前面三角形の2条の隆起線によるU字形区画文。単節縄文LR(縦)・地文	覆土中	
466	縄文土器	深鉢	(91)	62		長石・石英	にぶい黄橙	普通	単節縄文(縦)LR・地文。胴下部へウナデ	覆土下層	10%
467	縄文土器	深鉢	(35.3)	6.8		長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	前面三角形の隆起線によるU字形区画文。単節縄文LR(縦)・赤雲	覆土下層	50% PL23
468	縄文土器	深鉢	(21.2)			長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴下部がナゲつけられる隆起線によるU字形区画文。単節縄文LR(縦)・地文	覆土下層	30% PL23
469	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	口縁に厚みのある帯状把手。単節縄文LR(縦)	覆土下層	
470	縄文土器	深鉢	(18.2)	6.0		長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	前面三角形の隆起線によるU字形区画文。単節縄文LR(縦)・斜・赤雲	覆土下層	30% PL23
471	縄文土器	深鉢	(12.6)	6.1		長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	隆起線によるU字形区画文。単節縄文LR(縦)・赤雲	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 21	石皿	(99)	(126)	(50)	667.0	安山岩	表面磨り面。表面縦やかに凹む。	覆土下層	
Q 22	灰土層のある真白	3.3	2.8	0.9	8.0	チャート	先端部、胴面の一部押圧痕。	覆土下層	

第70号土坑 (第53・55図)

位置 調査区東部のD5d3区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.25m、短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-6°-Wである。底面はほぼ平坦である。深さは54cmで、壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢)が、覆土中からまばらに出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第70号土坑出土遺物観察表 (第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
472	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・岩母	橙	普通	把手部外面に滑車、左肩部に十字目、胴面腹に十字、半筋縄文1点(縦) 施文	覆土中	動物糞に近接す。

第73号土坑 (第53・55図)

位置 調査区東部のD5e7区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径2.92m、短径1.86mの不定形で、長径方向はN-10°-Eである。底面は凹凸がある。深さは92cmで、壁は段をもち外傾している。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックやローム粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子微量

4 暗褐色 ローム粒子中量

5 暗褐色 ローム粒子微量

6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

7 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

8 暗褐色 ロームブロック少量

9 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

10 暗褐色 ローム粒子中量

11 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片40点(深鉢)が、覆土中からまばらに出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第73号土坑出土遺物観察表 (第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
473	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部無文帯、横走波線周回、半筋縄文RL(縦) 施文	覆土中	
474	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	段縁部による横U字彫り施文、半筋縄文LR(縦) 施文	覆土中	
475	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・岩母	橙	普通	口縁部無文帯、押圧線帯貼付、半筋縄文RL(縦) 施文	覆土中	

第77号土坑 (第53・55図 PL12)

位置 調査区東部のD5d9区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第3号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.48m、短径1.26mの楕円形で、長径方向はN-47°-Eである。底面は平坦である。深

さは58cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子などを含む層が不規則に堆積している状況から、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	5	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量			

遺物出土状況 縄文土器片91点(深鉢90, 壺1)、石器1点(磨石)、剥片1点(黒曜石)が、覆土全体から散乱した状態で出土している。多くは覆土下層から覆土上層にかけて出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第77号土坑出土遺物観察表 (第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
476	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	に濃い褐色	普通	2条の隆起線によるU字形区画文 単節縄文L&I(縦) 光輝	覆土下層	
477	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	口唇部近くのみ、2条の隆起線によるU字形区画文、単節縄文L&I(斜) 光輝	覆土中	
478	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	2条の隆起線による縦位の区画文 単節縄文L&I(縦) 光輝	覆土下層	
479	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	に濃い褐色	普通	口縁に沿って隆起線周囲 単節縄文L&I(縦) 光輝	覆土下層	
480	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	に濃い褐色	普通	2条の隆起線によるU字形区画文 単節縄文L&I(縦) 光輝	覆土下層	
481	縄文土器	壺	-	(186)	-	長石・石英・雲母	に濃い黄褐色	普通	胴部に突起を伴う隆起線による楕円形区画文 単節縄文L&I(縦) 光輝	覆土上層	40% PL26
482	縄文土器	深鉢	-	(134)	60	長石・石英	褐色	普通	単節縄文L&I(斜) 光輝 底部強いナデ	覆土中層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 23	磨石	11.4	9.8	6.9	978.2	花崗岩	全面磨り面 下部段線な縁打痕	覆土中層	遺7集用 汚33

第79号土坑 (第53・60図 PL12)

位置 調査区東部のD5d9区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.34m、短径1.14mの楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。底面は平坦である。深さは56cmで、壁は外傾している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	5	褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 縄文土器片24点(深鉢23, 壺1)、石器1点(磨石)が、覆土中からまばらに出土している。483は覆土下層から、Q 24は覆土中層からそれぞれ出土していることから、これらは埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第79号土坑出土遺物観察表 (第60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
483	縄文土器	壺	[D96]	26.8	60	長石・石英	にがい赤褐色	普通	口縁部斜文帯 隆起線で割部と区画 1対の横線 単節縄文1区(縦・斜) 編文	覆土下層	60% PL24
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴			出土位置	備考
Q24	磨石	9.8	8.8	4.7	591.8	砂岩	全面磨り面	下部部敲打痕		覆土中層	敲石兼用 PL30

第80号土坑 (第53・60図 PL12)

位置 調査区東部のD 6c1区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 開口部は径1.36mほどの円形である。底面は径1.38mの円形で、平坦である。深さは94cmで、壁は中位まで内母し、上位は外傾している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロック・ローム粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量	6	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片54点(深鉢)、石器1点(石皿)、剥片2点(チャート、瑪瑙)、石器の母岩と思われる破砕された安山岩3点が、覆土中からまばらに出土している。487・安山岩はそれぞれ覆土中層から出土し、離れた位置のものが接合していることから、破砕して、投棄したものと思われる。接合した安山岩の重さは、1,529.3gである。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第80号土坑出土遺物観察表 (第60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
484	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	2本の隆起線による区画文 単節縄文LR(縦) 表層	覆土中	
485	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にがい赤褐色	普通	口縁に沿って断面三角形の隆起線貼付 単節縄文LR(縦) 編文	覆土中	
486	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭母	にがい赤褐色	普通	口縁に沿って断面三角形の隆起線による区画 単節縄文LR(縦) 表層	覆土中	
487	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭母	明褐色	普通	2本の隆起線によるU字形区画文 単節縄文LR(縦) 編文	覆土中層	

第81号土坑 (第59・61図 PL12)

位置 調査区東部のD 5e8区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.60m、短径1.26mの楕円形で、長径方向はN-41°-Eである。底面は平坦である。深さは66cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
3	褐色	ロームブロック多量			

遺物出土状況 縄文土器片 34 点（深鉢）、土製品 1 点（土器片鏟）が、覆土中からまばらに出土している。489 は底面から出土していることから、遺棄されたか投棄されたものと思われる。488 は覆土下層から出土し、離れた位置のものが接合していることから、破砕して投棄したものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 81 号土坑出土遺物観察表（第 61 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
488	縄文土器	深鉢	28.2	(15.1)	-	長石・石英	にぶい暗青褐色	明赤褐色	口縁に沿って十字形 断面三角形の稜線起線周回 卑胎縄文区、(縦) 胎文	覆土下層	30% PL26
489	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい暗青褐色	明赤褐色	口縁に沿って降形線周回 2 条の稜線による曲線文 卑胎縄文 L 区 (横・縦) 胎文	底面	
490	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい暗青褐色	明赤褐色	口縁に沿って降形線周回 2 条の稜線による十字形区画文 卑胎縄文区、(縦) 胎文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF71	土器片鏟	3.5	3.5	0.9	14.0	長石・石英・雲母	明赤褐色	腹縁部磨蝕 両端部に浅いキザ目	覆土中	

第 85 号土坑（第 59・60 図）

位置 調査区東部の D 5 f6 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径 1.04 m、短径 0.80 m の楕円形で、長径方向は N-24°-W である。底面は平坦である。深さは 58 cm で、南東壁は外傾し、それ以外は内彎している。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 層 色 ロームブロック中量 3 層 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 層 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 3 点（深鉢）が、覆土中からまばらに出土している。これらは覆土中から出土していることから、一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 85 号土坑出土遺物観察表（第 60 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
491	縄文土器	深鉢	-	(12.0)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	明赤褐色	頸部がやや広がる筒状把手 頸部から内面の結線文へ孔貫通。把手側面から口唇部近く同心状線による横内筋及び走り字形の区画文 卑胎縄文区、(縦・横) 胎文	覆土中層	10% 内 29 層 埋没土器片、外・内面赤褐色

第 91 号土坑（第 44・45・61 図）

位置 調査区西部の C 3 e8 区、標高 36 m ほどの台地縁辺部に位置している。

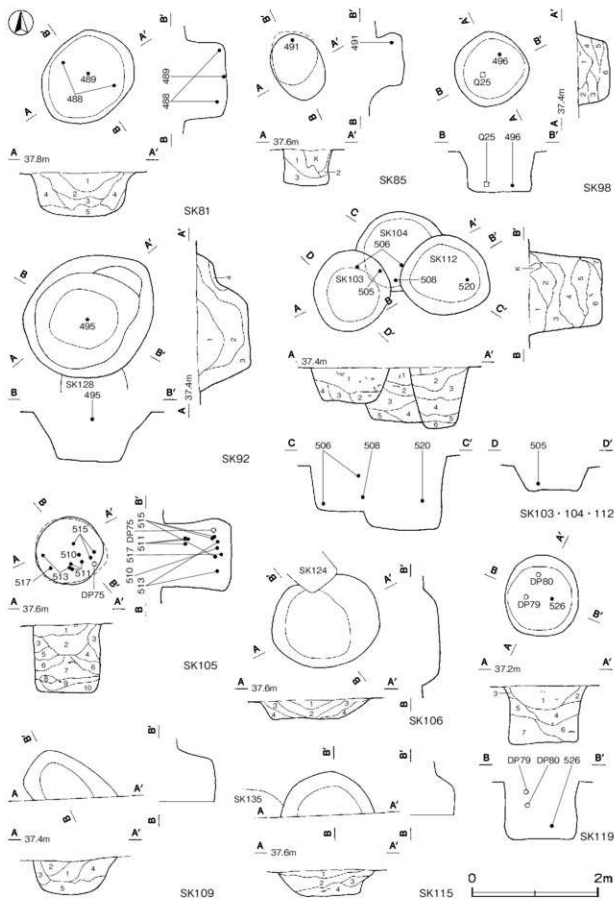
重複関係 第 29 号土坑に掘り込まれている。第 59 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 東部を第 29 号土坑に掘り込まれているため、確認できたのは東西径 0.86 m、南北径 1.54 m で、現存部から楕円形と推定できる。底面は平坦である。深さは 44 cm で、壁は外傾している。

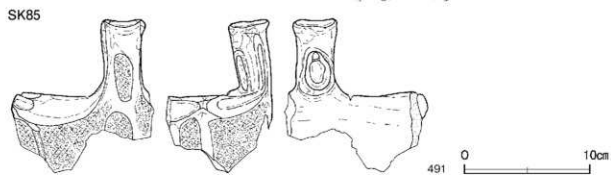
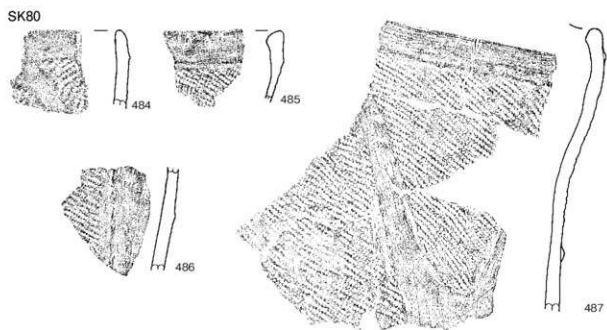
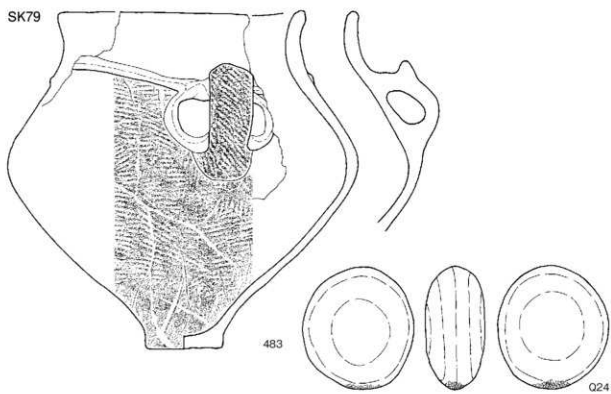
覆土 単一層である。ロームブロック、焼土粒子を含む層であることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

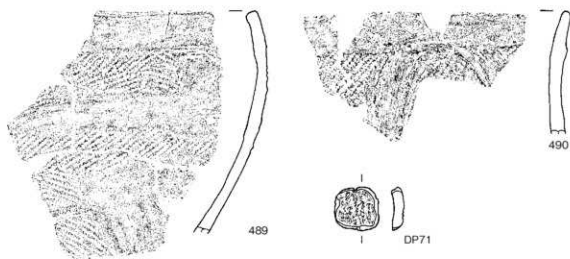
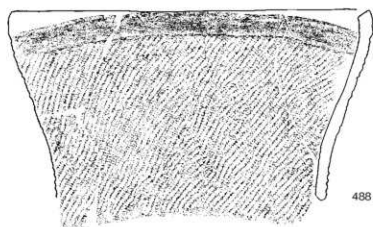


第 59 图 第 81 · 85 · 92 · 98 · 103 ~ 106 · 109 · 112 · 115 · 119 号土坑实测图

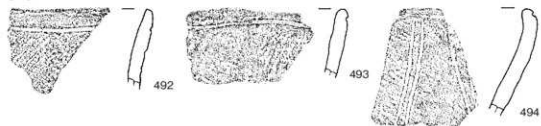


第60图 第79·80·85号土坑出土文物实测图

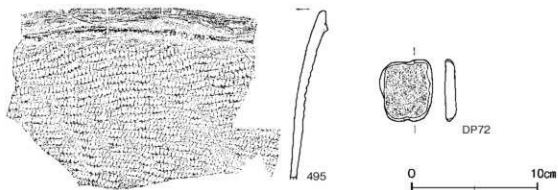
SK81



SK91



SK92



第 61 图 第 81・91・92 号土坑出土遗物实测图

遺物出土状況 縄文土器片113点(深鉢)が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第91号土坑出土遺物観察表(第61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
492	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	白線部ナデ 口縁に沿って浅線周回 単節縄文LR(縦)上 単節縄文LR(横) 施文	覆土中	
493	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄橙	普通	口縁部ナデ 口縁に沿って浅線周回 単節縄文LR(縦) 施文	覆土中	
494	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿って浅線周回 単節縄文LR(縦)上 単節縄文LR(横)上 施文	覆土中	

第92号土坑(第59・61図 PL13)

位置 調査区東部のE5a6区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第128号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.25m、短径1.86mの楕円形で、長径方向はN-45°-Eである。底面は平坦である。深さは84cmで、北東壁は段をもち、外傾している。

覆土 4層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 4 におい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢)、土製品1点(土器片鉢)が、覆土中から出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第92号土坑出土遺物観察表(第61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
495	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	におい黄	普通	口縁に沿って前面三角形の段縁周回 単節縄文LR(縦) 施文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF72	土器片鉢	4.9	4.2	0.9	20.5	長石・石英	明橙	短線部研磨 両端部に浅いキザ目	覆土中	

第98号土坑(第59・62図 PL13)

位置 調査区東部のD5j6区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径1.18mほどのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは64cmで、壁はほぼ直立している。

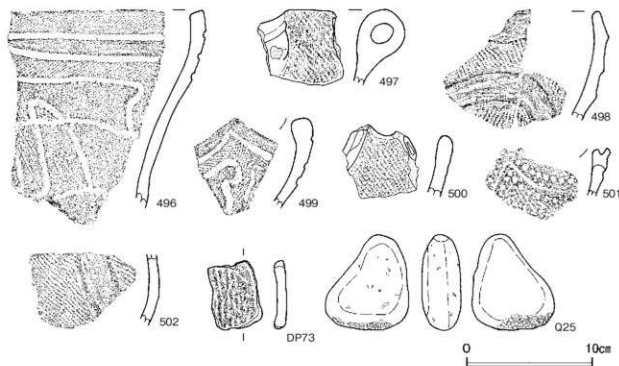
覆土 6層に分層できる。ロームブロック・ローム粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 4 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片79点(深鉢)、土製品1点(土器片鉢)、石器1点(敲石)が、覆土中から散乱した状態で出土している。496、Q25は覆土下層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。



第62図 第98号土坑出土遺物実測図

第98号土坑出土遺物観察表(第62図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
496	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈澱による横線及び曲線状の縄文 細い単節縄文LR(横・縦)光澤	覆土下層	
497	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部に楕円状把手 単節縄文LR(縦) 施文	覆土中	
498	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	強く十字つげられる2本の隆起線による曲線状の縄文 単節縄文付(縦・横)光澤	覆土中	
499	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	灰褐色	普通	土沈澱による曲線状の縄文 細い単節縄文LR(縦・横)光澤	覆土中	
500	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部突起 突起部面深く凹む 単節縄文LR(縦) 施文	覆土中	
501	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	双縁突起 口縁に沿って内彫突文、沈澱文 無節縄文土(縦) 施文	覆土中	
502	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	2本の隆起線による曲線状の縄文 単節縄文LR(縦・斜) 光澤	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP73	土器片断	3.4	4.3	1.0	239	長石・石英	にぶい黄褐色	縦線部研ぎ 片端部にキザミ目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	燧石	7.5	6.5	3.1	209.1	砂岩	下端部敲打面 両面磨り面	覆土下層	磨石兼用

第100号土坑(第63・64図 PL13)

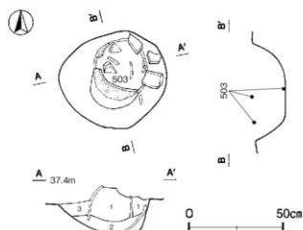
位置 調査区東部のD5f2区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径0.50mのほぼ円形で、底面は皿状である。深さは18cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。土器の下半部には締まりが強いにぶい黄褐色土が充填されていることから、埋め戻されている。

土層解説

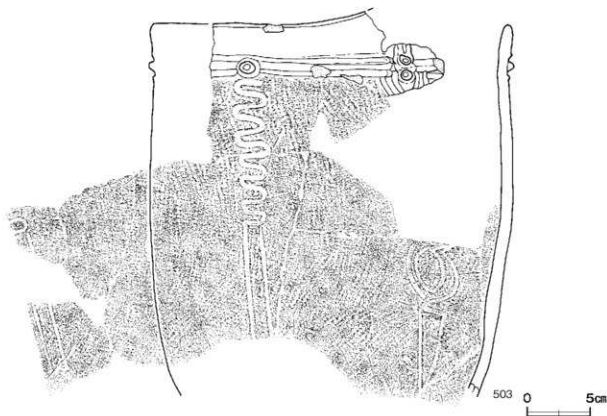
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 にぶい黄褐色 ローム粒子多量(締まり強い) 3 暗褐色 ローム粒子多量



第 63 図 第 100 号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 6 点 (深鉢) が覆土中からまばらに出土している。503 は口縁部と胴下半部を欠いている深鉢で、斜位の状態でも出土している。土器内からは口縁部の一部が確認され、接合していることから、当初は口縁部があり、胴下半部を欠いた状態で埋められていたと思われる。

所見 本跡は土器の出土状況から、胴下半部を切断した深鉢を埋納するための土坑と考えられる。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第 64 図 第 100 号土坑出土遺物実測図

第 100 号土坑出土遺物観察表 (第 64 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
503	縄文土器	深鉢	[28.2]	[30.4]	-	長石・石英	明黄褐色	普通	口縁部無文。北縁を伴う8の字文をもつ隆帯で飾部。土底。並治縄文位 (面・鉢) 土に沈みたる船行文、横目筋文。	覆土下層	40% PL25

第 103 号土坑 (第 59・65 図 PL13)

位置 調査区東部の D5j6 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第 104 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.30 m、短径1.18 mの楕円形で、長径方向N-16°-Eである。底面はほぼ平坦である。深さは56cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢)、被熱した礫1点(花崗岩)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第103号土坑出土遺物観察表(第65図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
504	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁部無文帯、前面の扉体による単筋縄文(縦・斜)・亀文	覆土中	
505	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部による重線の区画文、単筋縄文LR(縦)・亀文	覆土下層	

第104号土坑(第59・65図 PL13)

位置 調査区東部のD5j7区、標高37 mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第103・112号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 現存部から、径1.32 mほどの円形と推測できる。底面は平坦である。深さは87cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子などを含む層が不規則に堆積状況していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|---------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 5 濃い黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量 | | |

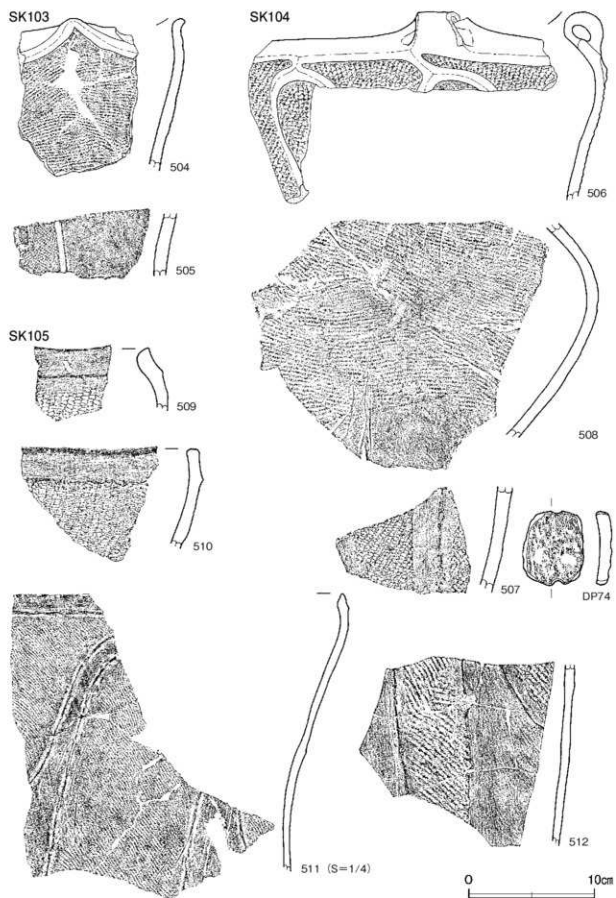
遺物出土状況 縄文土器片67点(深鉢66、鉢1)、土製品1点(土器片鉢)が、覆土中から散乱した状態で出土している。506は覆土下層のものと覆土上層のものが接合していることから、破碎して投棄されたものと思われる。508は覆土下層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

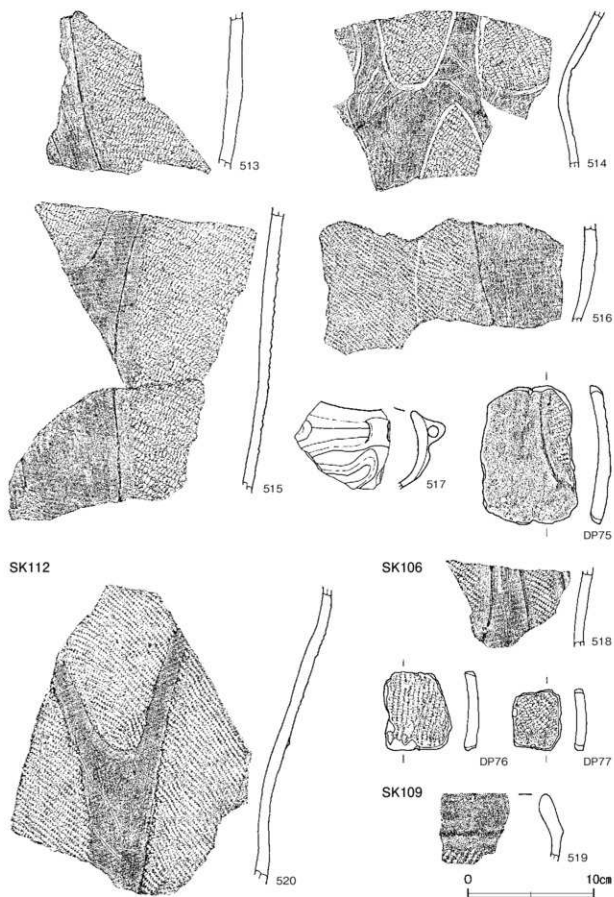
第104号土坑出土遺物観察表(第65図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
506	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部無文帯、前面三角形の段起線によるU字形区画文、単筋縄文LR(斜・縦)・亀文	覆土下層 覆土上層	
507	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁の段起線による区画文、単筋縄文LR(縦)・亀文	覆土中	
508	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	単筋縄文LR(縦)・亀文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
D174	土器片鉢	5.9	4.9	1.3	34.6	長石・石英	にぶい赤褐色	周縁部積帯、両端部にキザミ目	覆土中	



第65图 第103～105号土坑出土遗物实测图



第66图 第105·106·109·112号土坑出土遗物实测图

第105号土坑 (第59・65・66図 PL13)

位置 調査区東部のD517区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径1.08mの円形で、底面は平坦である。深さは106cmで、壁はわずかに内彎している。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積状況していることから、埋め戻されている。7層は焼土粒子・炭化粒子を中量、8層は焼土粒子を多量に含む層で、周辺の壁は変化していないことから、埋め戻す過程で投棄されたものと思われる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	7 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量
3 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	8 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	9 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片128点(深鉢126, 鉢1, 浅鉢1)、土製品1点(土器片鏟)、剥片2点(チャート、黒曜石)が、覆土中から散乱した状態で出土している。遺物の多くは覆土下層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第105号土坑出土遺物観察表 (第65・66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文律の特徴はか	出土位置	備考
509	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	暗褐色	普通	口縁に沿って前面三角形の隆起線あり 単面縄文1区(組)施文	覆土中	
510	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	明赤褐色	普通	口縁に沿って前面三角形の隆起線あり 口段多量 単面縄文1区(組)施文	覆土下層	
511	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	にぶい橙	普通	口縁に沿って隆起線あり 2条組の隆起線によるU字形区画文・単面縄文1区(組)施文	覆土中層	
512	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	黒褐色	普通	前面三角形の隆起線による曲線的区画文 無施文土(組)施文	覆土中	
513	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	灰褐色	普通	前面三角形の隆起線による曲線的区画文 口段多量 単面縄文1区(組)施文	覆土下層	
514	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	暗赤褐色	普通	口縁によるU字形区画文 単面縄文1区(組)施文	覆土中	
515	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	にぶい橙	普通	前面三角形の隆起線によるU字形区画文 口段多量 単面縄文1区(組)施文	覆土下層	
516	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	橙	普通	前面三角形の隆起線で施文部と無文部区画 単面縄文1区(組)施文	覆土中	
517	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	にぶい黄橙	普通	隆起による区画文 隆起を繋ぐように條状把手	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF75	土器片鏟	11.0	7.8	1.6	122.5	長石・石英・赤母	明赤褐色	間線部研ぎ 両端部にキザミ目	覆土下層	

第106号土坑 (第59・66図)

位置 調査区東部のD517区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第124号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.76m、短径1.38mの楕円形で、長径方向はN-72°-Eである。底面は平坦である。深さは32cmで、壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	3 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢、土製品2点(土器片鏟))が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第106号土坑出土遺物観察表 (第66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
S18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい色	普通	胎内面に赤く子デつけられる芝塗の発着跡による幾何学的縄文。単線縄文及び「縦」文等。	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
DP76	土器片断	6.3	5.5	1.1	(47.5)	長石・石英	にぶい赤褐色	周縁部研磨	両端部に浅いキザミ目	一部欠損	覆土中
DP77	土器片断	4.9	3.8	1.0	23.1	長石・石英	灰黄黒褐色	周縁部研磨	両端部に浅いキザミ目		覆土中

第109号土坑 (第59・66図)

位置 調査区東部のE5b7区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第5号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 南半部が調査区域外へ延びているため、北西・南東径1.04m、北東・南西径0.64mしか確認できなかった。底面はほぼ平坦である。深さは56cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	4	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量	5	褐色	ロームブロック中量
3	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第109号土坑出土遺物観察表 (第66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
S19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁に沿って胎内部分に赤く子デつけられる幾何学的縄文。単線縄文及び「縦」文等。	覆土中	

第112号土坑 (第59・66図 PL13)

位置 調査区東部のD5j7区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第104号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.40m、短径1.26mの楕円形で、長径方向はN-65°-Wである。底面はほぼ平坦である。深さは118cmで、壁は直立している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	6	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
3	暗褐色	炭化粒子中量、ロームブロック少量	7	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量			

遺物出土状況 縄文土器片23点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。520は覆土中層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第112号土坑出土遺物観察表(第66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
S30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 鉄屑	黒地	普通	断面三角形の隆起線によるU字形区画文 単純 縄文土器(編) 灰質	覆土中層	

第115号土坑(第59・68図)

位置 調査区東部のE5b6区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第135号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南半部が調査区域外へ延びているため、東西径1.48m、南北径0.74mしか確認できなかった。底面は平坦である。深さは42cmで、壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|----------------|---|-----|----------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 | 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片45点(深鉢)、土製品1点(土器片鏟)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第115号土坑出土遺物観察表(第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
S21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄地	普通	胎土部が強くナデつけられる隆起線による曲線の区画文 単純縄文器(編) 灰質	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF28	土器片鏟	3.1	2.7	0.8	7.5	長石・石英・ 鉄屑	橙	両縁部研削 両端部に4×4目	覆土中	

第117号土坑(第67・68図)

位置 調査区東部のE5a4区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第118号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.72mほどのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは62cmで、壁は外傾している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。覆土上層で確認されている炭土ブロックは、その周辺が焼けていないことから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------------|---|-----|----------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片19点(深鉢)、石器1点(磨石)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

Q26は覆土上層から出土し、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第117号土坑出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
S22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁に沿って断面が三角形の隆起線周囲 草部縄文1段 (横)・屈文	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q 36	磨石	(7.4)	7.5	3.7	(327.5)	安山岩	全面磨り面	上半部欠損	覆土上層	PL30	

第118号土坑 (第67・68図 PL14)

位置 調査区東部のE 5b4区、標高37 mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第117号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.34 m、短径1.12 mの楕円形で、長径方向はN-45°-Eである。底面は平坦である。深さは34cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。523・524は覆土下層から、525は覆土上層からそれぞれ出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第118号土坑出土遺物観察表 (第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
S23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰白褐	普通	口縁による曲線的区画文 草部縄文LR (横・斜・屈) 充塞	覆土下層	
S24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲 隆起線による曲線文	覆土下層	
S25	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	5.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白褐	普通	側下半部強いナデ 底部突出	覆土上層	5%

第119号土坑 (第59・68図)

位置 調査区東部のE 5a5区、標高37 mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.28 m、短径1.12 mの楕円形で、長径方向はN-9°-Eである。底面は平坦である。深さは90cmで、壁は直立している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
4 暗褐色 炭化粒子多量、焼土粒子中量、ロームブロック少量
5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量
7 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片108点(深鉢)、土製品2点(土器片鏟、土器片円盤)、石器1点(磨石)が、覆土中から散乱した状態で出土している。526、DP79・DP80は覆土下層から覆土上層にかけて出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第119号土坑出土遺物観察表(第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
535	縄文土鈔	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁に沿って前面三角形の隆起線貼付 卑部縄文土器(組) 光澤	覆土下層	
537	縄文土鈔	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	隆起線による楕円形区画文 卑部縄文土器(組) 光澤	覆土中	
538	縄文土鈔	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁に沿って隆起線周囲 2条一組の隆起線による楕円形区画文 卑部縄文土器(組) 光澤	覆土中	
539	縄文土鈔	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	貼付部が狭く十字つけられる隆起線と縄文部区画 卑部縄文土器(組) 光澤	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF79	土器片鉢	6.8	5.2	1.4	5.2	長石・石英	黒褐色	周縁部研磨 両端部にキザミ目	覆土上層	
DF80	土器片鉢	4.8	4.8	0.9	2.2	長石・石英	橙	周縁部研磨	覆土中層	

第122号土坑(第67・68図)

位置 調査区東部のE5a9区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.52m、短径1.01mの楕円形で、長径方向はN-86°-Eである。底面は平坦である。深さは46cmで、壁は外傾している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|----------------|---|-----|------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片42点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。532は覆土下層から、531は覆土中層からそれぞれ出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第122号土坑出土遺物観察表(第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
530	縄文土鈔	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	隆起線による楕円形区画 卑部縄文土器(組) 光澤	覆土中	
531	縄文土鈔	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	光澤による楕円形区画文 O段多量卑部縄文土器(組) 光澤	覆土中層	
532	縄文土鈔	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	隆起線による十字形文で縄文部と無文部区画 卑部縄文土器(組) 光澤	覆土下層	

第123号土坑(第67・68図)

位置 調査区東部のD5j9区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.34m、短径1.16mの楕円形で、長径方向はN-60°-Eである。底面は皿状である。深さは58cmで、壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|----|------------------|---|-----|------------------|
| 1 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 4 | 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 30 点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 123 号土坑出土遺物観察表（第 68 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
S33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って断面が三角形の隆起線あり 縄文 1 区（編） 施文	単層	覆土中

第 125 号土坑（第 67～69 図 PL14）

位置 調査区中央部の D 4 b 0 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径 1.70 m ほどのほぼ円形である。底面は平坦である。深さは 76cm で、壁はほぼ直立している。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 68 点（深鉢）、土製品 2 点（土器片鉢）が、覆土中から散乱した状態で出土している。534 は覆土下層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 125 号土坑出土遺物観察表（第 68・69 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
S34	縄文土器	深鉢	[178]	(91)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁に沿って2列の内彩斜線文 1) 斜線文・縄文部と無文部区画 2) 波線による区画 3) 施文	覆土下層	10%
S35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胎土が多少強くナゲつけられる2条の隆起線による曲線的区画文 単層縄文 1 区（編） 施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP81	土器片鉢	4.1	3.7	1.3	20.1	長石・石英・雲母	赤褐	周縁部研ぎ 両端部にキザミ目	覆土中	
DP82	土器片鉢	4.9	4.1	1.2	25.4	長石・石英	にぶい橙	周縁部研ぎ 両端部にキザミ目	覆土中	

第 126 号土坑（第 67・69 図 PL14）

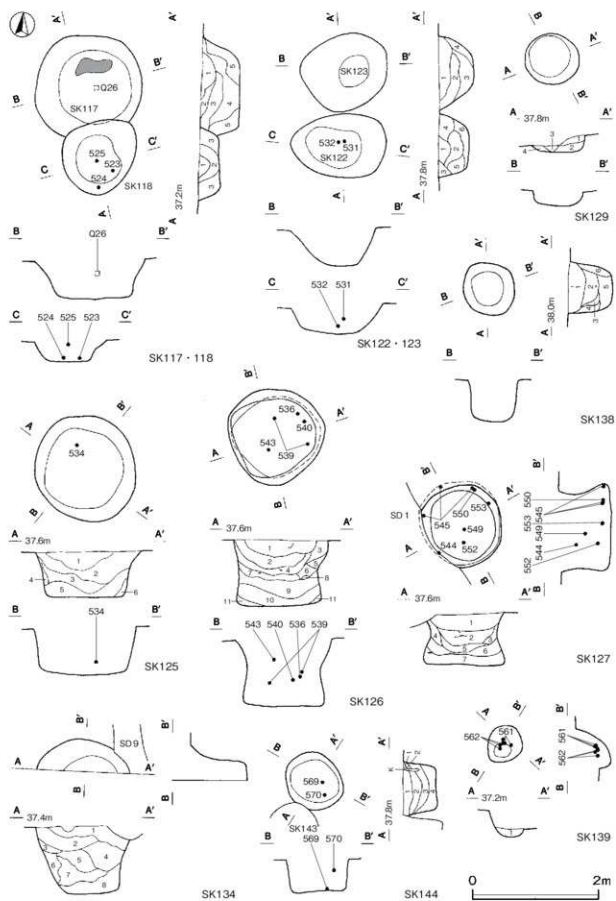
位置 調査区東部の D 4 c 0 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 開口部は径 1.54 m ほどの円形である。底面は径 1.22 m ほどの円形で、平坦である。深さは 108cm で、壁は中位まで内傾し、上位は外傾している。

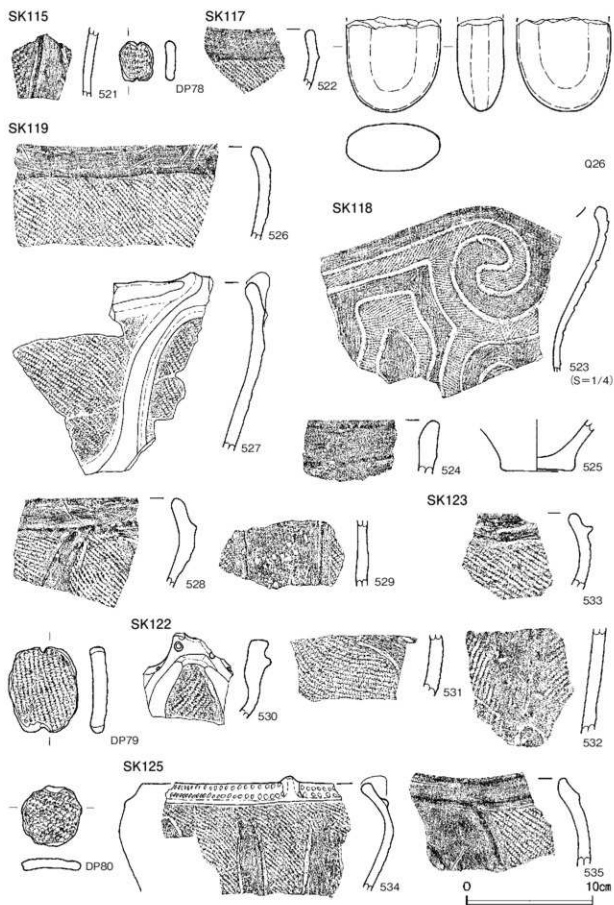
覆土 11 層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

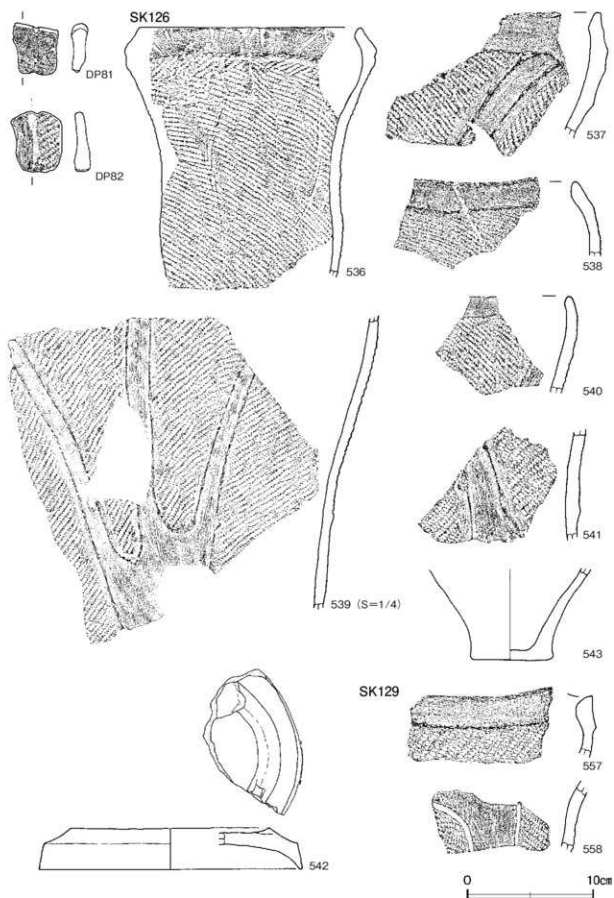
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |



第 67 图 第 117 · 118 · 122 · 123 · 125 ~ 127 · 129 · 134 · 138 · 139 · 144 号土坑实测图



第68图 第115·117~119·122·123·125号土坑出土遗物实测图



第 69 图 第 125·126·129 号土坑出土遗物实测图

遺物出土状況 縄文土器片 115 点（深鉢 114、蓋 1）、石器 1 点（浮子₉）が、覆土中から散乱した状態で出土している。土器片の多くは覆土中層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 126 号土坑出土遺物観察表（第 69 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
536	縄文土器	深鉢	[17.4]	(19.8)	-	灰石・石英・炭素	灰黄褐色	普通	口縁部無文帯 単筋縄文 L.R. (横・縦) 施文	覆土中層	20%
537	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	胎土部が強くナゲつけられる隆起帯による曲線的区画文 単筋縄文 L.R. (斜) 施文	覆土中	
538	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿って隆起帯周囲付 単筋縄文 L.R. (斜) 施文	覆土中	
539	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	2本の隆起帯による U 字形区画文 単筋縄文 L.R. (横) 施文	覆土中層	
540	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	黄褐色	普通	口縁に沿って隆起帯周囲付 隆起帯による区画文 単筋縄文 L.R. (横) 施文	覆土中層	
541	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	灰黄褐色	普通	胎土部が強くナゲつけられる隆起帯による曲線的区画文 単筋縄文 L.R. (横) 施文	覆土中	
542	縄文土器	蓋	[20.8]	(3.3)	-	灰石・石英・炭素・赤土粒子	明黄褐色	普通	天井部に付 把手の胎付痕	覆土中	5%
543	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	6.2	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	新下半部強いナゲ 底部やや突出	覆土上層	5%

第 127 号土坑（第 67・70 図 PL14）

位置 調査区東部の D 4 d0 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 開口部は長径 1.24 m、短径 1.15 m の楕円形で、長径方向は N - 24° - W である。底面は長径 1.36 m、短径 1.20 m の楕円形で、平坦である。深さは 80 cm で、壁は中位まで内彎し、上位は外傾している。

覆土 7 層に分層できる。ローム粒子・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

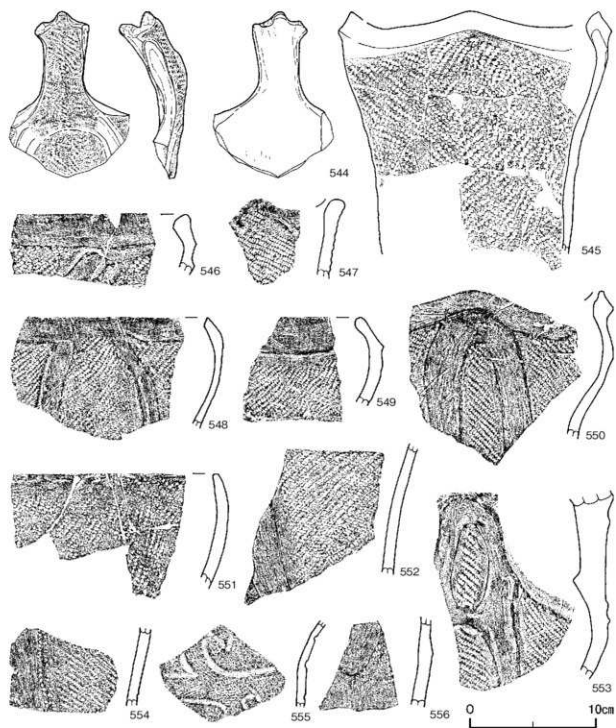
1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子少量	5	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片 130 点（深鉢）が、覆土中から散乱した状態で出土している。土器片の多くは覆土下層から出土していることから、それらは埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 127 号土坑出土遺物観察表（第 70 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
544	縄文土器	深鉢	-	(13.2)	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	把手頂部口を覆いたように反轉的に突出 背に胎土が強くナゲつけられる隆起帯による曲線的区画文 単筋縄文 L.R. (横・斜) 施文	覆土上層	動物もぎ把手 5% PL29
545	縄文土器	深鉢	[19.7]	(19.2)	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	口縁近く同み反轉的な隆起帯による曲線的区画文 単筋縄文 L.R. (横・縦) 施文	覆土下層	30% PL25
546	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿って隆起帯周囲付 隆起帯による曲線的区画文 単筋縄文 L.R. (横・縦) 施文	覆土中	
547	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	灰黄褐色	普通	口縁に沿ってナゲ 単筋縄文 L.R. (縦) 施文	覆土中	
548	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿って隆起帯周囲付 隆起帯による曲線的区画文 単筋縄文 L.R. (横) 施文	覆土中	
549	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	黄褐色	普通	口縁に沿って胎付部が強くナゲつけられる隆起帯周囲付 単筋縄文 L.R. (横) 施文	覆土中層	
550	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿って隆起帯周囲付 2本の隆起帯による U 字形区画文 単筋縄文 L.R. (横) 施文	覆土下層	
551	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	口縁に沿ってナゲ 単筋縄文 L.R. (斜) 施文	覆土中	
552	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	2本の隆起帯による曲線的区画文 単筋縄文 L.R. (横) 施文	覆土下層	
553	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	胎土部が強くナゲつけられる隆起帯による楕円形的区画文 単筋縄文 L.R. (横) 施文	覆土下層	動物もぎ把手
554	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	胎土部が強くナゲつけられる隆起帯により楕円形的区画文 単筋縄文 L.R. (斜) 施文	覆土中	
555	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	太鼓帯による曲線的区画文 細目の単筋縄文 L.R. (斜・横) 施文	覆土中	
556	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭素	にぶい黄褐色	普通	隆起帯による楕円形的区画文 単筋縄文 L.R. (横) 施文	覆土中	



第70図 第127号土坑出土遺物実測図

第129号土坑 (第67・69図)

位置 調査区東部のD5j9区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径0.85mほどの円形である。底面は平坦である。深さは24cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロック・焼土粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子中量 4 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 16点（深鉢）、石器1点（磨石₃）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第129号土坑出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
357	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 雲母	明赤褐色	普通	口縁に沿って黒直三角彩の隆起線4回 草筋縄文丸（縦）施文	覆土中	
358	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	濃い赤褐色	普通	口縁による曲線的区画文 草筋縄文L形（縦）施文	覆土中	

第134号土坑（第67・71図）

位置 調査区東部のE5b5区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南半部が調査区域外へ延びており、東西径1.50m、南北径0.54mしか確認できなかった。底面は平坦である。深さは104cmで、壁は外傾している。

覆土 8層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 5 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
 2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 6 暗 褐色 ロームブロック中量
 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 7 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 8 暗 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 23点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第134号土坑出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
359	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	濃い赤褐色	普通	沈線による曲線的区画文 区画内刺突文	覆土中	

第138号土坑（第67・71図 PL15）

位置 調査区東部のD6j3区、標高38mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径0.82mほどのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは68cmで、壁は直立している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 5 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 6 暗 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片7点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第138号土坑出土遺物観察表(第71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
560	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	大沢原による番敷的区画文(縦・横)・光磨	覆土中	

第139号土坑(第67・71図 PL15)

位置 調査区東部のE5a3区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径0.56mほどのほぼ円形で、底面は皿状である。深さは56cmで、壁は外傾している。

覆土 単一層である。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1 層 褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。561・562は覆土中層から出土していることから、投棄されたものか流れ込んだものと思われる。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第139号土坑出土遺物観察表(第71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
561	縄文土器	深鉢	[272]	[222]	-	長石・石英	暗褐色	普通	口縁部(左側)による区画区画文・2条一組の波線による扇状区画文・単筋縄文L区(縦)・光磨	覆土中層	20% PL25
562	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	北側にによる楕円形区画文・単筋縄文L区(縦)・光磨	覆土中層	

第140号土坑(第71・72図)

位置 調査区東部のE5a0区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第141号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.58m、短径1.26mの楕円形で、長径方向はN-5°-Wである。底面は平坦である。深さは68cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

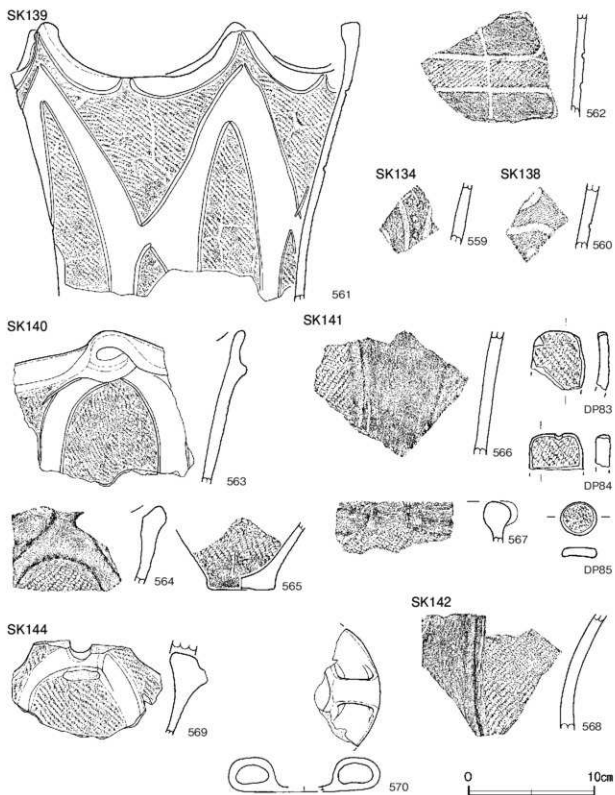
1 層 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 4 層 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 層 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 5 層 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
3 層 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片34点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。563・565は覆土下層から中層にかけて出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第140号土坑出土遺物観察表(第71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
563	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤褐色	普通	波道部に発着層による楕円形文・2条の波道面によるじ字形区画文・単筋縄文L区(縦・縦)	覆土中層	



第71図 第134・138～142・144号土坑出土遺物実測図

番号	種別	図様	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
564	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤母・赤色砂子	に高い赤黄	普通	2枚の隆起線による日字形区画文 区(縦)光曜	単面縄文	層土中	
565	陶文土器	深鉢	(5.3)	54	-	長石・石英	に高い橙	普通	単面縄文LR(縦)横文		層土下層	10%

第141号土坑 (第71・72図)

位置 調査区東部のE5a0区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第142・151号土坑を掘り込んでいる。第140号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.34m、短径1.18mの楕円形で、長径方向はN-16°-Wである。底面は平坦である。深さは36cmで、壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	3 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	4 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)、土製品3点(土器片鍾2、土器片円盤1)が、覆土中からまばらな状態で出土している。566・567、DP83は覆土中層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第141号土坑出土遺物観察表 (第71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
566	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	帯起眼による縄文部と無文部区画 (縦) 変型	覆土中層	
567	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部によって隆起眼による横長な楕円形区画 (縦) 変型	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP83	土器片鐘	(4.6)	4.3	1.0	(22.7)	長石・石英・炭化粒子	褐色	縦線部着色 片端部にキザ目 一部欠損	覆土中層	
DP84	土器片鐘	(2.9)	4.2	1.2	(18.7)	長石・石英・炭化粒子	黒褐色	縦線部着色 片端部にキザ目 一部欠損	覆土中	
DP85	土器片円盤	2.7	2.8	0.8	6.9	長石・石英	にぶい橙	縦線部着色	覆土中	

第142号土坑 (第71・72図)

位置 調査区東部のE5a0区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第141号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.32m、短径1.02mの不整楕円形で、長径方向はN-48°-Eである。底面は平坦である。深さは48cmで、北東壁は段をもち、外傾している。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

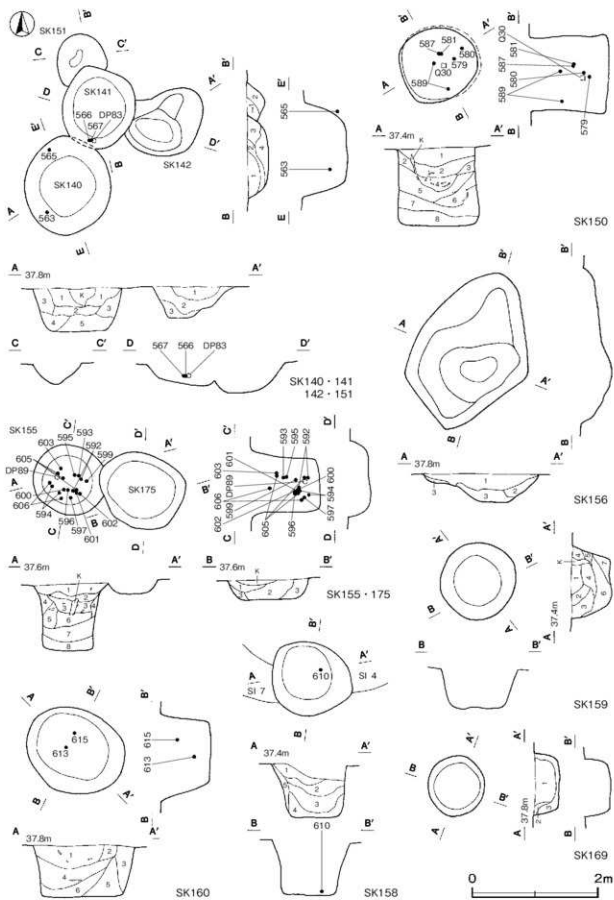
1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片14点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第142号土坑出土遺物観察表 (第71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
568	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭化粒子	橙	普通	帯起眼が散々つらつら付けられる隆起眼による縄文部と無文部区画 単軸縄文(縦)変型	覆土中	



第72图 第140~142·150·151·155·156·158~160·169·175号土坑实测图

第144号土坑 (第67・71図)

位置 調査区東部のD5f7区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第143号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径0.90mほどのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは52cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片19点(深鉢18、蓋1)、剥片2点(チャート、石英)が、覆土中からまばらな状態で出土している。569は底面から出土していることから、遺棄あるいは投棄されたものと思われる。570は覆土上層から出土していることから、投棄されたか流れ込んだものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第144号土坑出土遺物観察表 (第71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
569	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	流注部に孔、陸奥型によるU字形面文 縄文土器(編) 光東	底面	
570	縄文土器	蓋	120	28	-	長石・石英	にがい碧	普通	大井部扁平で縁状把手をもつ	覆土上層	30%

第145号土坑 (第73・74図 PL15)

位置 調査区東部のD5e0区、標高38mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.28m、短径1.05mの楕円形で、長径方向はN-2°-Eである。底面は平坦である。深さは108cmで、壁は東部が内彎し、西部はほぼ直立している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | | |

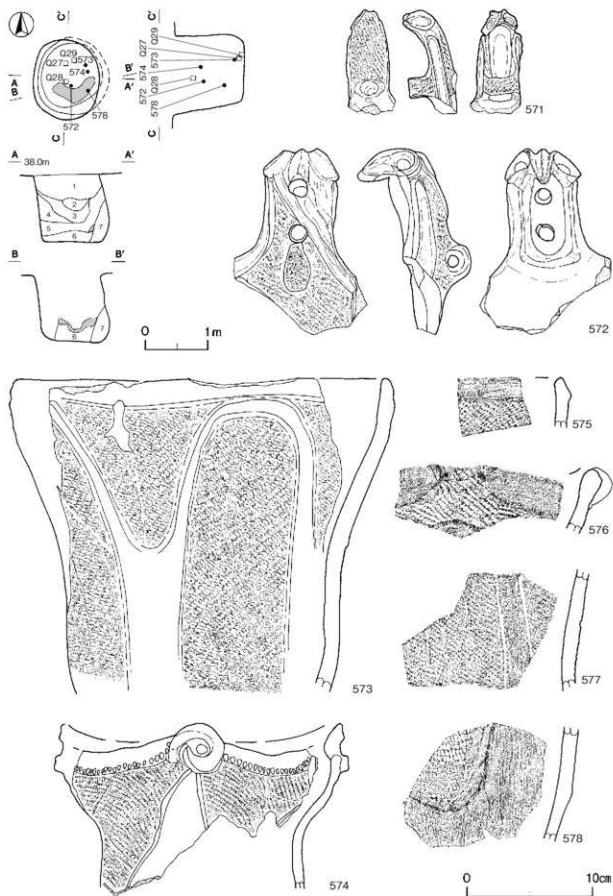
遺物出土状況 縄文土器片98点(深鉢)、石器3点(磨石)が、覆土中から散乱した状態で出土している。573、Q27・Q29は底面から出土していることから、遺棄されたものと思われる。572・574・578、Q28は覆土上層から上層にかけて出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

覆土下層の暗褐色土上で、貝類と破砕された貝類のブロックが確認されている。貝類の総重量は1,068gで、ハマグリ181点、697g、シオフキ93点、304g、破砕貝・その他67gである。ハマグリ、シオフキがほとんどであり、第2号竪穴建物跡の地点貝塚での割合に似た傾向を示している。

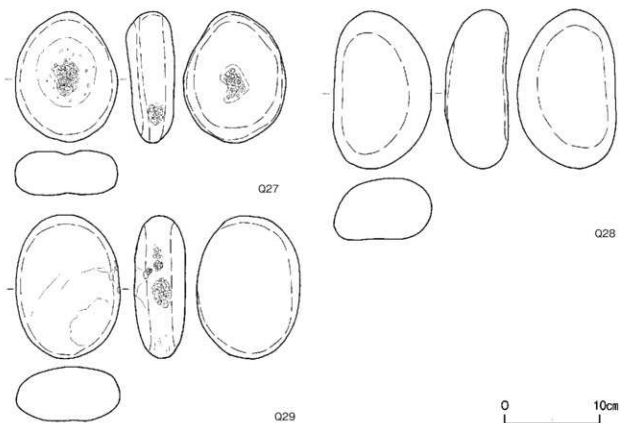
所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。廃絶後は貝類や破砕された貝類が投棄され、地点貝塚が形成されている。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第145号土坑出土遺物観察表 (第73・74図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
571	縄文土器	深鉢	-	(82)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	把手側面と底部に目と線を縦横線で表し、内面を縦と、両面散点状散点形(付) 普通単面 縄文土器(編) 論文、東北大学考古学	覆土中	動物由来把手 5% PL28



第 73 图 第 145 号土坑·出土遗物实测图



第74図 第145号土坑出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地文	文様の特徴はか	出土位置	備考
572	縄文土器	深鉢	-	(148)	-	長石・石英・雲母	にぶ・赤黒	真砂	把手側面底部に目土雫を散らしたと見られる。内面側面には内面に乳孔状の線状に散らした。縦状把手。草部縄文LR(編)光景	覆土中層	動物意匠把手5% PL29
573	縄文土器	深鉢	(290)	(251)	-	長石・石英	橙	普通	隆起線によるU字形区画文 草部縄文LR(編)光景	底面	20% PL25
574	縄文土器	深鉢	(222)	(131)	-	長石・石英・赤鉄粉	橙	普通	底面に長形による赤文。口縁に沿って散らした。乳孔状による大きな縦線状区画 草部縄文LR(編)光景	覆土中層	10%
575	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄粉	橙	普通	口縁に沿って隆起線同回 草部縄文LR(編)光景	覆土中	
576	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒黒	普通	隆起線による楕円形区画 草部縄文LR(編)光景	覆土中	
577	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黒	普通	口縁の沈線により縄文部と無文部区画 草部縄文LR(編)光景	覆土中	
578	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶ・橙	普通	隆起線による縄文部と無文部区画 草部縄文LR(編)光景	覆土中層	

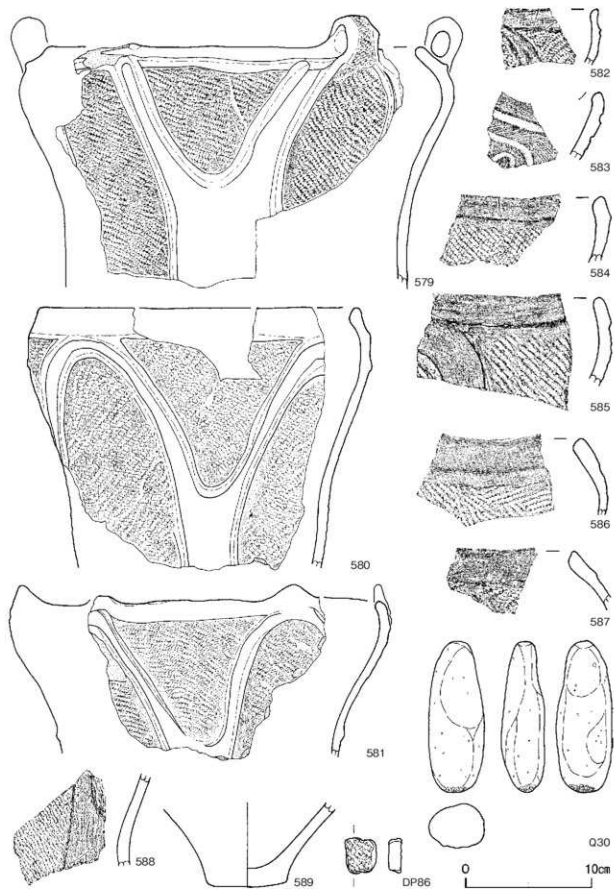
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q27	磨石	137	108	50	1029.4	砂岩	全面磨り面 両面・側面に微細な縦打痕	底面	PL30
Q28	磨石	166	104	67	1735.8	花崗岩	全面磨り面	覆土上層	
Q29	磨石	151	110	56	1166.9	砂岩	全面磨り面 側面に縦打痕	底面	PL30

第150号土坑 (第72・75図 PL16)

位置 調査区中央部のD5f1区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 開口部は径1.20mほどの円形である。底面は径1.23mほどの円形で、平坦である。深さは124cmで、南西壁は直立し、それ以外の壁はわずかに内彎している。

覆土 8層に分層できる。ロームブロック・焼土粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。



第75图 第150号土坑出土遗物实测图

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 5 黒 褐色 ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子少量
 2 黒 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 6 黒 褐色 ロームブロック少量
 3 褐色 ローム粒子中量 7 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
 4 暗 褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量 8 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片192点（深鉢）、土製品1点（土器片鉢）、石器1点（敲石）、剥片1点（チャート）が、覆土中から散乱した状態で出土している。多くの土器片は覆土中層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第150号土坑出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
579	縄文土器	深鉢	[29.4]	[21.5]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って隆起線周囲 隆起線によるU字形の区画文、単筋縄文1段（縦）光輝	覆土下層	20%
580	縄文土器	深鉢	[25.0]	[20.6]	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	口縁に沿って隆起線周囲 隆起線によるU字形の区画文、単筋縄文1段（縦）光輝	覆土中層	20% P125
581	縄文土器	深鉢	[28.6]	[13.6]	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲 隆起線によるU字形の区画文、単筋縄文1段（縦）光輝	覆土中層	10%
582	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲 隆起線による曲線的区画文、単筋縄文1段（縦）光輝	覆土中	
583	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲 隆起線による曲線的区画文、単筋縄文1段（縦）光輝	覆土中	
584	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲 隆起線による曲線的区画文、単筋縄文1段（縦）光輝	覆土中	
585	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁に沿って隆起線周囲 隆起線による曲線的区画文、単筋縄文1段（縦）光輝	覆土中	
586	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲 単筋縄文1段（縦）光輝	覆土中	
587	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	に濃い赤褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲 単筋縄文1段（縦）光輝	覆土中層	
588	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	に濃い赤褐	普通	隆起線による縄文部と無文部区画 無筋縄文1段（縦）光輝	覆土中	
589	縄文土器	深鉢	-	[6.7]	6.4	長石・石英・雲母	に濃い赤褐	普通	胴下部深いナガ 丸底	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF96	土器内輪	2.8	2.6	1.1	8.2	長石・石英	褐	周縁部研磨 両端部にキザミ目	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	磨石	11.9	4.4	3.4	240.4	石英斑岩	下部部微細な縦打痕 上部部磨り痕	覆土中層	P130

第151号土坑（第72・78図）

位置 調査区東部のE5a0区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第141号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径0.85mほどのほぼ円形で、底面は皿状である。深さは34cmで、壁は穏やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。北側からの堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片7点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第151号土坑出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
590	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	に濃い黒	普通	口縁に沿って2列の円形研削文 沈線による曲線的区画文、単筋縄文1段（縦）光輝	覆土中	
591	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲 隆起線による曲線的区画文、単筋縄文1段（縦）光輝	覆土中	

第155号土坑 (第72・76・77図 PL16)

位置 調査区東部のD5g5区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第175号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.15mの円形で、底面は平坦である。深さは108cmで、壁は直立している。

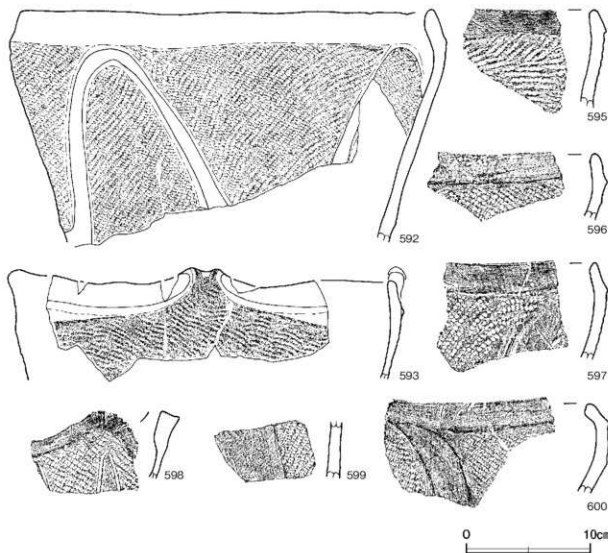
覆土 8層に分層できる。ローム粒子・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

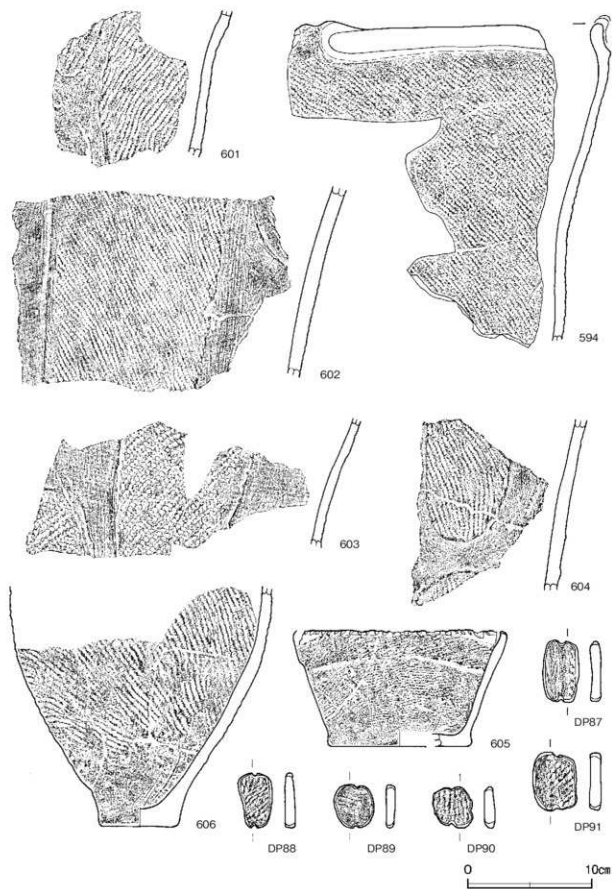
- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 に近い褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片161点(深鉢160, 鉢1), 土製品5点(土器片鏝)が、覆土中から散乱した状態で出土している。605は覆土下層のものと覆土上層のものが接合していることから、破砕して投棄されたものと思われる。遺物は覆土全体にわたり出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。



第76図 第155号土坑出土遺物実測図 (1)



第77图 第155号土坑出土物实测图(2)

第155号土坑出土遺物観察表(第76・77図)

番号	種別	器物	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
392	縄文土器	深鉢	[32.6]	(18.5)	-	長石・石英・ 赤鉄質	にぶい赤褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲。2条一組の隆起線によるU字形区画文。単節縄文(組)施文	覆土下層	10% PL25
393	縄文土器	深鉢	[30.0]	(8.9)	-	長石・石英・ 赤鉄質	にぶい赤褐	普通	隆起線による区画区画文。0段多葉単節縄文L.R.(組)施文	覆土中層	5%
394	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	隆起線による稚田形区画文。単節縄文L.R.(組)施文	覆土下層	
395	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄質	にぶい赤褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲。隆起線による曲線的区画文。単節縄文L.R.(組)施文	覆土中層	
396	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄質	黒褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲。隆起線による曲線的区画文。単節縄文L.R.(組)施文	覆土中層	
397	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄質	にぶい赤褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲。隆起線による曲線的区画文。単節縄文L.R.(組)施文	覆土下層	
398	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄質	黒褐	普通	口縁部や中絶部で浅く凹凸。沈線による曲線的区画文。単節縄文L.R.(組)施文	覆土中層	
399	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄質	灰褐	普通	隆起線による縄文部と無文部を区画。単節縄文L.R.(組)施文	覆土中層	
400	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄質	橙	普通	口縁に沿って隆起線周囲。隆起線による曲線的区画文。単節縄文L.R.(組)施文	覆土中層	
401	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄質	灰褐	普通	2条一組の隆起線によるU字形区画文。単節縄文L.R.(組)施文	覆土中層	
402	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄質	にぶい赤褐	普通	断面三角形の隆起線により縄文部と無文部を区画。単節縄文L.R.(組)施文	覆土中層	
403	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄質	にぶい赤褐	普通	断面三角形の隆起線により縄文部と無文部を区画。単節縄文L.R.(組)施文	覆土下層	
404	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄質	にぶい赤褐	普通	2条一組の隆起線によるU字形区画文。単節縄文L.R.(組)施文	覆土上層	
405	縄文土器	鉢	[16.4]	9.2	[11.4]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部にキザミ目。複合口縁。全面無節縄文L.R.(組)施文	覆土下層 覆土中層 覆土上層	40% PL26
406	縄文土器	深鉢	-	[19.1]	6.1	長石・石英	橙	普通	単節縄文L.R.(組)施文	覆土下層 覆土上層	20%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP87	土器片断	4.8	2.8	0.9	13.4	長石・石英	黒褐	縦線部研磨 両端部にキザミ目	覆土中層	
DP88	土器片断	4.3	2.8	0.9	10.9	長石・石英	にぶい黄褐	縦線部研磨 両端部にキザミ目	覆土中層	
DP89	土器片断	3.4	3.1	0.7	9.2	長石・石英	灰褐	縦線部研磨 両端部にキザミ目	覆土下層	
DP90	土器片断	3.3	3.1	0.8	10.1	長石・石英・ 赤鉄質	にぶい赤褐	縦線部研磨 両端部にキザミ目	覆土中層	
DP91	土器片断	4.6	3.5	1.0	20.2	長石・石英	灰黄褐	縦線部研磨 両端部にキザミ目	覆土中層	

第156号土坑(第72・78図)

位置 調査区東部のD5h9区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径2.64m、短径1.90mの不整形円形で、長径方向はN-15°-Eである。底面は皿状である。深さは48cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。西側からの流入が見られる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック(小)少量
2 黒褐色 ロームブロック(小)少量
3 暗褐色 ロームブロック(中)少量

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第156号土坑出土遺物観察表(第78図)

番号	種別	器物	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
407	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄質	にぶい黄褐	良好	口縁に沿って隆起線による区画区画文。隆起線によるU字形区画文。単節縄文L.R.(組)施文	覆土中層	
408	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	縦線部研磨。隆起線に沿って太直線単節縄文L.R.(組)施文	覆土中層	

第158号土坑（第72・78図 PL16）

位置 調査区東部のD5j6区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第4・7号堅穴建物跡を埋り込んでいる。

規模と形状 長径1.30m、短径1.16mの楕円形で、長径方向はN-47°-Wである。底面は平坦である。深さは83cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 5 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片18点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。610は底面近くから出土していることから、遺棄あるいは投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第158号土坑出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
609	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗褐色	普通	欄外に横をもつ出彫把手。土層に沿って円形彫刻文。大穴側による逆U字形区画文。単線縄文。附（横）光肌	覆土中	
610	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗褐色	普通	単線縄文LR（斜）施文	底面	

第159号土坑（第72・78図 PL16）

位置 調査区中央部のD5h2区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径1.20mほどの円形で、底面は凹凸がある。深さは65cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片28点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

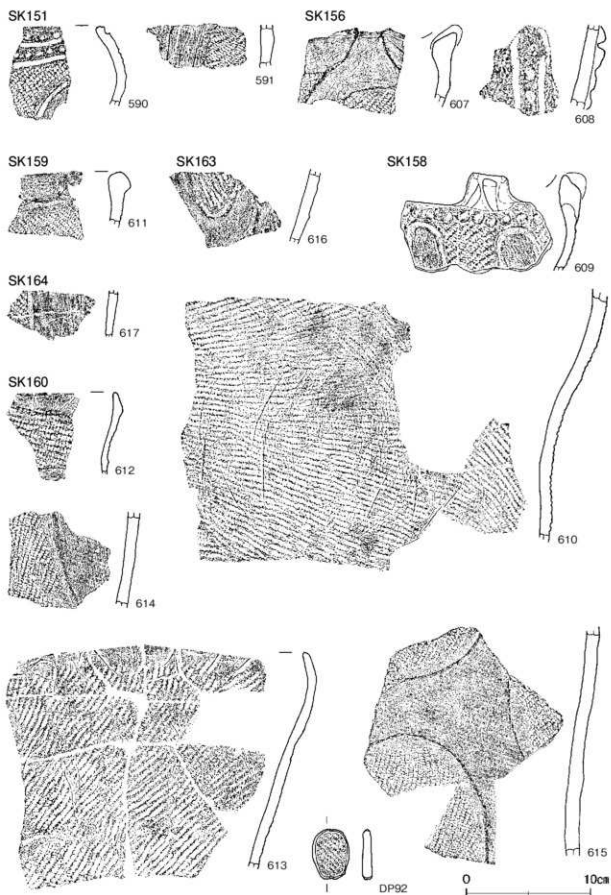
第159号土坑出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
611	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄屑	暗褐色	普通	口縁に沿って胎土層が欠けて中がすりつぶられる彫刻線刻。単線縄文LR（横）施文	覆土中	

第160号土坑（第72・78図 PL16）

位置 調査区東部のD6g1区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.62m、短径1.34mの楕円形で、長径方向はN-67°-Wである。底面は平坦である。深



第78图 第151·156·158~160·163·164号土坑出土遗物实测图

さは80cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒	黒	色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	4	黒	黒	色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
2	黒	黒	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	5	暗	黒	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	暗	黒	色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	6	黒	黒	色	ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片82点(深鉢)、土製品1点(土器片鏟)が、覆土中から散乱した状態で出土している。遺物は覆土全体から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第160号土坑出土遺物観察表(第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
612	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	隆起線による弧状区画文 単筋縄文LR(縦)	覆土中	
613	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	浅黄褐色	普通	口縁に沿ってナメ 単筋縄文RI(縦) 施文	覆土下層	
614	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	明褐色	普通	隆起線により縄文部と無文部区画 単筋縄文RI(縦) 施文	覆土中	
615	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	にぶい褐色	普通	隆起線が少なくナメつけられる隆起線による曲線の区画文 単筋縄文RI(縦) 施文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP92	土器片鏟	39	29	08	11.4	長石・石英	にぶい褐色	凹線部研磨 両端部に浅いキザ目	覆土中	

第163号土坑(第78・79図)

位置 調査区東部のD5㊦区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第164号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.94m、短径0.68mの楕円形で、長径方向はN-38°-Wである。底面はほぼ平坦である。深さは28cmで、壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1	暗	黒	色	ロームブロック(小)少量	2	暗	黒	色	ロームブロック(中)少量
---	---	---	---	--------------	---	---	---	---	--------------

遺物出土状況 縄文土器片11点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第163号土坑出土遺物観察表(第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
616	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	にぶい褐色	普通	隆起線によるU字形区画文 単筋縄文LR(縦) 施文	覆土中	

第164号土坑(第78・79図)

位置 調査区東部のD5㊦区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第163号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.48 m、短径0.94 mの不整形円形で、長径方向はN - 47° - Eである。底面は平坦である。深さは56cmで、南西壁は段をもち、外傾している。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第164号土坑出土遺物観察表(第78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
617	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	大土層を伴う2面の発掘線により縄文部と無文部を区別 単面縄文土(器) 複製	覆土中	

第169号土坑(第72・80図 PL17)

位置 調査区東部のD6h2区、標高37 mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径0.94 mほどの円形で、底面は平坦である。深さは41cmで、壁は直立している。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢)、土製品1点(土器片鏟)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第169号土坑出土遺物観察表(第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
618	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	にぶい橙	普通	発掘線による曲線的区画文 単面縄文LR(器) 複製	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP93	土器片鏟	(41)	3.6	0.9	(13.4)	長石・石英	暗灰	縦線部研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	

第170号土坑(第79・80図 PL17)

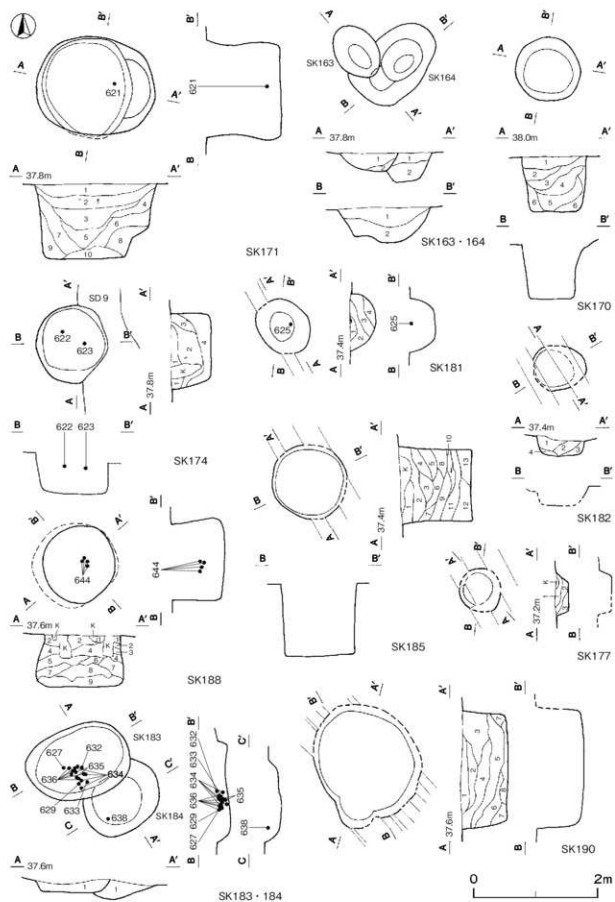
位置 調査区東部のD6g3区、標高37 mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径1.04 mほどの円形で、底面は平坦である。深さは88cmで、壁は直立している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 5 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 6 にぶい黄褐色 ロームブロック中量



第79图 第163·164·170·171·174·177·181~185·188·189号土坑实测图

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第170号土坑出土遺物観察表(第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
619	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	橙	普通	土沈澱を伴う2条の段起線により縄文部と無文部を区画 単節縄文L.R(編) 赤埴	覆土中	

第171号土坑(第79・80図)

位置 調査区東部のD6g2区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.90m、短径1.52mの楕円形で、長径方向はN-80°-Wである。底面は平坦である。深さは120cmで、東壁は段をもち、それ以外の壁は直立している。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	6 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子多量
4 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9 におい黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量	10 におい黄褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片14点(深鉢13、鉢1)が、覆土中からまばらな状態で出土している。621は覆土下層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第171号土坑出土遺物観察表(第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
620	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・炭屑	におい橙	普通	2条の沈澱による曲線的区画文 単節縄文L.R(編) 赤埴	覆土中	
621	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英・炭屑	浅黄橙	普通	口縁部無文帯 無節縄文L(編・斜) 編文	覆土下層	

第174号土坑(第79・80図)

位置 調査区東部のD5f5区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.26m、短径1.12mの楕円形で、長径方向はN-15°-Eである。底面は平坦である。深さは64cmで、壁は直立している。

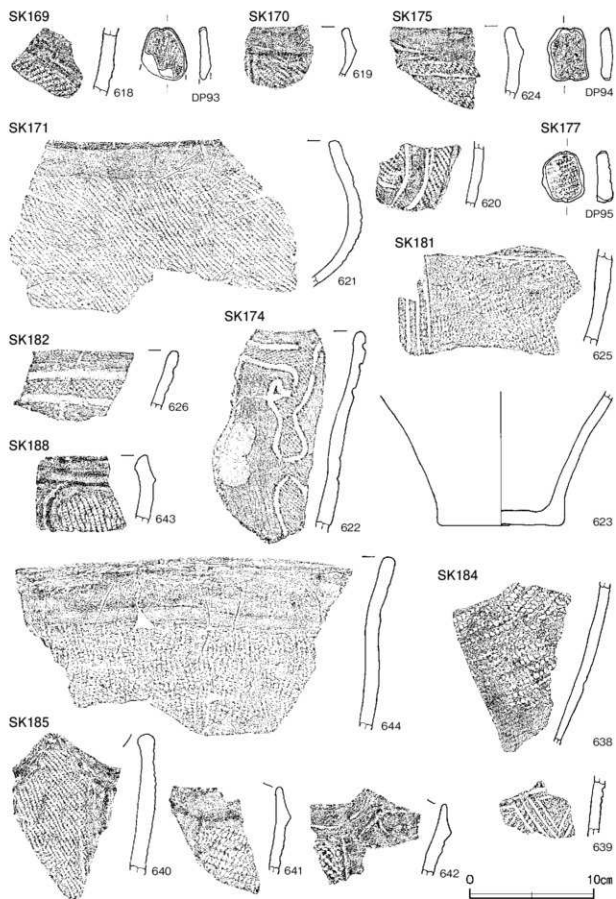
覆土 4層に分層できる。ローム粒子・炭化粒子などを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片22点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。遺物は覆土上層を中心に出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。



第 80 图 第 169 ~ 171 · 174 · 175 · 177 · 181 · 182 · 184 · 185 · 188 号土坑出土遗物实测图

第174号土坑出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
622	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 赤鉄	にぶい黄	普通	沈面による垂線的区画文 車路縄文LR(縦)	覆土上層	
623	縄文土器	深鉢	-	(107)	100	長石・石英	橙	普通	胴下半部強いヘラナゲ	覆土上層	10%

第175号土坑（第72・80図）

位置 調査区東部のD5g6区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第155号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.36m、短径1.18mの楕円形で、長径方向はN-66°-Wである。底面は平坦である。深さは32cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片15点（深鉢）、土製品1点（土器片錘）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第175号土坑出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
624	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	常総種による弧状区画文 車路縄文RL(縦)	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
D194	土器片錘	4.2	3.3	0.9	16.5	長石・石英	にぶい褐	短線部研磨 両端部に浅いキザ目	覆土中	

第177号土坑（第79・80図）

位置 調査区中央部のD4e8区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径0.66mほどのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは22cmで、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片5点（深鉢）、土製品1点（土器片錘）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第177号土坑出土遺物観察表（第80図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
D195	土器片錘	4.1	3.4	1.3	16.3	長石・石英	にぶい黄褐	短線部研磨 両端部に浅いキザ目	覆土中	

第181号土坑（第79・80図）

位置 調査区中央部のD4d3区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径0.94m、短径0.76mの楕円形で、長径方向はN-52°-Wである。底面は平坦である。深

さは40cmで、壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子少量 4 におい褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片8点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。625は覆土上層から出土していることから、流れ込んだものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第181号土坑出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
625	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい褐色	普通	横谷の發帯で口縁部と腹部を区別する浅鉢を伴う深鉢系下 華筋縄文1区(斜) 縄文	覆土上層	

第182号土坑（第79・80図）

位置 調査区中央部のD4d2区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径0.85m、短径0.74mの楕円形で、長径方向はN-78°-Eである。底面は平坦である。深さは35cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック少量 4 におい褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片12点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から後期中葉と考えられる。

第182号土坑出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
626	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	大沈湖による横谷の区画文 華筋縄文1区(横) 土壁	覆土中	

第183号土坑（第79・81図 PL17）

位置 調査区中央部のD4c4区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第184号土坑を掘り込んでいる。

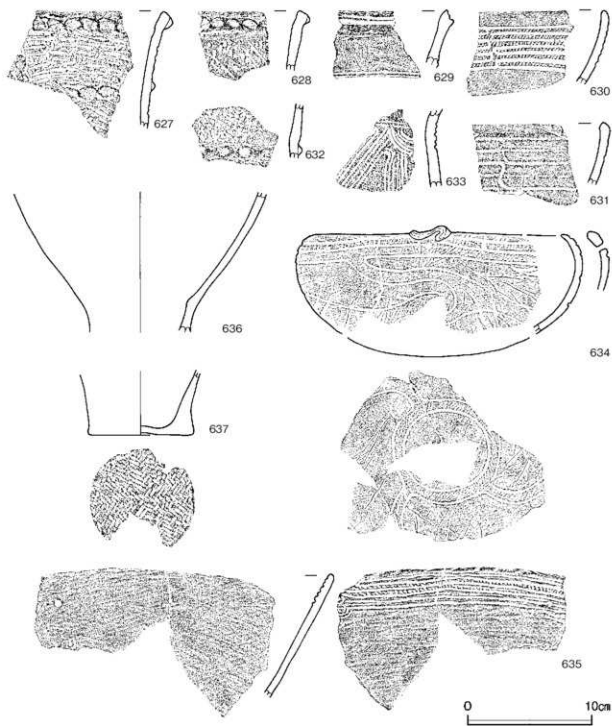
規模と形状 長径1.60m、短径1.16mの楕円形で、長径方向はN-48°-Eである。底面は平坦である。深さは18cmで、壁は外傾している。

覆土 単一層である。ロームブロックを中量含む層が堆積していることから、人為堆積である。

土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片383点（深鉢377、鉢4、浅鉢2）が、覆土中から散乱した状態で出土している。634～636は覆土中層から出土し、2～4点の破片が接合していることから、埋まる過程で、投棄されたものと思われる。



第81図 第183号土坑出土遺物実測図

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性がある。廃絶後は土器捨て場とされたと思われる。時期は、出土土器から後期中葉と考えられる。

第183号土坑出土遺物観察表(第81図)

番号	種類	器種	土層	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
627	織文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	単面織文LR(斜)上に2条の押圧線帯斜付懸架する平行波文 内面2条の四角文	覆土上層	
628	織文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面2条の押圧線帯斜付 単面織文LR(縦)上に3行波文	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
629	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭母	橙	普通	口縁部に沈線文 横走する隆帯で口縁部内面	覆土中層	
630	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	単筋縄文L段(横)上に沈線による横長な幾門形文 横点で棒状文構成	覆土中	
631	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	口縁に沿って横長5条の沈線が周回 単筋縄文段(横)による帯飾文 縦位置状の区別し手法	覆土中	
632	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	単筋縄文L段(斜)上に横走する押圧隆帯胎付	覆土上層	
633	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単筋縄文L段(斜)上に横走する沈線による弧状文 赤下文、斜行文	覆土中層	
634	縄文土器	鉢	[196]	(85)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口縁に横S字形の隆帯胎付 隆帯下に凹 口縁に沿って赤下目 5条の沈線による横長及び垂線の区別文 単筋縄文L段赤帯	覆土中層	40%
635	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤炭母	明赤褐色	普通	外面強いナゲ、内面弱突文 内面6条の沈線胎付 立脚隆帯平ナゲ	覆土中層	
636	縄文土器	深鉢	-	(112)	-	長石・石英	橙	普通	割下半部強いナゲ	覆土中層	10% PL26
637	縄文土器	深鉢	-	(51)	84	長石・石英・炭母	にぶい橙	普通	割下半部強いナゲ 底面網代痕	覆土中	5%

第184号土坑 (第79・80図 PL17)

位置 調査区中央部のD4c4区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第183号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.30m、短径1.10mの楕円形で、長径方向はN-34°-Eである。底面はほぼ平坦である。深さは32cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片48点(深鉢)が、覆土中から散乱した状態で出土している。638は覆土上層から出土していることから、投棄されたものが流れ込みによるものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性ある。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第184号土坑出土遺物観察表 (第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
638	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗	普通	単筋縄文段(縦)地文 割下半部強いナゲ	覆土上層	
639	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	沈線を伴う隆帯による幾何学文 隆帯上に赤下目	覆土中	

第185号土坑 (第79・80図 PL17)

位置 調査区中央部のD4e4区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径1.22mほどの円形で、底面はほぼ平坦である。深さは112cmで、壁は直立している。

覆土 13層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|----------|---|------------------|----------|---|------------------|
| 1 暗 褐色 | 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 暗 褐色 | 色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 黒 褐色 | 色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | 色 | ロームブロック少量 | 10 灰 黄褐色 | 色 | ロームブロック中量 |
| 4 灰 黄褐色 | 色 | ロームブロック少量 | 11 暗 褐色 | 色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 12 暗 褐色 | 色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗 褐色 | 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 13 黒 褐色 | 色 | ロームブロック中量 |
| 7 にぶい黄褐色 | 色 | ロームブロック中量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片50点(深鉢)が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性ある。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第185号土坑出土遺物観察表(第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
640	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	工部一組の除墓蔵による風吹区南文 草路縄文 L.R(計) 焼文	覆土中	
641	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	除墓蔵による風吹区南文 草路縄文L.R(計) 焼文	覆土中	
642	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	除墓蔵による風吹区南文 草路縄文L.R(計) 焼文	覆土中	

第188号土坑(第79・80図 PL17)

位置 調査区中央部のD4a5区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.26m、短径1.11mの楕円形で、長径方向はN-10°-Eである。底面は径1.30mほどのほぼ円形で、平坦である。深さは82cmで、壁は内磨している。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|-----------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量 | 6 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片73点(深鉢)、土製品1点(土器片円盤)が、覆土中から散乱した状態で出土している。644は覆土中層から出土し、いくつかの破片が接合していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第188号土坑出土遺物観察表(第80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
643	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	にぶい褐色	普通	口縁に沿って段帯刷毛付 除墓蔵による南文 草路縄文L.R(計) 焼文	覆土中	
644	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭屑	にぶい褐色	普通	口縁に刷毛付 南文の口縁により新部区南 草路縄文L.R(計) 焼文	覆土中層	

第189号土坑(第82・83図)

位置 調査区中央部のD4g5区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第196号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 径1.22mほどの円形で、底面は平坦である。深さは44cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 6層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 | 5 灰黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片11点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。645は覆土下層から出土していることから、投棄されたか流れ込みによるものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性はある。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第189号土坑出土遺物観察表(第83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
645	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	2条の段帯によるU字形区画文 草面縄文R1(前) 欠損	覆土下層	

第190号土坑(第79・83図 PL18)

位置 調査区中央部のD4a5区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.94m、短径1.60mの楕円形で、南西部が30cmほど突出している。長径方向はN-30°-Wである。底面は平坦である。深さは76cmで、壁は直立している。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	にぶい黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	灰黄褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
3	暗褐色	ロームブロック中量	7	灰黄褐色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)、土製品1点(土器片錘)、石器1点(楔形石器)、剥片1点(チャート)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第190号土坑出土遺物観察表(第83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
646	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい暗褐色	普通	沈着を伴う隆起面による曲線的区画文 草面縄文L1(前) 欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DF96	土器片錘	(3.2)	(3.0)	0.9	(16.3)	長石・石英	にぶい赤褐色	両端部研削 片端部に4×2目一部欠損	覆土中	

第191号土坑(第82・83図)

位置 調査区中央部のD4b7区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.50m、短径1.32mの楕円形で、長径方向はN-29°-Eである。底面はほぼ平坦である。深さは68cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

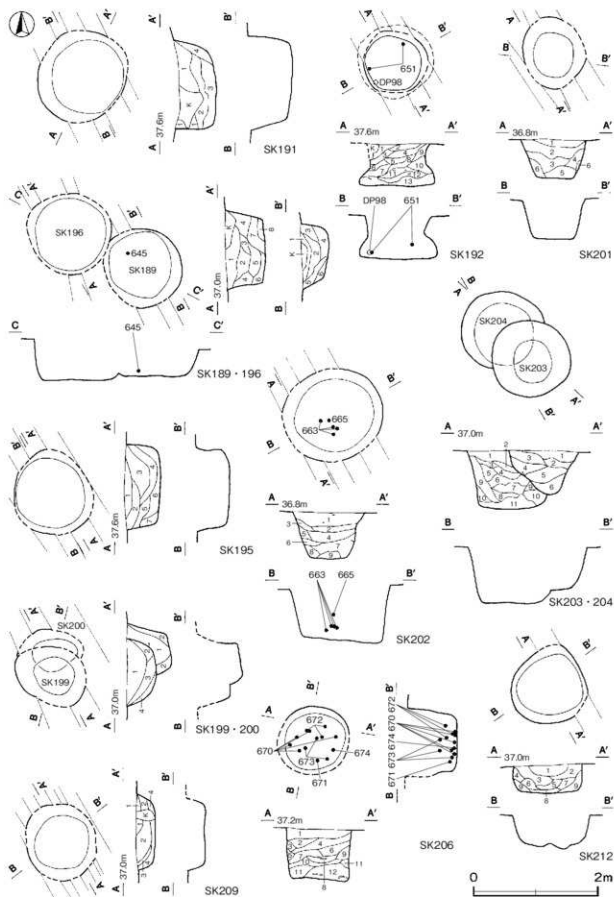
1	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	3	にぶい黄褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック少量	4	灰黄褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片30点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

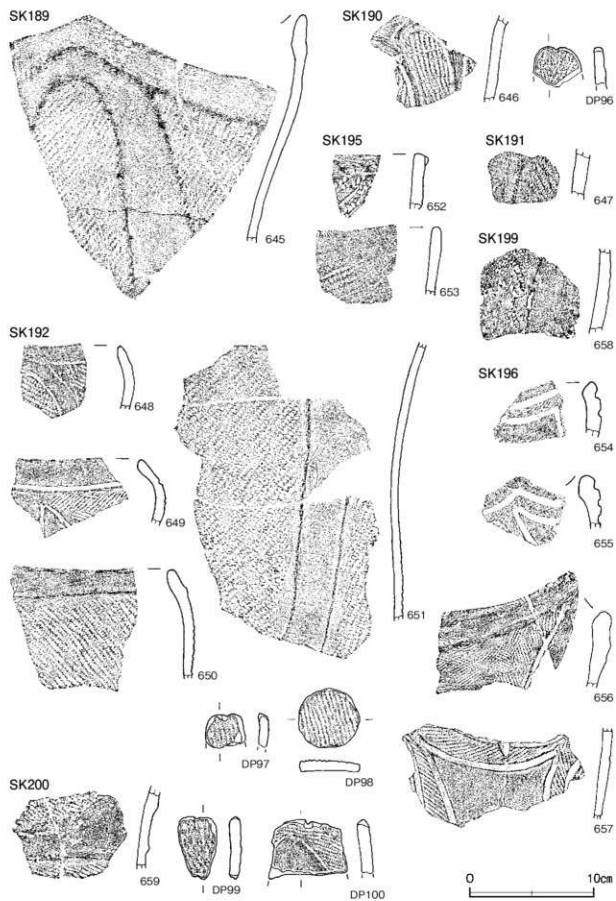
所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第191号土坑出土遺物観察表(第83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
647	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい暗褐色	普通	貼付部が強くナデつけられる隆起面により縄文部と縄文部を区別。草面縄文L1(前) 欠損	覆土中	



第 82 图 第 189 · 191 · 192 · 195 · 196 · 199 ~ 204 · 206 · 209 · 212 号土坑实测图



第 83 图 第 189 · 192 · 195 · 196 · 199 · 200 号土坑出土文物实测图

第192号土坑（第82・83図 PL18）

位置 調査区中央部のD4b5区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 開口部は径0.88mほどのほぼ円形である。底面は径1.20mほどの円形で、平坦である。深さは64cmで、壁は中位まで内増し、上位は外傾している。

覆土 13層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	9 黄褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	10 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 にぶい黄褐色	ロームブロック中量	13 にぶい黄褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
7 にぶい黄褐色	ロームブロック中量、炭化物微量		

遺物出土状況 縄文土器片127点（深鉢）、土製品2点（土器片鉢、土器片円盤）、石器1点（楔形石器）、剥片1点（瑪瑙）が、覆土中から散乱した状態で出土している。651は覆土下層から出土し、離れた位置から出土したものが接合していることから、破碎して投棄されたと思われる。DP98は覆土下層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第192号土坑出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	図様	口径	器高	底径	胎土	色調	絶成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
648	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	沈殿による曲線的区画文 単筋縄文L.R(縦) 変型	覆土中	
649	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	沈殿による曲線的区画文 単筋縄文L.R(横・縦) 変型	覆土中	
650	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	口縁に沿って前面三角形の隆起線四回 単筋縄文L.R(縦) 変型	覆土中	
651	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	胎土質が強く字アツけられる隆起線により縄文部と無文部を区画 単筋縄文L.R(縦) 変型	覆土下層	

番号	図様	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP97	土器片鉢	(27)	(31)	(0.8)	(8.5)	長石・石英	橙	頸縁部研着 片薄部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP98	土器片円盤	47	49	09	249	長石・石英・雲母	にぶい橙	頸縁部研着	覆土下層	

第195号土坑（第82・83図）

位置 調査区中央部のD4b5区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径1.25mほどの円形で、底面は平坦である。深さは48cmで、壁は直立している。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5 灰黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	6 にぶい黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 にぶい黄褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量	7 にぶい黄褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片30点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から後期中葉と考えられる。

第195号土坑出土遺物観察表(第83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
602	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿って押圧線粗線付 (副) 上は斜行波線文	単筋縄文区 覆土中	
603	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐	普通	口縁に沿ってナメ	単筋縄文区(副) 施文	覆土中

第196号土坑(第82・83図)

位置 調査区中央部のD4g5区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第189号土坑との新旧関係は不明である

規模と形状 径1.30mほどのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは70cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 灰黄褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片63点(深鉢)が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第196号土坑出土遺物観察表(第83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
654	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	大沈面による区画文 細目の単筋縄文LR(横) 光澤	覆土中	
655	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶみ	普通	大沈面による垂線の区画文 細目の単筋縄文LR(横)光澤	覆土中	654と同一個体
656	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶみ	普通	口縁に沿って斜行波線付 波線を伴う隆起線による扇状区画文 細目の単筋縄文LR(縦・横)光澤	覆土中	
657	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	大沈面による扇状区画文 単筋縄文LR(縦・横)光澤	覆土中	

第199号土坑(第82・83図 PL18)

位置 調査区中央部のD4g0区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第200号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.18m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。底面はほぼ平坦である。深さは45cmで、壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|---------|--------------------|
| 1 灰黄褐色 | ローム粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 にぶみ褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片13点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第199号土坑出土遺物観察表(第83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
658	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶみ	普通	帯状線による縦文部と横文部を区画 単筋縄文LR(縦)光澤	覆土中	

第200号土坑（第82・83図 PL18）

位置 調査区中央部のD4g0区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第199号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南半部を第199号土坑に掘り込まれているが、現存部から長径1.08m、短径0.82mの楕円形と推定できる。長径方向はN-80°-Eで、底面は平坦である。深さは68cmで、壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片38点（深鉢37、小形浅鉢1）、土製品2点（土器片鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴の可能性はある。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第200号土坑出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
659	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	接点部により縄文部と無文部を区画 厚部縄文(器)光澤	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP99	土器片鉢	5.1	3.1	1.0	15.5	長石・石英	褐色	縁部研磨 両端部に浅いキズ目	覆土中	
DP100	土器片鉢 (47)	6.3	1.3	0.60		長石・石英	褐色	縁部研磨 片端部にキズ目 一部欠損	覆土中	

第201号土坑（第82・84図 PL18）

位置 調査区中央部のE4a0区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.15m、短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-12°-Wである。底面は平坦である。深さは60cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 6 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片37点（深鉢36、蓋1）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第201号土坑出土遺物観察表（第84図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
660	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部に縄文・円形研成で区画された口縁口縁に沿って炭化物付、底面に土器区画文	覆土中	
661	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿ってナゲ 棒状工具による縦線文	覆土中	
662	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	沈殿による垂線状区画文 区画内斜交文	覆土中	

第202号土坑 (第82・84図 PL18)

位置 調査区中央部のD47区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径1.54mの円形で、底面は平坦である。深さは88cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量	7	黒褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	ローム粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5	灰黄褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片76点(深鉢)が、覆土中から散乱した状態で出土している。遺物は覆土下層から覆土中層にかけて多く出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第202号土坑出土遺物観察表 (第84図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
663	縄文土器	深鉢	26.8	17.8	-	長石・石英・ 雲母	にふい赤褐	普通	口縁に沿って断面三角形の隆起線周囲 単節縄文区(仮) 地文	覆土下層	20% PL24
664	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿って隆起線周囲 注瀬を伴う隆起線による波打字影区画文 単節縄文区(仮) 地文	覆土中	
665	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿って隆起線周囲 単節縄文LR(仮) 地文	覆土中層	

第203号土坑 (第82・84図)

位置 調査区中央部のD4h5区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第204号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.25mほどの円形で、底面は丸底である。深さは65cmで、壁は外傾している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	にふい赤褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量	4	灰黄褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3	黒褐色	ロームブロック少量	6	にふい赤褐色	ロームブロック少量

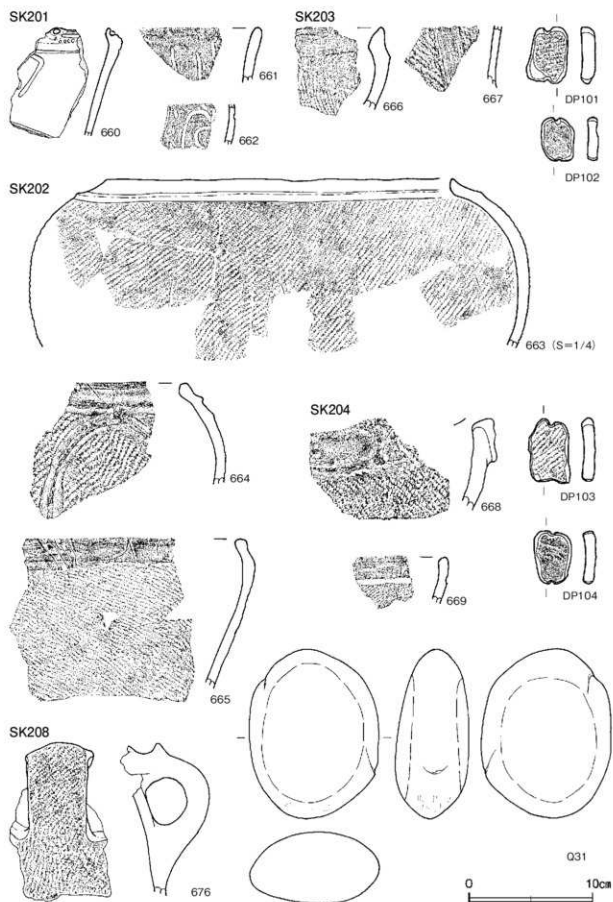
遺物出土状況 縄文土器片24点(深鉢)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第203号土坑出土遺物観察表 (第84図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
666	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 雲母	にふい赤褐	普通	口縁に沿って隆起線周囲 単節縄文区(仮) 地文	覆土中	
667	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	隆起線による縄文部と無文部を区画 単節縄文区(仮) 地文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP101	土器片	4.5	4.5	1.2	19.6	長石・石英	にふい赤褐	同線部経巻 両端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP102	土器片	3.4	2.7	0.9	9.9	長石・石英	橙	同線部経巻 両端部にキザミ目	覆土中	



第84图 第201～204·208号土坑出土遗物实测图

第204号土坑（第82・84図）

位置 調査区中央部のD4h5区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第203号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.25mほどの円形で、底面は平坦である。深さは90cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2 にいり黄褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 灰黄褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3 にいり黄褐色	ロームブロック少量	9 にいり黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量	10 褐色	ロームブロック少量
5 灰黄褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	11 灰黄褐色	ロームブロック少量
6 褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 縄文土器片51点（深鉢）、土製品2点（土器片錘）が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第204号土坑出土遺物観察表（第84図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
698	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 珪石	にいり橙	普通	谷込線による指円形区画文・単面縄文(LR)(編)縄文	覆土中	
699	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・ 珪石	明赤褐	普通	口縁に沿って沈線列状 縦目の単面縄文(LR)(編)縄文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP103	土器片錘	5.1	3.1	1.1	20.2	長石・石英	灰黄褐	凹線部研磨 両端部にキザミ目	覆土中	
DP194	土器片錘	4.2	3.0	1.0	14.1	長石・石英	橙	凹線部研磨 両端部にキザミ目	覆土中	

第206号土坑（第82・85図 PL19）

位置 調査区中央部のD4g2区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径1.10mの円形で、底面は平坦である。深さは82cmで、壁は直立している。

覆土 12層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

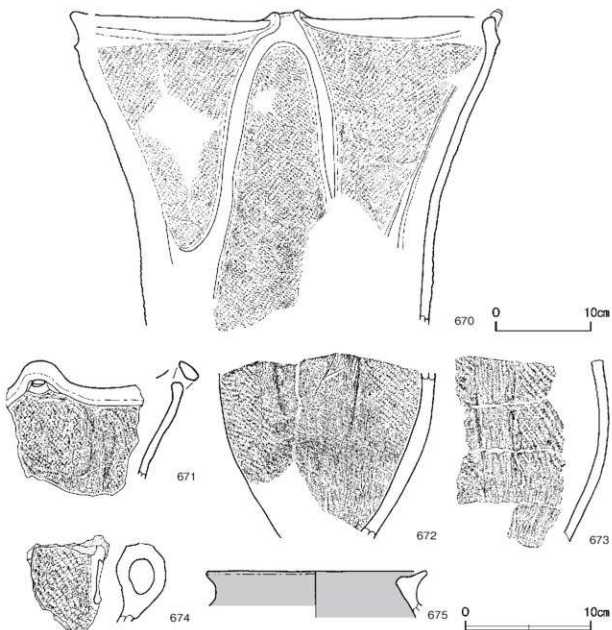
1 褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・白色物質少量、炭化物微量
2 灰黄褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・白色物質少量、炭化物微量
3 にいり黄褐色	ロームブロック少量		
4 にいり黄褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	11 灰黄褐色	ロームブロック少量
5 にいり黄褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	12 にいり黄褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量		
7 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量		
8 灰黄褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・白色物質少量		

遺物出土状況 縄文土器片133点（深鉢131、壺2）、石器1点（敲石）が、覆土中から散乱した状態で出土している。遺物は覆土下層から覆土中層にかけて多く出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。白色物質を含む覆土第8～10層の分析の結果、骨貝類は確認されなかったが、炭化堅果類と炭化材が検出されている。炭化堅果類は、落葉広葉樹のオニグルミの核の可能性が指摘されている。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第206号土坑出土遺物観察表(第85図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
670	縄文土器	深鉢	[45.0]	(33.4)	-	長石・石英・ 炭粒	にぶい橙	普通	陸奥編による弧状文 陸奥編によるU字帯区画 文 単筋縄文(縦) 交錯	覆土下層	30% PL24
671	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	陸奥編による内帯区画文 単筋縄文LR(縦)	覆土下層	
672	縄文土器	深鉢	-	(13.1)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	陸奥編による縄文部と無文部区画 単筋縄文 LR(縦) 水堀 製下半部強いヘラナデ	覆土下層	10% PL26
673	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	陸奥編による縄文部と無文部区画 単筋縄文 LR(縦) 水堀	覆土下層 覆土中層	
674	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	橙	普通	単筋縄文LR(縦) 施文	覆土下層	
675	縄文土器	壺	[17.4]	(3.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面赤彩	覆土中	5%



第85図 第206号土坑出土遺物実測図

第208号土坑(第84・86図)

位置 調査区中央部のD4g2区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第213号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.68m、短径0.54mの楕円形で、長径方向はN-68°-Eである。底面はほぼ平坦である。深さは52cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 灰黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢7、壺1)、石器1点(磨石)が、覆土中からまばらな状態で出土している。676は覆土下層から、Q31は覆土上層からそれぞれ出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第208号土坑出土遺物観察表(第84図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
676	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	におい暗	普通	指す頂部に横、指す底辺に縦 平筋縄文型。(縦) 横文	覆土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q31	磨石	13.5	10.3	6.0	1134.6	砂岩	全面磨り面	下端部強い研磨	覆土上層		

第209号土坑(第82・90図 PL19)

位置 調査区中央部のD4g6区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.24m、短径1.09mの楕円形で、長径方向はN-11°-Wである。底面は平坦である。深さは30cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量 | 4 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片26点(深鉢)、石器1点(敲石)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第209号土坑出土遺物観察表(第90図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
677	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	におい非暗	普通	発掘面で縄文部と新文部を区画 [縦] 横筋	覆土中	
678	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒黒	普通	発掘面で縄文部と新文部を区画 [縦・斜] 横筋	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q32	敲石	12.1	11.4	5.2	980.4	安山岩	側面・下端部微細な縦打痕		覆土中		

第212号土坑 (第82・90図)

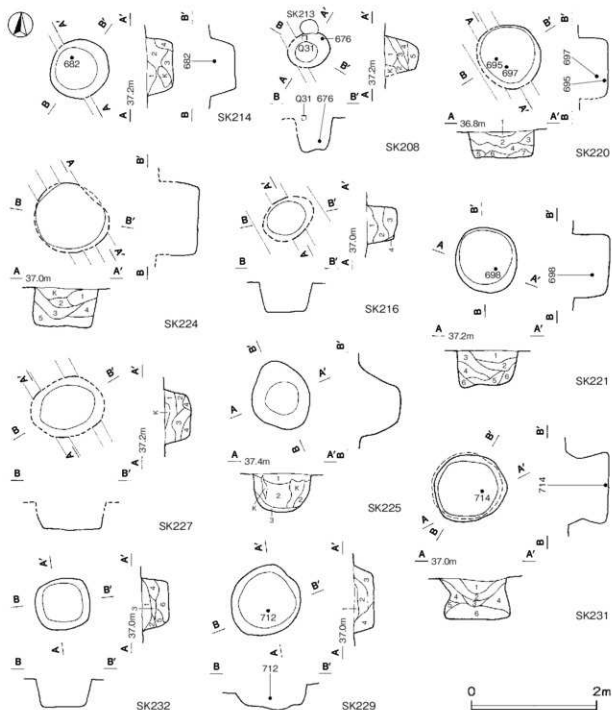
位置 調査区中央部のD4h3区。標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径1.22mほどの不整形形で、底面は凹凸がある。深さは54cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 に近い黄褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 に近い黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | |



第86図 第208・214・216・220・221・224・225・227・229・231・232号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 14 点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 212 号土坑出土遺物観察表（第 90 図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴	ほか	出土位置	備考
679	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	陸奥網による縄文部と新文部区画	半面縄文土器（網）参照	覆土中	

第 213 号土坑（第 87 図 PL19）

位置 調査区中央部の D 4g2 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

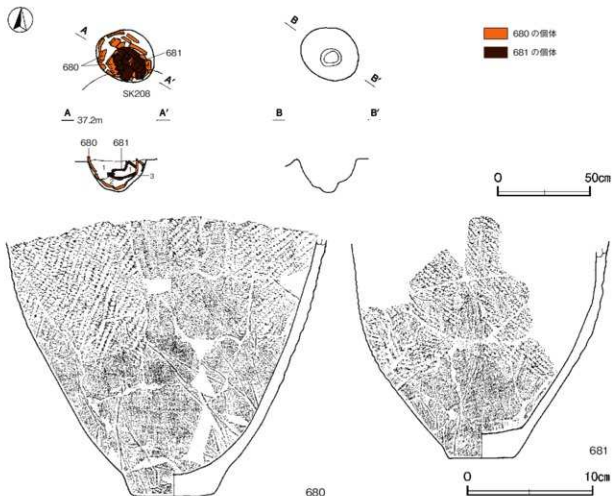
重複関係 第 208 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.34 m、短径 0.26 m の楕円形で、長径方向は N - 33° - W である。底面は皿状である。深さは 18 cm で、壁は外傾している。底面上半部を欠く土器が正位で置かれ、さらにその中により小形の土器が入り子の状態で納められている。

覆土 3 層に分層できる。土器の外側には、締まりが強い暗褐色土が充填されており、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、白色粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量（締まり強い）



第 87 図 第 213 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 21 点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。680 は上半部を欠いているが、掘方から納まるように正位の状態を確認した。680 より小形の 681 も上半部を欠き、680 に入り子の状態で確認した。

所見 性格は、上半部を切断した深鉢を埋納するための土坑と考えられる。さらに、その深鉢の中に、より小形の深鉢を置いたものと思われる。このような土器の出土状況から深鉢には罍の緒などが納められた可能性がある。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 213 号土坑出土遺物観察表（第 87 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
680	縄文土器	深鉢	-	(20.3)	6.2	長石・石英	橙	普通	発掘前により縄文部と無文部区画 単節縄文器、(仮)名層 掘下子器強いヘラナダ	底面	30% PL26
681	縄文土器	深鉢	-	(17.0)	5.1	長石・石英	橙	普通	発掘前により縄文部と無文部区画 単節縄文器、(仮)名層	覆土下層	30% PL26

第 214 号土坑（第 86・90 図 PL19）

位置 調査区中央部の D 4g3 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径 0.98 m ほどのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは 44cm で、壁は直立している。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 濃い黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 17 点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。682 は覆土上層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 214 号土坑出土遺物観察表（第 90 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
682	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・炭粒	にぶい橙	普通	発掘前単節縄文器、(編)編文 2 条の発掘前埋納 内面に中央部が貫通する楕円形の孔	覆土上層	
683	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	発掘前単節縄文器、(編)編文 2 条	覆土中	

第 216 号土坑（第 86・90 図）

位置 調査区中央部の E 5a1 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径 0.86 m、短径 0.62 m の楕円形で、長径方向は N-35°-E である。底面は平坦である。深さは 46cm で、壁はほぼ直立している。

覆土 4 層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 濃い黄褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 6 点（深鉢）が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第216号土坑出土遺物観察表(第90図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
684	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	大沈殿による区画文 縦目の単筋縄文LR(縦・横・斜)	覆土中	

第218号土坑(第88・89図 PL20)

位置 調査区中央部のD49区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 開口部は径1.70mほどの円形である。底面は径2.00mほどの円形で、ほぼ平坦である。深さは110cmで、壁は中位まで内彎し、土位はほぼ直立している。

覆土 12層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。覆土下層の黒褐色土上で焼土ブロックが2か所確認できたが、焼土ブロックの近くの壁は焼けていないことから、焼土ブロックは埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	9	灰黄褐色	ローム粒子微量
4	灰黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	11	にぶ~暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック中量	12	黒褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片241点(深鉢240、鉢1)、土製品5点(土器片鎌)、石製品1点(石棒片a)、剥片2点(頁岩、チャート)、被熱した礫1点(花崗岩)が、覆土中層を中心に散乱した状態で出土している。多くの遺物は覆土中層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

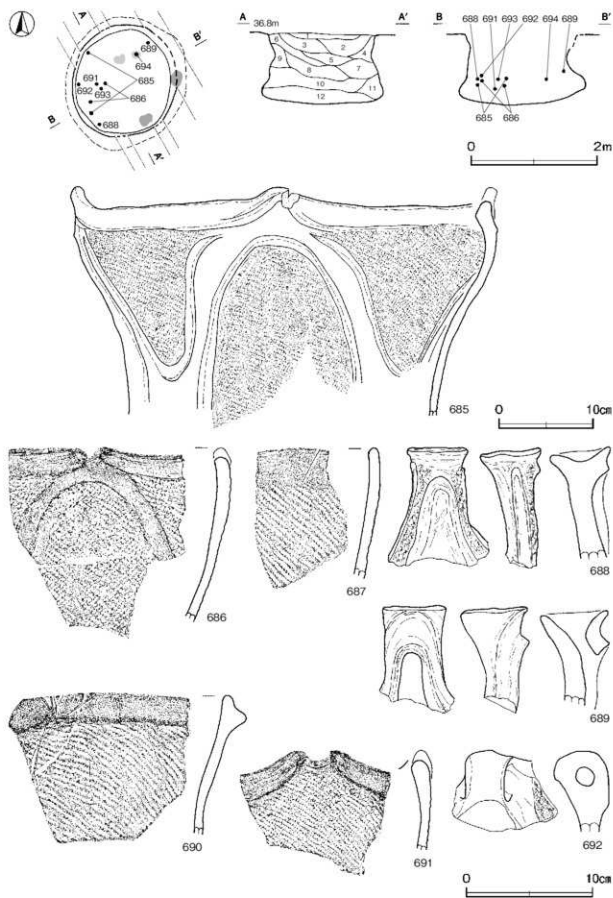
破砕された貝類のブロックが覆土下層の黒褐色土上から出土した。破砕された貝類は第61号土坑で確認された破砕された貝類と同じようにウミナシ類から成っており、総重量は963gである。埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。廃絶後に破砕された貝類が投棄され、地点貝塚が形成されている。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

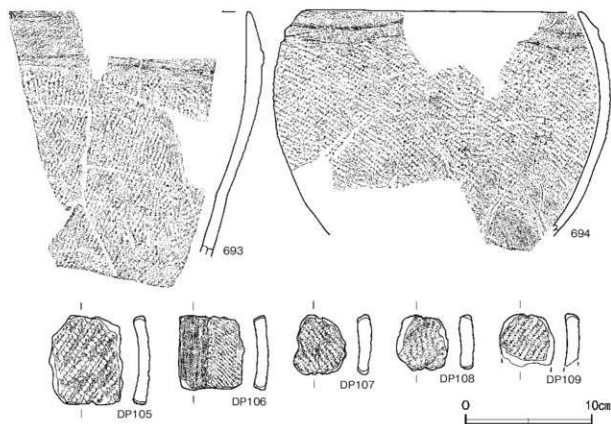
第218号土坑出土遺物観察表(第88・89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
685	縄文土器	深鉢	440	(240)	-	長石・石英・赤母	暗	普通	隆起線による弧状区画文 隆起線によるU字帯(横文・単筋縄文LR(縦))光溜	覆土中層	30% PL27
686	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	暗	普通	2条一組の隆起線によるU字帯区画文 単筋縄文LR(縦)光溜	覆土中層	PL27
687	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	灰黄褐	普通	口縁部無文帯 単筋縄文LR(縦)施文	覆土中	PL27
688	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	にぶ~暗	普通	左筋隆起線による逆U字文 舞踏隆起線による縦長の逆U字文	覆土中層	動物並置把手、PL27
689	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	にぶ~暗	普通	横筋クワツク状で中葉 前面三角形の隆起線による逆U字文	覆土中層	動物並置把手、PL27
690	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶ~暗	普通	口縁に沿って隆起線周囲 無筋縄文LR(縦)施文	覆土中	PL27
691	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗	普通	隆起線による横円形の区画文 単筋縄文LR(縦・斜)施文	覆土中層	PL27
692	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤母	にぶ~暗	普通	隆起線による弧状区画文 単筋縄文LR(縦)	覆土中層	PL27
693	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部無文帯 単筋縄文LR(縦)施文	覆土中層	PL27
694	縄文土器	鉢	(220)	(127)	-	長石・石英	にぶ~暗	普通	口縁に沿って2条の隆起線周囲 単筋縄文LR(縦)施文	覆土中層	20% PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP105	土器片鱗	7.1	5.9	1.4	57.8	長石・石英	灰褐	両縁部粗い研物 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP106	土器片鱗	5.9	5.3	1.1	42.3	長石・石英	にぶ~暗	両縁部粗い研物 両端部に浅いキザミ目	覆土中	



第 88 图 第 218 号土坑·出土遗物实测图



第 89 図 第 218 号土坑出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP107	土器片鉢	4.7	4.1	1.1	22.5	長石・石英	にぶい褐	周縁部研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP108	土器片鉢	4.4	4.1	1.1	22.5	長石・石英	にぶい褐	周縁部粗い研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP109	土器片鉢	(4.1)	4.3	1.2	(24.5)	長石・石英	にぶい赤褐	周縁部研磨 片端部にキザミ目 一部欠損	覆土中	

第 220 号土坑 (第 86・90 図)

位置 調査区中央部の D 419 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径 1.00 m ほどの円形で、底面は平坦である。深さは 46cm で、壁は直立している。

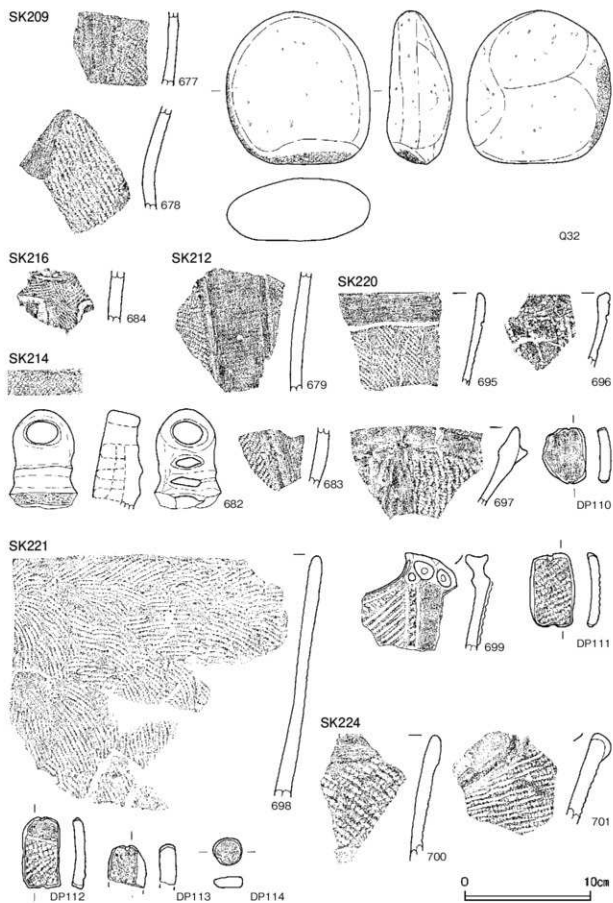
覆土 7 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

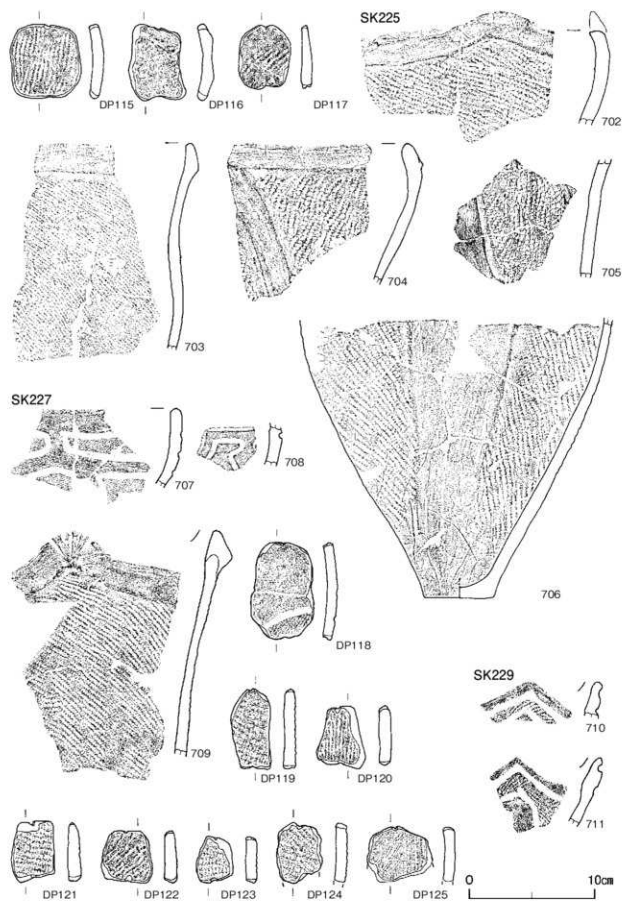
- | | | | |
|--------|----------------|---------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 53 点 (深鉢), 土製品 1 点 (土器片鉢), 被熱した礫 1 点 (花崗岩) が、覆土中から散乱した状態で出土している。695 は覆土下層から、697 は覆土中層からそれぞれ出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

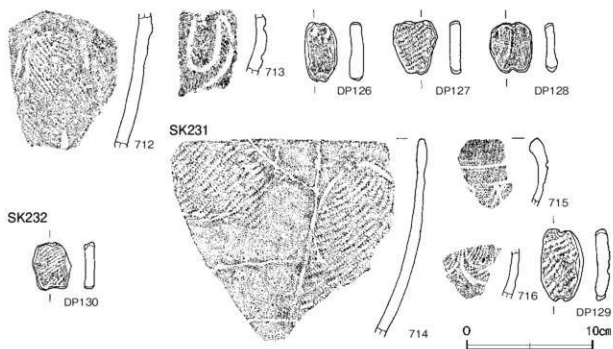
所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。



第 90 图 第 209 · 212 · 214 · 216 · 220 · 221 · 224 号土坑出土遗物实测图



第91图 第224·225·227·229号土坑出土遗物实测图



第92図 第229・231・232号土坑出土遺物実測図

第220号土坑出土遺物観察表(第90図)

番号	種別	図様	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
695	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	口縁下に横走波線文 結節文を伴う単面縄文(区) 捺文	覆土下層	
696	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	に濃い褐色	普通	連続斜交文による区画文	覆土中	
697	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁に沿って交角を伴う隆起線理同 隆起線により縄文部と無文部区画 帯路縄文(区) 本型	覆土中層	

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP110	土器片縁	4.4	2.4	1.0	18.8	長石・石英	橙	縁縁部研磨 両端部に浅いキズ目	覆土中	

第221号土坑(第86・90図 PL20)

位置 調査区中央部のD4g2区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径1.10mほどの円形で、底面は平坦である。深さは56cmで、壁は直立している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|-------|------------------|
| 1 濃い黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片60点(深鉢59, 鉢1), 土製品4点(土器片鎌3, 土器片円盤1), 剥片1点(石英)が、覆土中から散乱した状態で出土している。698は覆土中層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第 221 号土坑出土遺物観察表 (第 90 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
098	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	口縁に沿ってナギ 単筋縄文 LR (縦・横・斜) 縄文	覆土中層	
099	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	波線部に内縦押圧文、口唇部に内縦文 キギミ目をもち縁部垂下 斜行波線文光斑	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP111	土器片鉢	5.8	3.5	1.1	26.9	長石・石英	橙	縦線部研磨 両端部に浅いキギミ目	覆土中	
DP112	土器片鉢	5.6	3.0	1.0	21.4	長石・石英	にぶい橙	縦線部研磨 両端部に浅いキギミ目	覆土中	
DP113	土器片鉢	3.5	3.0	1.4	16.1	長石・石英	黒灰	縦線部研磨 片端部に浅いキギミ目 一部欠損	覆土中	
DP114	土器片内蓋	2.1	2.3	0.9	5.3	長石・石英	にぶい橙	縦線部研磨	覆土中	

第 224 号土坑 (第 86・90・91 図)

位置 調査区中央部の D 4 f5 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径 1.00 m ほどのほぼ円形で、底面は平坦である。深さは 52cm で、壁は直立している。

覆土 5 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片 29 点 (深鉢)、土製品 3 点 (土器片鏟) が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第 224 号土坑出土遺物観察表 (第 90・91 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴はか	出土位置	備考
700	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁に沿って隆起線貼付 単筋縄文 LR (縦) 縄文	覆土中	
701	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐	普通	中央部による楕円形区画文 単筋縄文 RL (斜) 縄文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP115	土器片鉢	5.8	5.6	1.1	38.0	長石・石英	にぶい橙	縦線部研磨 両端部に浅いキギミ目	覆土中	
DP116	土器片鉢	6.1	4.5	1.3	29.6	長石・石英	にぶい橙	縦線部粗い研磨 両端部に浅いキギミ目	覆土中	
DP117	土器片内蓋	5.0	4.2	0.9	24.5	長石・石英	にぶい黄橙	縦線部研磨 両端部に浅いキギミ目	覆土中	

第 225 号土坑 (第 86・91 図)

位置 調査区中央部の D 4 c9 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径 1.14 m、短径 0.92 m の楕円形で、長径方向は N-23°-W である。底面は平坦である。深さは 64cm で、壁は外傾している。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 35 点 (深鉢) が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第225号土坑出土遺物観察表(第91図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
702	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	灰褐色	普通	口縁に沿って隆起線1回 単筋縄文LR(縦・斜)	覆土中	
703	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤砂	褐色	普通	隆起線1回 縦目の単筋縄文LR(縦) 施文	覆土中	
704	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐色	普通	口縁に沿って隆起線1回 3条一組の隆起線による魚鱗状の区画文 単筋縄文LR(斜) 施文	覆土中	
705	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	隆起線により縄文部と無文部区画 単筋縄文LR(縦・斜) 施文	覆土中	
706	縄文土器	深鉢	-	22.2	5.6	長石・石英・赤砂	明赤褐色	普通	隆起線により縄文部と無文部区画 単筋縄文LR(縦) 施文 腹下部強いナナ	覆土中	30% PL26

第227号土坑(第86・91図)

位置 調査区中央部のD4g7区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長径1.15m、短径0.94mの楕円形で、長径方向はN-58°-Eである。底面はほぼ平坦である。深さは42cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 4 褐色 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片65点(深鉢)、土製品8点(土器片鉢)が、覆土中から散乱した状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第227号土坑出土遺物観察表(第91図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
707	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	土丸裏による区画文 縦細目の単筋縄文LR(縦・斜) 施文	覆土中	
708	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	土丸裏による区画文 縦細目の単筋縄文LR(縦・斜) 施文	覆土中	外・内面赤褐色
709	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁に沿って隆起線1回 単筋縄文LR(縦) 施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP118	土器片鉢	7.7	5.0	1.2	40.8	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	縦線部研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP119	土器片鉢	6.4	3.1	1.1	25.5	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	縦線部研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP120	土器片鉢	4.9	3.9	1.0	20.8	長石・石英・赤色砂子	褐色	縦線部研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP121	土器片鉢	4.9	3.4	1.1	22.0	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	縦線部研磨 両端部に浅いキザミ目 一部剥離	覆土中	
DP122	土器片鉢	4.2	4.1	1.0	24.6	長石・石英・赤色砂子	明褐色	縦線部研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP123	土器片鉢	3.7	2.9	0.9	12.4	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	縦線部低い研磨 両端部に浅いキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP124	土器片鉢	(4.8)	3.7	1.0	(20.9)	長石・石英	灰褐色	縦線部低い研磨 片端部に浅いキザミ目 一部欠損	覆土中	
DP125	土器片鉢	(4.4)	5.2	1.0	(26.0)	長石・石英	黒褐色	縦線部研磨 片端部に浅いキザミ目 一部欠損	覆土中	

第229号土坑(第86・91・92図)

位置 調査区中央部のD5il区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 径1.10mほどのほぼ円形で、底面はやや凹凸がある。深さは32cmで、壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 39 点（深鉢）、土製品 3 点（土器片鏟）、石器 1 点（台石）が、覆土中から散乱した状態で出土している。712 は覆土中層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第 229 号土坑出土遺物観察表（第 91・92 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地産	文様の特徴はか	出土位置	備考
710	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	太沈殿による区画文 単筋縄文LR (縦・斜)	覆土中	
711	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	太沈殿による区画文 単筋縄文LR (縦・斜)	覆土中	710と同一個体。
712	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	漆絵による塗り字形区画文 単筋縄文LR (縦・斜) 宛別	覆土中層	
713	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	沈殿による縞状の区画文 単筋縄文LR (縦・斜) 宛別	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP126	土器片鏟	4.7	2.6	1.1	15.1	長石・石英	橙	両縁部研磨 両端部にキザミ目	覆土中	
DP127	土器片鏟	4.3	3.5	0.9	14.7	長石・石英・赤色粒子	黒	両縁部粗い研磨 両端部に浅いキザミ目	覆土中	
DP128	土器片鏟	4.0	3.4	1.0	12.4	長石・石英	黒褐色	両縁部研磨 両端部にキザミ目	覆土中	

第 231 号土坑（第 86・92 図 PL20）

位置 調査区中央部の E 5a3 区、標高 37 m ほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 開口部は径 1.10 m の円形である。底面は径 1.05 m の円形で平坦である。深さは 67cm で、壁は中位まで内傾し、上位は外傾している。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|--------------------|---|------|--------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 4 | 黒 灰色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 | 暗 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 | 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 | 黒 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 18 点（深鉢）、土製品 1 点（土器片鏟）が、覆土中からまばらな状態で出土している。714 は覆土下層から出土していることから、埋土と一緒に投棄されたものと思われる。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。

第 231 号土坑出土遺物観察表（第 92 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地産	文様の特徴はか	出土位置	備考
714	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	太沈殿による縞縞状の区画文 単筋縄文RL (縦・斜) 宛別	覆土下層	
715	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	灰褐色	普通	沈殿による区画文 縦目の単筋縄文LR (縦・斜) 宛別	覆土中	
716	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	暗褐色	普通	沈殿による縞縞状の区画文 単筋縄文RL (縦・斜) 宛別	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP129	土器片鏟	5.7	3.3	1.2	27.0	長石・石英	灰褐色	両縁部研磨 両端部にキザミ目	覆土中	

第232号土坑 (第86・92図 PL20)

位置 調査区中央部のD5日区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

規模と形状 長軸0.92m、短軸0.86mの隅丸方形で、長軸方向はN-82°-Eある。底面は平坦である。深さは44cmで、壁はほぼ直立している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 灰黄褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片14点(深鉢)、土製品1点(土器片鏝)が、覆土中からまばらな状態で出土している。

所見 性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。時期は、出土土器から中期末葉と考えられる。

第232号土坑出土遺物観察表(第92図)

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP138	土器片鏝	3.8	3.1	0.9	11.5	長石・石英	橙	縦線部粗い研削 両端部に浅いキザミ目	覆土中	

表4 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径×短径(m)深さ(cm)	深さ(cm)						
4	C3/9	N-54°-W	不整楕円形	3.86 × 1.52	60	ほぼ平坦	外傾	自然	縄文土器、土製品、石器	中期末葉	本跡→SK5 底面に段差
5	C3/9	-	円形	径1.60	84	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器、土製品	中期末葉	SK4→本跡
13	D3/6	-	ほぼ円形	径1.12	68	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器、土製品	中期末葉	SI1→本跡
14	C3/6	-	円形	径1.05	56	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	後期前葉	
15	C3/6	-	ほぼ円形	径1.02	48	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	-	
16	C3/7	N-17°-E	楕円形	0.72 × 0.64	24	ほぼ平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	-	
18	C3/7	N-33°-W	隅丸長方形	0.90 × 0.62	28	平坦	縦斜	自然	縄文土器	-	
21	C3/7	N-40°-W	長方形	0.82 × 0.66	30	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	後期前葉	
24	C3/7	N-42°-W	長方形	1.18 × 0.56	76	平坦	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	
26	C3/9	N-35°-E	楕円形	2.88 × 2.08	86	凹凸	ほぼ直立	人為	縄文土器、土製品	後期前葉	SK57→本跡→SK29
27	C3/6	-	ほぼ円形	径1.00	62	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	-	
28	C3/9	N-79°-W	不整楕円形	1.72 × 1.04	54	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	後期前葉	SK57→本跡
29	C3/8	N-31°-E	楕円形	2.08 × 1.78	68	屈状	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	SK26・91→本跡
33	C3/8	-	円形	径1.25	64	平坦	縦斜	-	縄文土器	-	SK28・59→本跡
35	C3/8	N-63°-E	不整楕円形	1.68 × 1.10	28	ほぼ平坦	外傾	-	縄文土器	後期前葉	本跡→SK37
36	C3/8	N-37°-E	楕円形	1.96 × 1.48	82	平坦	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	SK37・90→本跡→SK56
37	C3/8	N-10°-W	楕円形	1.36 × 0.92	116	屈底状	外傾内彎	人為	縄文土器	後期前葉	SK35→本跡→SK36
38	C3/8	N-40°-W	楕円形	2.56 × 1.35	44	平坦	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	SK28→本跡→SK33
39	C3/8	N-34°-W	楕円形	[1.46] × 1.10	28	屈状	縦斜	人為	縄文土器	後期前葉	本跡→SK46・54
46	C3/8	N-40°-E	不整楕円形	1.42 × 0.88	34	屈状	縦斜	人為	縄文土器	後期前葉	SK36・39・90→本跡
54	C3/9	N-18°-E	不整楕円形	2.06 × 1.42	72	屈状	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	SK29→本跡
56	D3/5	-	円形	径0.98	38	平坦	外傾	自然	縄文土器	-	SI1→本跡
57	C3/9	N-12°-W	楕円形	3.34 × 1.62	60	凹凸平坦	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	本跡→SK26・28
58	C3/8	N-77°-E	隅丸長方形	1.24 × 0.94	34	屈状	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	本跡→SK38

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		断面	壁面	覆土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径×短径 (m)	壁高 (cm)						
59	C 3e7	N-19°-W	楕丸長方形	3.65×3.21	38	ほぼ 平坦	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	本跡→SK33
60	C 3e8	-	不定形	2.90×2.66	40	ほぼ 平坦	直立	自然	縄文土器	後期前葉	-
61	D 4b9	-	[円形]	[径1.15]	94	平坦	外傾	人為	縄文土器、貝類、 縄野貝の塊	本跡→SD10	地点見取
62	D 4c9	N-28°-W	楕円形	1.38×1.04	116	平坦	内傾	人為	縄文土器、石器	中期末葉	本跡→SD 1 袋状土坑
63	D 5d2	N-55°-W	楕円形	1.36×0.96	94	平坦	直立	人為	縄文土器、土製品	中期末葉	-
64	D 5c3	N-35°-W	不整楕円形	2.86×1.84	64	中央 凹み	外傾	自然	縄文土器	後期前葉	北東部に段差
65	D 5d2	N-10°-E	不整楕円形	1.86×1.32	48	面状	外傾	自然	縄文土器	-	-
66	D 5c3	N-42°-W	円形	径0.62	56	面状	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	-
67	D 5c5	N-86°-W	[楕円形]	(1.18×0.50)	104	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品	中期末葉	袋状土坑
68	D 5e6	-	円形	径1.29	112	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品、石器、 銅片	中期末葉	袋状土坑
69	D 5e6	-	円形	径1.70	100	平坦	内傾	人為	縄文土器、石器、銅片、 縄野貝の塊	中期末葉	袋状土坑
70	D 5d3	N-6°-W	楕円形	1.25×0.96	54	ほぼ 平坦	直立	自然	縄文土器	中期末葉	-
71	D 5e5	-	不整円形	径1.02	84	平坦	ほぼ 直立	人為	縄文土器	-	-
72	D 5e6	-	不定形	1.80×1.38	26	凹凸	緩斜	人為	縄文土器	-	-
73	D 5e7	N-10°-E	不定形	2.92×1.86	92	凹凸	外傾	人為	縄文土器	中期末葉	北東部に段差
74	D 5d2	N-28°-W	楕円形	1.50×1.28	78	平坦	内傾	人為	縄文土器	-	-
77	D 5d9	N-47°-E	楕円形	1.68×1.26	58	平坦	ほぼ 直立	人為	縄文土器、石器、銅片	中期末葉	SI 3→本跡
79	D 5d9	N-50°-E	楕円形	1.34×1.14	56	平坦	外傾	人為	縄文土器、石器	中期末葉	-
80	D 6e1	-	円形	径1.36	94	平坦	内傾	人為	縄文土器、銅片、 石器の母岩	中期末葉	袋状土坑
81	D 5e8	N-41°-E	楕円形	1.60×1.26	66	平坦	ほぼ 直立	人為	縄文土器、土製品	中期末葉	-
82	D 5d3	N-4°-W	楕円形	1.15×0.98	28	凹凸	緩斜	自然	縄文土器	中期末葉	-
83	D 5e9	N-42°-W	楕円形	2.04×1.64	78	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡→SK87 北西部に段差	-
84	D 5f5	N-58°-E	楕丸長方形	1.22×0.82	60	平坦	ほぼ 直立	人為	縄文土器	-	-
85	D 5f6	N-24°-W	楕円形	1.04×0.80	58	平坦	外傾 内傾	人為	縄文土器	中期末葉	袋状土坑
88	D 5f5	N-36°-W	楕円形	1.66×1.36	38	ほぼ 平坦	外傾	人為	縄文土器	-	-
89	C 3e8	N-32°-W	不整楕円形	1.85×1.48	65	面状	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	SK90→本跡
90	C 3d8	N-77°-W	不整楕円形	[2.92×1.84]	84	面状	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	本跡→SK36・46・89
91	C 3e8	-	[楕円形]	(1.54×0.86)	44	平坦	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	本跡→SK29
92	E 5a6	N-45°-E	楕円形	2.25×1.86	84	平坦	外傾	自然	縄文土器、土製品	中期末葉	SK128→本跡
93	D 5d9	-	[円形]	[径1.42]	32	平坦	外傾	自然	縄文土器	-	本跡→SK87 北西部に段差
94	D 6f1	-	不定形	2.12×1.40	36	面状	外傾	人為	縄文土器	-	SK95→本跡
95	D 6e1	-	不定形	2.10×1.65	92	平坦	外傾	自然	縄文土器	-	本跡→SK94
96	D 6f2	N-4°-E	楕円形	1.92×1.46	32	ほぼ 平坦	緩斜	自然	縄文土器	-	-
98	D 5j6	-	ほぼ円形	径1.18	64	平坦	ほぼ 直立	人為	縄文土器、土製品、石器	後期前葉	-
100	D 5f2	-	ほぼ円形	径0.50	18	面状	外傾	人為	縄文土器	後期前葉	土器埋納
101	D 6f2	N-24°-E	楕円形	1.98×1.54	128	中心 凹み	外傾	人為	縄文土器	-	-
103	D 5j6	N-16°-E	楕円形	1.30×1.18	56	平坦	ほぼ 直立	人為	縄文土器、縄野貝の塊	後期前葉	SK104→本跡
104	D 5j7	-	[円形]	[径1.32]	87	平坦	ほぼ 直立	人為	縄文土器、土製品	中期末葉	本跡→SK103・112
105	D 5i7	-	円形	径1.08	106	平坦	内傾	人為	縄文土器、土製品、銅片	中期末葉	-
106	D 5i7	N-72°-E	楕円形	1.76×1.38	32	平坦	外傾	自然	縄文土器、土製品	中期末葉	本跡→SK124
109	E 5b7	-	-	(1.04×0.64)	56	ほぼ 平坦	ほぼ 直立	人為	縄文土器	中期末葉	本跡→SI 5
111	D 6e2	-	円形	径0.94	75	ほぼ 平坦	ほぼ 直立	-	縄文土器	-	本跡→SK110
112	D 5j7	N-65°-W	楕円形	1.40×1.26	118	ほぼ 平坦	直立	人為	縄文土器	中期末葉	SK104→本跡
113	E 5b8	N-17°-W	楕円形	1.46×1.24	54	平坦	ほぼ 直立	自然	縄文土器	-	-
115	E 5b6	N-42°-W	-	(1.48×0.74)	42	平坦	外傾	人為	縄文土器、土製品	中期末葉	SK135→本跡
117	E 5a4	-	ほぼ円形	径1.72	62	平坦	外傾	人為	縄文土器、石器	中期末葉	本跡→SK118

序号	位置	长径方向	平面形	规格		底面	壁面	覆土	主要出土器物	时期	备注	
				长径×短径 (m)	壁厚 (cm)							
118	E 5 b1	N-45°-E	椭圆形	1.34 × 1.12	34	平坦	外倾	人为	绳文土器	后期初期	SK117→本跡	
119	E 5 a5	N-9°-E	椭圆形	1.28 × 1.12	90	平坦	直立	人为	绳文土器、土製品、石器	中期末期	-	
121	E 5 a9	N-82°-E	椭圆形	1.50 × 1.12	45	平坦	外倾	自然	绳文土器	-	-	
122	E 5 a9	N-80°-E	椭圆形	1.52 × 1.01	46	平坦	外倾	人为	绳文土器	中期末期	-	
123	D 5 j 9	N-60°-E	椭圆形	1.34 × 1.16	58	屈状	外倾	人为	绳文土器	中期末期	-	
124	D 5 h 7	N-41°-W	长方形	1.06 × 0.66	45	平坦	111° 直立	自然	绳文土器	-	SK106→本跡	
125	D 4 b0	-	111° 内形	径 1.70	76	平坦	111° 直立	人为	绳文土器、土製品	中期末期	-	
126	D 4 c0	-	内形	径 1.54	108	平坦	内倾	人为	绳文土器、石器	中期末期	袋状土坑	
127	D 4 d0	N-24°-W	椭圆形	1.24 × 1.15	80	平坦	内倾	人为	绳文土器	中期末期	袋状土坑	
128	E 5 a6	-	111° 内形	径 1.06	58	平坦	111° 直立	人为	绳文土器	中期末期	本跡→SK92	
129	D 5 j 9	-	内形	径 0.85	24	平坦	111° 直立	人为	绳文土器、石器	中期末期	-	
133	D 5 i 6	N-55°-W	椭圆形	1.58 × 1.30	46	平坦	111° 平坦	自然	绳文土器	-	-	
134	E 5 i 5	-	-	(1.50 × 0.54)	194	平坦	外倾	人为	绳文土器	后期初期	本跡→SD 9	
135	E 5 i 6	-	111° 内形	[1.55] × (0.46)	50	平坦	111° 平坦	外倾	人为	绳文土器	中期末期	本跡→SK115
136	D 6 j 3	-	不定形	1.66 × 1.02	74	平坦	外倾	人为	绳文土器	-	-	
138	D 6 j 3	-	111° 内形	径 0.82	68	平坦	直立	人为	绳文土器	后期初期	-	
139	E 5 d 3	-	111° 内形	径 0.56	56	屈状	外倾	自然	绳文土器	后期初期	-	
140	E 5 a0	N-5°-W	椭圆形	1.58 × 1.26	68	平坦	111° 直立	人为	绳文土器	中期末期	-	
141	E 5 a0	N-16°-W	椭圆形	1.34 × 1.18	36	平坦	外倾	人为	绳文土器、土製品	中期末期	SK142、151→本跡	
142	E 5 a0	N-48°-E	不整椭圆形	1.32 × 1.02	48	平坦	外倾	自然	绳文土器	中期末期	本跡→SK141 北東壁に段差	
143	D 5 d 7	-	内形	径 0.90	62	平坦	111° 直立	人为	绳文土器	-	SK144→本跡	
144	D 5 d 7	-	111° 内形	径 0.92	52	平坦	111° 直立	自然	绳文土器、陶片	中期末期	本跡→SK143	
145	D 5 e0	N-2°-E	椭圆形	1.28 × 1.05	198	平坦	111° 直立	人为	绳文土器、石器、貝類	中期末期	地点具保 袋状土坑	
147	D 5 h 1	N-24°-W	长方形	1.22 × 0.78	56	平坦	111° 直立	自然	绳文土器	-	-	
150	D 6 i 1	-	内形	径 1.20	124	平坦	111° 直立	人为	绳文土器、土製品、石器、 陶片	中期末期	袋状土坑	
151	E 5 a0	-	111° 内形	径 0.85	34	屈状	倾斜	人为	绳文土器	中期末期	本跡→SK141	
153	E 5 a5	-	内形	径 1.26	62	平坦	外倾	人为	绳文土器	-	-	
154	D 5 i 6	N-22°-W	不整椭圆形	1.40 × 0.94	52	屈状	直立	自然	绳文土器	-	-	
155	D 5 g 5	-	内形	径 1.15	108	平坦	直立	人为	绳文土器、土製品	中期末期	本跡→SK175	
156	D 5 i 6	N-15°-E	不整椭圆形	2.64 × 1.90	48	屈状	倾斜	自然	绳文土器	中期末期	-	
158	D 5 i 6	N-47°-W	椭圆形	1.30 × 1.16	83	平坦	111° 直立	人为	绳文土器	中期末期	SI 4、7→本跡	
159	D 5 h 2	-	内形	径 1.20	65	内凹	111° 直立	人为	绳文土器	中期末期	-	
160	D 6 g 1	N-67°-W	椭圆形	1.62 × 1.34	80	平坦	111° 直立	人为	绳文土器、土製品	中期末期	-	
163	D 5 i 9	N-38°-W	椭圆形	0.94 × 0.68	28	平坦	111° 平坦	外倾	自然	绳文土器	中期末期	SK164→本跡
164	D 5 i 9	N-47°-E	不整椭圆形	1.48 × 0.94	56	平坦	外倾	自然	绳文土器	中期末期	本跡→SK163 南内壁に段差	
165	D 5 h 3	-	不整内形	径 1.42	92	平坦	111° 直立	人为	绳文土器	-	-	
169	D 6 h 2	-	内形	径 0.94	41	平坦	直立	自然	绳文土器、土製品	中期末期	-	
170	D 6 g 5	-	内形	径 1.04	88	平坦	直立	人为	绳文土器	中期末期	-	
171	D 6 g 2	N-80°-W	椭圆形	1.90 × 1.52	120	平坦	直立	人为	绳文土器	中期末期	東壁に段差	
173	D 6 g 1	-	内形	径 0.94	66	平坦	直立	-	绳文土器	-	-	
174	D 5 i 5	N-15°-E	椭圆形	1.26 × 1.12	64	平坦	直立	人为	绳文土器	后期初期	本跡→SD 9	
175	D 5 g 6	N-66°-W	椭圆形	1.36 × 1.18	32	平坦	外倾	自然	绳文土器、土製品	中期末期	SK155→本跡	
176	B 2 i 0	N-10°-W	椭圆形	0.75 × 0.64	54	平坦	111° 直立	人为	绳文土器	-	-	
177	D 4 e 8	-	内形	径 0.66	22	平坦	外倾	人为	绳文土器、土製品	中期末期	-	
181	D 4 d 3	N-52°-W	椭圆形	0.94 × 0.76	40	平坦	外倾	自然	绳文土器	后期前期	-	
182	D 4 d 2	N-78°-E	椭圆形	0.85 × 0.74	35	平坦	111° 直立	自然	绳文土器	后期中期	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	築面	覆土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径×短径 (m)	壁高 (cm)						
183	D 4 e4	N - 48° - E	楕円形	1.60 × 1.16	18	平坦	外堀	人為	縄文土器	後期中葉	SK184 → 本跡
184	D 4 e4	N - 34° - E	楕円形	1.30 × 1.10	32	ほぼ平坦	縦割	自然	縄文土器	後期前葉	本跡 → SK183
185	D 4 e4	-	円形	径 1.22	112	ほぼ平坦	直立	人為	縄文土器	後期前葉	
188	D 4 a5	N - 10° - E	楕円形	1.26 × 1.11	82	平坦	内堀	人為	縄文土器、土製品	中期末葉	袋状土坑
189	D 4 g5	-	円形	径 1.22	44	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	中期末葉	
190	D 4 a5	N - 30° - W	楕円形	1.94 × 1.60	76	平坦	直立	人為	縄文土器、土製品、石器、銅片	中期末葉	
191	D 4 b7	N - 29° - E	楕円形	1.50 × 1.32	68	ほぼ平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	中期末葉	
192	D 4 b5	-	ほぼ円形	径 0.88	64	平坦	内堀	人為	縄文土器、土製品、石器、銅片	中期末葉	袋状土坑
195	D 4 b5	-	円形	径 1.25	48	平坦	直立	人為	縄文土器	後期中葉	
196	D 4 g5	-	円形	径 1.30	70	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	後期前葉	
199	D 4 g0	N - 58° - W	楕円形	1.18 × 0.90	45	ほぼ平坦	外堀	人為	縄文土器	中期末葉	SK200 → 本跡
200	D 4 g0	N - 80° - E	楕円形	(1.08 × 0.82)	68	平坦	外堀	人為	縄文土器、土製品	中期末葉	本跡 → SK199
201	E 4 a0	N - 12° - W	楕円形	1.15 × 0.96	60	平坦	平坦	人為	縄文土器	後期前葉	
202	D 4 i7	-	円形	径 1.54	88	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	中期末葉	
203	D 4 b5	-	円形	径 1.25	65	丸底	外堀	人為	縄文土器	中期末葉	SK204 → 本跡
204	D 4 b5	-	円形	径 1.25	90	平坦	平坦	人為	縄文土器、土製品	中期末葉	本跡 → SK203
206	D 4 g2	-	円形	径 1.10	82	平坦	直立	人為	縄文土器、石器、炭化植物類	中期末葉	
208	D 4 g2	N - 68° - E	楕円形	0.68 × 0.54	52	ほぼ平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器、石器	中期末葉	本跡 → SK213
209	D 4 g6	N - 11° - W	楕円形	1.24 × 1.09	30	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器、石器	中期末葉	
211	D 4 h3	N - 15° - E	楕円形	0.85 × 0.70	46	凹凸	凹凸	人為	縄文土器	-	
212	D 4 b3	-	不整形円形	径 1.22	54	凹凸	凹凸	人為	縄文土器	中期末葉	
213	D 4 g2	N - 33° - W	楕円形	0.34 × 0.26	18	凹状	外堀	人為	縄文土器	中期末葉	SK208 → 本跡 土段埋納 (入り子状)
214	D 4 g3	-	ほぼ円形	径 0.98	44	平坦	直立	人為	縄文土器	中期末葉	
216	E 5 a1	N - 33° - E	楕円形	0.86 × 0.62	46	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	後期前葉	
217	D 4 i6	-	円形	径 0.86	30	平坦	直立	自然	縄文土器、石器母石	-	
218	D 4 i9	-	円形	径 1.70	110	ほぼ平坦	内堀	人為	縄文土器、土製品、銅片、石器類、炭化した種	中期末葉	袋状土坑 地点見取
220	D 4 i9	-	円形	径 1.00	46	平坦	直立	人為	縄文土器、土製品	後期前葉	
221	D 4 g2	-	円形	径 1.10	56	平坦	直立	人為	縄文土器、土製品	後期前葉	
222	D 4 i5	N - 28° - W	楕円形	1.46 × 1.24	62	平坦	直立	人為	縄文土器、石器母石	-	
223	D 4 e5	-	円形	径 0.72	48	ほぼ平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	-	底面にピット
224	D 4 i5	-	ほぼ円形	径 1.00	52	平坦	直立	人為	縄文土器、土製品	中期末葉	
225	D 4 e9	N - 23° - W	楕円形	1.14 × 0.92	64	平坦	外堀	人為	縄文土器	中期末葉	
227	D 4 g7	N - 58° - E	楕円形	1.15 × 0.94	42	ほぼ平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器、土製品	後期前葉	
228	D 5 j2	-	円形	径 0.94	66	平坦	直立	人為	縄文土器	-	
229	D 5 i1	-	ほぼ円形	径 1.10	32	凹凸	外堀	人為	縄文土器、土製品、石器	後期前葉	
230	D 5 i2	-	円形	径 0.66	24	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	-	
231	E 5 a3	-	円形	径 1.10	67	平坦	内堀	人為	縄文土器、土製品	後期前葉	袋状土坑
232	D 5 il	N - 82° - E	楕円形	0.92 × 0.86	44	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器、土製品	中期末葉	
234	D 5 hl	-	円形	径 0.55	52	凹状	外堀	自然	縄文土器	-	西部に段差
235	D 4 e3	-	円形	{径 0.75}	64	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	-	本跡 → SD10

2 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、溝跡1条を確認した。ここでは、土層断面を掲載し、平面図は遺構全体図（付図）に示す。

溝 跡

第10号溝跡（第93図・付図）

位置 調査区中央部のD3f0区～D4b0区、標高37mほどの台地中央部に位置している。

重複関係 第10号竪穴建物跡、第61・235号土坑を掘り込み、第207号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 D3f0区から東北東方向（N-70°-E）に延び、D4b0区まで直線状に42.60m続いている。規模は上幅1.72～1.98m、下幅0.44～0.92m、深さ64～72cmである。底面の高低差は西側がやや低い。断面は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

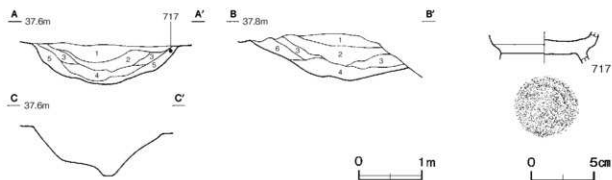
覆土 6層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。ロームブロックは流入によるものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|---------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 濃い黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 6 灰黄褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片8点（坏7、高坏1）、須恵器片6点（坏4、高台付坏1、盤1）、鉄滓1点のほか、縄文土器片2448点（深鉢2445、台付深鉢1、注口土器1、手捏土器1）が、覆土中からまばらな状態で出土している。717は覆土上層から出土していることから、埋没過程で投棄されたもの、あるいは流れ込んだものと考えられる。

所見 性格は、第1号溝跡とはほぼ直交していることから区割り溝の可能性はあるが、詳細は不明である。時期は、717の須恵器高台付坏より新しい土器が出土していないことや重複関係から、9世紀前葉以前と考えられる。



第93図 第10号溝跡・出土遺物実測図

第10号溝跡出土遺物観察表（第93図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
717	須恵器	高台付坏	-	(25)	-	長石・石英	灰	普通	底部回転糸切り		覆土上層	10%

3 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明確でない溝跡 10 条、道路跡 1 条、土坑 77 基を確認した。以下、それらの遺構について記述する。

(1) 溝 跡

時期や性格が明確でない溝跡については、実測図（第 94 図・付図）、土層解説及び一覧表にて掲載する。

第 1 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 6 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

第 2 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 6 暗 褐色 ロームブロック多量
- 7 にいり質褐色 ロームブロック中量

第 3 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

第 4 号溝跡土層解説

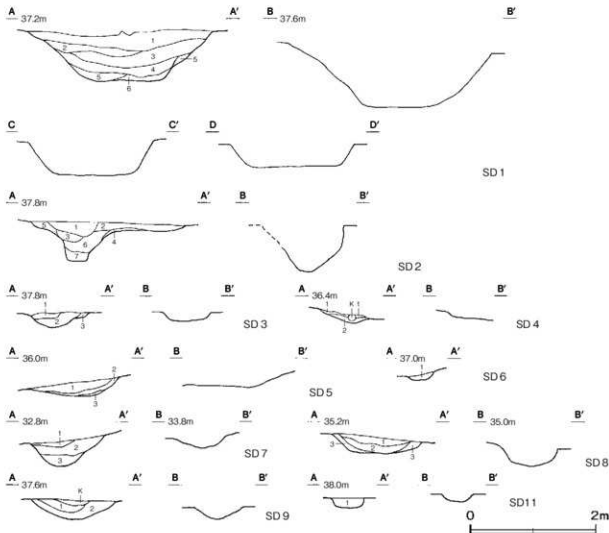
- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

第 5 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

第 6 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量



第 94 図 第 1～9・11 号溝跡実測図

第7号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第8号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第9号溝跡土層解説

- 1 明非褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量

第11号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

表5 その他の溝跡一覧表

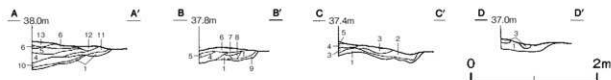
番号	位置	方向	平面形	規模			前面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
1	E5b4-D419 D3e8-C416	N-27°-W N-61°-E	L字状	45.95 37.24	1.95-3.35	1.26-1.42	32-94	逆台形	外堀	人瓦	縄文土器、石器、組物	SK62・127・236、 SD10→6跡→53・12
2	D3c7-C415	N-62°-E	わずかに 湾曲	33.65	1.30-2.45	0.20-0.45	60-78	U字状	外堀 縦斜	人瓦	縄文土器、土製品、陶器	6跡→SD3・5跡1
3	D3a0-C310	N-20°-E	直線	6.40	0.35-0.92	0.10-0.40	14-24	縦斜	自然	縄文土器、土製品		SD2→4跡
4	C4f2-C4e2	N-61°-W	直線	2.66	0.32-0.74	0.12-0.44	8-16	縦斜 U字状	縦斜	自然	縄文土器	
5	C3d0-C3a7	N-37°-W	直線	9.94	0.50-0.78	0.24-0.52	14-28	縦斜 U字状	縦斜	自然	縄文土器、土製品、石器	SD6・7と繋がら*
6	C4g2	N-36°-W	直線	2.30	0.38-0.54	0.22-0.34	12-20	縦斜 U字状	縦斜	自然	縄文土器	SD5・6と繋がら*
7	B3b5-B3d2	N-39°-W	直線	11.56	0.38-0.64	0.20-0.32	18-42	縦斜 外堀	自然	縄文土器、土製品、石器、 鉄滓		SD5・6と繋がら*
8	B2i9-C3a7	N-106°-E	弱い蛇行	8.85	0.16-0.54	0.10-0.24	8-34	縦斜 U字状	縦斜	自然	縄文土器、土製品	本跡→SK52
9	E3b6-D5d4	N-8°-W	直線	30.60	0.48-0.72	0.12-0.32	16-32	縦斜 U字状	縦斜	自然	縄文土器、土製品、石器、 瓦片土器	SI4・7、SK134・ 162・174→6跡
11	E6a5-D615	N-15°-W	直線	8.58	0.34-0.64	0.16-0.36	12-22	縦斜 U字状	縦斜	自然	縄文土器、土製品	

(2) 道路跡

時期や性格が明確でない道路跡については、実測図(第95図・付図)、土層解説及び一覧表にて掲載する。

第1号道路跡土層解説

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量(締まり強い) | 7 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量(締まり強い) |
| 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量 | 8 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量(締まり強い) |
| 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量(締まり
非常に強い、硬化面) | 9 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量(締まり強い) |
| 4 暗褐色 砂粒中量、細礫少量(締まり強い) | 10 黄褐色 砂粒中量、細礫少量 |
| 5 に近い黄色 砂粒中量、暗褐色土ブロック少量(締まり強い) | 11 暗褐色 砂粒少量、細礫微量(締まり強い) |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量、細礫微量 | 12 褐色 細礫中量(締まり強い) |
| | 13 に近い褐色 細礫多量(締まり強い) |



第95図 第1号道路跡実測図

表6 その他の道路跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模			前面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
1	D3a0-C4g2	-	湾曲	17.55	0.82-1.38	-	16-75	縦斜 U字状	縦斜	人瓦	縄文土器、土製品	SD2→6跡

(3) 土 坑

時期や性格が明確でない土坑については、一覧表にて掲載する。

表7 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	径さ (cm)					
1	C 318	N-4'-E	隅丸方形	0.62 × 0.60	36	ほぼ平坦	外堀	人為		壁に段差
2	C 316	-	円形	径 0.64	106	皿状	ほぼ直立	人為		柱穴状
3	B 317	N-50'-W	楕円形	0.84 × 0.76	36	凹凸	ほぼ直立	自然		
6	C 319	-	円形	径 0.28	31	凹凸	ほぼ直立	自然		
7	C 318	N-41'-W	隅丸長方形	1.18 × 0.52	78	平坦	外堀	人為		
8	C 318	-	ほぼ円形	径 0.80	28	やや凹凸	ほぼ直立	自然		
9	C 345	N-20'-E	楕円形	0.80 × 0.54	36	ほぼ平坦	外堀	人為		
30	C 316	N-73'-E	楕円形	1.04 × 0.68	38	皿状	外堀	自然		SK11→本跡
11	C 316	N-78'-E	楕円形	1.92 × 1.34	58	ほぼ平坦	ほぼ直立	自然		本跡→SK10
12	D 51g	N-52'-E	楕円形	[2.46] × 2.06	184	平坦	外堀	自然		SD 1→本跡
17	C 315	N-63'-W	楕円形	1.28 × 0.70	70	皿状	外堀	人為		
19	C 3e7	-	円形	径 0.55	14	やや凹凸	外堀	自然	縄文土器	SK20→本跡
20	C 3e7	-	円形	径 0.54	16	平坦	外堀	自然		本跡→SK19
22	C 3a6	N-33'-W	長方形	0.94 × 0.58	42	平坦	ほぼ直立	人為		
23	C 3a6	N-44'-W	長方形	1.08 × 0.75	52	平坦	直立	人為		
25	C 3d9	N-40'-W	隅丸長方形	0.96 × 0.68	12	ほぼ平坦	外堀	自然		
30	B 3a6	N-34'-E	長方形	1.32 × 0.82	10	皿状	外堀	自然		
31	B 317	N-62'-E	不整形長方形	1.28 × 0.90	10	皿状	外堀	自然		
32	C 3e2	-	円形	径 1.10	22	ほぼ平坦	外堀	自然		
34	C 240	-	ほぼ円形	径 1.00	38	やや凹凸	ほぼ直立	自然		
40	C 315	N-4'-W	楕円形	1.82 × 0.90	28	皿状	外堀	自然		SK41→本跡
41	C 315	-	-	(0.88 × 0.46)	18	皿状	外堀	自然		本跡→SK40・42
42	C 314	-	不定形	[1.16] × 0.90	52	平坦	ほぼ直立	自然		SK40・41→本跡 →SK43
43	C 314	N-48'-W	楕円形	1.36 × 0.96	46	平坦	ほぼ直立	人為		SK42・44→本跡 →SK43
44	C 314	N-86'-W	不整形長方形	[1.40] × 1.18	110	ほぼ平坦	ほぼ直立	人為		SK45→本跡 →SK43
45	C 314	N-10'-E	不定形	1.55 × [1.15]	36	皿状	外堀	自然	縄文土器	本跡→SK44
47	B 219	N-38'-E	隅丸長方形	0.98 × 0.65	28	ほぼ平坦	ほぼ直立	自然		
48	C 3e2	N-48'-W	隅丸長方形	1.20 × 0.68	46	平坦	ほぼ直立	自然		
49	C 4e2	-	ほぼ円形	径 0.65	16	平坦	ほぼ直立	自然		
50	C 3a5	N-46'-W	長方形	0.86 × 0.62	25	ほぼ平坦	直立	自然		
51	B 316	N-40'-W	長方形	0.82 × 0.60	26	平坦	直立	自然		
52	B 315	N-45'-W	長方形	0.92 × 0.64	24	皿状	ほぼ直立	自然		SD 8→本跡
55	C 3a2	N-42'-W	楕円形	3.44 × 2.02	42	平坦	ほぼ直立	人為		
75	D 544	-	円形	径 1.20	75	平坦	直立	人為	縄文土器	
76	D 5e4	N-35'-W	不整形楕円形	1.34 × 0.96	52	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	
78	D 549	-	ほぼ円形	径 1.15	28	平坦	外堀	自然	縄文土器	
86	D 517	N-8'-E	楕円形	[1.02] × 0.72	52	平坦	ほぼ直立	自然		
87	D 549	N-46'-E	楕円形	1.94 × 1.08	58	ほぼ平坦	外堀	自然		SK83・93→本跡
97	D 614	-	円形	径 0.28	26	ほぼ平坦	ほぼ直立	人為		
99	D 613	N-56'-E	楕円形	1.66 × 0.98	24	平坦	外堀	自然		
102	D 614	N-26'-W	楕円形	1.11 × 0.82	22	平坦	外堀	自然		
107	D 611	N-46'-E	楕円形	0.76 × 0.62	35	皿状	外堀	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
108	D 6 f1	N-26°-W	不整形四角	0.96 × 0.74	32	平皿	外傾	人為		
110	D 6 c2	N-32°-W	長方形	1.10 × 0.75	48	中央凹 平皿	ほぼ直立	人為		SK111→本跡
114	D 5 j8	N-29°-W	長方形	1.06 × 0.70	40	中央凹 平皿	ほぼ直立	人為		
116	D 5 j8	N-15°-E	楕円形	0.64 × 0.54	75	ほぼ平皿	ほぼ直立	人為		
120	E 5 a4	N-42°-E	楕円形	0.78 × 0.68	36	中央部 凹	外傾	人為		
130	D 6 j1	-	不定形	0.76 × 0.48	40	皿状	外傾	自然		
131	D 6 i2	-	円形	径 0.77	25	平皿	外傾	自然		
132	E 6 a1	N-41°-E	楕円形	0.84 × 0.66	12	平皿	傾斜	自然		
137	D 6 j3	-	不定形	0.48 × 0.42	24	皿状	外傾	自然		
146	D 5 g0	-	円形	径 1.28	48	平皿	ほぼ直立	自然		
148	E 6 a3	-	円形	径 1.32	58	平皿	外傾	人為		
149	E 6 a2	[N-20°-W]	[方形]	0.82 × 0.80	56	平皿	ほぼ直立	人為		
152	D 5 g9	N-10°-W	隅丸方形	0.95 × 0.92	32	皿状	外傾	自然		
157	D 5 a6	-	円形	径 1.12	34	皿状	外傾	自然	縄文土器	SI 4→本跡
161	E 5 a4	N-6°-W	不整形方形	0.48 × 0.46	96	平皿	ほぼ直立	人為		柱状
162	D 5 g5	N-12°-W	楕円形	1.16 × 1.02	46	平皿	ほぼ直立	人為		SD 9→本跡
167	D 5 g4	N-9°-E	楕円形	0.46 × 0.34	30	皿状	ほぼ直立	自然		
168	D 5 g4	N-52°-E	楕円形	0.64 × 0.46	54	皿状	ほぼ直立	人為		
172	D 6 g1	N-9°-E	楕円形	1.66 × 1.04	62	平皿	外傾	自然		
178	D 4 e8	N-34°-W	楕円形	1.08 × 0.94	22	平皿	外傾	自然		
179	D 4 e8	-	円形	径 0.42	28	平皿	ほぼ直立	自然		
180	D 4 f4	-	円形	径 0.58	64	平皿	直立	人為		
187	D 4 g3	N-8°-E	楕円形	[0.60] × 0.52	50	平皿	ほぼ直立	人為		SI 8→本跡
190	D 4 c5	-	ほぼ円形	径 0.50	66	平皿	ほぼ直立	人為		柱状
194	D 4 e6	-	円形	[径 0.90]	64	平皿	直立	人為		墩部にビッド
198	D 4 i9	-	ほぼ円形	径 1.09	78	平皿	内傾	人為		
206	D 4 b4	-	楕円形	0.72 × 0.62	32	平皿	ほぼ直立	自然		
207	D 4 f1	N-72°-E	楕円形	1.02 × 0.84	34	平皿	外傾	自然	縄文土器	SD10→本跡
215	D 4 b9	-	円形	径 0.68	18	平皿	外傾	自然		
219	D 4 i8	-	円形	径 0.38	60	平皿	ほぼ直立	人為		
226	D 4 e0	N-38°-W	楕円形	1.98 × 1.58	44	平皿	外傾	人為		本跡→SD 1
233	D 5 i1	-	円形	径 0.62	30	ほぼ平皿	ほぼ直立	自然		
236	D 6 d1	N-40°-E	楕円形	0.56 × 0.50	16	平皿	外傾 直立	人為		
257	D 6 d2	N-34°-E	楕円形	0.40 × 0.28	25	平皿	ほぼ直立	自然		
238	D 6 c2	N-67°-E	楕円形	0.87 × 0.76	16	平皿	傾斜	自然		

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査で、縄文時代の竪穴建物跡11棟、炉跡2か所、地点貝塚4か所、土坑156基、平安時代の溝跡1条などを確認した。このように、当遺跡の中心は縄文時代である。ここでは、縄文時代の出土遺物と遺構について概観し、若干の考察を加えることで、まとめとする。

2 縄文時代中期末葉から後期中葉にかけての土器様相について

(1) 中期から後期にかけての時間軸の設定について

本報告の中期と後期の時期区分については、5期区分を採用している。初頭、前葉、中葉、後葉、末葉の5期区分であり、関東の土器編年では、中期は、五領ヶ台式→阿玉台Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ式→阿玉台Ⅲ・Ⅳ式、加曾利E1式→加曾利E2・3式→加曾利E3-4（中間）式の5期である。後期は、称名寺Ⅰ・2式→堀之内式Ⅰ・2式→加曾利B1・2・3式、曾谷式→安行Ⅰ式→安行Ⅱ式の5期である。

当遺跡の中心となる時期は、中期末葉である。本県におけるこの時期の土器研究は、柳澤清一氏によるもの¹⁾が知られており、本報告はその編年案を基準にして時間軸とする。柳澤氏の中期末葉から後期初頭にかけての編年は、概略すると加曾利E3-4（中間）式→加曾利E4式「古い部分」→加曾利E4式「中位の部分」→加曾利E4式「新しい部分」→続加曾利E4式（称名寺式期）というものである。加曾利E3式とE4式の間に加曾利E3-4（中間）式が入り、加曾利E4式を3細分し、続加曾利E4式を後期初頭とする編年である。大木式との対応関係は、加曾利E4式が大木10式と並行するという考えである。

(2) 中期末葉から後期中葉にかけての土器様相について

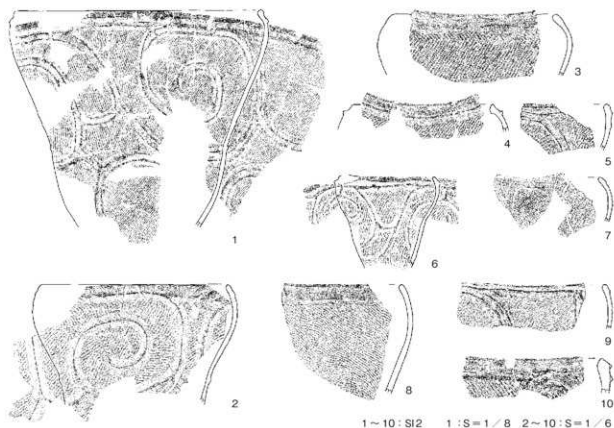
当遺跡で詳細な時期が決定できた縄文時代の遺構は、竪穴建物跡10棟、土坑116基である。集落が営まれた期間は、後期で断続する時期はあるが、加曾利E3-4式期²⁾から加曾利B1式期までの7時期に細分される。

ここでは、それぞれの時期の土器様相を述べる。

加曾利E3-4式期（第96図）

第1-4号竪穴建物跡出土の土器群などを標識とする。そのほか、第6号竪穴建物跡、第5・13・73・122・125・129・151・158・164・171・190・192号土坑出土の土器群が該当する。

本時期の土器群の第一の特徴に、加曾利E3式まで存在した口縁部文様帯、体部文様帯と分けられる土器が姿を消すことを挙げる。それに代わり、第96図7のような沈線区画による楕円形文やU字形文で口頸部の文様帯を構成するもの、3・8のような口縁に沿う太沈線で縄文部と区画するもの、加曾利E3式新段階から組成に加わっている1・2・6のような貼付部が強くナデつけられる隆起線による大柄な渦文を体部全体に描くものなどが、組成の中で中核を占めるようになってきている。形態的には、平縁で、口縁部が強く内彎するものが多い。加曾利E3式になかったものとしては、4のような断面三角形の隆起線が口縁に沿って周回するものや5・10のような加曾利E4式に繋がる2条一組の隆起線によるU字形区画文が出現してくることが挙げられる。このU字形区画文は、2条一組の隆起線による大柄な渦文土器から出現してくると考えている。一方、加曾利E3式前半まで、当地域にかなりの割合で進出していた曾利



1~10: S12 1:S=1/8 2~10:S=1/6

第96図 加曾利E3-4式期の土器群

式土器は、見られなくなっている。

加曾利E4式古段階

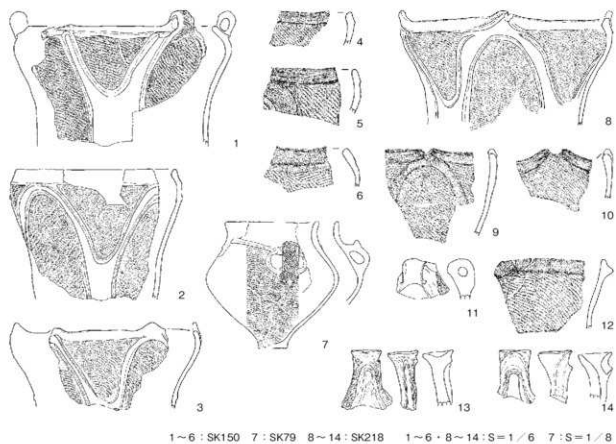
第105・119・127・202号土坑出土の土器群などを標識とする。そのほか、第4・68・69・106・115・117・123・126・142・163・170・177・188・191・199・212・214号土坑出土の土器群が該当する。

本時期は、加曾利E4式土器が成立する時期である。加曾利E4式の成立を沈線による楕円形文などが口縁部文様帯に施されるものや体部全体に隆起線による渦文を描く土器などがほとんど姿を消し、隆起線によるU字形区画文を有する土器が組成の中核を占めるようになることに置く。隆起線による文様構成は、ほとんどがU字形区画文に齊一化されるのである。隆起線は断面が三角形で、貼付部が強くナデつけられる特徴がある。組成では、当地域の土器組成には含まれなかった双耳壺とも呼ばれる肩部に橋状把手をもつ壺形土器が加わってくるものが挙げられる。深鉢の形態は前時期と同様、口縁部が強く内彎するものが多い。第127号土坑例には2条の隆起線によるU字形区画文が蕾状に開いているものもあり、加曾利E4式古段階のものであることを裏付ける。第105号土坑では、前段階の土器の特徴の一つである沈線によるU字形区画文が隆起線区画の土器に伴っており、一部前段階の手法も残存している。

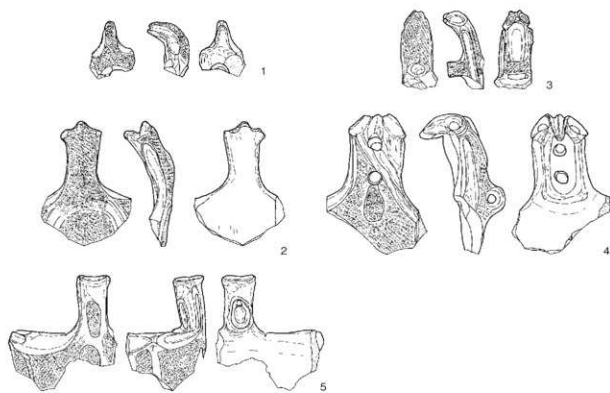
加曾利E4式中段階 (第97図)

第79・81・150・218号土坑出土の土器群などを標識とする。そのほか、第61・62・70・77・79・82・83・104・109・112・128・141・144・159・200・208・209・213・232号土坑出土の土器群が該当する。

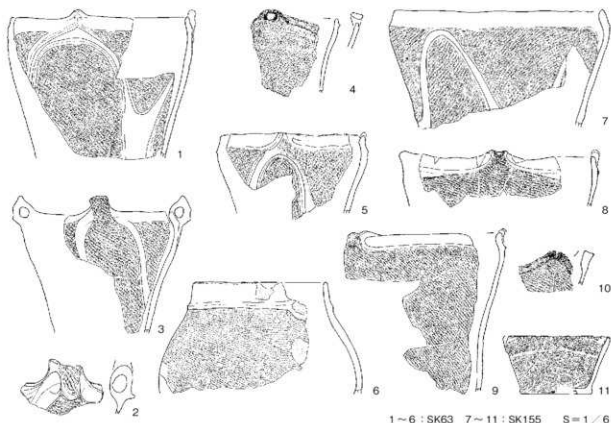
本段階は、2条一組の隆起線によるU字形区画文への齊一化がさらに進み、隆起線以外で文様を描出するものはほとんどなくなる段階である。双耳壺の割合も高い。1~6は、第150号土坑の資料である。口縁は平縁のものと小波状を呈するものがあり、波頂部で橋状把手となるものも見られる。8~14は、



第97図 加曾利E4式中段階の土器群



第98図 動物意匠把手集成図



1~6:SK63 7~11:SK155 S=1/6

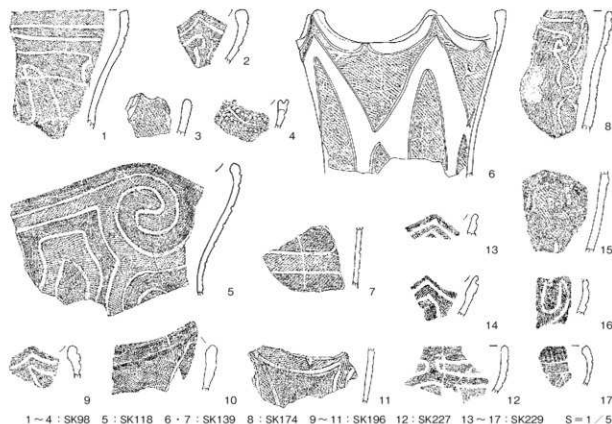
第99図 加曾利E4式新段階の土器群

第218号土坑の資料である。9・10は口唇部がナデつけられ、波頂部で双峰状突起となっているものである。形態的には、本段階まで口縁部が内彎するものが多い。

7は第79号土坑出土の双耳壺である。内面の色調は橙色で他の土器とは異なり、しかも、丁寧に仕上げられている。搬入品の可能性がある。13・14は筒状把手であり、頂部がラッパ状に開き、14は頂部が貫通している。動物をデフォルメしたようにも見え、動物意匠把手の変形版と考えられる。この動物意匠把手は、当遺跡では第127号土坑例（第98図2）などの加曾利E4式古段階に出現し、第145号土坑例（第98図3・4）などの加曾利E4式新段階まで確認されている。第218号土坑例も含めると、出土総数は9点である。これらの動物意匠把手は、中期前半に見られるものが外側を向いているのに対し、内側を向くという特徴がある。中期末葉から後期初頭の動物意匠把手は、関東地方北部から東北地方南部を中心に分布している。栃木県西那須町槻沢遺跡³⁾、同県茂木町松の木遺跡⁴⁾、茨城県城里町片山遺跡⁵⁾など、特に那珂川流域に多く確認されている。双耳壺もそれらの遺跡から多く出土しており、動物意匠把手と似た分布傾向を示している。中期末葉の時期に、新たに動物意匠把手を有する土器と双耳壺を使用するようになったことは、那珂川流域辺りからもたらされたと考えられる。

加曾利E4式新段階（第99図）

第63・145・155号土坑出土の土器などを標識とする。そのほか、第5・8・11号竪穴建物跡、第67・80・85・92・140・156・160・169・175・185・189・203・204・206・224・225号土坑出土の土器群が該当する。本段階の土器群の文様構成は前段階とほとんど変わらないが、器形や隆起線などが退化傾向を示す段階である。深鉢の口縁部の内彎は弱くなり、口縁が開いた形態のものが多くなる。U字形区画文を採らず、口縁に沿って隆起線が周回する土器は、接点の突起部で双峰状となるものが多い。隆起線は断面が三角形



第100図 称名寺1式期の土器群

を呈するものは少なくなり、隆起線の貼付部のナデも弱くなっている。充填される縄文は隆起線の頂部近くまで施されるようになる。第63号土坑例の双耳壺は、肩部がなで肩となり、口縁が直立しているものである。新しい要素としては、第145・155号土坑例に見られるような沈線による文様区画がなされる土器が出現していることである。第155号土坑例は鋸歯状に沈線区画がなされるもので、鋸歯状の沈線区画文は、次期の続加曾利E4式(称名寺1式期)の第139号土坑例へ繋がる好例と思われる。

称名寺1式期(第100図)

第98・118・139・174号土坑出土の土器などを標識とする。そのほか、第9号竪穴建物跡、第103・134・138・196・201・216・220・227・229・231号土坑出土の土器群が該当する。

本時期は、加曾利E4式を表徴した隆起線によるU字形区画文が姿を消し、それに代わり沈線区画間を縄文で充填するものが主流を占める時期で、本時期から後期としている。加曾利E4式系の土器としては、第139号土坑例が挙げられる。第139号土坑例は大波状口縁を呈し、口縁に沿って弧状文が施され、体部全体を沈線による大振りな鋸歯状文で区画するものである。続加曾利E4式に比定される。一方、伴出したもう一例は、横位の太沈線間を縄文で充填しているもので、加曾利E4式系とは異なった充填方法である。このような沈線区画間を縄文で充填するものは、当遺跡においても、加曾利E4式期の第127号土坑や第150号土坑から出土しており、所謂「西日本系土器」⁶⁾とされているものに相当する。「西日本系土器」は、前時期から伴っているが、それらは、加曾利E4式の中に占める割合は非常に少ない。ところが、第227・229号土坑からは、太沈線による区画間を細くて撚りがきつい単節縄文で充填している土器がほとんどを占め、加曾利E4式は出土していないのである。意匠文をもつ土器など「西日本系土器」が中心である。加曾利E4式直後の時期に「西日本系土器」が主流を占める事例として、茨城県内では土

浦市御冥遺跡例⁷¹、桜川市松田古墳群例⁸¹、同市北田遺跡例⁹¹、竜ヶ崎市南三島遺跡例¹⁰⁰などが挙げられる。当遺跡においても、加曾利4式系土器が残存する中で、「西日本系土器」のさらなる進出があり、称名寺式土器が成立すると考える。

堀之内1式期

第26・35・36号土坑出土の土器などを標識とする。そのほか、第14・21・24・28・37～39・46・54・57～60・64・66・89～91・100・181・184・222号土坑出土の土器群が該当する。

本時期の土器は、土坑の廃絶後に土器捨て場となった第26号土坑などから多量に出土している。主要な器種は深鉢である。文様は口唇部に1条の沈線を巡らすものが多く、胴部には蕨手文、波状文、渦巻文などが描かれている。当遺跡では、地文の縄文だけが施されているものもある。C字状やY字状の貼付文、円形貼付文など東北地方南部の綱取1式の影響が見られる土器も多い。

加曾利B1式期

第183号土坑出土の土器などを標識とする。そのほか、第10号竪穴建物跡、第182・195号土坑出土の土器群が該当する。

本時期は、精製土器と粗製土器がより明確に分化し、器種が多様化する時期である。文様は胴部上半に横位の縄文帯や数条の沈線を巡らし、その間をL字状や「の」の字状などの沈線で区切り、沈線の先端を鉤状にするものなどに本時期の特徴が見られる。同様の文様は、鉢や浅鉢の内面にも共通して施されており、第183号土坑例は良好な資料である。粗製土器は地文が縄文で、口縁部に指頭押圧を施す粘土紐を1、2条巡らすものが主体である。関東地方で一般的に見られるものである。

3 集落の構成について（第101・102図）

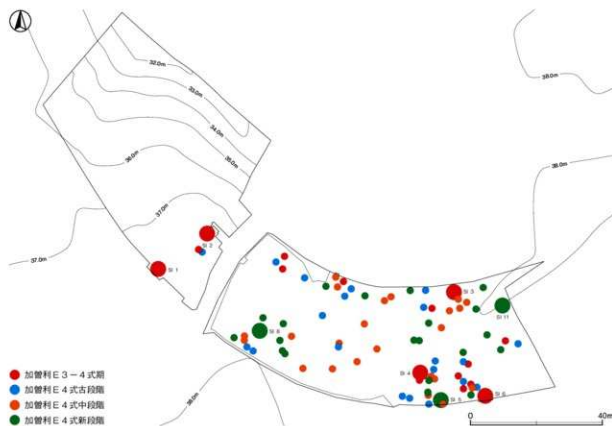
ここでは、縄文時代の竪穴建物跡と土坑に焦点を絞って、集落の構成について述べる。

なお、新旧関係は土層の状況と土器型式から判断したが、土層が不明なものについては土器型式のみで判断したため、同時期とした遺構が重複している場合がある。

まず、中期末葉（加曾利E3-4式期から加曾利E4式新段階）の集落の構成について概観する。当遺跡の範囲については、入念な踏査による遺物の分布状況の把握¹¹¹から、調査区域外の北部や東部へは広がらず、調査区域外の南部や西部へ広がると指摘されている。推定される遺跡の範囲は南北幅260m、東西幅330mで、調査区域は遺跡の北部にあたる。確認されている中期末葉の遺構は、竪穴建物跡8棟、土坑75基である。

当遺跡の集落は、加曾利E3-4式期に営み始められる。竪穴建物跡は二つのグループがあり、2棟が調査区域の中央部に、3棟が調査区域の東部に位置している。二つのグループは80mほど離れている。土坑は二つのグループの間にまばらに位置している。第1・2号竪穴建物跡の北西部には、中期末葉の遺構が確認されていないことや当遺跡の南部や東部の踏査結果から、第1・2号竪穴建物跡を当遺跡の北西端部のグループ、第3・4・6号竪穴建物跡を当遺跡の北東端部のグループとすることができ、当遺跡の南部に存在すると思われる建物グループと合わせて、環状集落を形成していたと考えられる。

本時期には、第2号竪穴建物の廃絶後に、40kgを越す貝殻が投棄され、地点貝塚が形成されている。当遺跡の人々は、夜越川のルートで海岸へ出て、貝類を採集していたと考える。貝殻の重量が40kgを越すことから、天日干しなどをし、遠方地域との交易品としていたと考えられる。貝の種類は、ハマグリ、シオフキ、ウミナシ類、オキシジミの順である。当遺跡と同時期の中期末葉が中心である行方市於下貝塚¹²でも、貝の種類はハマグリが多く、シオフキ、オキシジミの順である。当時の霞ヶ浦はハマグリなどが生息するのに



第 101 図 中期末葉の遺構分布図

好環境であったのであろう。

次期の加曾利 E 4 式古段階、中段階では、調査区域内では竪穴建物は確認されていない。土坑は、加曾利 4 式古段階で 21 基、加曾利 E 4 式中段階で 23 基、合わせて 44 基確認されている。それらは、調査区中央部から東部にかけてまばらに位置している。土坑の分布に規則性や集合性は認められないが、北西部では確認されておらず、環状帯を意識した配置がうかがえる。調査区域は、貯蔵施設の区域となっていたと考える。

加曾利 E 4 式新段階の遺構は、竪穴建物跡 3 棟、土坑 19 基である。竪穴建物跡は、35 ~ 60 mほど離れて位置しており、第 8 号竪穴建物跡のグループと第 5・11 号竪穴建物跡のグループの二グループが考えられる。土坑は、それぞれの竪穴建物跡のグループ周辺にまばらに位置している。この時期の遺構も推定される環状帯の中にあり、引き続き環状帯を意識した集落を形成している。

中期末葉の土坑は 75 基確認され、そのうち貯蔵穴と考えられるのは 68 基である。貯蔵穴を形態的に見ると円筒形のもの 45 基、袋状のもの 14 基、その他 9 基である。この割合は、鋒田市吉北遺跡¹²⁾の加曾利 E 3 式期の割合に近い。当遺跡の加曾利 E 4 式期の袋状土坑 14 基の規模の平均は、径 120 cm、深さ 0.95 m である。当遺跡でも冬季の食料保存のための施設として、袋状土坑を使用していたと考える。

称名寺 1 式期の遺構は、竪穴建物跡 1 棟、土坑 14 基である。竪穴建物跡は、調査区域の中央部に位置している。土坑は、竪穴建物跡の東部にまばらに位置しているが、環状帯内にあり、環状帯は維持されている。

堀之内 1 式期の遺構は、土坑 25 基である。土坑は環状帯内にもまばらに位置しているが、19 基は環状帯外の台地端部に密集して位置している。19 基の土坑が環状帯の外になぜ配置されたかは不明であるが、そ



第102図 後期初頭から後期中葉にかけての遺構分布図

これらの土坑の廃絶後には、多量の土器片が投棄されている。次期の堀之内2式期の遺物や遺構は、調査区域内では確認されていない。

加曾利B1式期の遺構は、堅穴建物跡1棟、土坑3基である。調査区域での遺物や遺構は少ない。本時期以降の遺物や遺構は確認されておらず、本時期で、縄文時代の当遺跡は終焉する。

4 おわりに

今回の調査の成果は、縄文時代中期末葉から後期中葉にかけての集落の構成がある程度明らかになったことである。明らかになったことは、集落の堅穴建物は環状帯内に配置され、いくつかのグループから成っていること、環状帯には、堅穴建物が建てられる居住区域や貯蔵施設の区域などがあり、時期により区域を変えていることなどである。また、多量に出土した中期末葉の土器の分析から、当地域における土器の変遷が詳細に捉えられたこと、動物意匠把手や双耳壺の存在から、那珂川流域の人々と交易していたと考えられることも成果に挙げられる。

当遺跡の遺物は、土器が多量に出土したのに対して、石器は少なかった。特に、分銅型などの打製石器が1点も確認されていないことに注目している。調査区域外の踏査でも採集されておらず、遺跡の性格を考える上で重要な留意点と考える。遺跡ごとの石器組成の検討や器種による用途の検討などが必要であり、課題としておきたい。

註

- 1) 柳澤清一「加曾利E 3-4 (中間)式考-中期後半土器の広域編年の観点から-」『古代探観Ⅲ 早稲田大学考古学会 1991年5月
柳澤清一「茨城県における加曾利E 4式編年の検討」『茨城県考古学協会誌』第7号 茨城県考古学協会 1995年8月
柳澤清一「茨城県から見た本州島の縄紋中期未業編年について」『茨城県史研究』88 茨城県立歴史館 2004年2月など
- 2) 柳澤氏は、加曾利E 4式細分の「古い部分」・「中位の部分」・「新しい部分」・「続E 4式」をさらに2時期に細々分されておられるが、本報告ではE 4式の3細分を使用し、E 3-4式→E 4式古段階→E 4式中段階→E 4式新段階→続E 4式(称名寺式期)として解説する。
- 3) 後藤信祐「概観遺跡Ⅲ」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第171集 財団法人栃木県文化振興事業団 1996年3月
- 4) 中村信博編「松の木遺跡Ⅲ」『茂木町埋蔵文化財調査報告書』第5集 松の木遺跡調査団 2006年3月
- 5) 佐藤次男「縄文時代における蛇形装飾付土器について-とくに茨城県内の出土資料を中心に-」『茨城県立歴史館報』9 1982年3月
樋口高武 高橋健樹「茨城・常北町片山遺跡の表採遺物」『考古学雑誌』第66巻第3号 日本考古学会 1980年12月
- 6) 柳澤氏は、註1) 2004年の論文において、「加曾利E 4式に伴う東海西部から波及した異系統土器を(以下、便宜的に「西日本系土器」と呼ぶ)としている。
県内の縄文土器を編年に従って、詳しく紹介している斎藤弘道氏も柳澤氏の「西日本系土器」に置いて、本時期の土器群について解説している。
斎藤弘道「茨城の縄文土器」『歴史館史料叢書』9 茨城県立歴史館 2006年3月
- 7) 小川和博ほか「御免遺跡」『木田余台1』土浦市教育委員会 1991年3月
- 8) 横倉要次「松田古墳群 北関東自動車道(協和~友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第226集 2004年3月
- 9) 黒澤秀雄「北田遺跡 主要地方道石岡下館線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第206集 2003年3月
- 10) 斎藤弘道「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書16 南三島遺跡3・4区(1)」『茨城県教育財団文化財調査報告』第44集 1987年12月
- 11) 柳澤悦郎 小松崎百志「潮来市清水原山遺跡周辺の表面採集遺物について-縄文時代中・後期の磨製石斧と磨石を中心とした石器群の紹介-」『研究ノート』第14号 公益法人茨城県教育財団 2017年6月
- 12) 加藤晋平 茂木雅博 泉清編「於下貝塚発掘調査報告書」麻生町教育委員会 1992年3月
- 13) 清水哲 内田勇樹 海老澤俊 仙波亨「古十北遺跡 勸十郎瀬跡 東関東自動車道水戸線(鉾田~茨城空港北間)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第419集 2017年3月

付 章

清水原山遺跡の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

清水原山遺跡は、茨城県潮来市清水原山 284-83 番地ほかに所在し、霞ヶ浦と北浦に挟まれた台地上に立地する。発掘調査の結果、縄文時代中期後葉～後期前葉にかけての堅穴建物跡、土坑、古代以降の溝跡などの遺構や、多量の縄文土器片や石器などの遺物が検出されており、集落跡と考えられている。

本報告では、縄文時代中期後葉～後期前葉とされる第9号堅穴建物跡において確認された漆喰状物質を対象として、薄片作製鑑定、X線回折分析、灰像分析、微細物分析を実施し、材質に関する情報を得る。また、袋状土坑とされる第206号土坑より確認された覆土に含まれる白色物質の由来を検討するために、微細物分析を実施し、貝類などの痕跡を確認する。

1. 試料

試料は、S19 炉第4層より確認された白色の漆喰状物質と、SK206の白色物質を含む覆土第8～10層の、計2点である。薄片作製鑑定、X線回折分析、灰像分析は、S19 炉第4層を対象に実施し、微細物分析は、S19 炉第4層と、SK206 第8～10層を対象に実施する。

2. 分析方法

(1) 薄片作製鑑定

薄片の顕微鏡鑑定は、岩石を 0.03 mm の厚さに薄く研磨し、顕微鏡下で観察すると、構成鉱物の大部分は透光性となり、鉱物の性質・組織などが観察できるようになることを利用している。

試料は、ダイヤモンドカッターにより 22 × 30 × 15mm 程度の直方体に切断して薄片用のチップとする。そのチップをプレバートに貼り付け、# 180～#800の研磨剤を用いて研磨機上で厚さ 0.1mm 以下まで研磨する。さらに、メノウ板上で# 2500の研磨剤を用いて正確に 0.03mmの厚さに調整する。プレバート上で薄くなった薄膜状の断面試料の上にカバーガラスを貼り付け、観察用の薄片とする。薄片は偏光顕微鏡を用い、下方ポーラーおよび直交ポーラー下において観察記載を行なう。

(2) X線回折分析

試料は恒温乾燥器において 60℃ 程度で 12 時間以上乾燥させた後、振動ミル（平工製作所製 TI100：10ml 容量タングステンカーバイト容器）を用いて粉碎・混合し、粉末試料（200mesh, 95%pass）とする。磨砕した粉末試料は、X線回折用のアルミニウムホルダーに充填し、不定方位試料とする。作成した不定方位試料をX線回折測定装置によって以下の条件で測定する。

装置：理学電気製 MultiFlex	Divergency Slit：1°
Target：Cu（K α ）	Scattering Slit：1°
Monochrometer：湾曲 Graphite	Receiving Slit：0.3mm

Voltage : 40KV

Scanning Speed : 2° /min

Current : 40mA

Scanning Mode : 連続法

Detector : SC

Sampling Range : 0.02°

Calculation Mode : cps

Scanning Range : 2 ~ 61°

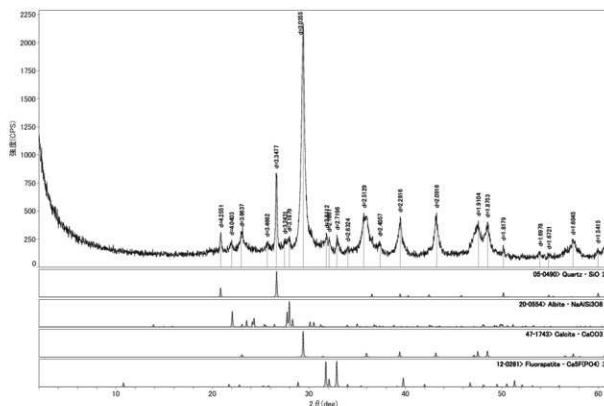


図1. Si9 第4層の不定方位法 X線回折チャート

(3) 灰像分析

試料を肉眼観察したところ、微細粒～細粒砂の中に漆喰状物質として白色物（微小塊や微細片）が見られる。特に微細片は一見すると、植物の灰のように見える。これを、ピンセットで分離し、400倍の光学顕微鏡下で検査したところ、植物の灰に顕著に見られる、植物珪酸体を含む珪化組織片（灰像）は見られない。そこで、白色物とは別に試料中に灰像が含まれる可能性を検証するために、以下の方法で灰像の濃集と分離を試みた。

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。400倍の光学顕微鏡下で検査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）、およびこれらを含む珪化組織片を近藤（2010）の分類を参考に同定する。

(4) 微細物分析

薄片作製、X線回折分析、灰像分析後の試料1kgを常温乾燥後、肉眼で観察し、炭化物や骨貝類を拾い上げる。水を満した容器に試料を投入し、容器を傾斜させて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後、容器を傾斜させて回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す（20回程度）。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗し、粒径別に常温乾燥させる。乾燥後、粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実や炭化材（主に2mm以上）、

骨貝類、土器片等の遺物を抽出する。

炭化種実や骨貝類の同定は、現生標本を参考に実施し、部位・状態別の個数と重量を求めて結果を一覧表で示す。同定した分類群は、写真を添付して同定根拠とする。他の抽出物と分析残渣は重量で表示し、炭化材と土器片は最大径を併記する。分析後は、抽出物と分析残渣を容器に入れて保管する。

3. 結果

(1) 薄片作成観察

薄片の写真を図版1に示す。S19 炉第4層には、細礫～粗粒シルトサイズの鉱物片、岩片、粘土塊および化石片が少量程度含まれる。粘土塊は、赤色を呈し、粘土鉱物、非晶質物質などからなり、石英片、斜方輝石片などを含む。化石片としては、貝片、腕足動物類などが認められる。このほか骨片などが認められる。岩片は、安山岩などが認められ、亜円～重角礫状を呈する。鉱物片は、細粒～粗粒砂サイズであり、石英、斜長石、単斜輝石、斜方輝石、角閃石、かんらん石などが認められる。また、バブル型火山ガラスが認められる。基質は、淡灰色を示し、炭酸塩鉱物、粘土などで構成される。

(2) X線回折分析

試験結果の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物を、JCPDS (Joint Committee on Powder Diffraction Standards) のPDF (Powder Data File) をデータベースとしたX線粉末回折線解析プログラムJADEにより検索し、同定した。X線回折チャートを図1に示す。図中の最上段が試料の回折チャートであり、下段が同定された結晶性鉱物もしくは化合物の回折パターンである。検出鉱物の量比は、最強回折線の回折強度(cps)から、多量(>5000cps)、中量(2500～5,000cps)、少量(500～2,500cps)、微量(250～500cps)およびきわめて微量(<250cps)という基準で判定した。回折チャートの同定に使用したPDFデータの鉱物名(英名)は、文中で括弧内に記している。

S19 炉第4層の回折試験の結果、少量の石英(quartz)・方解石(calcite)およびきわめて微量の斜長石(plagioclase)・ fluorapatite)が検出された。方解石の最強回折線は、 3.04 \AA ($2\theta: 29.4^\circ$)において尖度の高い回折線を示すが、その他の回折線は底部が広がっており、低結晶質なものも混在しているとみられる。

(3) 灰像分析

プレバート内状況写真を図版2-10に示す。S19 炉第4層には、灰像が認められなかった。

(4) 微細物分析

結果を表1に示す。また、骨貝類・炭化種実各分類群の写真を図版2に示して同定根拠とする。

・S19 炉第4層

試料1kgより、炭化した栽培種のイネの類の破片が1個<0.00gと、炭化材が<0.00g(最大1.4mm)、菌類の菌核が14個<0.00g、焼熱した腹足綱の破片が1個<0.00g、貝類の破片が9個0.11g、コイ科の胸鰭棘の破片が1個<0.00g、硬骨魚綱の鰭棘等の破片が11個0.02g、硬骨魚綱の部位不明の破片が1個<0.00g、同定に至らない骨貝類の破片が0.19g検出された。分析残渣は、砂礫主体が123.33g、炭化材主体が<0.00g、植物片主体が0.06gを量る。

・SK206 第8～10層

試料1kgより、炭化した堅果類(オニグルミ核?)が21個0.01g、炭化材が0.48g(最大1.4mm)と、土器片が1個1.24g(径1.6cm)検出された。分析残渣は、砂礫主体(2.05mm)が2.88g、炭化材主体が0.21g、植物片主体が0.01gを量る。なお、骨貝類は確認されなかった。

表1. 微細物分析結果

分類群・部位	状態・粒径	SI9 炉	SK206
		第4層	第8～10層備考
炭化燻炭			
堅果類 (オニグルミ核?)	破片	-	0.01乾重 (g)21個
イネ類	破片	<0.00	-乾重 (g)1個
炭化材	主に2mm以上	1.4	4.8炭大径 (mm)
炭化材主体	2-1mm	<0.00	0.12乾重 (g)
	1-0.5mm	<0.00	0.07乾重 (g)
畜糞	完形	<0.00	-乾重 (g)14個
骨貝類			
腹足綱	破片	<0.00	-乾重 (g)1個
貝類	破片	0.11	-乾重 (g)9個
コイ科 胸鰭棘	破片	<0.00	-乾重 (g)1個
硬骨魚綱 鰭棘等	破片	0.02	-乾重 (g)11個
硬骨魚綱 部位不明	破片	<0.00	-乾重 (g)1個
骨貝類	破片	0.19	-乾重 (g)
土器片			
砂礫主体 (土器片含む)	>4mm	50.84	1.24乾重 (g)1個、径1.6cm
	4-2mm	27.04	-乾重 (g)
	2-1mm	26.82	0.52乾重 (g)
	1-0.5mm	18.63	2.36乾重 (g)
植物片主体	2-1mm	0.03	-乾重 (g)
	1-0.5mm	0.03	0.01乾重 (g)
分析量		1000	1000乾重 (g)

4. 考察

・第9号竪穴建物跡の漆喰状物質

縄文時代中期後葉から後期前葉とされるSI9 炉第4層より確認された漆喰状物質は、薄片観察及びX線回折分析の結果、少量の方解石と極めて微量の燻炭石が検出された。灰像分析では灰像が認められず、微細物分析では被熱した骨貝片が検出され、腹足綱1個、貝類9個、コイ科の胸鰭棘1個、硬骨魚綱の鰭棘等11個、硬骨魚綱の部位不明1個に同定された他、イネの炭化穎が1個と、炭化材が検出された。なお、栽培種のイネの炭化穎は、遺構の年代を考慮すると、後代の混入の可能性が疑われる。

方解石は、いわゆる炭酸カルシウムであり、貝殻を構成する物質でもあることから、検出された腹足綱等貝類に由来すると考えられる。燻炭石は、動物の骨片に由来する可能性があり、コイ科等硬骨魚綱の検出を支持する結果と言える。今回の分析結果では、方解石の検出が少量のため、漆喰と積極的に判断することは難しいが、漆喰材料として焼成した骨貝類を利用した可能性は考えられる。

白色物質の検討に関して、過去に当社が分析調査を実施したつくば市上境旭台貝塚では、縄文時代のSM-2下層住居址跡 (SI-20) において、方解石や被熱した骨貝類、ネザサ節の灰像とともに、ススキ属などの灰像の多産 (試料 a) や、クリストバライトや石英、斜長石の検出 (試料 ab)、ハイドロキシルアパタイトの検出 (矽跡; 試料 c) が確認されている。上境旭台貝塚では薄片観察を実施していないため、単純な比較は難しいが、今回のSI9 炉第4層の漆喰状物質の組成とはやや異なり、材料の違いを反映している可能性がある。

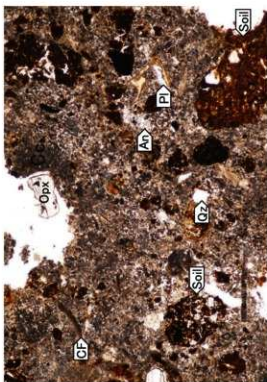
・第206号土坑の白色物質

袋状土坑SK206より確認された白色物質を含む第8～10層覆土の微細物分析の結果、目的の骨貝類は確認されず、炭化堅果類と炭化材、土器片が検出されるのみであった。炭化堅果類は、落葉広葉樹のオニグルミの核の可能性が指摘され、火を受けたと示唆されるが、微細片のため詳細は不明である。

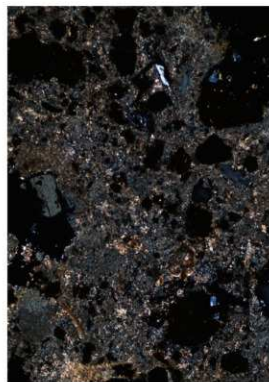
引用文献

近藤 隼二,2010,ブランド・オパール図譜,北海道大学出版会,387p.

図版1 薄片



1. SI9炉第4層 薄片 下方ポーラー

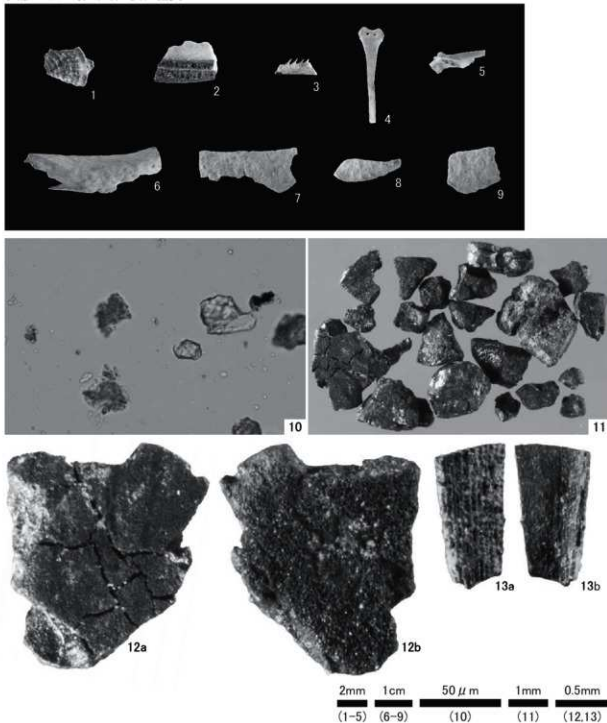


2. SI9炉第4層 薄片 直交ポーラー

Qz:石英, Pl:斜長石, Opx:斜方輝石, Cc:炭酸塩鉱物.

An:安山岩, CF:石灰質化石, Soil:土塊.

図版2 出土骨・灰像・炭化種実



1. 腹足綱(S19炉第4層)

3. コイ科 胸鳍棘(S19炉第4層)

5. 硬骨魚綱 部位不明破片(S19炉第4層)

7. 哺乳綱 四肢骨片(S19炉第4層骨貝片)

9. 哺乳綱 四肢骨片(S19炉第4層骨貝片)

10. 灰像分析プレパラート内の状況(鉱物粒子が散在)(S19炉第4層)

11. 堅果類(オニグルミ 炭化核?) (SK206第8~10層) 12. 堅果類(オニグルミ 炭化核?) (SK206第8~10層)

13. イネ 炭化穎(S19炉第4層)

2. 貝類(S19炉第4層)

4. 硬骨魚綱 鳍棘等(S19炉第4層)

6. 哺乳綱 四肢骨片(S19炉第4層骨貝片)

8. 哺乳綱 四肢骨片(S19炉第4層骨貝片)

写 真 図 版



第61号土坑出土の破碎された貝の塊（一部）



調査区遠景 (南西方向から 平成27年度)

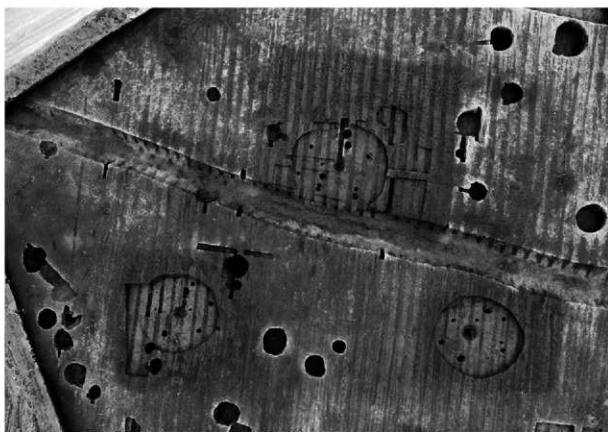


調査区全景 (平成27年度)

PL2



調査区全景 (平成28年度)



第8・9・10号竪穴建物跡 (平成28年度)



第1号竪穴建物跡



第2号竪穴建物跡
貝ブロック・遺物出土状況1



第2号竪穴建物跡
貝ブロック・遺物出土状況2

PL4



第2号竖穴建物跡
貝ブロック確認状況



第2号竖穴建物跡
貝ブロック土層断面



第2号竖穴建物跡

第3号竖穴建物跡
遺物出土状況 1



第3号竖穴建物跡
遺物出土状況 2



第3号竖穴建物跡



PL6



第4·7号竖穴建物跡



第5号竖穴建物跡
土層断面



第6号竖穴建物跡
遺物出土状況



第6号豎穴建物跡



第8号豎穴建物跡

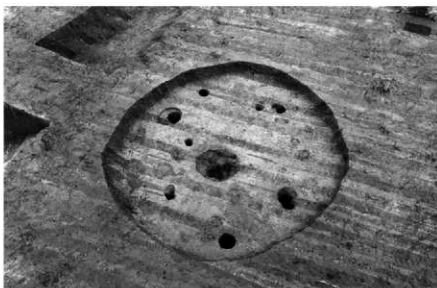


第9号豎穴建物跡
炉・漆喰状物質検出状況

PL8



第9号竖穴建物跡
炉・漆堆状物質土層断面



第9号竖穴建物跡

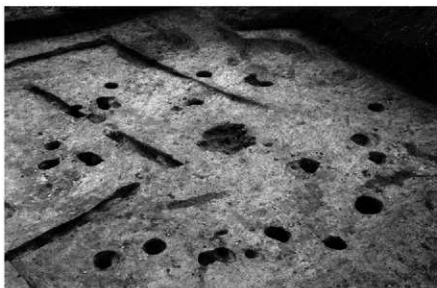


第10号竖穴建物跡

第11号竖穴建物跡
遺物出土状況



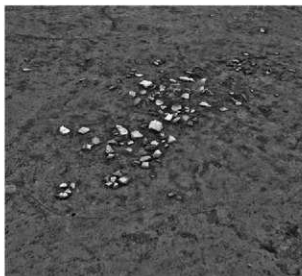
第11号竖穴建物跡



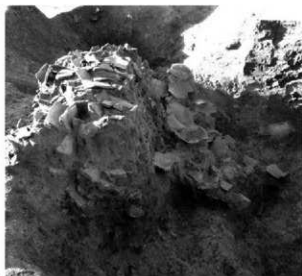
第26号土坑
周辺の土坑群



PL10



第26号土坑確認状況



第26号土坑遺物出土状況 1



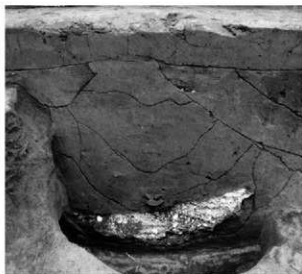
第26号土坑遺物出土状況 2



第26号土坑遺物取上後状況



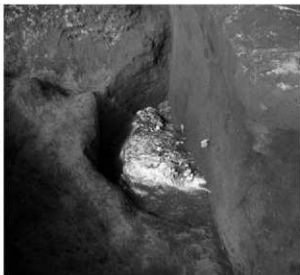
第56号土坑土層断面



第61号土坑土層断面



第61号土坑遺物出土状況



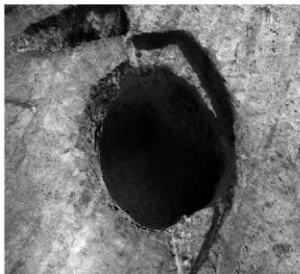
第61号土坑貝ブロック確認状況



第62号土坑土層断面



第63号土坑遺物出土状況



第63号土坑



第68号土坑遺物出土状況

PL12



第69号土坑遺物出土状況 1



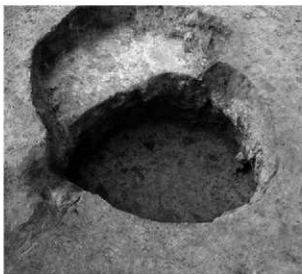
第69号土坑遺物出土状況 2



第77号土坑



第79号土坑遺物出土状況



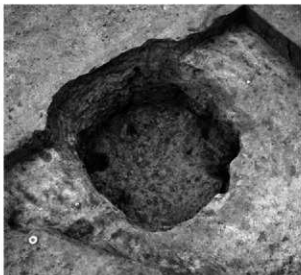
第80号土坑



第81号土坑遺物出土状況



第92号土坑



第98号土坑



第100号土坑遺物出土狀況



第112号土坑遺物出土狀況



第104・112号土坑

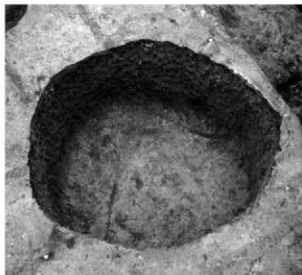


第105号土坑土層断面

PL14



第118号土坑遺物出土状況



第125号土坑



第126号土坑遺物出土状況



第126号土坑



第127号土坑遺物出土状況



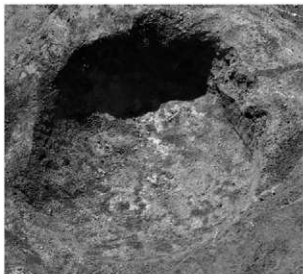
第127号土坑



第138号土坑



第139号土坑遗物出土状况



第139号土坑



第145号土坑遗物出土状况 1



第145号土坑遗物出土状况 2



第145号土坑

PL16



第150号土坑



第155号土坑遗物出土状况



第155号土坑



第158号土坑遗物出土状况



第159号土坑



第160号土坑遗物出土状况



第169号土坑



第170号土坑



第183号土坑遗物出土状况



第183·184号土坑



第185号土坑



第188号土坑

PL18



第190号土坑



第192号土坑



第199・200号土坑



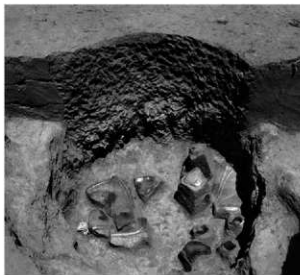
第201号土坑



第202号土坑遺物出土状況



第202号土坑



第206号土坑遗物出土状况 1



第206号土坑遗物出土状况 2



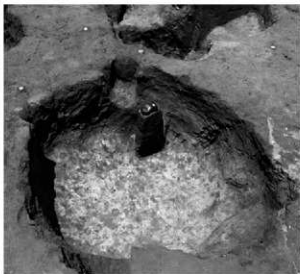
第209号土坑



第213号土坑遗物出土状况 1



第213号土坑遗物出土状况 2



第214号土坑遗物出土状况

PL20



第218号土坑遺物出土状況 1



第218号土坑遺物出土状況 2



第218号土坑



第221号土坑遺物出土状況



第231号土坑土層断面



第232号土坑

PL21



SI 2-16



SI 3-93



SI 4-105

第2・3・4号竖穴建物跡出土土器

PL22



第1・2・3・6号竪穴建物跡出土土器



第11号竖穴建物跡，第69号土坑出土土器

PL24



第61·79·202·206号土坑出土土器



PL26



SK61-488



SK77-481



SK183-636



SK206-672



SK155-605



SK225-706

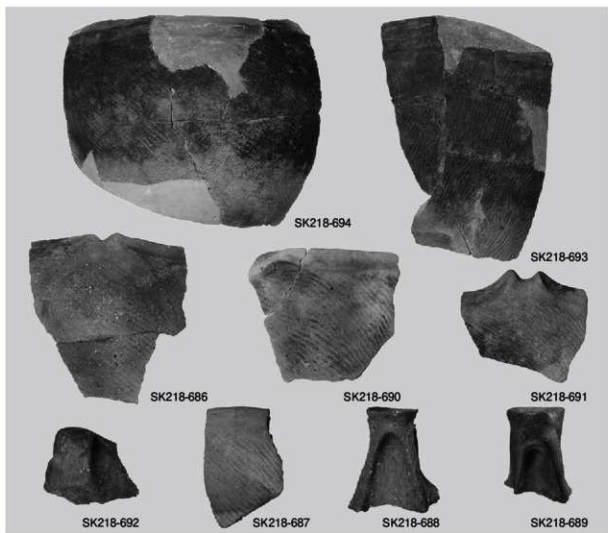


SK213-681



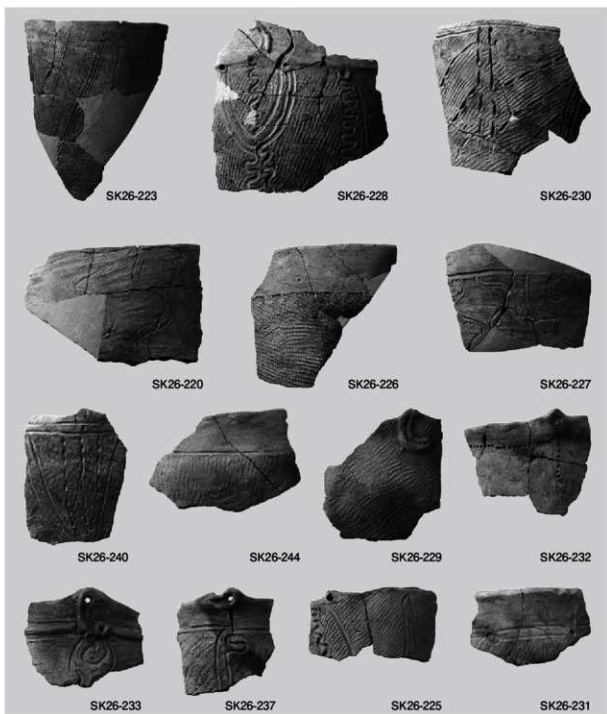
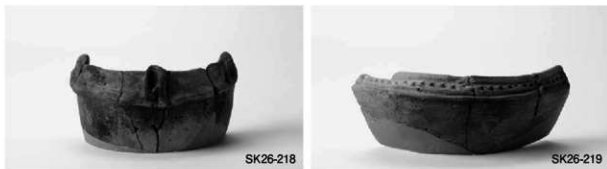
SK213-680

第77・81・155・183・206・213・225号土坑出土土器

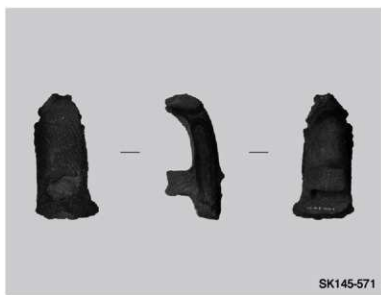
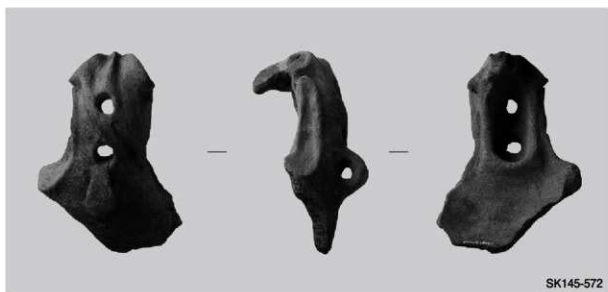
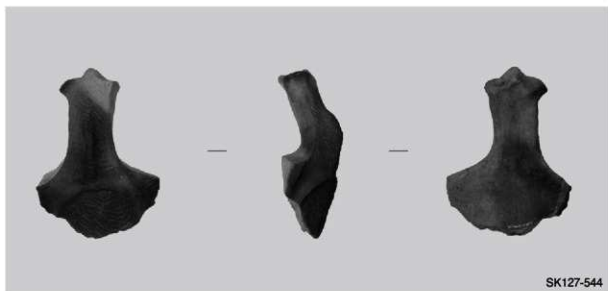


第218号土坑出土土器

PL28



第26号土坑出土土器



PL30



第2・3・8・10号竪穴建物跡，第77・79・117・145・150号土坑出土石器（鏃，石皿，磨石，敲石）

抄 録

ふりがな	きよみずはらやまいせき							
書名	清水原山遺跡							
副書名	東関東自動車道水戸線（潮来～銚田）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第426集							
著者名	海老澤 稔							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2018（平成30）年3月16日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
清水原山 遺跡	茨城県潮来市清水 原山284-83番地 ほか	08223 - 116	35度 59分 20秒	140度 5分 18秒	36 ～ 38m	20151101 ～ 20160331 20160401 ～ 20160630	5,374㎡ 1,482㎡	東関東自動車道水戸線（潮来～銚田）建設事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
清水原山 遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡	11棟	縄文土器（有孔罎付土器・深鉢・鉢・浅鉢・壺・蓋）、石器（鏃・磨製石斧・石皿・磨石・敲石）、土製品（土器片・土器片内盤・耳栓）			
			炉跡	2か所				
	地点貝塚	4か所						
	その他	平安	溝跡	1条	土師器（坏・甕）、須恵器（坏・高台付坏）			
時期不明			溝跡	10条	縄文土器、土製品（土器片・土器片内盤）、石器（鏃・磨石）、石製品（石棒）			
			道路跡	1条				
			土坑	77基				
要約	<p>当遺跡は、縄文時代中期末葉を中心とする集落跡である。竪穴建物や貯蔵穴と思われる土坑は、環状帯内に配置されている。また、竪穴建物や土坑の廃絶後に、貝殻が投棄された地点貝塚4か所を確認した。当時の人々と震ヶ浦の強い結び付きを知ることができる。</p> <p>遺物では、動物意匠把手をもつ土器が9点出土していることが注目される。把手は鳥を象ったもので、いずれも内側を向いており、出産に関わる土器とする考えがある。</p>							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 7 Profession ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS5
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film Epson GT-X980 図面類 RICOH imagio MP W4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L 太ゴB101Pro
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第426集

清水原山遺跡

東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成30（2018）年 3月15日 印刷

平成30（2018）年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2
TEL 029-231-4241



付図 清水原山遺跡遺構全体図『茨城県教育財団文化財調査報告』第426集

